経 歴

商	号	:	アムテック有限会社(AMTEC Ⅰ	NC.)
住	所	:	〒552-0007 大阪市港区弁天1丁目	目2番30号
			プリオタワ — 4305	
TEL/FA2	X	:	TEL 06-6577-1552 FAX 06-657	7-1554
URL		:	www.amtecinc.co.jp	
E-mail		:	info@amtecinc.co.jp	
設	立	:	1983年4月	
資本	金	:	300万円	
代表取締	锻	:	博士(工学) 上田 昭夫	
取引銀行	Ŧ	:	りそな銀行 難波支店	
			三井住友銀行 港支店	
業務内容	¥	:	機械設計に関するエンジニアリン	ノグ業務およ
			びこれに関するコンピュータソフ	フトウェアの
			開発と販売	
所属団体	*	:	一般社団法人 日本機械学会	法人会員
			公益社団法人精密工学会 成形プ	ラスチック
			歯車研究専門委員会	正会員
			一般社団法人日本歯車工業会	正会員
			近畿歯車懇話会	会員
		ノフ	ットウェア開発・販売の沿革	
100 5 左	11 🗆	-	エリーンジェー	知田丞主
1985 年			1刊上未初町に出車ノノト 23 悝を 1111て業新期に、英国協事 ハフトウ-	初朔光衣 - マナ発生
1987年1			17月上来利用に迎生困単ノノト・ノコ 第四歩声 いっし 発生	「を光衣
1989 年		11 /-	9门圏単フノト光衣 +ナ/ボ海車の式脳囲急症脳のだい。	
1990年(ا	よ9 1よ圏車の1007で空雨圏が時付 フィ 、ベルギャッカニ歩取いコー発表	/トを光衣
1990年(1		
1991年(J(+/		1
1992年(fl o	E調機能付き圏単設計ソフト inv	olute α 用充
1992年(5	次元十渉を考慮したりオーム時代	ガンフト先衣
1992年(リック月	7	ヽノ切削時における 3 次元十渉解れ	
1992年	10月	オー	<国 AGMA より ANSI/AGMA200	1-B88 の開発
		Ē		
		反	R)ANSI/AGMA 2003-A86 を 1993 f	キ3月に元成
1993年(08月	栝	i脂菌卑設計ソフト involuteγを発表	 表

歯車設計システム DOS/V 機用「involuteΣ」

歯切り工具管理システム「Hob Pilot」を発表

歯車設計ソフト involuteΣ for Windows 発表

ヘリカルフェースギヤ歯形ソフトウェアを開発

FEM 歯形応力解析&歯形修整ソフト開発,発売

ANSI/AGMA2001-C95 for Windows を開発,発売

ANSI/AGMA2003-A86 for Windows を開発,発売

複葉楕円系歯車ソフトウェア開発、発売

Hob Pilot for Windows を開発,発売

歯形出力ソフト G-Caster を開発,発売 ベベルギヤ3D歯形解析ソフトを開発,発売

成形砥石歯形解析ソフトを開発、発売

3D 歯形レンダリングソフトを開発

歯車伝達誤差解析ソフトウェア開発,発売

を開発し韓国に販売開始

「involuteS」を台湾に販売開始

トロコイド歯車ソフトウェアを開発

1994年01月

1994年10月

1995年06月

1995年09月

1996年05月

1997年06月 1997年08月

1998年02月

1998年04月

1998年04月 1998年08月

1998年09月

1998年10月

1998年12月 1999年03月

2000年04月

2000年05月	New involuteΣ 販売開始
2000年05月	円弧歯形歯車の歯形および応力解析ソフト
2000年06月	
2000年08月	トロコイド曲線を用いた歯車のソフトウェア
2000年09月	
2000年0月	ウォームギャーの「風気」「昇ノノトリエノ
2000年12月	シオームイ (困ルレンタリンク
2001年01月	並至用圏形面ガノノト Gearro 2000
2001年02月	
2001年03月	リオーム小1 ール切削圏形わよび工具圏形の牌
2001年04月	新遊星圏甲(Planet AGII Ω)
2001年05月	3D 圏形心力、伝達誤差解析ソフト
2002年07月	非接触图 早測 定 装 直(G3-System)
2002年10月	新サイクロイドキャソフトウェア
2002年12月	新楕円糸歯車ソフトウェア
2003年03月	新ベベルギヤソフトウェア
2003年04月	ねじ歯車ソフトウェア
2004年05月	L-Hypoid Gear ソフトウェア
2004年08月	Gear Navigation System
2004年09月	CT-FEM System ソフトウェア
2005年04月	少歯数(1 歯)歯車ソフトウェア
2005年04月	ウォームギヤの歯当り跡表示ソフト
2005年05月	Hob chip Calculation software
2005年06月	involute Gemma 測定データによる歯当たり、伝
	達誤差シミュレーションソフトウェア
2005年08月	CT-FEM System Ver.2
2006年03月	不思議遊星歯車を販売
2007年03月	遊星歯車のダブルピニオン式ソフトウェア
2007年04月	CT-FEM System Ver.4.0
2007年07月	成形歯車研削盤 GT-30 機(YASDA)の完全バイア
	ス対応ソフトウェア
2007年08月	スプライン(JIS B 1603:1995) ソフトウェア
2007年10月	不等配遊星歯車ソフトウェア
2007年12月	斜傾ウォーム
2007年12月	L-Niemann Worm Gear Design software
2008年02月	左右異圧力角歯車設計ソフトウェア
2008年08月	ピッチ誤差計算ソフトウェア
2008年10月	楕円系歯車(任意ピッチ曲線)ソフトウェア
2009年02月	Taper and Crossed Gear Design System
2009年01月	AGMA925-A03:2003(Scoring) ソフトウェア
2009年05月	複溝用成形砥石歯形解析ソフトウェア
2009年09月	歯車強度 JGMA6101-02:2007, JGMA6102-02:2009
	ソフトウェア
2010年04月	正弦歯車設計ソフトウェア
2010年06月	ねじ状砥石 (Diamond Tool) ソフトウェア
2010年11月	ピンラック歯車ソフトウェア
2011年04月	K-H-V Differential Gear Design System
2011年05月	ハイポトロコイド歯形歯車ソフトウェア
2011年06月	Double Enveloping Worm Gear Design System
2011年09月	鼓形ウォーム×ヘリカルギヤ
2011 年 11 月	UTS(常時伝達変速システム設計)
2011 年 12 月	内歯ウォームギヤ設計システム

2012年05月	多段歯車設計システム
2012年07月	内歯ねじ歯車設計システム
2013年06月	involute Σ iii(spur and helical gear)
2013年06月	involute ASM(high-intensity gear)
2014年03月	CT-FEM OPERA
2014年03月	CT-FEM ASM
2014年04月	involute Σ iii(bevel gear design system)
2014 年 12 月	Skiving cutter design system
2015年03月	SS-Worm gear design system
2015年05月	Linear bevel gear design system
2015年06月	Face gear design system iii
2015 年 12 月	円弧歯すじ歯車設計システム
2016年01月	involute Σ iii(worm gear design system
2016年02月	GearPro iii(involute gear profile design system)
2016年04月	CT-FEM Opera iii
2017年05月	日経ものづくり誌5月号, p63~68に「生産性
	10 倍の新形状歯車」として Linear bevel gear
	(IP-bevel gear)記事が掲載される.
2017年06月	大阪市港区弁天 1-2-30 プリオタワー4305 に
	住所移転
2017年08月	ピン歯車ソフトウェア
2017 年 10 月	ピニオンカッタソフトウェア
2017 年 12 月	楕円系歯車ソフトウェア(New)
2018年01月	ISO6336 強度計算ソフトウェア
2018年03月	Diamond ねじ状砥石ソフトウェア(New)
2017年04月	Strain wave gearing design system (波動歯車)
	:

カタログ vol.17 や vol.18 に掲載しているソフトウェアは、順次, 新しくしていますのでホームページでご確認ください.また,技 術資料などもご確認ください.

:



二挺天符櫓時計 三代目津田助左衛門信貫 製作(1688年) セイコーミュージアム所蔵

日本機械学会論文集 Vol. 83(2017) No. 847 「和時計から日本の歯車の源流を探る」 https://www.jstage.jst.go.jp/article/transjsme/83/847/83_16-00295/_pdf 計算機や工作機械がない時代でもこのようなことができたとい う技術への取り組みの本質を見直すきっかけになれば良いので はないかと考えています.

Amalgamation Technology

人間が作り出した最も古い機械要素の一つといわれる歯車は、 ギリシャのアリストテレス(紀元前 384~322 年)やアルキメデス (紀元前 287~212 年)の著書に記載されておりこの時代が歯車発 達の第1世代といわれています. 15世紀後半にレオナルド・ダ・ ビンチが多くの歯車を考案した時代が第2世代であり1674年に デンマークの天文学者レーマーがエピサイクロイド歯形を提唱 し更に1841年英国のウィルス教授が交換性歯車を実用化したの が第3世代といわれています.

現在主流となっているインボリュート歯車は、1700年頃フランスのフィリップ・ド・ライールが、エピサイクロイドの特殊な歯形曲線として論及したのが最初であり1765年スイスのオイラーがインボリュート歯車について論じこの歯形の開拓者といわれています.

我が国に伝来した最初の歯車は、1551 年(安土桃山時代)に フランシスコ・ザビエルが、時の周防探題大内義隆に献上した機 械時計が最初とされています.次に、徳川時代に(1600 年初期) 津田助左衛門が時計を製作したと記録があり、これが我が国にお ける歯車製作最古の記録です.(カタログ Vol.15、付録 G:歯車 の歴史年表参照)

近年、歯車の精度は飛躍的に向上し機械加工による歯車だけで はなく金型を使用した鍛造歯車や焼結歯車および成形プラスチ ック歯車が数多く生産されています、歯車の第5世代を迎えてい る現在、アムテックは、ただ単に回る歯車ではなく

美しく回る歯車とするためにはどうするか

を基本理念としてソフトウェアを開発しています.

カタログは,

最後までお読みください. 思わぬヒントがあるかも知れません. また, カタログをご覧いただきお気づきの点やご意見やご希望などがございましたら, 下記までご連絡くださいますようお願い申し上げます.

E-mail : info@amtecinc.co.jp

URL : www.amtecinc.co.jp



日本機械学会 機素潤滑部門 功績賞 2011年4月受賞

歯車の種類と適応ソフトウェア

ソフトウェア選択の際は、歯車の種類とソフトウェア[Software No.]からお選びください. [Software No.]は、カタログ(vol.18)の番号です.旧カタログの番号とは異なりますのでご注意ください.

• 円筒歯車関係

- Software No. ソフトウェア名
 - involute Σ iii(spur and helical Gear)
 ISO6336 強度計算
 - [4] involute ASM(high-intensity gear design system)
 - [8] Tooth thickness converter (転位歯厚変換)
 - [12] AGMA2001-C95
 - [14] GearPro iii
 - [15] ねじ歯車
 - [22] CT-FEM ASM, 非対称歯形歯車応力解析
 - [24] involute Σ(spur and helical 少歯数)
 - [30] Taper and crossed gear design system
 - [31] AGMA925-A03 (Scoring)
 - [32] 正弦歯形歯車設計システム
 - [41] 内歯ねじ歯車設計システム
 - [43] 円弧歯すじ歯車設計システム
 - [45] CT-FEM Operaiii(歯車かみ合い応力解析)

・ベベルギヤ関係

- [2] involute Σ iii(bevel gear design system)
- [2] involute Σ iii(bevel gear design)+AGMA2003-B97
- [20] Face gear design system iii
- [21] L-Hypoid gear design system
- [46] Linear bevel gear design system

ウォームギヤ関係

- [3] involute Σ iii(worm gear design system)
- [28] 傾斜ウォームギヤ設計システム
- [29] L-Niemann worm gear design system
- [36] Double enveloping worm gear $(\forall \nu \forall \nu \neg d)$
- [37] 鼓形ウォーム&ヘリカルギヤ設計システム
- [39] 内歯ウォームギヤ設計システム
- [44] SS-Worm gear design system (鼓形ウォームギヤ)

・ラック関係

- [--] ラック&ピニオン設計システム
- [19] VGR ラック設計システム
- [26] CGR ラック設計システム
- [33] ピン&ラック設計システム

その他歯車

- [5] 遊星&不思議遊星
- [9] Elliptical gear design system (楕円系歯車)
- [17] トロコイド曲線を用いた歯車 (ポンプギヤ)
- [18] Adduction Differential Gear Design System(ビンコイド)
- [27] インボリュートスプライン寸法設計 (JIS B 1603)
- [32] 正弦歯形歯車設計システム
- [34] Hypo-Trochoid gear design system
- [35] K-H-V Differential gear design system
- [38] UTS 設計支援システム

- Software No. ソフトウェア名
 - [40] 多段減速歯車設計システム
 - [47] Strain wave gearing design system (波動歯車)
 - [*] ピン歯車
 - [*] スプロケット
 - [*] サイクロイド歯車
 - [*] 三角セレーション
 - [*] 円弧歯形歯車
 - [*] インボリュート曲線図
 - [--] ポンプギヤ歯形

・加工関係

- [2] ベベルギヤ加工写真
- [6] Hob Erase(歯車電極用エンドミル歯形解析)
- [7] Differential change gear calculation system (有理数分解)
- [10] Worm Bite2 (ウォームバイト刃形解析)
- [11] Gear Navigation System
- [13] Electroplated wheel profile design system (ねじ状砥石)
- [16] 成形砥石歯形解析(外歯車)
- [16.A] 複溝成形砥石歯形解析(外歯車)
- [16.B] 成形砥石歯形解析 (内歯車)
- [23] Hob Chip software (切粉形状シミュレーション)
- [42] Skiving cutter design system
- [*] ピニオンカッタ刃形設計システム
- [*] ウォーム I形 (4形) 用砥石設計システム
- [*] 切り上げ距離計算
- [**] 成形研削盤

・検査関係

- [25] involute Gemma
- [*] ピッチ誤差計算
- [***] 歯車精度規格
- [--] 両歯面かみ合い検査
- [*] :作図例
- [**] :機械の紹介
- [***] :無償ダウンロードソフトウェア
- [--] :別途お問い合わせください.



錦絵(女禮式四季之活花),時計は一挺天符台時計 セイコーミュージアム所蔵

AMTEC www.amtecinc.co.jp

INDEX

Softwa	re [No.]	
[1]	involute Σ iii (spur and helical gear design system)	1
	鋼歯車の強度式は, ISO に準拠した JGMA6101-02,6102-02 を標準装備し, プラスチック歯車の強度	
	計算は JIS B 1759(2013)に対応しています. また, ISO6336 (2006)をオプションとして追加しました.	
[2]	involute Σ iii (bevel gear design system)	12
	かさ歯車の寸法,強度(鋼,樹脂),組図,軸荷重,歯面修整,伝達誤差,歯面評価,FEM解析,	
	歯形データおよび測定データ等の機能を備えており,効率よく的確に設計することができます.	
[3]	involute Σ iii (worm gear design system)	22
	ウォーム×ウォームホイールの寸法,歯形,強度,歯当たり跡,FEM,回転伝達誤差,周波数解析	
	ウォーム×ヘリカルギヤの寸法, 歯形, 強度, 歯当たり跡, FEM, 回転伝達誤差, 周波数解析	
[4]	involute ASM(high-intensity gear design system)	31
	非対称歯形歯車設計.非対称歯形歯車の特性については 付録[H] をご覧ください.	~-
[5]		37
	函数の設定やトルク配分を目動決定します. 寸法, 歯形, 効率, 強度, etc.	
[6]	タノルビニオンタイノ班星圏単、小寺配班星圏単 Uch Frage (協事電振用エン・ビンド曲振留任)	15
[0]	non Erase(图車 电徑 用 エントミル 密か所例) オブを使用したいで最重要振弊をエンドミルで加工するためのソフトウェア	43
[7]	かりを使用しないて困単電極等をエントマルで加上するためのシノトウェア Differential change goor colculation system (有理粉公 碑)	15
[/]	しかどうない $(1 - 2 - 3 - 3 - 3 - 3 - 3 - 3 - 3 - 3 - 3$	45
[8]	Tooth thickness converter (転位歯厚変換)	46
[0]	歯切り時の歯厚(またぎ、オーバーピン、弦)変化とピンの位置を表示	10
[9]	Elliptical gear design system(楕円系歯車) ·····	47
[~]	同じ葉数(1 葉×1 葉, 2 葉×2 葉等)だけでなく異葉数(3 葉×5 葉等)も設計できる.	• •
	任意ピッチ曲線を持つ楕円系歯車ソフトウェア	
[10]	Worm Bite2(ウォームバイト刃形解析)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	48
	ウォーム歯形を1形に加工するための刃形解析ソフトウェア	
[11]	Gear navigation system(歯切り,シェービング,ホーニング) ・・・・・・・・・・・	49
	ホブ切削,シェービング,ホーニング加工,バイアス修整を与えた歯数の異なるドレスギヤ	
[12]	AGMA2001-C95 ·····	54
	ANSI/AGMA2001-C95 規格に基づいた強度計算ソフト.曲げ,面圧,寿命,フラッシュ温度,	
	油膜厚さからスコーリングと摩耗の発生確率を計算	
[13]	Electroplated wheel profile design system (Diamond Tool, ねじ状砥石歯形) ······	56
	ねじ状砥石用の電着砥石(ダイヤモンドドレッサ)形状を出力	
[14]	GearPro iii (involute gear profile design system) (インボリュート歯形出力) ········	59
	射出成形歯車にも考慮し具円ではない歯車の歯形も生成することができ, 歯形・歯すじ修整,	
F1 77	そして 軸方向 直径修整にも 密切り 上具加上にも対応した 密形を 生成	(2)
[15]	Involute Δ (crossed helical gear design system) (ねし圏早) ····································	63
[16]	ねし困車のかみらい理論に基づいていな、困心、按照判断を計算 成形研石術形般折	65
[10]		67
[10.7		67
[10.1	ショウロールののには、「「「「」」、「「」」、「」、「」、「」、「」、「」、「」、「」、「」、「」、	69
[1/]	☆ ☆ 、 アウターロータの歯底円、偏心量から歯形を生成し叶出量を計算	57
[18]	Adduction differential gear design system (愛称:ピンコイド歯車) ······	70
· - 1	内歯車にピンを配置した内転差動式の減速機構	

[19]	VGR ラック設計システム ······	71
	Variable gear ratio ラック設計ソフトウェア. ギヤレシオカーブに基づいてラックの歯形を生成	
[20]	Face gear design system iii ·····	74
	軸角は 90°以外も計算でき, ピニオン歯数 1 歯(少歯数オプション)にも対応	
[21]	L-Hypoid gear design system	79
	ハイポイドギヤの寸法設計, 歯形生成, 強度計算が可能.	
	球面インボリュート歯形を持つギヤにオフセットを与えたピニオンの歯形を決定	
[22]	CT-FEM ASM(非対称歯形歯車応力解析) ····································	82
	非対称歯形歯車の3次元歯面修整,摩擦係数,接触応力,フラッシュ温度,PV 値等	
	従来の歯車に比して 50%UP の負荷容量を得ることが可能. 詳しくは 付録[H] をご覧ください.	
[23]	Hob chip(切粉形状シミュレーション) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	89
	ホブ切削時における切粉の切取り形状や厚さのシミュレーションソフトウェア	
[24]	involute Σ (spur and helical 少歯数対応) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	92
	高減速機構とするためピニオン歯数を1歯,2歯とする設計ソフトウェア	
[25]	involute Gemma	93
	歯形測定データによる歯当たりと回転伝達誤差解析のソフトウェア	
[26]	CGR ラック&ピニオン設計システム ·····	96
	Constant gear ratio ラック設計ソフトウェア	
[27]	インボリュートスプライン(JIS B 1603) 寸法設計 ·····	99
[28]	傾斜ウォームギヤ設計システム ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	100
	軸角 90° 以外のかみ合い	
[29]	L-Niemann worm gear design system	102
[30]	Taper and crossed gear design system	105
	軸交差角を持つインボリュート歯車の設計、歯形生成	
[31]	AGMA925-A03 (Scoring)	108
	AGMA925-A03 規格に基づいて歯面損傷に対する潤滑効果の評価	
[32]	正弦歯形歯車設計システム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	110
	正弦歯形歯車は, インボリュート歯車に比べすべり率が小さいため動力損失が小さくなる.	
[33]	ピン&ラック設計システム ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	112
	ピニオンをピン歯車としてかみ合うラックを生成	
[34]	Hypo-Trochoid gear design system	113
	トロコイド曲線を持つ歯車は、かみ合い率はインボリュート歯形に比して数倍	
[35]	K-H-V Differential gear design system	116
	インボリュート歯車の差動減速(増速)機構設計(歯数差 0, 1, 2 の 3 種類)	
[36]	Double enveloping worm gear design system (ヒンドレーウォーム) ·····	120
[37]	鼓形ウォーム&ヘリカルギヤ設計システム ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	122
	鼓形ウォームとインボリュートヘリカルギヤのかみ合い	
[38]	UTS(常時伝達変速システム設計) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	126
	歯車式変速機で非円形歯車を用いることにより変速の際に生じる"駆動力抜け"をゼロにできる.	
[39]	内歯ウォームギヤ設計システム ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	130
	内歯車方式のウォームギヤ	
[40]	多段歯車設計システム ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	133
	総減速比を与えれば減速段数とその歯数比,寸法,強度,軸受荷重を一括計算	
[41]	内歯ねじ歯車設計システム ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	137
	内歯車と外歯車に任意の軸角を与えた場合であってもかみ合いが成立する外歯車の歯形を生成	
[42]	Skiving cutter design system	140
	歯車諸元と工具の取り付け角から工具(ピニオンカッタ)の歯形を生成	

[43]	円弧歯すじ歯車設計システム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	145
	円弧歯すじを持つ歯車はスラスト荷重がなく、歯の位置合わせ能力があり、かみ合い率を	
	大きく(平歯車に対して)することができる.	
[44]	SS-Worm gear design system	148
	ホブ加工したホイールとかみ合う鼓形ウォーム	
[45]	CT-FEM Opera ⅲ (歯車かみ合い応力解析) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	153
	実績のある CT-FEM Opera を並列処理プログラムにバージョンアップしました.	
	解析例を 付録[I~K] に示します.	
[46]	Linear bevel gear design system (IP-bevel gear)	161
	大歯車の歯形と歯すじを直線としたベベルギヤで内歯ベベル,オフセット,軸角変更も可能.	
	円盤形砥石で歯面研削が可能.	
[47]	Strain wave gearing design system (波動歯車) ······	167
	波動歯車(カップ型)の歯形生成を基準ラックまたは工具(ホブ)を基準にして歯形を生成.	
	リング型(基準ラック)も設計可能.	
[101]	その他ソフトウェアの作図例 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	172
[102]	歯車精度規格ソフトウェア(ダウンロード) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	172
[103]	動作環境 ··················	173
[104]	機械の紹介 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	174
付録		
[A]	CT-FEM System による「はすば歯車の歯元応力解析例」 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	175

[A]	CI-FEM System による 「はずは圏単の圏元応刀解研例」 ······	175
[B]	Gear navigation system によるギヤホーニングシミュレーション ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	178
[C]	ゲート位置変形を考慮したプラスチック歯車の成形歯形 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	181
[D]	歯元応力解析例 (最弱断面歯厚が同じ場合) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	183
[E]	正弦歯形歯車の動力損失低減の可能性 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	184
[F]	遊星歯車設計のポイント ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	189
[G]	歯車の歴史と和算 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	193
[H]	非対称歯形歯車の特性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	195
[I]	歯車解析例(損傷歯車) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	199
[J]	伝達誤差解析例 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	203
[K]	動力損失解析例 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	205
歯車	I歴史年表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	206
価格	暑表 ····································	209

■カタログに記載していないソフトウェアもございますのでお問い合わせください.

また、歯車だけでなく機械要素、干渉解析などのソフト開発も別途承っていますのでお問い合わせください.

URL :www.amtecinc.co.jp

E-mail:info@amtecinc.co.jp



[2] involute Σ iii (bevel gear design)



[46] Linear bevel gear



[43] 円弧歯すじ歯車

[1] involute Σ iii(spur and helical gear design system)



 \boxtimes 1.1 involute Σ iii(spur and helical)

1.1 概要

involute Σ iii (spur and helical)は、円筒歯車の寸法,強度(鋼,樹脂)、軸荷重、歯面修整、伝達誤差、歯面評価、FEM 解析、歯形 データ等の機能を備えており、効率よく的確に設計することができます.

本ソフトウェアは, involute Σ (spur and helical)[Software No.1]を バージョンアップしたソフトウェアです. 今までオプション扱い していた機能も一部,基本ソフトウェアに含めました. 図 1.1 に 全体画面を示します.

1.2 ソフトウェアの構成

involute ∑ iii の構成を表 1.1 に示します.表中の○は,基本ソフトウェアに含まれ, ◎はオプションです.

適応歯車:インボリュート平,はすば歯車(外歯車,内歯車)

表 1.1 ソフトウェアの構成

No.	項目	掲載項	構成
1	基準ラックの設定	1.3	0
2	寸法	1.4	0
3	推論	1.5	0
4	歯形創成図	1.6	0
5	かみ合い図	1.6	0
6	かみ合い回転機能	1.6	0
7	歯形レンダリング図	1.7	0
8	歯車精度	1.8	0
9	歯車強度計算 (鋼)	1.9	0
10	歯車強度計算(樹脂)	1.10	0
11	金属×樹脂歯車強度	1.10	0
12	軸受け荷重	1.11	0
13	すべり率, ヘルツ応力	1.12	0
14	歯形出力(DXF, IGES)	1.17	0
15	HELP 機能	1.19	0
16	設計データ管理	1.20	0
17	FEM 歯形応力解析	1.13	0
18	回転伝達誤差(フーリエ解析, ワウ・フラッタ, CSV 出力)	1.16	0
19	歯面評価(歯面接触温度,油膜 厚さ,すべり速度線図, PV値)	1.12	0
20	歯面修整(歯形,歯すじ,バイアス)	1.14	0
21	歯当たり	1.15	0
22	ISO6336	1.21	0

1.3 プロパティ(基準ラック,精度,強度)

図 1.2~1.5 に設定画面を示します.

- ・歯車の組み合わせ : 外歯車×外歯車, 外歯車×内歯車
- ・基準ラック : 並歯, 低歯, 特殊
- ・歯先円決定の方式 :標準方式,等クリアランス方式
- ・鋼歯車の強度計算規格は、図 1.5 に示すように
 - JGMA 401-02:1974, 402-02:1975
 - · JGMA 6101-02:2007, 6102-02:2009
 - ISO 6336:2006

の3 種類があり、プラスチック歯車の強度計算規格は、JIS B 1759(2013)にも対応しています.



1.4 寸法

歯車寸法は、各部寸法、かみ合い率、すべり率などを計算しま す.アンダーカットが発生している歯車のかみ合い率は、TIF (True Involute Form) 径を基準にかみ合い率を決定します.また、歯先 に丸みがある場合はRを考慮したかみ合い率を算出します.

(1)中心距離と転位係数の関係は、以下の3種類です.

<1>転位係数をピニオンとギヤに与え中心距離を決定 <2>中心距離を基準として各歯車の転位係数を決定

<3>転位係数を無視して任意に中心距離を決定

(2)転位係数の設定方式は、以下の4種類です.

<1>転位係数を直接入力

<2>またぎ歯厚を入力して転位係数を決定

<3>オーバーピン寸法を入力して転位係数を決定

<4>円弧歯厚を入力して転位係数を決定

図 1.6 に諸元設定画面を示します.また,転位係数入力時は, 転位係数を直接入力する方法以外に,歯厚から転位係数を決定す ることもできます.図 1.7 に寸法結果画面を示します.

AMTEC www.amtecinc.co.jp

2 寸法諸元				- • •	
項目	記号	単位	Pinion	Gear	
モジュール	mn	3.	.00000		
歯 数	z		22	33	
圧力角	αn	deg	20.	.00000 *	
ねじれ角	β	deg	30 * 0 '	0.00 ″ 📃	
ねじれ方向			(右ねじれ 👻)	左ねじれ	
基準円直径	d	mm	76.21024	114.31535	
基礎円直径	db	mm	70.25753	105.38630	
歯厚入力方式			転位係数 ▼	転位係数 ▼	
転位係数	xn		転位係数	0.12300	
またぎ歯数	ZM		ボール寸法	6	
またぎ歯厚	W	mm	円弧歯厚	51.04770	
測定ボール径	dp	mm	5.0000	5.0000	
オーバーボール寸法	dm	mm	83.32747	121.47045	
歯直角円弧歯厚	Sn	mm	4.93077	4.98100	
中心距離	a	mm	95.	.91924	
歯直角法線歯厚減少量	fn	mm	0.05000	0.06000	
歯幅	Ь	mm	23.00000	23.00000	
歯先円直径	da	mm	82.81024	121.05335	
歯底円直径	df	mm	69.31024	107.55335	
歯先R	ra	mm	0.10000	0.10000	
基準ラック歯元R	rf	mm	1.1250 📃	1.1250 📃	
	確認	e (キャンセル	<i>クリア</i>	

図 1.6 諸元設定

└── 寸法結果				- • 💌		
項目	記号	単位	Pinion	Gear		
正面モジュール	mt	mm	3	.46410		
正面圧力角	αt	deg	22.79588			
有効歯幅	bw	mm	23.00000			
リード	PZ	mm	414.69023	622.03535		
転位量	Xm	mm	0.30000	0.36900		
歯末のたけ	ha	mm	3.30000	3.36900		
歯元のたけ	hf	mm	3.45000	3.38100		
全歯たけ	h	mm	6.75000	6.75000		
クリアランス	С	mm	0.73745	0.73745		
基礎円筒ねじれ角	βb	deg	28 * 1	27.55 "		
正面かみ合い圧力角	aw	deg	23 * 42	, 41.41 "		
かみ合いビッチ円直径	dw	mm	76.73539	115.10309		
正面法線ビッチ	pbt	mm	10.03275			
歯直角法線ビッチ	pbn	mm	8.85639			
かみ合い長さ	ga.	mm	12.93304			
正面かみ合い率	εα		1.28908			
重なりかみ合い率	εβ		1.22019			
全かみ合い率	εγ		2.50927			
すべり率(歯先)	σa		0.48858	0.55044		
すべり率(歯元)	σb		-1.22439	-0.95535		
設計またぎ歯厚	W	mm	32.542672	50.987699		
設計オーバーボール寸法	dm	mm	83.198909	121.311318		
設計歯直角円弧歯厚	sn	mm	4.877562	4.917148		
正面円弧歯厚	st	mm	5.693564	5.751562		
正面またぎ歯厚	₩a	mm	36.865179	57.760182		
キャリバ歯たけ	hj	mm	3.35981	3.40969		
キャリバ歯厚	Sj	mm	4.87578	4.91634		
基準ラック歯末のたけ係数	hac		1.00000	1.00000		
基準ラック歯元のたけ係数	hfc		1.25000	1.25000		
バックラッシ	jt	mm	0	.13610		
法線方向バックラッシ	jn	mm	0	.10792		

図 1.7 寸法結果

1.5 推論

推論1は、図1.8のように曲げ強さを基準としてモジュールと 歯幅を決定します. ここで推論したモジュールと歯幅を有効にし て次の設計に進むこともできます. 強度を満足するモジュール, 歯幅、材料の組み合わせは何通りもありますので、推論結果を基 本として歯車の概略を決定する際には非常に有効な機能です.

推論2は、すべり率とかみ合い率を基準として最適な転位係数 を決定するための機能です. 図 1.9 に示すグラフは、 ピニオンの 最大すべり率を赤線で、ギヤの最大すべり率を青線で、正面かみ 合い率を緑線で示しています.図 1.9 の場合、すべり率とかみ合 い率から判断してピニオンの転位係数 0.3 が、歯形にとって最適 な値ということができます. 転位係数の決定理由は、アンダーカ ット防止や中心距離の変更、かみ合い圧力角の調整などが一般的 ですが、この推論機能により、すべり率とかみ合い率の関係を基 本とした転位係数を決定することができます. アンダーカットが 発生している歯形では、すべり率の値が大きくなります.



図 1.8 推論1(曲げ強さ)



図 1.9 推論 2 (転位係数)

1.6 歯形図

かみ合い図を図 1.10 に示します. 補助フォームに示すようにズ ーム,距離計測(図1.11),R計測(図1.12)機能および直径,修 整歯形,作用線, 歯先幅, 奇数歯 Y 測定値の表示そして回転機能 があります. 歯形創成を図 1.13 に示します.



AMTEC www.amtecinc.co.jp

1.7 歯形レンダリング

3次元歯形のかみ合いを図1.14のように作図することができ, かみ合い部分に接触線を観察することができます. コントロール フォームにより歯形の向きを自由に変えることができ,拡大,縮 小が可能です.



図 1.14 歯形レンダリング

1.8 歯車精度

図 1.15 と図 1.16 に新 JIS の歯車精度規格 JIS B 1702-1:1998 と JIS B 1702-2:1998 による誤差の許容値を示します.また,図 1.4 の設定 により新 JIS と旧 JIS の切り換えが可能です.歯車精度規格は

· JIS B 1702-1:1998, JIS B 1702-2:1998, JIS B 1702-3:2008

- JIS B 1702:1976
- · JGMA 116-02:1983

の5種類です.

橋度						
者元 JIS B 1702-1 JIS	B 1702-	2				
項目(JIS B 1702-1)	記号	単位	Pinion	Gear		
単一ビッチ誤差	fpt	μn	6	6		
部分累積ビッチ誤差	Fpk	μn	9.5	11		
累積ビッチ誤差	Fp	μn	19	19		
全歯形誤差	Fα	μn	8	8		
全歯すじ誤差	Fβ	μn	8.5	8.5	下 請度	
片歯面に。っかかみ合い観差	f'i	μn	9.5	9.5	- 1802	
片歯面全かみ合い誤差	F'i	μn	29	29	諸元 JIS B 1702-1 JIS B 1702-2	
歯形形状誤差	ffa	μn	6	6	項目(JIS B 1702-2) 記号 単位 Pinion	Gear
歯形こう配誤差	fHat	μn	5	5	両歯面全かみ合い誤差 F1″μn 25	25
歯すじ形状態差	ffβ	μn	6	6	両歯面に*っ方いみ合い 観差 fi* μn 10	10
歯すじ傾斜誤差	fΗβ	μn	6	6	歯溝の振れの許容値 Fr μm 15	15

図 1.15 JIS B 1702-1

図 1.16 JIS B 1702-2

1.9 歯車強度計算(鋼)

歯車強度計算は、図 1.5 に示すように ISO6336:2006 規格に準拠 した JGMA6101-02:2007 および JGMA 6102-02:2009 規格と JGMA401-01:1974, 402-01:1975 の 2 種類あり,設計単位は、SI 単位 系,MKS 単位系を選択することができます.図 1.17 に強度計算 の動力設定画面を示します.材料の選択は、図 1.18 に示すように 「材料」と「熱処理」に適応した材料の選択フォームを表示しま す.また、図 1.19 に曲げに関する係数設定画面を、図 1.20 に面圧 に関する係数の設定画面を示し、図 1.21 に強度計算結果を示しま す.

∑ 強度計算[JGMA6101-02, JGMA6102-02]									
動力JGAM6101-6102 材料JGMA6101-6102 曲げ JGMA6101-02 歯面 JGMA6102-02									
-トルク入力方式									
● トルク→動力 ○ 動力→トルク ● Pinion ○ Gear									
項 目 記号 単位 Pinion Gear									
伝達動力	P	k ₩	3.	8764					
呼びトルク	T	N·m 👻	30.0000 🗔	45.0000 -					
回転速度	n	min-1	1234.0000	822.6667					
負荷かみ合い回数	NL		1000000	•					
呼び接線力	Ft	N	787.	2958					
周 速	٧	m/s	4.	.9237					
相当平歯車歯数	Z٧		33.8712	50.8068					
歯車精度JIS B 1702-1			N5 💌	N5 👻					
正面かみ合い率	正面かみ合い率 8 α 1.2891								
重なりかみ合い率	重なりかみ合い率 εβ 1.2202								
確定 キャンセル クリア									

図 1.17 強度計算(動力設定)





図 1.19 強度計算(曲げに関する係数)

→ 強度計算[JGMA6101 動力JGAM6101-6102 材料	02 , JGM/ \$JGWA6101	A6102-02] -6102 ∰) 計手 JGMA6101-02 「誰	JGWA6102-0	2			
項目	記号	単位	Pinion	Gear				
有効歯幅	bH	nn	23	.000				
領域係数	ZH		2	. 175				
最悪荷重点係数	Zc		1.000	1.000				
材料定数係数	ZE	√ MPa	189	.800				
かみ合い率係数	Zε		0	.763				
ねじれ角係数	Zβ		1	.000				
瀧滑油係数	ZL		1	.000		寿命体数量	R(Pinion)	-
撒骨速度係数	Zv		0	.974		<u> </u>	条件 材料が全体硬化鋼、球状園沿得供及び	寿命(6段)
歯面粗さ係数	ZR		1	.000		 曲線A 	連挙の表面硬と胸であって,軽度の ビッチングを許容する場合。	1,293
寸法係数	Zx		1.000	1.000		② 曲線8	自体 #こおいて、ビッチングを全く許容 しない場合。	1.12
硬さ比係数	Zw		1.000	1.000		0 (8400	全体硬化酶をガス室化した場合、室化酶 をガス窒化した場合、わずみ場時の場合。	1.00
寿命係数	ZN		1.293	1.293	- 61	田林0	全体現化剤を堪浴室化した場合。	1.00
使用係数	KA		1	.000				-
動荷重係数	Kv		1	.322	Ē			
動荷重係数	K'v		1	.044	Ē			
歯すじ荷重分布係数	KHβ		1	.200		使すじ渡	重分东风数Ku的港埠	_
歯すじ荷重分布係数	K'Hβ		1	.200		2901	第二日の中央 「香水に荷」	
正面荷重分布係数	KHa		1	.000		軽度の)	has (Near/No=1.2程度)	1.2
正面荷重分布係数	K'Ha		1	.000		中程度の 重度の)	D片当り(Neas/No=1.5程度) 片当り (Neas/No=2.0程度)	2.0
材料安全率	SHmin		1	.000		種類ない	4当り (Neas /No+2.0以上) したかのでかつな きょうきたつめ	2.0以上
·	1	審定 [キャンセル	ڻ	קן	10° (2) y		<u>9</u> 4
×	1.20) 硝	度計算	(面圧に	即	する	係数)	

∑ 強度結果[JGM		- • •			
項目(JGMA610	1-02 曲げ)	記号	単位	Pinion	Gear
歯元曲げ	応力	σF	MPa	32.632	32.146
許容歯元曲	げ応力	σFP	MPa	522.994	407.431
総合安全	è率	SF		16.027	12.674
許容接続	泉力	Ftlim	N	15978.161	12635.429
項目(JGMA610)	2-02 歯面)	記号	単位	Pinion	Gear
面圧応	'n	σH	MPa	343.249	343.249
許容接触	応力	σHP	MPa	1612.009	1347.539
総合安全	全率	SH		4.696	3.926
許容接続	泉力	Fclim	N	21987.990	15365.021

図 1.21 強度結果

1.10 歯車強度計算(樹脂)

プラスチック歯車の強度は、図 1.5 で JIS B 1759(2013)または Lewis の式を選択することができます. JIS B 1759「プラスチック 円筒歯車の曲げ強さ評価方法」は、歯車の運転試験に基づいて歯 車の許容曲げ応力を求める方法が規定されていて POM の許容曲 げ応力は各所の実験結果から 80.0[MPa]と定まり、POM 以外の材 料についても規格に基づいて独自に決定することができます.そ して歯元曲げ応力と各種係数(歯元形状係数、寿命係数、雰囲気 温度係数等)を考慮した許容歯元曲げ応力とを比較して安全か否 かを判断します.詳しくは規格をご覧ください.

プラスチック歯車の強度計算の例として図 1.22 に歯車諸元を, 図 1.23 に強度諸元を,図 1.24 に曲げ応力に関する値を図 1.25 に 相当平歯車の値を図 1.26 に係数と安全率 SF を示します.

AMTEC www.amtecinc.co.jp

∑ 寸法諸元 □ 図 XX						
項目	記号	単位	Pinion	Gear		
モジュール	mn	mn	1.00000			
曲数	z		16	30		
圧力角	αn	deg	20.	.00000 *		
ねじれ角	β	deg	20 * 0 '	0.00 ″ 🛄		
ねじれ方向			(右ねじれ 👻)	左ねじれ		
基準円直径	d	mm	17.02684	31.92533		
基礎円直径	db	m	15.87745	29.77022		
歯厚入力方式			【 転位係数 ▼】	転位係数 ▼		
転位係数	xn		0.20000	0.00000		
またぎ歯数	ZM		3	4		
またぎ歯厚	W	m	7.78466	10.83407		
測定ボール径	dp	m	2.0000	2.0000		
オーバーボール寸法	dm	m	20.58245	35.28587		
歯直角円弧歯厚	Sn	m	1.71638	1.57080		
中心距離	a	m	24.	90000		
歯直角法線歯厚減少量	fn	mn	0.00000	0.00000		
歯幅	b	mn	10.00000	10.00000		
歯先円直径	da	m	19.42684	33.92533		
歯底円直径	df	mm	14.92684	29.42533		
歯先R	ra	mm	0.10000	0.10000		
基準ラック歯元R	rf	mm	0.3750 🔜	0.3750 🔝		
	確況	Ê	キャンセル	<i>b</i> y <i>p</i>		

図 1.22 歯車諸元



図 1.23 強度諸元

💈 プラスチック円筒歯車の曲げ強さ評価結果 JIS B 1759:2013 🛛 🖃 🔜 🗠								
歯元曲げ 相当平歯車 係 数	「黄元曲げ」相当平歯車 係 数							
項 目(歯元曲げ)	記号	単位	Pinion	Gear				
歯元曲げ応力	σF	MPa	26.904	23.843				
歯形係数	YF		1.976	1.999				
基準ラック歯元すみ肉半径	E	m	0.068	0.068				
補助係数(歯元危険断面歯	G		-0.675	-0.875				
補助角度(歯元危険断面歯	Н	rad	-0.889	-0.963				
ラック工具(ビニオンカッ	θ	rad	0.814	0.901				
歯元危険断面歯厚	SFn	m	2.043	2.106				
曲げモーメントの腕の長さ	hFe	m	1.407	1.473				
歯元すみ肉丸み半径	ρF	m	0.504	0.534				
基礎円筒ねじれ角	βb	deg	18.74724					

図 1.24 歯元曲げ 笥歯車の曲げ強さ評価結果 JIS B 1759:2013 プラスチック - - -歯元曲げ 相当平歯単 係 数 項目(相当平歩事) 파문 単位 18,9882 35.6029 齿 勒 2n 8 can dh Pbn dbn 1.2844 18,9882 35,6029 nn nn nn 2 9521 17.8431 33 4558 17.8431 21.3882 20.5103 29.54644 33.4558 37.6029 36.8667 24.84059 歯先円直径 外側の点を通る円の直径(... 外側の点の圧力角(一歯か... dan den nn αer des 外側の点の角度(一歯かみ... 外側の点の作用角(一歯か... des des 3.10176 26.44468 1.69879 23.14180 γe α/Fen

図 1.25 相当平歯車

項目(係数)	記号	単位	Pinion	Gear		
応力修正係数	Ys		1.789	1.763		
泡険断面歯厚と曲げモーメ	L		1.452	1.430		
危険断面歯厚と歯元すみ	qs		2.027	1.971		
ねじれ角係数	Yβ			0.833		
リム厚さ係数	YB		1.128	1.128		
バックアップレシオ	BR		0.889	0.889		
許容歯元曲げ応力	σFP	MPa	46.935	50.335		
曲げ強さに対する安全係数	SF		1.745	2.111		
安全判定			SF>SFmin	SF>SFmin		

1.11 軸受け荷重

歯車に作用する荷重と、軸受けに作用する荷重を計算します. 荷重の種類は、接線力、法線力など各軸受けに作用する荷重 20 種類を計算します. 図 1.27 に計算結果を示します.





図 1.27 軸受荷重

1.12 歯面評価 1)

歯面評価では、すべり率、ヘルツ応力、油膜厚さ、接触温度、 すべり速度、すべり速度図 (PV 値)を表示します.これらの計 算結果は、歯面修整には適応していません.また油膜厚さ、接触 温度(歯車温度+フラッシュ温度)は、AGMA2001-C95, Annex A に よる計算結果です.そのため歯面修整量や荷重分担などを考慮し た厳密な解析は[45]CT-FEM Opera iiiをお使いください.

図 1.28 の油の種類は、鉱物油、合成油を選択でき ISO グレード も選択(任意設定可) することができます.また、摩擦係数は、 一定値、ISO、AGMA 方式の中から選択することができます.

図 1.29~1.34 に、すべり率、ヘルツ応力グラフ等を示しますが、 横目盛はロールアングルと作用線長さの切り換えができます. 図 1.31 の油膜厚さから摩耗の発生確率を、図 1.32 の接触温度から スカッフィングの発生確率を計算します.



^{*1)} すべり率とヘルツ応力は標準機能で、他はオプションです.

AMTEC www.amtecinc.co.jp

1.12a すべり率とヘルツ応力グラフ

インボリュート歯形の特徴としてかみ合いピッチ円ではころ がり運動となりますが、これ以外ではすべりを伴う運動となりま す. 例題歯車 (m_n=2, z₁=15, z₂=24, a=20°の標準平歯車)のすべり 率とヘルツ応力、歯面接触温度(歯車温度+フラッシュ温度)お よび油膜厚さグラフは、図 1.35(左列)となり、ピニオンの歯元 のすべり率が大きいため、かみ合い始めに急激なヘルツ応力変化 を示しています. このような場合、精度を良くしても問題解決に はなりません.かみ合い率だけでなく、すべり率およびヘルツ応 力の変化を考慮して設計する必要があります. ヘルツ応力の変化 を滑らかにするには、転位を調整するだけで簡単に解決する場合 があります.また、樹脂歯車は、すべりによる熱の影響が大きい ため十分注意して設計する必要があります.

中心距離を変化させないで、転位係数を $x_{n1}=0.24$, $x_{n2}=0.24$ として歯形修整(スムースメッシング)を施した場合のすべり率とヘルツ応力そして歯面接触温度の変化を、図 1.36に示します.この結果、図 1.35(c)のスカッフィング発生確率 90%から図 1.36(c)では68%に低下し、摩耗の発生確率も 30%から 26%に低下していることが解ります.



1.12b O級歯車

歯車歯形のインボリュート面は重要ですが、これと同様に歯元 形状も重要です.図1.37のグラフは、歯元曲線を任意Rで接続し た歯形の試験結果(両歯面かみ合い)であり、図1.38のグラフは、 理論トロコイド曲線歯形の試験結果を示しています.創成運動を 基本に考えますと歯元の形状は①**圧力角、②基準ラック歯元のた** け、③**基準ラック歯元R**、④転位量、⑤歯数によって決定される 準トロコイド曲線となります.involuteΣiii(spur and helical)は、理 論歯形曲線を出力します.また、歯元形状に対する応力の影響は 付録[D]をご覧ください.



1.13 FEM 歯形応力解析

強度計算終了後、[FEM]アイコンをクリックするだけで簡単に 応力解析を行うことができます.図 1.39 に、FEM 解析の設定画 面を示します.縦弾性係数、ポアソン比、分割数および荷重点位 置そして荷重(変更可能)を与えることで応力を解析(σ_x . σ_y ,せ ん断応力τ、主応力 σ_1 , σ_2)します.歯車強度計算と歯に作用する 実応力を評価する事により歯車強度の信頼性を高めることができ ます.図1.40にピニオンの最大主応力 σ_1 の応力分布図を示します. また、歯形の変位(色分布表示も可能)と歯形修整量を図 1.41 に 示します.

歯形修整は、歯車の運転性能を上げるための有用な方法であり 精度の良い歯車であってもかみ合い時の歯のたわみにより駆動歯 車と被動歯車の歯に法線ピッチの差が発生します.この法線ピッ チの差によるかみ合いのずれが、[振動]や、[音]の原因となりま す.歯形修整はこれを解決する一つの方法です.弾性率が小さい 樹脂材料は変位も大きくなりますので歯形修整の効果は大きいと いえます.図1.41のように2D-FEMにより歯のたわみから歯先修 整を決定する際の歯のたわみ量を知ることができますが、3次元 歯面修整の決定は[45]CT-FEM Opera iiiをお使いください.



図 1.39 FEM 設定 (2D)







AMTEC www.amtecinc.co.jp

図 1.42 に 3D-FEM 解析条件設定画面を示します. 図 1.43 にピ ニオンとギヤの応力分布図を,図 1.44 にピニオンとギヤの変位図 を示します.また,図 1.43 および図 1.44 の画面上部のスクロール バーで縦回転,横回転機能で観察角度を変えることができ,ズー ム機能で図の拡大,縮小ができます.

本ソフトウェアでは1歯に荷重が作用したときの歯の応力およ び変位を計算しますが、同時かみ合い歯に負荷が作用したときの 応力、歯の変位、軸角誤差、歯形誤差、ピッチ誤差そして歯面修 整などに対応した解析をしたい場合は[45]CT-FEM Opera iiiを お使いください.



(a)ピニオン

図 1.44 歯の変位

(b)ギヤ

1.14 歯車修整(歯形,歯すじ,バイアス修整)

図1.45 に歯面修整を与えた例を示します. この歯形を得るため には図1.46 の歯形修整を数値入力で与えることもできますが,右 側の図のようにパターン化した歯形に数値を入力して与えること もできます. 同様に,歯すじ修整も図1.47 のように設定すること ができます. この歯形修整と歯すじ修整の2つを図1.48 のように 表し,反対歯面にコピーすれば左右歯面同じ修整歯形となり,そ れを合成すると図1.45 として表示することができます.

また、図 1.48 の画面上部のコンボボックスで「歯形」,「歯すじ」, 「歯形・歯すじ」を選択することができ、歯形たけ方向は作用線 または直径で指定することができます.また、歯形修整の倍率は 最大 1000 倍で設定することができます.



図 1.45 歯面修整(トポグラフ)



図 1.48 歯形修整&歯すじ修整とトポグラフ

歯面修整を与えた歯形は、図1.49の歯形計算諸元で設定するこ とができます.ここで設定した歯形計算条件は、図1.10~1.14に 示す歯形に有効で、図1.14の歯形レンダリングに重ね合わせるこ とができるため図1.50のように表示することができます.ここで は、ピニオンに歯面修整を与えているため図中の赤色歯面の中に 黄色歯面が表れています(ギヤは無修整).



1.15 歯当たり

歯面修整(図 1.45)を与えた歯車に図 1.51で歯当たり条件を設定し歯当たりを確認することができます.ここでは、平行度誤差および食い違い誤差を0とし、接触最大クリアランスを2.0µmとしたときの歯当たりを図 1.52 および図 1.53 に示します.





図 1.53 歯当たり (ギヤ) & 拡大

1.16 伝達誤差解析

伝達誤差解析では、無修整歯形または図1.45 で与えた歯形で無 負荷時の回転伝達誤差試験をすることができます。図1.54 に伝達 誤差設定を示しますが、ここでは2D 解析または3D 解析の選択を することができ、軸の振れ、回転速度を設定することができます. また、ピッチ誤差は図1.55 のように最大値の設定または全歯のピ

ッチ誤差を設定することができます.

伝達誤差解析,ワワ・フフッタ	(回転むら)	そしてフーリエ解
析結果を図 1.56~1.58 に示します.	図 1.57 の	Sound マ うねり除去 ▶ で
[音]を聞くことができます.		







伝達誤差解析, ワウ・フラッタ, フーリエ解析結果は, 図 1.56 ~1.58の左下にある CSV File で図 1.59 のように csv ファイ ル (本例の場合 361 個のデータ) に出力することができます.

本ソフトウェアは無負荷での伝達誤差解析試験です. 負荷や軸 角誤差に対応した伝達誤差解析は[45]CT-FEM Operaiiiをお使い ください.



1.17 歯形出力

生成した歯形は、図 1.60 の歯形ファイル形式 で出力すること ができます. 3D-IGES の場合、歯形を一体型と分割型を選択する ことができ、分割型の場合は歯元フィレット部、インボリュート 歯面、歯先 R、歯先部に分割して図 1.61 のように出力します.

図 1.62 に示す座標補正設定では、金型用に使用することを考慮 し、モジュール収縮率や圧力角補正、ねじれ角補正そして放電ギ ャップを考慮した歯形を出力することができます。例として図 1.63 にモジュール収縮率 20/1000 を考慮した歯形図(2D)を示しま す.また、歯形座標値を図 1.64 のようにテキストファイルで出力 することができます。



AMTEC www.amtecinc.co.jp

📄 txtt-2D.txt - メモ帳	
ファイル(E) 編集(E) 書式(Q) 表示(Y) ヘルプ(H)	
-4.70752968 41.13651023	*
-4./0/19168 41.1365310/ -4.70695961 41.19655077	
-4.70651547 41.13656933	
-4.70617727 41.13658674	
-4./0583901 41.13660301 -4.70550069 41.13661813	
-4.70516232 41.1366321	
-4.7048239 41.13664493	
-4.70448043 41.13000002 -4.70414693 41.13666716	
-4.70380839 41.13667655	
-4.70346981 41.1366848	
-4.70279258 41.13669786	
-4.70245393 41.13670267	-
 Image: A set of the set of the	► at

図1.64 テキストファイル(.txt)

1.18 内歯車

内歯車は図 1.3 で「外歯車×内歯車」を選択することで外歯車 と同様に計算することができます.図 1.65 に歯車諸元を図 1.66 に寸法を示します.図 1.67 に歯形レンダリングを図 1.68 に歯当た りを示します.なお,図 1.68 のギヤにかみ合うピニオンは,図 1.45 と同じ歯面修整を与えています.また,強度計算,伝達誤差解析, FEM 解析そして歯形出力などは「外歯車×外歯車」と同様です.

🔼 寸法諸元					
項目	記号	単位	Pinion	Gear	
モジュール	III.	mm	3	.00000 📃	
歯 数	z		22	65	
圧力角	αn	deg	20	.00000 *	
ねじれ角	β	deg	30 * 0	0.00 ″ 📃	
ねじれ方向			右ねじれ 👻	右ねじれ	
基準円直径	d	mm	76.21024	225.16660	
基礎円直径	db	mm	70.25753	207.57907	
歯厚入力方式			転位係数 ▼	転位係数 ▼	
転位係数	xn		0.10000	0.12300	
またぎ歯数	ZM		4	11	
またぎ歯厚	. W	mm	32.59267	97.35160	
測定ボール径	dp	mm	5.0000	5.0000	
オーバーボール寸法	dn	mm	83.32747	219.15593	
歯直角円弧歯厚	Sn	mm	4.93077	4.44378	
中心距離	a	mm	74	.54701	
歯直角法線歯厚減少量	fn	mm	0.05000	0.06000	
齿幅	Ь	mm	23.00000	23.00000	
齿先円直径	da	mm	82.81024	219.90460	
歯底円直径	df	mm	69.31024	233.40460	
歯先R	ra	mm	0.10000	0.10000	
基準ラック歯元R	rf	mm	1.1250 🛄	1.1250 🛄	
	確	τ.	キャンセル	<i></i> クリア	

図 1.65 諸元 (内歯車)

· 						• •
項目	記号	単位	Pinion Gear			Gear
正面モジュール	mt	mm	3.46410			10
正面圧力角	αt	deg		22	.795	*
有効歯幅	bw	mm		23	.0001	10
リード	PZ	mm	414.	39023		1225.22113
転位量	Xm	mm	0.3	30000		0.36900
歯末のたけ	ha	mm	3.:	30000		2.63100
歯元のたけ	hf	mm	3.	\$5000		4.11900
全歯たけ	h	mm	6.	5000		6.75000
クリアランス	с	mm	0.	25017		0.75017
基礎円筒ねじれ角	βb	deg	28 *	1	'	27.55 ″
正面かみ合い圧力角	αw	deg	22 *	55	'	17.09 "
かみ合いビッチ円直径	d٧	mm	76.28066 225.37			225.37468
正面法線ビッチ	pbt	mm	10.03275			75
歯直角法線ビッチ	pbn	mm	8.85639			
かみ合い長さ	ga	mm	14.05211			11
正面かみ合い率	εα		1.40062			32
重なりかみ合い率	εβ		1.22019			19
全かみ合い率	εγ		2.62081			81
すべり率(歯先)	σa		0.3	21134		0.37589
すべり率(歯元)	σb		-0.1	30227		-0.26797
設計またぎ歯厚	W	mm	32.	542672		97.411604
設計オーバーボール寸法	dn	mm	83.	98909		219.335224
設計歯直角円弧歯厚	sn	mm	4.1	377562		4.379928
正面円弧歯厚	st	mm	5.0	93564		5.131234
正面またぎ歯厚	Wa	mm	36.	865179		110.350381
キャリパ歯たけ	hj	mm	3.:	85981		2.62037
キャリパ歯厚	Sj	mm	4.1	37578		4.36991
基準ラック歯末のたけ係数	hac		1.	00000		1.00000
基準ラック歯元のたけ係数	hfc		1.:	25000		1.25000
バックラッシ	jt	mm		0	. 135:	29
法線方向バックラッシ	jn	mm		0	.107	91

図 1.66 寸法 (内歯車)



図 1.68 歯当たり (ギヤ)

1.19 HELP 機能

操作方法を知りたい場合は[HELP]機能を使うことができます. 例えば、歯車精度について知りたい場合は、「精度」フォームをア クティブにして[F1]キーを押すことにより図 1.69 のように精度に ついての説明を表示します.



図 1.69 HELP 機能

1.20 設計データ管理(保存・読み込み)

データベースの設定は、図1.70のように選択することができま す.また,設計データは図1.71のように保存することができ、図 1.72のようにデータを読み込むことができます.データ読み込み は、管理番号やタイトルの他に歯車諸元(モジュール、歯数,圧 力角,ねじれ角)からも検索することができます.



AMTEC www.amtecinc.co.jp

1. 21 ISO 6336(2006): International Standard

Calculation of load capacity of spur and helical gears 以下に, ISO 6336(2006)の計算例を示します.

迄 プロパティ				- • ×		
基準ラック 寸法 精度	強度					
 金属強度計算 → JGMA6101-02,6102-02 → JGMA401-01,402-01 ● ISO 6336:2006 	系強度計算 3 B 1759:2013 皆強度(Lewis) 禹×樹脂強度(Lewis	;)	単位の種類 SI単位 mks単位 			
確定 キャンセル 適用 標準に戻す						
図 1 72 時日	宙 ISC	(226 訓史な)	白土	п		

図 1.73 強度, ISO 6336 設定を追加

1.21.2 ISO 6336 規格

ISO 6336 の規格に基づいた計算例を以下に示します.

迄 寸法諸元				- • •
項目	記号	単位	Pinion	Gear
モジュール	mn	mm	3.	.00000 📃
歯 数	z		17	50
圧力角	αn	deg	20.	.00000 *
ねじれ角	β	deg	18 * 0 '	0.00 ″ 📃
ねじれ方向			(右ねじれ 👻)	左ねじれ
基準円直径	d	mm	53.62457	157.71933
基礎円直径	db	mm	50.08231	147.30093
歯厚入力方式			転位係数 ▼	転位係数 ▼
転位係数	xn		0.30000	-0.25000
またぎ歯数	ZM		3	6
またぎ歯厚	W	mm	23.58072	50.62097
測定ボール径	dp	mm	5.6169	4.9948
オーバーボール寸法	dm	mm	63.30911	162.87024
歯直角円弧歯厚	Sn	mm	5.36754	4.16643
中心距離	a	mm	106.	. 10000
歯直角法線歯厚減少量	fn	mm	0.30000	0.15000
齿幅	Ь	mm	30.00000	30.00000
歯先円直径	da	mm	61.40000	162.20000
歯底円直径	df	mm	47.95000	148.60000
歯先R	ra	mm	0.50000	0.30000
基準ラック歯元R	rf	mm	1.1000 📃	1.3500 📃
	確	Ê (キャンセル	クリア

図 1.74 諸元設定(外歯車×外歯車)

ISO 6336-1 General influence factors							
Load, torque, power Materials Factors							
Torque or Power		Pinion or Ge	ar				
O Torque → Power O Power → Torque O		Pinion	🔘 Gear				
Item	Symbol	Unit	Pinion	Gear			
transmitted power	P	[k₩ ▼]	31.4169				
torque	T	N·m 👻	300.0000 📃	882.3529			
rotation speed	n	min-1	1000.0000	340.0000			
number of load cycles	NL		1000000	•			
(nominal) transverse tangential load at referenc	Ft	N	11188.	9002			
tangential velocity	v	m/s	2.	8079			
angular velocity	ω	rad/s	104.7230	35.6058			
virtual number of teeth of a helical gear	zn		19.7620	58.1234			
gear accuracy grade ISO 1328-1		[5 🕶	5 👻			
transverse contact ratio	εα		1.	2922			
overlap ratio	overlap ratio ε β 0.9836						
	OK Cancel						

図 1.75 トルク,回転速度の設定, 6336-1

ISO 6336-1 General influence factors							
Load, torque, power Materials Fi	actors						
Item	Pinion			Gear			
Material	Case harder	ned wrough	nt steels [Case hardened	wrought steels 📃		
Туре							
Abbreviation		Eh			Eh		
Quality		ML	ML ML				
Min. hardness(bending/contact)	600.0	0.0 600.0		600.0	600.0		
Max. hardness(bending/contact)	800.0		800.0	800.0	800.0		
Item		Symbol	Unit	Pinion	Gear		
nominal stress number (ber	nding)	σFlim	N/nm²	312.0	312.0		
allowable stress number(co	ntact)	σHlim	N/nm²	1300.0	1300.0		
hardness(bending)		HV		700.0	700.0		
hardness(contact)		HV		700.0	700.0		
modules of elasticity		E	N/nm²	206000.0	206000.0		
Poisson's ratio		ν		0.30	0.30		
	0	К	Cancel				

図 1.76 材料の設定



図 1.77 材料選択 1

ending (contact							
Stress	Туре	Abbre- viation	Quality	Α	В	Hard- ness	Min. hardness	Max. hardnes
bending	core hardness:	Eh	ML	0,000	312	HV	600	800
	≥ 25 HRC, lower		MQ	0,000	425		660	800
	≥ 25 HRC, upper			0,000	461		660	800
	≥ 30 HRC			0,000	500		660	800
			ME	0,000	525		660	800
Hardr	ness HV	. 700		σ	Flim		312.0	MP

図 1.77a 材料選択 2 (曲げの例)

ad, torque, power Materials actors					
Item	Symbol	Meth	od	Unit	Value
application factor	KA	В	-		1.0000
internal dynamic factor	Κv	В	-		1.0047
face load factor (contact stress)	KH/A	В	-		1.3333
face load factor (root stress)	KF 🖉	В	-		1.2524
transverse load factor (contact stress)	KHα	В	-		1.0000
transverse load factor (root stress)	KFα	В	Ŧ		1.0000
maximum tooth stiffness per unit face width	c'	В	-	N/(mm·µm)	7.7682
mean value of mesh stiffness per unit face width	cγ α	В	-	N/(mm·µm)	9.6565
mean value of mesh stiffness per unit face width	ογ β	В	•	N/(mm·µm)	8.2080
OK	Car	ncel	1		Defa

A, B, C 法を $\begin{bmatrix} B \\ A \\ B \end{bmatrix}$, $\begin{bmatrix} B \\ A \\ B \end{bmatrix}$, で選択することができます.

Working characteristic of Working characteristic of driven machine						
driving machine	Uniform	Light shocks	Moderate shocks	Heavy shocks		
Uniform	1,00	1,25	1,50	1,75		
Light shocks	1,10	1,35	1,60	1,85		
Moderate shocks	1,25	1,50	1,75	2,00		
Heavy shocks	1,50	1,75	2,00	≥ 2,25		

図 1.78a 係数 KA, 6336-1

🔼 internal dynamic factor Kv			×
Method B			
Item (Method B)	Symbol	Unit	Value
maximum tooth stiffness per unit face width	c'	N/(mm·µm)	7.7682
mean value of mesh stiffness per unit face width	cγa	$N/(mm \cdot \mu m)$	9.6565
moment of inertia per unit face width(Pinion)	j1*	kg•mm²/mm	2.6017
moment of inertia per unit face width(Gear)		kg•mm²/mm	71.2424
reduced gear pair mass per unit face width referenced to		kg/mm	0.0032
resonance speed		min-1	31086.4345
resonance ratio			0.0322
resonance ratio in the main resonance range			0.8500
transverse base pitch deviation		,44 m	1.0000
estimated running-in allowances(single pitch deviation)		,44 m	0.0000
effected transverse base pitch deviation		μm	1.0000
profile form deviation	ffα	,44 m	1.0000
estimated running-in allowances(profile deviaion)	yf	24 m	0.0000
effected profile form deviation	ffαeff	μm	1.0000
tip relief	Ca	,44 m	0.0000
non-dimensional parameter(single pitch deviation)	Bp		0.0208
non-dimensional parameter(profile deviaion)	Bf		0.0208
non-dimensional paramater	Bk		1.0000
factors for determination of Kv	Cv1 👻		0.3200
internal dynamic factor	Kv		1.0045
OK	Canc	el	

図 1.78b 係数 Kv, 6336-1

AMTEC www.amtecinc.co.jp

5 face load factors KHβ and KFβ						
Method B © C						
Item (Method B)	Symbol	Unit	Value			
mean transverse tangential load	Fm	N	11241.4880			
maximum transverse tangential load	Fmax	N	13489.7856			
maximum load contact face width	bmax	mm	27.0000			
face load factor(contact stress)	KΗβ		1.3333			
face load factor(root stress)	KFβ		1.2524			
	ly Ca	ancel				

図 1.78c 係数 KHβ, 6336-1

E transeverse load factors KHo and KFo						
Item (MethodB)	Symbol	Unit	Va	lue		
transverse base pitch deviation(Pinion/Gear)	fpb	μm	1.0000	1.0000		
running-in allowance for a gear pair	yа	μm	0.	0750		
determinant tangential load in a transverse plane	FtH	N	14988.	2760		
transverse load factor (contact stress)	KHα		1.	.0000		
transverse load factor (root stress)	KFα		1.	.0000		
OK H	OK Apply Cancel					

図 1.78d 係数 KHa, 6336-1

🗧 maximum tooth stiffness per unit face width c´					
Item (MethodB)	Symbol	Unit	Value		
minimum value for the flexibility of a pair of meshing teeth	q	(mm·µm)/N	0.0580		
web thickness	bs	mm	30.0000		
rim thickness	sR	mm	10.1059		
theoretical single stiffness	c'th	N/(mm·µm)	17.2488		
correction factor	CM		0.8000		
gear blank factor	CR		1.0000		
basic rack factor	CB		0.5919		
maximum tooth stiffness per unit face width	c'	N/(mm· μ m)	7.7682		
mean value of mesh stiffness per unit face width	cγa	N/(mm·µm)	9.6564		
mean value of mesh stiffness per unit face width	ςγβ	N/(mm·µm)	8.2080		
OK Apply	Cano	el			

図 1.78e 係数 c', 6336-1

ISO 6336-2 Surface durability(pitting), ISO 6336-3 Tooth bending strength							
Contact(ISO6336-2) Bending(ISO6336-3)							
Item	Symbol	Method	Unit	Pinion	Gear		
zone factor	ZH			2.3661			
single pair tooth contact factors	ZB,ZD			1.0098	1.0000		
elasticity factor	ZE		√ [−] N/mm²	189	.8117		
contact ratio factor (pitting)	Zε			0	.8703		
helix angle factor (pitting)	Zβ			0	.9752		
permit of pitting		when a ce	rtain degre	e of pitting is perm	issible 🔻		
life factor for contact stress	ZNT	B 🕶		1.1294	1.1294		
lubricant factor	ZL	В		0.9917			
verocity factor	Zv	В		0.9701			
roughness factor affecting surface durabil	ZR	В		0.9917			
work hardening factor (reference stress)	Zw	В		1.0000			
work hardening factor (static stress)	Zw	В		1	.0000		
size factor (pitting)	Zx	В		1.0000	1.0000		
minimum required safety factor for surfac	SHmin			1.0000	1.0000		
Item (Pitting)	Symbol	Method	Unit	Pinion	Gear		
contact stress	σH		N/mm ²	1360.1103	1346.9000		
permissible contact stress	σHP	B 🕶	N/mm ²	1645.9399	1645.9399		
safety factor for pitting	SH			1.2102	1.2220		
	ОК	Canc	el		Default		

図 1.79 歯面強さ, 6336-2

Iubricant factor ZL			— ×		
	1				
Item (Method B)	Symbol	Unit	Value		
ISO viscosity class (grade)		mm²/s	VG 150 👻		
nominal viscosity at 50°C 🛛 👻	ν50	mm²/s	89.0		
nominal viscosity at 40°C	CZL		0.9100		
Iubiricant factor	ZL		0.9917		
OK Apply Cancel					

凶 1.79a 蒾	「面強さ,ZL

roughness factor affecting surface durability ZR						
Item (Method B)	Symbol	Unit	Pinion	Gear		
mean peak-to-valley roughness	Rz	μm	3.0000	3.0000		
radius of relative curvature	<i>p</i> red	mm	7.3237			
mean relative peak-to-valley roughness for	Rz10	μm	3.3282			
factor for determining lubricant film factors	CZR		0.0800			
roughness factor affecting surface durability	ZR		0.9	917		
OK Apply Cancel						
図1706 歯	面胎さ	7P				

図 1.79b 歯面強さ,ZR

 work hardening factor Zw Surface-hardened pinion with throug Through-hardened pinion and gear 		X			
Item (Method B)	Symbol	Unit	Val	ue	
mean peak-to-valley roughness	Rz	μm	3.0000	3.0000	
ISO viscosity class (grade)			VG	150 👻	
nominal viscosity at 40°C	ν40	mm²/s	150.0		
radius of relative curvature	,∕ red	mm	7.3237		
The equivalent roughness	RZH	μm	5.0559		
pitch line velocity	v	m/s	2.8079		
Brinell hardness HB 622.1					
work hardening factor(reference)	Zw		1.0	0000	
work hardening factor(static)	Zw		1.0	0000	
ОК	Apply	Can	cel		

図 1.79c 歯面強さ、Zw

ISO 6336-2 Surface durability(pitting)	, ISO 633	36-3 Toot	h bending	g strength	
Contact(ISO6336-2) Bending(ISO6336-3)					
Item	Symbol	Method	Unit	Pinion	Gear
tooth form factor	YF	B 🕶		1.4316 🔝	1.7889 [
stress correction factor	YS			2.0437 🔝	1.7070
stress correction factor, relevant to the di	YST			2	.0000
helix angle factor (tooth root)	Yβ			0	.8525
rim thickness factor	YB			1.0000 🛄	1.0000 [
deep tooth factor	YDT			1.0000	1.0000
life factor for tooth root stress	YNT	В 🕶		0.9762	0.9762
relative notch sensitivity factor	Y∂relT	В		0.9977 🛄	0.9913 [
relative notch sensitivity factor for static	Y∂relT	В		1.0192	0.8711
relative surface factor	YRrelT	В		1.0663 🛄	1.0663
size factor (tooth root)	Yx	В		1.0000	1.0000
minimum required safety factor for tooth r	SFmin			1.0000	1.0000
Item (Bending)	Symbol	Method	Unit	Pinion	Gear
tooth root stress	σF	В 🕶	N/mm ²	390.1564	407.2120
permissible tooth root stress	σFP	B 🕶	N/mm²	663.8790	659.5739
safety factor for tooth breakage	SF			1.7016	1.6197
	OK	Canc	el		Default

図 1.80 曲げ強さ 6336-3

🚬 tooth form factor YF (Pinion)							
Item (Method B)	Symbol	Unit	Value				
residual fillet undercut	Spr	mm	0.0000				
root fillet radius of basic rack for cylindrical gears	ρ fPv	mm	1.1000				
tip diameter (tip form diameter)	da(dNa)	mm	60.9880				
tooth root chord at the critical section	SFn	mm	6.3141				
bending moment arm for tooth root stress releva	hFe	mm	3.2481				
load direction angle, relevant to direction of appl	αFen	deg	23.4596				
Theta	θ	deg	47.6447				
tooth form factor	YF		1.4316				
OK Apply	Cancel						

図 1.80a 曲げ強さ, YF

💈 stress correction factor YS (Pinion)									
Item (Method B)	Symbol	Unit	Value						
tooth root radius at the critical section	ρF	mm	1.3949						
factor L	L		1.9439						
notch parameter	qs		2.2633						
stress correction factor	YS		2.0437						
OK Ca									

曲げ強さ,	YS
	曲げ強さ,

💈 rim thickness factor YB	×		
Item (Method B)	Symbol	Unit	Value
rim thickness	sR	mm	10.1059
tooth height	ht	mm	6.7373
rim thickness factor	YB		1.0000
ОК	Apply	Cance	

図 1.80c 曲げ強さ, YB

	🚬 relative notch sensitivity factor ΥδrelT (Pinion) 📃 🔤									
Symbol	Unit	Value								
Eh,IF(root);for all hardness 🛛 👻										
Spr	mm	0.0000								
yôrelT		0.9977								
YS		2.0437								
yôrelT		1.0192								
OK Apply Cancel										
	Eh,IF(root) Spr yð relT YS yð relT ly C	Eh,IF(root),for all ha Spr mm y & reIT YS y & reIT ly Cancel								

図 1.80d 曲げ強さ、YorelT

🚬 relative surface factor YRrelT (Pinion)									
Item (Method B)	Symbol	Unit	Pinion	Gear					
mean peak-to-valley roughness	Rz	μm	3.0000	3.0000					
relative surface factor YRreIT 1.0663									
OK Apply Cancel									
図 1 90-	曲げる	+ V	D1/T						

図 1.80e 曲げ強さ, YRrelT

Items Pitting(P) Pitting(G) Bending(P) Bending(G)								
Item	Symbol	Unit	Yalu	e				
application factor	KA		1.0	000				
number of bins	Bin		64					
load spectrum time		Days	70.0000					
pitting life		Years	30.0000					
bending life		Years	30.0	000				
safety factor for pitting	SH		1.409	1.552				
safety factor for bending	SF		2.002	2.045				

Calculate Cancel

図 1.81 寿命, 6336-6

		Calcu	lation of pitti	ne safety factor	from load spect	rum safety fa	ctor = 1.409			
Bin No.	Pinion torque T1 [N•m]	Time over 70 days [s]	Pinion speed n1 [r/min]	Stress cycles in 30 years N	Face load factor KH β	Contact stress σ H•SH [N/mf]	Life factor ZNT	Cycles to failure Nf	Damage parts Ui (N/Nf)	
1	309.677	0.000E+00	1000.000	0.000E+00					0.000E+00	
2	304.839	0.000E+00	1000.000	0.000E+00					0.000E+00	
3	300.000	1.656E+01	1000.000	4.320E+04	1.333	1916.412	1.545	1.793E+06	2.409E-02	
4	295.161	2.484E+01	1000.000	6.481E+04	1.333	1900.900	1.533	1.973E+06	3.284E-02	
5	290.323	3.313E+01	1000.000	8.643E+04	1.333	1885,263	1.520	2.175E+06	3.974E-02	
6	285.484	4.141E+01	1000.000	1.080E+05	1.333	1869.492	1.507	2.401E+06	4.500E-02	
7	280.645	4.969E+01	1000.000	1,296E+05	1.333	1853.587	1.494	2.655E+06	4.883E-02	
8	275.806	5.797E+01	1000.000	1.512E+05	1.333	1837.545	1.482	2.941E+06	5.143E-02	
9	270.968	6.625E+01	1000.000	1.728E+05	1.333	1821.364	1.469	3.263E+06	5.297E-02	
10	266.129	7.453E+01	1000.000	1.944E+05	1.333	1805.035	1.455	3.628E+06	5.360E-02	
11	261.290	8.281E+01	1000.000	2.160E+05	1.333	1788.557	1.442	4.041E+06	5.346E-02	
12	256.452	9.110E+01	1000.000	2.377E+05	1.333	1771.929	1.429	4.511E+06	5.269E-02	
13	251.613	9.938E+01	1000.000	2.593E+05	1.333	1755.140	1.415	5.045E+06	5.139E-02	
14	246.774	1.077E+02	1000.000	2.810E+05	1.333	1738.189	1.401	5.656E+06	4.968E-02	
15	241.935	1.159E+02	1000.000	3.024E+05	1.333	1721.071	1.388	6.354E+06	4.759E-02	

図 1.81a 寿命, Pinion(Pitting)

Calculation of bending safety factor from load spectrum safety factor = 2,002									
Bin No.	Pinion torque T1 [N•m]	Time over 70 days [s]	Pinion speed n1 [r/min]	Stress cycles in 30 years N	Face load factor KF ß	Bending stress of F•SF [N/mat]	Life factor YNT	Cycles to failure Nf	Damage parts Ui (N/Nf)
1	309.677	0.000E+00	1000.000	0.000E+00					0.000E+00
2	304.839	0.000E+00	1000.000	0.000E+00					0.000E+00
3	300.000	1.656E+01	1000.000	4.320E+04	1.253	781.480	1.177	6.724E+05	6.425E-02
4	295.161	2.484E+01	1000.000	6.481E+04	1.253	768.880	1.158	7.805E+05	8.304E-02
5	290.323	3.313E+01	1000.000	8.643E+04	1.253	756.282	1.139	9.081E+05	9.519E-02
6	285.484	4.141E+01	1000.000	1.080E+05	1.253	743.682	1.120	1.059E+06	1.020E-01
7	280.645	4.969E+01	1000.000	1.296E+05	1.253	781.082	1.101	1.239E+06	1.046E-01
8	275.806	5.797E+01	1000.000	1.512E+05	1.253	718.482	1.082	1.453E+06	1.041E-01
9	270.968	6.625E+01	1000.000	1.728E+05	1.253	705.884	1.063	1.709E+06	1.012E-01
10	266.129	7.453E+01	1000.000	1.944E+05	1.253	693,284	1.044	2.015E+06	9.648E-02
11	261.290	8.281E+01	1000.000	2.160E+05	1.253	680.684	1.025	2.384E+06	9.061E-02
12	256.452	9.110E+01	1000.000	2.377E+05	1.253	668.086	1.006	2.830E+06	8.399E-02
13	251.613	9.938E+01	1000.000	2.593E+05	1.253	655.486	0.987	5.823E+06	4.453E-02
14	246.774	1.077E+02	1000.000	2.810E+05	1.253	642.886	0.968	1.609E+07	1.746E-02
15	241.935	1.159E+02	1000.000	3.024E+05	1,253	630,286	0.949	4.536E+07	6.666E-03

図 1.81a 寿命, Pinion(Bending)

迄 寸法諸元				- • ×	
項目	記号	単位	Pinion	Gear	
モジュール	mn	mm	3.	.00000	
歯 数	z		22	55	
圧力角	αn	deg	20.	.00000 *	
ねじれ角	β	deg	30 * 0 '	0.00 ″ 📃	
ねじれ方向			(右ねじれ 👻	右ねじれ	
基準円直径	d	mm	76.21024	190.52559	
基礎円直径	db	mm	70.25753	175.64383	
歯厚入力方式			● 転位係数 👻	転位係数 ▼	
転位係数	xn		0.20000	0.30000	
またぎ歯数	ZM		4	10	
またぎ歯厚	W	mm	32.79788	88.22658	
測定ボール径	dp	mm	5.1046	4.9818	
オーバーボール寸法	dm	mm	84.21039	185.64691	
歯直角円弧歯厚	Sn	mm	5.14915	4.05724	
中心距離	a	mm	57.40000		
歯直角法線歯厚減少量	fn	mm	0.20000	0.10000	
歯幅	Ь	mm	30.00000	30.00000	
歯先円直径	da	mm	83.41024	186.32559	
歯底円直径	df	mm	69.91024	199.82559	
歯先R	ra	mm	0.20000	0.20000	
基準ラック歯元R	rf	mm	1.1250 📃	1.1250 📃	
	確	Ê (キャンセル	クリア	

図 1.82 諸元設定(外歯車×内歯車)

E ISO 6336-1 General influence factors					
Load, torque, power Materials Factors					
Torque or Power Pinion or Gear					
Orque → Power ○ Power → Torque Orque Or	•	Pinion	🔘 Gear		
Item	Symbol	Unit	Pinion	Gear	
transmitted power	P	[k₩ ▼]	31	.4169	
torque	T	N·m 👻	300.0000 🔝	750.0000	
rotation speed	n	min-1	1000.0000	400.0000	
number of load cycles			1000000		
(nominal) transverse tangential load at referenc	Ft	N	7872.9582		
tangential velocity	٧	m/s	3	.9905	
angular velocity	ω	rad/s	104.7230	41.8892	
virtual number of teeth of a helical gear	zn		33.8712	84.6780	
gear accuracy grade ISO 1328-1			3 👻	3 👻	
transverse contact ratio	εa		1	.3539	
overlap ratio	εβ		1	.5915	
	OK Cancel				

図 1.83 トルク,回転速度の設定, 6336-1

Contact(1506336-2)	Bending(ISO6336-3)					
It	em	Symbol	Method	Unit	Pinion	Gear
zone	factor	ZH			2	.1928
single pair toot	h contact factors	ZB,ZD			1.0000	1.0000
elastic	ity factor	ZE		√"N/mm²	189	.8117
contact ratio	factor (pitting)	Zε			0	.8594
helix angle t	iactor (pitting)	Zβ			0	.9306
permit	of pitting		,	when pitting	is not permissible	
life factor for	contact stress	ZNT	В 🗸		1.1294	1.1294
lubrica	nt factor	ZL	в		0	.9917
veroci	ty factor	Zv	В		0.9771	
roughness factor aff	ecting surface durabil	ZR	В		1.0251	
work hardening fac	tor (reference stress)	Zw	В		1.0000	
work hardening fa	ictor (static stress)	Zw	В		1.0000	
size fact	or (pitting)	Zx	В		1.0000	1.0000
minimum required sa	fety factor for surfac	SHmin			1.0000	1.0000
Item (Pitting)	Symbol	Method	Unit	Pinion	Gear
contac	t stress	σH		N/mm ²	553.7022	553.7022
permissible	contact stress	σHP	В 🕶	N/mm ²	1461.0010	1461.0010
safety fact	or for pitting	SH			2.6386	2.6386
		OK		,		Defe

図 1.84 歯面強さ, 6336-2

Contact(ISO6336-2) Bending(ISO6336-3)					
Item	Symbol	Method	Unit	Pinion	Gear
tooth form factor	YF	B 🕶		1.1648 📃	0.9122
stress correction factor	YS			2.1890 📃	2.3355
stress correction factor, relevant to the di	YST			2.	.0000
helix angle factor (tooth root)	Yβ			0.	7500
rim thickness factor	YB			1.0000 📃	1.0382
deep tooth factor	YDT			1.0000	1.0000
life factor for tooth root stress	YNT	Β -		0.9762	0.9762
relative notch sensitivity factor	Y∂relT	В		0.9970 📃	1.0009
relative notch sensitivity factor for static	Y∂relT	В		1.0832	1.1476
relative surface factor	YRrelT	В		1.0663 📃	1.0663
size factor (tooth root)	Yx	В		1.0000	1.0000
minimum required safety factor for tooth r	SFmin			1.0000	1.0000
Item (Bending)	Symbol	Method	Unit	Pinion	Gear
tooth root stress	σF	B 🕶	N/mm ²	210.5094	182.5903
permissible tooth root stress	σFP	B 🕶	N/mm ²	663.3908	665.9743
safety factor for tooth breakage	SF			3.1514	3.6474

図 1.85 曲げ強さ 6336-3

AMTEC www.amtecinc.co.jp

[2] involute Σ iii (bevel gear design system)



 \boxtimes 2.1 involute Σ iii (bevel gear design system)

2.1 概要

involute Σ iii (bevel gear)は、かさ歯車の寸法、強度(鋼、樹脂)、 組図、軸荷重、歯面修整、伝達誤差、歯面評価、FEM 解析、歯形 データおよび測定データ等の機能を備えており、効率よく的確に 設計することができます.

本ソフトウェアは、今までオプション扱いしていた機能も一部, 基本ソフトウェアに含めました.新機能として、5軸加工機で製 造する場合を考慮して大歯車の歯形を平面とした歯車も追加しま した(2.25項参照).図2.1に全体画面を示します.

2.2 ソフトウェアの構成

involute Σ iii (bevel gear)の構成を表 2.1 に示します.表中の〇は 基本ソフトウェアの機能で◎はオプション機能です.

No.	項目	掲載項	構成
1	寸法	2.4	0
2	精度	2.5	0
3	軸受荷重	2.22	0
4	組図	2.6	0
5	かみ合い図	2.8	0
6	歯形レンダリング	2.9	0
7	バックラッシ変化	2.12	0
8	ボール高さ	2.13	0
0	強度計算(鋼)	2.10	0
9	JGMA403-01, 404-01	2.19	0
10	強度計算(樹脂)	2.21	0
11	強度計算(鋼)	2.20	
11	AGMA2003-B97	2.20	0
10	歯車修整(歯形,歯すじ)	2.10	
12	および歯当たり	2.11	0
13	伝達誤差解析	2.15	\odot
14	歯面評価	2.23	0
15	FEM 歯形応力解析	2.24	0
16	歯形データ出力 (すぐば)	2.14	0
17	歯形データ出力(まがりば+ゼ	0.14	
1/	ロールギヤ)	2.14	0
18	測定データ出力(大阪精密機械)	2.16	0
19	測定データ出力(Carl Zeiss)	2.16	0
20	歯形出力時の歯幅延長	2.14	\bigcirc
21	大歯車平面歯形	2.25	0

表 2.1 ソフトウェアの構成

2.3 寸法設定(プロパティ)

かさ歯車の種類, 寸法分類を以下に示します. また, 図 2.2 に 例題歯車の設定画面を示します.

- (1)かさ歯車の種類
 - すぐばかさ歯車、まがりばかさ歯車、ゼロール
- (2)寸法分類
 - (2.1)すぐばかさ歯車
 - ・標準
 - ・平行頂げき
 - ANSI/AGMA 2005-D03
 - ・AGMA 208.03 (最小歯数7歯対応)
 - ・グリーソン式自動車用
 - (2.2)まがりばかさ歯車
 - ANSI/AGMA 2005-D03
 - AGMA 209.04
 - ・グリーソン式 (1960)
 - ・グリーソン式(11 歯以下)
 - (2.3)ゼロールベベルギャ
 - ANSI/AGMA 2005-D03
 - AGMA 202.03

(3)歯たけの傾斜は、標準テーパ、等高歯、デュープレックステーパ、TRL に対応しています(AGMA).

こ プロパティ	×					
−寸法規格のデフォル	۰ ۲					
かざ歯車種類	まがりばかさ歯車 🔻					
寸法分類	AGMA 209.04 👻					
強度計算の種類	強度計算の種類					
JGMA403-	JGMA403-01(1976), JGMA404-01(1977)					
○ 樹脂(Lewis)						
ANSI AGMA 2003- B97						
確定 キャンセル 初期値						
図 2	.2 プロパティ					

2.4 寸法

モジュール, 歯数を入力することにより標準値が入力されます. 軸角は標準90°で入力範囲はΣ=60°~160°且つ, 冠歯車(ピッチ円 すい角最大90°未満)に対応しています.

🔁 寸法諸元				- • ×
項目	記号	単位	Pinion	Gear
かさ歯車種類			まがりば	かさ歯車 🔻
寸法分類			AGMA	209.04 👻
歯たけ傾斜			標準言	テーパ 👻
外端正面モジュール	mt	mm	3	.00000
歯数	z		12	33
歯直角圧力角	αn	deg	20	.00000 *
中央ねじれ角	βm	deg	35 * 0	0.0 ″
ねじれ方向			左ねじれ 👻	右ねじれ
軸角	Σ	deg	90 * 0	0.0 ″
歯幅	Ь	mm	16	.0000
外端基準円直径	d	mm	36.0000	99.0000
ビッチ円すい角	ô	deg	19,9831	70.0169
外端歯先R	ra	mm	0.3000	0.3000
カッタ刃先R	ro	mm	0.8000	0.8000
カッタ半径	rc	mm	57.150	(2.250) 👻
歯たけ設定基準			中央歯な	」け基準 ▼
中央全歯たけ	hm	mm	4	.6895
中央有効歯たけ	hem	mm	4	.1684
中央歯末のたけ	ham	mm	2.9162	1.2522
中央歯元のたけ	hfm	mm	1.7733	3.4372
歯厚設定基準			中央歯直角日	∃弧歯厚基準 ▼
中央歯直角円弧歯厚	Sn	mm	3.8795	2.6682
円すい角設定基準			中央基	基準 ▼
歯先円すい角	δa	deg	24.38305	72.29015 🛄
歯底円すい角	δf	deg	17.70985 🛄	65.61695 🛄
	確	ŧ (キャンセル	<i></i>

図2.3 寸法諸元入力画面

図2.3では、モジュール、歯数、軸角を設定すると、選択した寸 法規格に基づき標準値が入力されます.また、入力操作において 以下のような機能があります.

- (1) プロパティでは、歯車の種類を設定していますが、 図2.3の 歯車諸元でも変更することができます.
- (2)歯たけ、歯厚および円すい角の設定基準は、外端基準または中 央基準の選択をすることができます.
- (3)歯先および歯底円すい角は、図2.4のように60進と10進を変換 できる機能があります.
- (4)図2.5には外端部の数値を表示していますが、中 央部、内端部 の寸法も表示することができます.図2.6の寸法結果2にかみ合 い率等を示します.





🚡 歯車寸法				
寸法1 寸法2				
外端項目 ▼	記号	単位	Pinion	Gear
正面モジュール	mt	mm	3	.0000
円すい距離	R	mm	52	.6711
基準円直径	d	mm	36.0000	99.0000
歯先円直径	da	mm	42.6382	100.0729
歯底円直径	df	mm	32.0700	96.2300
全歯たけ	h	mm	5.6226	5.6225
有効歯たけ	he	mm	5	.1015
歯末のたけ	ha	mm	8.5318	1.5698
歯元のたけ	hf	mm	2.0909	4.0528
頂げき	С	mm	0.5210	0.5211
円ビッチ	ср	mm	9	. 4248
正面円弧歯厚	St	mm	5.5841	3.8406
正面円弧歯厚減少量	ft	mm	0.0000	0.0000
弦歯厚	sj	mm	3.1692	2.8354
キャリバ歯たけ	hj	mm	3.5975	1.5767

図2.5 寸法結果1

🔀 歯車寸法			- • •
寸法1 寸法2			
項目	記号	単位	Pinion Gear
基礎円すい角	δb	deg	18 * 43 '53.3 " 62 * 1 '14.4 "
歯末角	θa	deg	4 * 23 '59.8 " 2 * 16 '23.7 "
歯元角	θf	deg	2 * 16 '23.7 " 4 * 23 '59.8 "
歯元角の和	Σδ	deg	6 ° 40 ' 23.5 ″
歯先間の軸方向距離	хb	mm	14.6160 4.8710
相当90°かさ歯車歯数比	m90	mm	2.7500
相当平歯車歯数	Z٧	mm	23.2303 175.6793
円すい頂点〜外端歯先	Х	mm	48.2930 16.5247
外端法線バックラッシ	BL	mm	0.0000
正面かみ合い率	εα	mm	1.0861
重なりかみ合い率	εβ	mm	1.4016
総合かみ合い率	$\epsilon \gamma$	mm	1.7731
ツースアングル	ta	min	153.2387 188.8328
素材の角度	$\theta \times$	deg	87 * 43 '36.3 " 85 * 36 ' 0.2 "
素材の角度	θy	deg	70 * 1 , 0.8 " 19 * 58 , 59.2 "
JL	_	_	

図2.6 寸法結果2

2.5 精度

図2.7に、かさ歯車の精度(JIS B 1704:1978)を示します.

🎦 かさ歯車精度 JIS B 1		- • 💌		
項目	記号	単位	Pinion	Gear
精度等級			2 🗸	3 👻
単一ビッチ誤差(±)	ft	μm	15	28
隣接ビッチ誤差	ftu	μm	19	36
累積ビッチ誤差(±)	Ft	μm	59	110
歯溝のふれ	fr	μm	32	67

図2.7 かさ歯車精度(JIS B 1704)

2.6 組図

図2.8~2.11のように組立距離やボス径を設定し作図することが できます.作図機能として拡大,距離計測などがあり,図2.8で面 取り加工を「する」にすると小端部に面取りを与えた形状 (図2.9)とすることができます.図2.10に軸角60°を,図2.11に 軸角160°の組図例を示します.







図2.9 ボスと面取りの寸法設定と面取り図



2.7 かさ歯車の歯形

involute Σiii(bevel gear design)で生成する歯形は、図2.12に示す **球面インボリュート**であり、歯元は**球面トロコイド**曲線です.そ のため、デファレンシャルベベルギヤなどの歯数の少ない歯車で あっても正しいかみ合いを示します.



歯形計算条件を図2.13に示します.また,まがりばかさ歯車の 歯すじ(図2.14)は、「円弧」、「インボリュート」、「エピトロコイ ド(図2.15)」、「**等リード**」を選択することができます.歯すじ

AMTEC www.amtecinc.co.jp

を等リードとすることで金型から一定のリードで抜くことも可能 ですし、大形歯車でも組み立てが容易です.

놀 歯形計算諸元			- • •
歯形項目	記号	Pinion	Gear
フィレット分割数	vuf	30	30
インボリュート分割数	vui	50	50
歯先R分割数	vur	15	15
歯先円分割数	vut	10	10
歯すじ分割数	hul	18	18
歯すじ曲線の種類		H	रेण 👻
1	確定		देव्य
		インボ! エビトロ 等り	ノュート ココイド ード

図2.13 歯形計算諸元



2.8 かみ合い図

正面歯形の作図機能として拡大,距離計測などがあり,外端, 中央,内端部の歯形を表示します.



図2.16 歯形(外端), ピッチ円すい角方向

2.9 歯形レンダリング

歯形レンダリングを図2.17に示します. コントロールフォーム で歯車の表示角度を変更でき、図の大きさを変えることもできま す. また、歯面接触を確認するため角度変換した状態を図2.18に 示します. ここでは、ピニオンを「水平」、「垂直」に移動するこ とができますので誤差を与えたときのかみ合い接触線を容易に把 握することができます.





歯形レンダリング2 (無修整歯形の例) 図2.18

2.10 歯形・歯すじ修整(オプション)

歯形修整、歯すじ修整をする場合、図2.19~2.23に示すように修 整を与えることができます.図2.21では修整する指定点数(最大= 50) を入力することができ、図2.22のように円弧パターンで入力 することもできます.



歯形・歯すじ修整トポグラフ 図2.19



図2.20 歯すじ修整の例





歯形1本,歯すじ1本の修整の例を図2.23に示します.

➤ 歯車修整(Pinion)			- X
修整 歯形歯すじ 👻	歯形分割数 1	▼ 倍率 500 ▼ 🔳	モジュール比適用
(-)		(-)	
	; ; ; ; ; ; ; }TIF	TIP + + + + + + + + + + + + + + + + + +	1 1 1 4 1 4 1 TIF
X axis scale =102(+)	Yaxis scale =500	X axis scale =10.2 (+)	Yaxis scale =500
(-)		(-)	
TOE		TOE	
X axis scale =2.3 (+)	Yaxis scale =500	X axis scale =2.3 (+)	Yaxis scale =500
	確定	キャンセル	トポグラフ

図2.23 歯形・歯すじ修整の入力

歯形断面分割を5,歯すじ1としたときの修整とトポグラフの例 を図2.24に示します.トポグラフでは、歯形と歯すじの分割数を それぞれ最大50まで設定することができます.

➤ 菌車修整(Pinion)		
修整 歯形:歯すじ 👻 歯形分割数 5	▼ 倍率 500 ▼ 🔄 モジュール比適用	
(-)	(-)	
	TP	
X axis scale =10.5 (+) Y axis scale =500	X axis scale =10.5 (+) Yaxis scale =500	
(+)	(-)	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
	TP	2 30年19世(************************************
X axis scale =11.4 (+) Yaxis scale =500	X avis scale =11.4 (+) Yavis scale =500	三要準認
(-)	(-)	20×0 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10
TIP <u>ja na se </u>	™ ₽ ↓↓™₽	1812
X axis scale =12.6 (+) Yaxis scale =500	X avis scale =12.6 (+) Yavis scale =500	
()	(-)	
X aids scale =14.1 (+) Yaids scale =500	X axis scale =14.1 (+) Y axis scale =500	
(-)	(-)	
X axis scale =15.9 (+) Yaxis scale =500	X aves scale =15.9 (+) Yavds scale =500	
(-)	(-)	
X axis scale =2.3 (+) Yaxis scale =500	X avés scale =2.3 (*) Yavés scale =500	
確定	キャンセル トポグラフ	- 確定 キャンセル 修整グラフ

図2.24 歯形・歯すじ (バイアス) 修整とトポグラフの例

2.11 歯当たり (オプション)

歯形・歯すじ修整を与えた歯車(無修整歯形を含む)の歯当た りを表示することができます.図2.25の歯当たり設定では取り付 け誤差,接触最大クリアランス(光明丹厚さ)を設定することが できます.例として図2.19の修整を与えたときの歯当たりを 図2.26に示します.



図2.26 歯当たり

2.12 バックラッシ変化

図2.24の歯形・歯すじ修整を有する歯車のバックラッシの変化 を図2.27に示します.図2.27よりこの歯車のキックアウトは 0.2µmであることが解ります.



2.13 ボール高さ

歯厚管理をするため歯幅の中央付近にボールを配置し、その時 のボール高さを計算(すぐばかさ歯車のみ)します.製造時の歯 厚管理に適しています.図2.28に、かさ歯車のボール高さの例を 示します.



2.14 歯形データ出力(オプション)

歯形・歯すじ修整を与えた歯形(無修整歯形を含む)をCADデ ータで出力することができます.図2.29で歯形ファイル条件を設 定し、図2.31のように3D-IGESファイルを出力することができます (3D-DXFも出力可能).また、かみ合い歯形の3D-IGESや、 図2.30のように組図の2D-DXFファイルを出力することができま す.なお、図2.30で歯形の分割数を変更することができます.

3D-IGESファイル歯形生成時,歯幅を延長して出力したい場合は,図2.29(b)で対応可能です.CAD作図例を図2.31(b)に示します.

🚡 歯形ファイル出	け			—	≚ 歯形ファ・
ファイル形式 座	標値補正設定				ファイノ
出力歯形 🔘 🅯	😰 🧿 Pinior	n 💿 Gear	🔘 Pinie	on×Gear	出力 DDDDDDDDDDDDDDDDDDDDDDDDDDDDDDDDDDDD
O DXF 3D					田井
出力歯数	1	A	1	A V	30
ブロック名 P	INION	GEAR	11.45 (DL.,		() ICE
Ë	◎ 亦巴 (ked)	÷ 🖻			- Tub
IGES 3D					出力
形式		分割型		-	
出力歯数	3	\$	1	÷	
	<mark>出力(0)</mark>	キャンセル		デフォルト	
	(a) 設	計歯	畐		(b)
	E	<u>w</u> 2 20	- 御1	形ファ	イルの



設計歯幅 図2.29 歯形ファイルの設定

🚡 歯形ファイル出力 📃 💌					
ファイル形式 座標値補正設定					
項目	記号	Pinion	Gear		
フィレット分割数	vuf	200	200		
インボリュート分割数	vui	300	1000		
面取り部分割数	vur	300	300		
歯先円分割数	vut	200	200		
歯すじ分割数	hul	30	3		
(出力(O) キャンセル デフォルト					

図2.30 歯形ファイルの設定(分割数)



2.15 伝達誤差解析 (オプション)

図2.19の歯形で無負荷における回転伝達誤差解析を行った例を 以下に示します. 取り付け誤差を図2.33のように与え、ピニオン のピッチ誤差(歯番号6のみ)として5µmを与えています.



図2.33 回転伝達誤差解析の設定

伝達誤差、ワウ・フラッタ、フーリエ解析の計算結果を図2.34 ~2.36に示します. 図2.35のワウ・フラッタではこのグラフ波形を 音で確認することができます(グラフ右上の Sound **>**). ピッチ誤差の設定は図2.37および図2.38に示すように最大値で

入力することも歯の誤差を個々に入力することもできます.





図2.35 ワウ・フラッタ



図2.36 フーリエ解析





2.16 歯形測定データ出力(オプション)

Carl Zeiss 三次元測定機と大阪精密機械測定機の2種類の測定デ ータ出力機能があります.

(1)三次元測定機(Carl Zeiss) 用測定データ出力の概要

図 2.39 に測定データの設定画面を示します。歯形分割数と歯面 の測定逃げ量および測定基準距離を設定することにより測定点座 標と法線ベクトルをファイルに出力します.



(2)大阪精密機械測定機の測定データ出力の概要

図2.40の測定データの設定をすることにより測定ノミナルデー タをファイルに出力します.「測定機(HyB-35・65)は,測定歯面を, 「点」ではなく「線」で測定するため精密な測定をすることがで きます.3 次元測定機のような格子点ではなく,線で歯のエッジ まで測定することにより,騒音や振動の原因となる微妙な形状誤 差をキャッチし,歯車の精度を追求します.」(大阪精密機械㈱様 カタログより転載)



2.17 測定例1

involuteΣiii(bevel gear design)で,かさ歯車測定用の歯形データと 測定ベクトルを出力して Carl Zeiss 社の3次元測定機のベベルギ ヤ測定用ソフトウェア(*GearPro-Bevel*¹)で読み込み,表示した例を 図2.41~2.43 に示します.

*1): 「*GearPro*は, ドイツ・カール ツァイス社(Carl Zeiss IMT GmbH)の製品です.」



図 2.41 ベベルギヤ諸元 (Carl Zeiss)



図 2.42 ベベルギヤ測定用画面 (Carl Zeiss)



*m*6,*z*₁=11,*z*₂=45,*α*=20°,Σ=90° 図 2.43 歯形測定点およびベクトルデータ(Carl Zeiss)

2.18 測定例 2

involuteΣiii(bevel gear design)でベベルギヤ測定用の歯形データ と法線ベクトルを出力して大阪精密機械測定機(HyB-35・65)で測 定した例を図 2.44 に示します.



図2.44 ストレートベベル歯形・歯すじ測定例

2.19 歯車強度計算(JGMA)

JGMA 403-01:1976(曲げ),404-01:1977(面圧)に基いて計算します. (1)動力設定:トルク設定(MN・m, kN・m, N・m, N・cm, N・mm, kgf・ m, kgf・cm, gf・cm)と回転速度,クラウニングの有無などの設定画 面を図 2.45 に示します.

🚬 強度諸元 [JGMA 403-0	1,JGMA	4404-01]				
動力 材料 係数						
~トルク入力方式			トルク,回転数入力表	<u>File</u>		
◎ トルク→動力 《) 動力-	→トルク	Pinion	🔘 Gear		
項目	記号	単位	Pinion	Gear		
伝達動力	P	P kW - 2.6179				
呼びトルク	T	N·m 👻	25.0000 📃	68.7500 📃		
回転速度	n	min-1	1000.0000	363.6364		
寿命繰り返し回数	L		1000000	-		
呼び接線力	Ft	N	1637.	.6201		
周 速	٧	m/s	1.	.8848		
歯面粗さ	Rnax	μn	3.00	3.00		
歯車精度JIS B 1704			2 -	3 🗸		
クラウエング			有	ų ▼		
<u>確定</u> キャンセル クリア						
	図2.45 動力設定					

(2)材料設定:図2.46の材料設定で許容応力等を設定します.材料の選択は、図2.47の中から硬度を参考にして材料の許容応力値を決定します.また、材料記号、材料の許容応力値(*o*Flim, *o*Hlim)および硬度は、任意に入力することができます.



AMTEC www.amtecinc.co.jp

(3)係数設定:強度計算の係数設定画面を図2.48に示します.係数 は補助フォームを表示しますのでその中から選択することも,直 接入力することもできます.強度計算結果を図2.49に示します.

≚ 強度諸元 [JGMA 403-01,JGM	4404-01]				
動力 材料 係数			進すじ荷重分布係款 KM		
曲げ項目	記号	敾 値		1.2 1.05 1.4 1.6	1.5
工具直径影響係数	Yc	1.0000	1000000 MEE 300	1.00 1.70	1.0
歯すじ荷重分布係数	KM	1.2000			
過負荷係数	Ко	1.0000			
信頼度係数	KR	1.2000			
歯面項目	記号	数 値	AGE/CR VA		
材料定数係数(√ MPa)	ZM	189.8120	JEPENDERK NO		
澗滑油係数	ZL	1.0000	原動報酬からの演撃均一	機動機能的からの 負荷 中程度の衝撃	商業 はずしい簡整
粗さ係数	ZR	0.8393	均一負荷 (電動機,タービン及び 1.	1.25	1.75
濫得速度係数	Zv	0.9643	油圧モータなど) 郵度の論整		
寸法係数	KHX	1.0000	(多気間接関) 1.	26 1.5	2.0
歯すじ荷重分布係数	KH /S	1.3000	(単気防樹巣) 1.	5 1.75	2.25
信頼度係数	CR	1.1500	111	用 [キャンセル]	
	確定	F#>ZZI	0U7		

図2.48 強度計算の係数設定

強度計算結果 [JGMA 403-01,JGMA 404-01] 国 国 国					
項目(曲げ)	記号	単位	Pinion	Gear	
許容曲げ応力	σFlim	MPa	480.5000	480.5000	
歯形係数	YF		2.2539	2.2169	
荷重分配係数	Yε		0	.8266	
ねじれ角係数	Yβ		0	.7500	
寿命係数	KL		1.0000	1.0000	
寸法係数	KFx		1.0000	1.0000	
動荷重係数	Kv		1	.0885	
呼び円周力	Ft	N	1637.6201		
許容円周力	Ftlim	N	6218.9695	6322.6838	
歯元曲げ応力	σF	MPa	126.5284	124.4529	
曲げ強さ	Sft		3.7976	3.8609	
項目(面圧)	記号	単位	Pinion	Gear	
許容ヘルツ応力	σHlim	MPa	1275.0000	1275.0000	
領域係数	ZH		2	.1307	
寿命係数	KHL		1.0000	1.0000	
かみ合い率係数	Zε		0	.9092	
硬さ比係数	ZW		1.0000	1.0000	
動荷重係数	Kv		1	.0885	
呼び円周力	Fc	N	1637.6201		
許容円周力	Folim	N	1932.1895	1932.1895	
ヘルツ応力	σH	MPa	1173.7941	1173.7941	
歯面強さ	Sfc		1.1799	1.1799	

図2.49 強度計算結果

2.20 歯車強度計算(AGMA)(オプション)

AGMA 2003-B97:1997 に基いて計算します. 図 2.2 のプロパティ で強度計算「AGMA 2003-B97」を選択します. ここでは, 図 2.51 の歯車についての強度計算例を図 2.52~2.56 に示します.

🞦 寸法諸元					
項目	記号	単位	Pinion	Gear	
かさ歯車種類			まがりばかさ歯車		
寸法分類			AGMA	209.04 👻	
歯たけ傾斜			標準	テーパ・・	
外端正面モジュール	mt	mm	15	.00000	
歯 数	z		15	42	
歯直角圧力角	αn	deg	20	.00000 *	
中央ねじれ角	βm	des	35 * 0	0.0 ″ 🔄	
ねじれ方向			左ねじれ 👻 右ねじれ		
軸角	Σ	deg	90 * 0	0.0 ″ 📃	
歯幅	b	mm	100	.0000	
外端基準円直径	d	mm	225.0000	630.0000	
ビッチ円すい角	δ	deg	19.65382	70.34618	
外端歯先R	ra	mm	1.5000	1.5000	
カッタ刃先R	ro	mm	4.0000	4.0000	
カッタ半径	rc	mm	228.600	(9.000) 🗸	
歯たけ設定基準			中央歯が	とけ基準 🔻	
中央全歯たけ	hn	mm	23	.5137	
中央有効歯たけ	hem	mm	20	.9011	
中央歯末のたけ	ham	mm	14.6446	6.2565	
中央歯元のたけ	hfm	mm	8.8691	17.2573	
歯厚設定基準			中央歯直角円弧歯厚基準		
中央歯直角円弧歯厚	Sn	mm	19.4687	13.3626	
円すい角設定基準			中央基準		
歯先円すい角	δa	deg	23.12519	72.13184	
歯底円すい角	δf	deg	17.86816 🛄	66.87481	
	曜	Ē	キャンセル	クリア	

図 2.50 寸法諸元

🔁 強度諸元 [ANSI/AGMA	2003-E	397]			
諸元 材料					
項目	記号	単位	Pinion	Gear	
定格伝達動力	Р	k₩ 🔻	1000	.0000 📃	
呼びトルク	T1,2	N•m →	7958.1000	22282.6815	
回転速度	n1,2	min-1	1200.0000	428.5714	
過負荷回数(1分当たり)		min-1	1	1	
呼び接線力	Ft	N	83173	.7963	
周 速	vet	m/s	14	.1361	
回転方向			正転		
寿命繰り返し数	nL		1000000		
歯車の使用状況			一般		
荷重分布修正値	Kmb		1.0 (共に両端支持)		
過負荷係数	KA		1	.000	
歯面安全率	SH		1	.000	
曲げ安全率	SF		1	.000	
歯面信頼度係数	ZZ		1	.000	
曲げ信頼度係数	Yz		1	.000	
温度係数	Kθ		1	.000	
評価歯幅	b	toto	100.0000		
歯面粗さ	Ra1,2	μm	6.00 6.00		
AGMA特度等級			9 (JIS= 3) 🔻	9 (JIS= 3) 🔻	
クラウニング			有	।	
L		確定 🕴	キンセル	<i>b</i> IJア	

図 2.51 強度諸元

🚬 強度結果 [ANSI/AG	SMA 200	3-B97]			
項目	記号	単位	数	値	
歯数比	mG		2	.800	
周 速	vet	m/s	14	.136	
動荷重係数	Κv		1	.315	
荷重分配係数	KHβ		1	.056	
歯 面 曲げ(Pinion	凹) 曲	f(Pinion	凸) 寿 命		
項目	記号	単位	Pinion	Gear	
寸法係数	Zx		0.930		
歯すじ修正係数	Zxc		1.500		
幾何係数	ZI		0	.112	
応力繰り返し係数	ZNT		1.320	1.404	
硬さ比係数	ZW		1	.000	
歯面応力	σH	MPa	1403	.436	
許容接触応力	σHP	MPa	1821.096	1937.545	
許容伝達動力(単位)	Pazu	k₩	1683.711	1905.923	
許容伝達動力	Paz	k₩	1683.711	1905.923	
歯面強さの余裕率	SFc		1.684	1.906	
				幾何係数 I	

図 2.52 強度計算結果(面圧)

≥ 強度結果 [ANSI/AC	強度結果 [ANSI/AGMA 2003-B97]				
項目	記号	単位	数 値		
歯数比	mG			2.800	
周 速	vet	m/s	1	4.136	
動荷重係数	Κv			1.315	
荷重分配係数	KHβ			1.056	
歯 面 曲げ(Pinion	歯 面 曲げ(Pinion 凹) 曲げ(Pinion 凸) 寿 命				
項目	記号	単位	Pinion	Gear	
寸法係数	YX			0.613	
歯すじ曲線係数	Yβ			1.061	
応力繰り返し係数	YNT		1.018	1.036	
幾何係数	۲J		0.254	0.287	
曲げ応力	σF	MPa	148.938	131.841	
許容曲げ応力	σFP	MPa	386.705	393.857	
許容伝達動力(単位)	Payu	k₩	2596.331	2987.272	
許容伝達動力	Pay	k₩	2596.331	2987.272	
曲げ強さの余裕率	SFt		2.596	2.987	
				幾何係数 J	

図 2.53 強度計算結果(曲げ:ピニオン凹)

≥ 強度結果 [ANSI/AC	強度結果 [ANSI/AGMA 2003-B97]					
項目	記号	単位	数 値			
歯数比	mG		2.	.800		
周 速	vet	m/s	14.	. 136		
動荷重係数	Κv		1.315			
荷重分配係数	KH /3		1.056			
歯 面 曲げ(Pinion 凹) 曲げ(Pinion 凸) 寿 命						
項目(歯面強さ)	記号	単位	Pinion	Gear		
予想寿命係数	CL		1.017	1.017		
予想寿命負荷回数	N	cycs	7.575E+08	7.575E+08		
予想寿命時間	L	hrs	1.052E+04	2.946E+04		
項目(曲げ強さ)	記号	単位	Pinion	Gear		
予想寿命係数	KL		0.392	0.453		
予想寿命負荷回数	N	cycs	1.903E+30	5.319E+26		
予想寿命時間	L	hrs	2.643E+25	2.068E+22		

図 2.54 寿命計算結果

Ceometry factor [ANSI/AGMA 2003-B97]				- • •
Geometry factor I Geometry factor J (Pinion Cond	cave) Geo	metry fac	stor J (Pinion Conve>	0
Item	Symbol	Unit	Pinion	Gear
Geometry factor for Pitting resistance	ZI		0	.112
Mean cone distance	Rm	mm	284	. 487
Addendum angle	θα1,2	deg	3.471	1.786
Mean addendum	ham1,2	mm	14.645	6.257
Location constant	k'		0	. 139
Mean transverse diametral pitch	Pm	mm	0	.078
Outer transverse circular pitch	Pe	mm	47	. 124
Mean normal base pitch	Pmbn	mm	30	.851
Mean normal circular pitch	Pmn	mm	32	.831
Mean transverse pitch radius	rmpt1,2	mm	101.602	796.562
Mean normal pitch radius	rmpn 1,2	mm	151.417	1187.109
Mean normal base radius	rmbn 1,2	mm	142.285	1115.518
Mean normal outside radius	rmne 1,2	mm	166.062	1193.366
Length of mean normal addendum action	€an1,2		33.835	17.944
Length of action in mean normal section	gan		51	.780
Transverse contact ratio	εα		1.191	
Intermediate variable	Kz		0	.363
Face contact ratio	εβ		1	.764
Modified contact ratio	60		2	.128
Mean base spiral angle	βmb	deg	82	.615
Length of action within the contact ellipse	gη	mm	65	.228
Mean normal profile radius of curvature at pitch	ρm1,2	mm	48.979	383.992
Assumed locations of critical point on tooth for	уI		-0	.408
	εηI	mm	65	.223
Distance along path of action in mean normal se	gyo		13.705	
Profile radius of curvature at point fI	P 1.2	mm	62.684	370.287
Relative radius of profile curvature	₽ yo	mm	53.609	
Length of the line of contact	gc	mm	66.860	
Inertia factor	Zi		1	.000
	ε'nΙ	mm	66	.698
Load sharing ratio	εNI		0	.935

図 2.55 幾何係数 (I)

Geometry factor I Geometry factor J (Pinion Conc	ave) Geo	metry fact	or J (Pinion Convex)
Item	Symbol	Unit	Pinion	Gear
Geometry factor for bending	YJ1,2		0.254	0.287
Mean dedendum	hfm1,2	mm	8.869	17.257
Assumed locations of critical point on tooth for	уJ		0	.000
Length of action within the contact ellipse	e n	mm	65	.228
Determination of point of load application for max	y3		31.832	19.947
Distance from mean section to center of pressure	go"	mm	7.822	7.822
Sum of gear and pinion mean normal pitch radii	Σrmpn	mm	1338	.526
Normal pressure angles at point of load applicati	αL1,2	deg	24.777	19.368
One half of angles subtended by normal circular	ζh1,2	deg	2.868	0.403
Normal pressure angles at point of load applicati	∞h1,2	deg	21.909	18.964
Distances from pitch circle to point of load appli	⊿ryo1,2	mm	1.945	-7.568
Tool or cutter tip edge radii used to produce	P ao 1,2	mm	4.000	4.000
Tooth fillet radii in mean section at the tooth root	rmf 1,2	mm	4.152	4.146
Tooth strength factor	XN 1,2		14.185	18.449
Tooth form factors excluding stress concentra	Y1.2		0.754	0.992
Stress concentration and stress correction factor	Yf 1,2		2.114	2.326
Empirical constant used in stress correction for	Н		0	. 180
Empirical exponent used in stress correction for	L		0.	. 150
Empirical exponent used in stress correction for	м		0	. 450
Tooth form factors for gear and pinion	YP,YG	mm	0.356	0.426
	e'η J		66	.679
Load sharing ratio	εNJ		0.	.936
Inertia factor	Yi		1.	.000
Projected length of instantaneous line of contact	εK	mm	56	.322
Toe increments of face width (effective)	⊿b'i1,2	mm	36.210	36.210
Toe increments of face width	⊿bi1,2	mm	36.210	36.210
Heal increments of face width (effective)	⊿b'e1,2	mm	17.111	17.111
Heal increments of face width	⊿be1,2	mm	17.111	17.111
Effective face width	b'1.2	mm	74.900	72.747

図 2.56 幾何係数(J:ピニオン凹)

動力とトルクの関係を計算する補助機能画面を図2.57に示します.



2.21 歯車強度計算(樹脂歯車)

樹脂歯車の曲げ強さは Lewis の式,歯面強さは Hertz の式で計算します.図 2.2 のプロパティで「樹脂」を選択します.ここでは,図 2.58 のすぐばかさ歯車についての強度計算例を図 2.59 および図 2.60 に示します.

樹脂材料の許容応力値は,温度,寿命を考慮した樹脂材料の実験値を使用しています. 適応材料は,M90,KT20,GH25,ナイロンです.これ以外の材料は,M90比率係数(共通物性値との比)で計算することができます.

🎦 寸法諸元				- • •
項目	記号	単位	Pinion	Gear
かさ歯車種類			すぐばか	•を歯車 ▼
寸法分類			AGMA :	208.03 👻
歯たけ傾斜				+
外端正面モジュール	mt	mm	1.	.00000
歯 数	z		18	33
歯直角圧力角	αn	deg	20.	.00000 *
中央ねじれ角	βm	deg	0 * 0 '	0.0 ″
ねじれ方向				
軸 角	Σ	deg	90 * 0 '	0.0 ″
歯幅	b	mm	5.	.6385
外端基準円直径	d	mm	18.0000	33.0000
ビッチ円すい角	δ	deg	28,6105	61.3895
外端歯先R	ra	mm	0.1000	0.1000
カッタ刃先R	ro	mm	0.1200	0.1200
カッタ半径	rc	mm	0.000	(0.000) -
歯たけ設定基準			外端歯た	」け基準 ▼
外端全歯たけ	ho	mm	2.	.2380
外端有効歯たけ	heo	mm	2.	.0000
外端歯末のたけ	hao	mm	1.3231	0.6769
外端歯元のたけ	hfo	mm	0.9149	1.5611
歯厚設定基準			外端正面円	弧歯厚基準 ▼
外端正面円弧歯厚	St	mm	1.8060	1.3356
円すい角設定基準			外端者	[準 ▼
歯先円すい角	δa	deg	33.35865 🛄	64.17626 🛄
歯底円すい角	δf	deg	25.82374	56.64135 🛄
	確	È (キャンセル	クリア

図 2.58 寸法諸元

🎦 樹脂強度諸元 [Le	- • •					
項目	記号	単位	Pinion	Gear		
材料記号			M90-44 👻	M90-44 🖵		
M90倍率		imes M90	****	M90-44		
トルク	T	N·cm 👻	10.000 📃	GH-25		
回転数	n	rpm	300.000	7192		
寿命繰り返し回数	L		1000000.000			
周 速	٧	m/s	0.283			
潤滑状態			グ	リス 👻		
歯車周囲温度	Te	°C	60.000			
過負荷係数	Ко		1.000			
歯元曲げ安全率	SF		- 1.200			
歯面損傷安全率	SH	1.150				
弾性係数	E	MPa	1721.067	1721.067		
	(確定	キャンセル	クリア		

図 2.59 強度諸元(樹脂歯車)

🚡 樹脂強度結果	[Lewis]			- • •	
項目(曲げ)	記号	単位	Pinion	Gear	
許容曲げ応力	σFlim	MPa	25.7780	26.6426	
歯形係数	YF		0.6133	0.6970	
速度補正係数	Κv		1	.3977	
温度係数	KT		0	.6500	
潤滑係数	KL		1.0000		
材質係数	KM		0.7500		
呼び円周力	Ft	N	13.0719		
許容円周力	Ftlim	N	63.1407	74.1622	
歯元曲げ応力	σb	MPa	5.3368	4.6960	
曲げ強さ	Sft		4.8303	5.6734	
項目(面圧)	記号	単位	Pinion	Gear	
許容面圧応力	σHlim	MPa	54.7190	63.2217	
呼び円周力	Fc	N	13	.0719	
許容円周力	Fclim	N	29.6890	34.3023	
ヘルツ応力	σH	MPa	20.9500	20.9500	
歯面強さ	Sfc		2.2712	2.6241	

図 2.60 強度結果(樹脂歯車)

2.22 軸受荷重

歯と軸受に作用する荷重の計算をします。図 2.61 に歯に作用す る荷重の方向と軸受位置の参考図を示します.図 2.62 でトルクと 軸受距離を入力することにより軸受荷重を表示します.





(a) 歯に作用する荷重の方向 図 2.61

軸受荷重 - • × 項目 記号 単位 Pinion 回転方向 CCN т 68.750 トルク N•m 25.000 軸受け支持方法 片持支持 15 266 円すい頂点~歯幅中心 L 41,982 軸受距離 1 L1 50.0000 50.0000 軸受距離2 L2 100.0000 100.0000 noro ▼ 参考図の表示 **歯に加わる力** 1326.301 291.960 軸方向推力 Ea 1637.620 接線荷重 Fu 1637.620 半径方向荷重 Fr 291,960 1326.301 軸受 AIC加わる半径方向荷重 2467.690 3085.336 半径方向荷重(合力) ₩r 1989.452 437.940 Falこよる半径方向荷重 Wr1 Fulこよる半径方向荷重 Wr2 2456.430 2456.430 Friこよる半径方向荷重 Wr3 202.474 122.570 軸受日に加わる半径方向荷重 半径方向荷重(合力) 820.757 981,161 Ψr 145,980 663.151 Falcよる半径方向荷重 Wr1 ー Fulこよる半径方向荷重 818.810 818.810 Wr2 Friこよる半径方向荷重 Wr3 202.474 122.570 計算 キャンセル **クリア** 図 2.62 軸受荷重

参考図

2.23 歯面評価 (オプション)

強度計算終了後,図2.63の歯面評価グラフ設定画面で歯形修整 の有無、駆動歯車の種類、計算ポイント数を入力するとすべり率 グラフ(図2.64)とヘルツ応力グラフ(図2.65)を表示します.



図 2.63 歯面評価グラフ



2.24 FEM 歯形応力解析 (オプション)

図2.66に示すFEM解析の設定画面で縦弾性係数、ポアソン比、 分割数および荷重位置そして荷重を入力することにより5種類の 応力(σx,σy,せん断応力τ, 主応力σ1,σ2)を計算します. 歯車強 度計算と共に歯に作用する実応力を評価する事ができますので歯 車強度の信頼性を高めることができます. 図 2.67 に最大主応力 σ と変位図を示します.



2.25 歯車作図例

まがりばかさ歯車の歯すじを等リードで出力した歯形を 図 2.68 に、軸角が 160°の例を図 2.69 に示します。 デファレンシ ャルベベルギヤのように歯数が少ない歯車であっても球面インボ リュート歯形であるため正しい歯当たりを示します.

歯形データを使用して、ボールエンドミルで機械加工した例を 図 2.71 に示します. また, 図 2.72 に光造形モデルの写真を示しま す





 $m2, z_1=12, z_2=23, \beta=35^\circ, \Sigma=90^\circ$ 図 2.68 等リードスパイラル 図 2.69 軸角 160°スパイラル

 $m_{2, z_1=z_2=20, \beta=35^{\circ}, \Sigma=160^{\circ}}$





図 2.71 歯車加工例

$m1, z28, \alpha 20^{\circ}, \beta 35^{\circ}$ 図 2.72 光造形モデル

2.26 大歯車平面歯形 (オプション)

5 軸加工機歯車を加工する場合、曲面よりも平面の方が、加工 効率が良くなるため大歯車の歯面を平面とし、これに共役面を持 つ小歯車の歯面を生成することができます.

図 2.3 の歯車で、大歯車の歯すじを図 2.73 のように「スキュー

(ギヤ直線歯)」として選択することで大歯車の歯面を平面とする ことができます.

歯形を確認すると大歯車の歯形は図2.74のように直線であり歯 すじは図2.75のように直線となっていることが分かります.



図 2.73 歯形計算諸元



図 2.74 歯形 (外端)



図 2.75 レンダリング

歯面修整は、図2.24と同様に施すことができますが、ここでは、 小歯車に単純な歯すじ修整のみ施した例を示します.

小歯車に歯すじ修整を施すことで図 277 のレンダリングおよび 図2.78の歯当たり解析のように歯幅中央部での接触を確認するこ とができます.



図 2.76 歯すじ修整 (小歯車)



図 2.78 歯当たり

伝達誤差も図 2.79 のように TE=0.054µm のため球面インボリュート歯形と変わりません.



歯形出力は図 2.29 と同様で大歯車を平面としたときの CAD 作 図例を図 2.80 に示します.

また, 測定データも図 2.39 測定データの設定(Carl Zeiss)と同様です.



2.27 特殊かさ歯車

ソフトウェアの標準機能ではありませんが,図2.73のようなダ ブルスパイラルベベルギヤの歯形も生成することができます.こ の歯形に関しては別途お問い合わせください.





(a)レンダリング



(c)加工例

(d) 3Dプリンタ製 図2.73 ダブルスパイラルベベルギヤ

2.27 マシニングセンタによるベベルギヤの加工例





m15,z65,a20°,β=35°,d=975.0 (三井精機工業 株式会社様ご提供) HU80A-5X (JIMTOF2008) 図 2.74 スパイラルベベルギヤ加工例





D500 ($m5, z30, \alpha 20^{\circ}, \beta=0^{\circ}, d=150$) (株式会社 牧野フライス製作所様 ご提供) 図 2.75 ストレートベベルギヤ加工例



 $m6, z22, \alpha 20^{\circ}, \beta = \overline{35^{\circ}, d} = \overline{132}$ インテリジェント複合加工機: MULTUS B300C (オークマ 株式会社様 ご提供) 図 2.76 スパイラルベベルギヤ加工例





YBMVi40 ($m5, z20, \alpha 20^{\circ}, \beta = 35^{\circ}, d = 100.0$) (安田工業 株式会社様 ご提供) 図 2.77 スパイラルベベルギヤ加工例



HERMLE C-50U (*m*10, *z*47, *α*20°, *β*=35°, *d*=470) (愛知産業 株式会社様 ご提供) 図2.78 スパイラルベベルギヤ加工例



NMV3000 DCG (*m*4, *z*40, *α*20°, *β*=35°, *d*=160) (DMG 森精機 株式会社様 ご提供) 図 2.79 スパイラルベベルギヤ加工例



(GMT-630, 大鳥機工 株式会社様 ご提供) 図 2.80 ブリスク加工例

[3] involute Σ iii (worm gear design system)



 \boxtimes 3.1 involute Σ iii (worm gear)

3.1 概要

本ソフトウェアは、今まで、別々にしていた involute Σ (worm gear)と involute Σ (worm and helical gear)を一体として新しく開発し たソフトウェアです.また、今までオプション扱いしていた機能 も一部、基本ソフトウェアに含めると共に種々新しい機能も追加 しています.

3.2 ソフトウェアの構成

ソフトウェアの構成を表 3.1 に示します.表中の〇は基本ソフトウェアに含まれ◎はオプションです.

involute ∑ iii(worm gear)は、ウォームの相手歯車はウォームホイ ールですが、相手歯車をヘリカルギヤにすることもできます. 相 手歯車がヘリカルギヤの場合の説明は 3.16 以降をご覧ください. ご注文時は、価格表から必要なソフトウェアをお選びください.

		掲	載項	+# -+
NO.	現 日	WG	WH	悀 肞
1	基準ラック	3.3	3.16	\bigcirc
2	寸法諸元	3.4	3.17	0
3	歯車修整	3.5	3.18	\odot
4	歯形計算	3.6	3.19	0
5	かみ合い図	3.7	3.20	0
6	歯形レンダリング	3.8	3.21	0
7	歯当たり	3.9	3.22	0
8	強度計算(金属×金属)	3.10		0
9	強度計算(金属×樹脂)	3.10	3.23	0
10	軸受荷重	3.11	3.24	0
11	FEM 歯形応力解析	3.12	3.25	0
12	伝達誤差解析	3.13	3.26	0
13	軸間距離変動解析	3.13	3.26	0
14	歯面評価	3.14	3.27	0
15	歯形ファイル出力	3.15	3.28	0
16	設計データ管理	3.	29	0

表 3.1 ソフトウェアの構成

WG: worm gear, WH: worm and helical gear

3.3 基準ラック(プロパティ)

ウォームギヤの基準ラックを図 3.2 に示します.基準平面は, 歯直角または軸平面を選択することができます.また,図 3.2 の ように基準ラックの実寸法図を表示することができ,ウォームの 基準円直径から進み角を決める方式と,進み角から基準円直径を 決める方式を選択することができます.



3.4 寸法諸元

ウォームギヤ寸法諸元の入力画面を図 3.3 に示します.ウォームの歯形は図 3.4(a)に示すように A 形, N 形, K 形, I 形, C 形の 5 種類を標準ソフトウェアに含めています.ただし,C 形は強度計算規格の適用外ですので寸法や歯形生成に留めています.また,諸元の入力範囲は、モジュールは 0.001~50, 圧力角は 5~30°, 条数は 1~15 です.歯厚を調整する方法は、図 3.4(c)のように歯厚減少量または横転位係数で設定することができます.本例ではウォームの歯厚を減少させウォームホイールの歯厚を増加させる例を示します.



3.5 歯車修整(オプション)

図 3.5 のようにウォームの歯形修整を設定します. ここでは, 図 3.6 ウォーム歯形修整2のように歯先および歯元で3µmの歯形 修整を与えたウォームとします.



AMTEC www.amtecinc.co.jp



3.6 歯形計算

歯形計算条件は図 3.7(a)のようにホイール加工用工具(ホブ)の諸元を設定することができます.また,歯形を表示する際の分割数は図 3.7(b)で設定することができます,

ホイール加工用工具に歯形修整を与える場合は、図 3.7 で「修 整有り」として図 3.8 のように設定することができます.





ホイール加工用ホブを図 3.9 のように転位ホブ(例: α =12°) として設定することもできます (α =12°とすることにより

*m*_n=1.975 と定まる). こ の方法は、歯当たり調整 方式の一種として採用さ れています.

図3.10に標準ホブと転 位ホブで加工したときの 歯当たりを示しますが, 転位ホブで加工した方の 歯当たりが歯たけ中央に 寄っていることが解りま す.歯当たりに関しては 3.9をご覧ください.

∑ 歯形計算			
条件設定 精度設	定		
項目(Worm)	記号	単位	数 値
モジュール	mn	mm	2.000000
圧力角	αn	deg	15.000000
砥石外径	OD	mm	****
砥石凸 R	Δr	mm	****
工具(Wheel)	記号	単位	數 値
モジュール	mnc	mm	1.975010
圧力角	anc	deg	12.000000
条数	Zw		1
基準円直径	dmc	mm	15.0000
進み角	γc	deg	7 * 33 * 57.43 ″
ねじれ方向			右ねじれ 👻
取り付け角	Σc	deg	-3.82491
取付中心距離	ac	mm	49.4149
刃末のたけ	hkc	mm	2.5695
刃元のたけ	hfc	mm	1.9305
刃 厚	sc	mm	2.0671
刃先R	r	mm	0.7406
溝 数	N		12
修整			(無し ▼
のど丸み半径	rt		3.0001
(確定	**	シセル クリア
図 3.9	転	位ホ	ブの設定



図 3.10 歯当たり (無修整歯形)

歯形計算終了後,図3.11 に寸法結果を表示します.なお,ウォ ームの三針寸法およびバックラッシは歯形修整を考慮した実歯形 を基に計算しています.

項目	記号	単位	Torm	Theel
歯末のたけ	ha	mm	2.0000	2.0000
歯元のたけ	hf	mm	2.5000	2.5000
全歯たけ	h	mm	4.5000	4.5000
ビッチ円直径	dw	mm	10.0000	83.6909
基礎円直径	db	mm	5.9816	80.7266
理論中心距離	a	mm	46	.8454
リード	PZ	mm	6.4127	****
ピッチ	Px/Pt	mm	6.4127	6.4127
直径係数	q		4.8990	****
歯底幅	۳n	mm	2.9407	****
キャリパ歯たけ	hj	mm	2.0099	2.0283
理論弦歯厚	sjo	mm	3.1416	3.1409
設計弦歯厚	sj	mm	2.0028	4.1762
またぎ歯数	ZM		***	4
またぎ歯厚	W	mm	*ok*ołok	22.7588
E針寸法(ピン〜歯先)	dma.	mm	12.3691	****
三針寸法(ヒ゜ソ〜ヒ゜ソ)	dmw	mm	10.7383	****
オーバーボール寸法	dmh	mm	****	91.5375
のど丸み半径	rt	mm	****	3.0001
正面かみ合い率	εα		2	.1193
岫/円周方向バーックラーッシ	BL×	mm	0.1064	0.1026

3.7 かみ合い図

歯形計算終了後,図 3.12 のように歯形を表示することができ,図 3.13 のように歯形の拡大作図や距離計測,R計測,そして回転機能などがあります.



AMTEC www.amtecinc.co.jp

3.8 歯形レンダリング

歯形計算終了後,図 3.14 のように歯形レンダリングを表示する ことができます.図 3.13 では歯面が接触していませんが,これは ピッチ円部分では歯面接触せず,図 3.15 のようにホイールの歯底 と側面部付近で歯面接触しているからです.

図 3.15 の補助フォームは、観察角度や歯車の位置変更、拡大機能、そして自動回転機能などがあります.



3.9 歯当たり (オプション)

図 3.16 の歯当たり設定では、軸の取り付け誤差や接触最大クリ アランス(光明丹厚さ)を設定することができます.本例では、 接触最大クリアランスを c=3µm としたときの歯当たりを図 3.17 に示します.ウォームの歯形の種類や歯形修整,そしてホイール を転位ホブで加工したときや、取り付け誤差を与えたとき歯当た りがどのように変化するかを把握することができます.

また,図 3.17(b)右下の補助フォームで歯形を拡大することや観 察角度を変更することができます.図 3.18 は、進み角をγ=5.74° としたときの歯当たりで歯当たり模様が大きく変わることが解り ます.





(a) ウォーム
 (b) ホイール
 図 3.18 歯当たり 2 (m_n=2,α=15°, γ=5.74°, I 形)

3.10 強度計算

3.10.1 金属×金属

強度諸元を図 3.19 に, 強度計算結果を図 3.20 に示します. 強度 計算はJGMA405-01:1978 に基づいて計算します.動力はkWとW, トルクはMN・m, kN・m, N・m を選択することができます. また,歯面強さ許容応力係数(Sclim)は,任意に設定することが できます.

各種係数は標準値を表示しますが,任意に変更可能ですし,規 格適用外の歯車であっても設計者の判断で任意に入力することが できます.



図 3.19 強度諸元(金属×金属)

強度計算結果			×
金属×金属 金属×	樹脂		
項目	記号	単位	敖 値
滑り速度	٧s	m/s	0.321
効 率	ηR		0.810
滑り速度係数	Κv		0.643
回転速度係数	Kn		0.766
呼び接線力	Ft	N	1587.179
許容接線力	Ftlim	N	1761.436
歯面強さ	Sfc		1.110

図 3.20 強度結果

3.10.2 金属×樹脂

ウォームが金属でホイールが樹脂の強度諸元を図 3.21 に, 強度 計算結果を図 3.22 に示します. 強度計算は, Lewis の式に基づき 歯面強さはヘルツの応力に基づいて計算します.

樹脂材料は M90-44 を標準としていますが,他の材料(KT-20, GH-25, MC ナイロン)を選択することができます.また,これ以 外の材料では M90 比率係数(共通物性値との比)で対処すること ができます.



13.21 强度韬几(金禹《倒相)

AMTEC www.amtecinc.co.jp

2 強度計算結果			
金属×金属 金属×	樹脂		
項目	記号	単位	数 値
周 速	٧	m/s	0.131
効 率	ηR		0.727
接線力	Ft	N	95.590
有効歯幅	bw	mm	9.600
曲げ強さ(¶o	rn whee	el)	
材料係数	KM		1.000
歯形係数	YF		0.903
速度補正係数	Κv		1.399
温度係数	KT		0.650
潤滑係数	KL		1.000
許容曲げ応力	σblim	MPa.	10.843
最大許容曲げ応力	σlim	MPa	9.860
許容接線力	Fa	N	308.039
曲げ強さ	Sfb		3.222
せん断強さ(¶	orn whe	el)	
円弧歯厚	So	mm	4.573
断面積	Α	mm ²	102.526
許容せん断応力	σslim	MPa.	5.975
許容接線力	Fs	N	510.471
せん断強さ	Sfs		5.340
図 3.22	強度	結果	(金属×樹脂)

3.11 軸受荷重

軸受荷重の計算結果を図 3.23 に示します.

Σ 軸受け荷重[Worm:	× Worm	n wheel(金属	×金属)]	
諸元項目	記号	単位	Torm	Theel
Wormトルク 👻	T	N-n 👻	2.0000 [66.4162 -
摩擦係数	μ			0.044
軸受け問題離	w1,h1	nn	50.0000	50.0000
軸受け間距離	w2,h2	nn	50.0000	50.0000
Worm回転方向			1	ŧ.
<worm, td="" whee目こ加わる<=""><td>うカ></td><td></td><td></td><td></td></worm,>	うカ>			
項目	2	号 単位	Torn	Theel
円周方向に加わる力	F F	t N	400.000	1587.178
軸方向に加わる力	F	a N	1587.178	400.000
半径方向に加わる力	E Fi	r N	438.126	438.126
<worm側 td="" 軸受けに加れ<=""><td>>る力></td><td></td><td></td><td></td></worm側>	>る力>			
項目	2	号 単位	Brg al	Brg a2
スラスト荷重	Fa	a N	15	17.178
Ft のラジアル荷重分	力 Fra	x1 N	200.000	200.000
Fr のラジアル荷重分	力 Fri	x2 N	219.063	219.063
Fa のラジアル荷重分	力 Fra	x8 N	-79.359	79.359
ラジアル荷重合力	Fr	a N	243.962	359.243
<wheel側 td="" 軸受けに加<=""><td>わるカ></td><td></td><td></td><td></td></wheel側>	わるカ>			
項目	2	号 単位	Brg bl	Brg b2
スラスト荷重	Fa	b N	41	10.000
Fr のラジアル荷重分	力 Fri	o1 N	219.063	219.063
Ft のラジアル荷重分	力 Fri	o2 N	793.589	793.589
Fa のラジアル荷重分	力 Fri	03 N	-167.382	167.382
ラジアル荷重合力	Fr	b N	795.270	882.680
参考区	[確定	キャンセル	<u> </u>

図 3.23 軸受荷重

3.12 2D-FEM 歯形応力解析 (オプション)

図 3.24 の FEM の設定画面では縦弾性係数,ポアソン比,分割 数および荷重(例では円周力を ε で除した値)を設定します. 図 3.25 および図 3.26 にウォームとホイールの解析結果を示します. また,最大値の節点や要素を点滅表示で示すこともできます.





3.13 伝達解析 (オプション)

3.13.1 伝達誤差解析 (オプション)

伝達誤差解析は図 3.27 に示すように、片歯面かみ合いによる伝 達誤差解析と、両歯面かみ合いによる軸間距離変動解析ができ、 ウォーム1回転時とホイール1回転時を選択することができます. 例題では、ウォーム回転速度 600min⁻¹でホイール1回転とし、軸 の取り付け誤差は無いものとして解析します.

ピッチ誤差は、図 3.28 のように設定(最大値設定または、歯ご とに設定可)することができます. 伝達誤差解析結果を図 3.29 に、 ワウ・フラッタ(回転むら)を図 3.30 に、フーリエ解析結果を図 3.31 に示します.また、ワウ・フラッタを「音」に変換させる機 能もありますし、解析結果を CSV ファイルに出力することもで きます.



3.13.2 軸間距離変動解析 (オプション)

多くのウォームギヤは片歯面接触として使用しますが、装置に よっては両歯面を接触させかみ合わせる場合があります。軸間距 離変動解析は、図 3.27 で設定したピッチ誤差や取り付け誤差など を考慮して中心距離の変動を解析します。図 3.32 に解析結果を示

AMTEC www.amtecinc.co.jp

します.また,解析結果をCSVファイルに出力することができま す



3.14 歯面評価 (オプション)

歯面評価には、すべり速度グラフ(図3.33)とヘルツ応力グラ フ(図 3.34) があります、すべり速度は、歯の接触位置における 速度を計算し、ヘルツ応力も歯の接触位置における歯形(歯の変 形は考慮していません)から計算しています。いずれも強度計算 および伝達誤差解析後に有効です.



3.15 歯形ファイル出力

歯形ファイルは図 3.35 のようにウォーム,ホイールそして工具 (ホブ)の歯形(任意歯数出力可)を生成します.ファイルの種 類はDXF-2D, DXF-3D, IGES-3Dの3種類です. CAD 作図例を 図 3.36 に示します.



◆ウォームの相手歯車がヘリカルギヤの場合◆



図 3.37 ウォームの相手歯車がヘリカルギヤの例

3.16 基準ラック

ウォームギヤの基準ラックを図 3.38 に示します.基準平面は, 歯直角または軸平面を選択することができます.



3.17 寸法諸元

ウォーム&ヘリカルギヤ寸法諸元の入力画面を図3.39に示しま す. ウォームの歯形は図 3.40(a)に示すように A 形, N 形, K 形, I形、C形の5種類を標準ソフトウェアに含めています。ただし、 C 形は強度計算規格の適用外ですので寸法や歯形生成に留めてい ます. また, 諸元の入力範囲は, モジュールは 0.001~50, 圧力角 は5~30°, 条数は1~15 です。歯厚を調整する方法は、図 3.40(c) のように歯厚減少量または横転位係数で設定することができます. 本例ではウォームの歯厚を減少させヘリカルギヤの歯厚を増加さ せる例を示します.



AMTEC www.amtecinc.co.jp

3.18 歯車修整 (オプション)

図 3.41 のようにウォームに歯形修整を, ヘリカルギヤに歯面修 整を与えることができます. 図 3.42 および図 3.43 にウォームの歯 形設定とヘリカルギヤの歯面修整の例を示します.



図 3.41 歯形修整 (ウォームとヘリカルギヤ)





図 3.43 ヘリカルギヤ歯形・歯すじ修整とトポグラフ

3.19 歯形計算

歯形計算条件は図 3.44 (a)のようにヘリカルギヤ加工用工具(ホ ブ)の諸元を設定することができます.また,歯形を表示する際 の分割数は図 3.44 (b)で設定することができます.歯形計算終了後, 図 3.45 に寸法結果を表示します.なお,ウォームの三針寸法およ びバックラッシは歯形修整を考慮した実歯形を基に計算していま す.ヘリカルギヤは図 3.44 の工具に基づいて生成した歯形です.



記号 ha hf h	単位 mm mm	Torm 2.0000	Thee 2.0000
ha hf h	mm mm	2.0000	2.0000
hf h	mm	2 5000	
h		2.0000	2.5000
	mm	4.5000	4.5000
dw	mm	10.0000	83.6909
db	mm	5.9816	80.7266
a	mm	46	.8454
ΡZ	mm	6.4127	1288.0530
Px/Pt	mm	6.4127	6.4127
q		4.8990	****
١'n	mm	2.3195	****
hj	mm	2.0099	2.0283
sjo	mm	3.1416	3.1409
sj	mm	2.6240	3.5550
zm		*8***8	4
4	mm	*8***8	22.1588
dna	mm	13.2411	****
dnw	mm	12.4823	****
dnh	mm	*8***8	89.0944
rt	mm	*8***8	****
εα		2	.0662
BL×	mm	0.1094	0.1055
•	db a pz x/Pt q lln hj sjo sj zm ll dma dmw dmh rt ε cc BLx	db mm a mm p2 mm x/Pt mm q Win mm sjo mm sjo mm dmax mm	db mm 5.5816 a mm 6.4127 pz mm 6.4127 q 4.8300 WT mm 2.3155 hj am 2.4161 sjo am 3.1416 sjo am 2.4203 zm ###### dma mm 12.4823 dma am 2.84### dma mm 12.4823 dma am 2.484###

図 3.45 寸法結果

3.20 かみ合い図

歯形計算終了後,図 3.46 のように歯形を表示することができ,図 3.47 のように歯形の拡大作図や距離計測,R計測,そして回転機能などがあります.



3.21 歯形レンダリング

歯形計算終了後,図 3.48 のように歯形レンダリングを表示する ことができます.図 3.49 の補助フォームは、観察角度や歯車の位 置変更,拡大機能,そして自動回転機能などがあります.



図 3.48 レンダリング

図 3.49 歯の接触

3.22 歯当たり (オプション)

図 3.50 の歯当たり設定では、軸の取り付け誤差や接触最大クリ アランス(光明丹厚さ)を設定することができます.本例では, 接触最大クリアランスを c=3µm としたときの歯当たりを図 3.51 に示します.ウォームの型式や歯形修整,そして軸の取り付け誤 差を与えたとき歯当たりがどのように変化するかを把握すること ができます.

また、図 3.51(b)右下の補助フォームで歯形を拡大することや観 察角度を変更することができます.



図 3.50 歯当たり設定



3.23 強度計算

強度諸元を図 3.52 に、強度計算結果を図 3.53 に示します。曲げ 強さは Lewis の式に基づき、歯面強さはヘルツの応力に基づいて 計算します. 動力は kW と W, トルクは MN·m, kN·m, N·m, N·cm を選択することができます.

材料の設定は、ウォームとヘリカルギヤ共に図 3.52a の材料を 選択することができます.また、摩擦係数や各種係数は標準値を 表示しますが、任意に変更することができます.



図 3.52 強度諸元

∑ 強度計算結果				×
項目	記号	単位	Torm	Helical gear
滑り速度	٧s	m/s	0.321	****
周 速	٧	m/s	****	0.064
効 率	μ		0	.727
PV値	PV	MPa•m/s	15	. 452
曲げ強さ項目	記号	単位	Vorm	Helical gear
接線力	Fx	N	71	.239
材料係数	KM		1.000	1.000
歯形係数	YF		0.504	0.696
速度補正係数	Κv		1.000	1.399
温度係数	KT		1.000	0.650
潤滑係数	KL		1.000	1.000
複合有効歯幅	bw	mm	19	.835
許容曲げ応力	σblim	MPa	196.000	8.826
最大許容曲げ応力	σ	MPa	163.333	6.691
許容円周力	Fa	N	3268.407	184.838
曲げ応力	σb	MPa	3.560	2.579
曲げ強さ	Sft		45.880	2.595
自頂ち姫面歯	記号	単位	Torm	Helical gear
許容ヘルツ応力	σ Hlim	MPa	490.500	57.303
弾性率	E	MPa	205940.000	1721.067
許容円周力	Fh	N	7379.542	100.718
ヘルツ応力	σH	MPa	48.193	48.193
歯面強さ	Sfh		103.589	1.414
せん断強さ項目	記号	単位	Torm	Helical gear
円弧歯厚	So	mm	***	3.564
断面積	A	mm ²	****	57.715
許容せん断応力	σslim	MPa	****	4.863
許容円周力	Fs	N	*****	233.904
せん断応力	σs	MPa	*****	1.481
せん断強さ	Sfs		****	3.283

図 3.53 強度結果

3.24 軸受荷重

軸受荷重の計算結果を図 3.54 に示します.

諸元項目	記号	単位	Vorm	Theel
¥ornトルク ▼	T	N•cm ▼	10.0000 🔚	332.0808
摩擦係数	μ			0.044
軸受け間距離	w1,h1	nn	50.0000	50.0000
軸受け間距離	w2,h2	nn	50.0000	50.0000
Worm回転方向			E I	9 <u>7</u> -
<vorm, td="" vheellこ加わる<=""><td>力></td><td></td><td></td><td></td></vorm,>	力>			
項目	記録	; 単位	Vorm	Thee I
円周方向に加わる力	Ft	N	20.000	79.359
軸方向に加わる力	Fa	N	79.359	20.000
半径方向に加わる力	Fr	N	21.906	21.906
<vorn側 td="" 軸受けに加わ<=""><td>る力〉</td><td></td><td></td><td></td></vorn側>	る力〉			
項目	記録	き 単位	Brg al	Brg a2
スラスト荷重	Faa	ι N	79.359	
Ft のラジアル荷重分力] Fra	1 N	10.000	10.000
Fr のラジアル荷重分力] Fra	2 N	10.953	10.953
Fa のラジアル荷重分力] Fra	3 N	-3.968	3.968
ラジアル荷重合力	Fre	ι N	12.198	17.962
<wheel側 td="" 軸受けに加わ<=""><td>>る力></td><td></td><td></td><td></td></wheel側>	>る力>			
項目	21	5 単位	Brg bl	Brg b2
スラスト荷重	Fat	N	2	0.000
Fr のラジアル荷重分力) Frb	1 N	10.953	10.953
Ft のラジアル荷重分力) Frb	2 N	39.679	39.679
Fa のラジアル荷重分力) Frb	3 N	-8.369	8.369
ラジアル荷重合力	Frt) N	39.763	44.134



図 3.54 軸受荷重

3.25 2D-FEM 歯形応力解析 (オプション)

図 3.55 の FEM の設定画面では縦弾性係数,ポアソン比,分割 数および荷重(例では円周力をεで除した値)を設定します. 図3.56および図3.57にウォームとヘリカルギヤの解析結果を示し ます. また, 最大値の節点や要素を点滅表示で示すこともできま す.

∑ FEM解析条件				
Worm材料記号	構造用綱			
Wheel材料記号	M90-44			
項目	記号	単位	Vorm	Thee I
縦弾性係数	E	MPa	205940.0	1721.1
ポアソン比	ν		0.30	0.35
縦分割数(歯面部)	mNo		21	21
横分割数	wNo		21	21
荷重点位置	Nf		2	2
荷重	F	N	34.5000	
確定 キャンセル クリア				

図 3.55 FEM 解析の設定

•

Ŧ



3.26 伝達誤差(オプション)

3.26.1 伝達誤差解析

伝達誤差解析は図 3.58 上部に示すように、片歯面かみ合いによ る伝達誤差解析と、両歯面かみ合いによる軸間距離変動解析がで き、ウォーム1回転時とヘリカルギヤ1回転時を選択することが できます。例題では、ウォーム回転速度 600min⁻¹でヘリカルギヤ 1回転とし、軸の取り付け誤差は無いものとして解析します。

ピッチ誤差は、図 3.58 のように設定(最大値設定または、歯ご とに設定可)することができます.伝達誤差解析結果を図 3.60 に、 ワウ・フラッタ(回転むら)を図 3.61 に、フーリエ解析結果を図 3.62 に示します.また、ワウ・フラッタを「音」に変換



させる機能もありますし、解析結果を CSV ファイルに出力する こともできます.

3.26.2 軸間距離変動解析

多くのウォームギヤは片歯面接触として使用しますが,装置に よっては両歯面を接触させかみ合わせる場合があります.軸間距 離変動解析は,図 3.58 で設定したピッチ誤差や取り付け誤差など を考慮して中心距離の変動を解析します.図 3.63 に解析結果を示 します.また,解析結果を CSV ファイルに出力することができま す.



3.27 歯面評価 (オプション)

歯面評価には、すべり速度グラフ(図 3.64) とヘルツ応力グラ フ(図 3.65) があります。すべり速度は、歯の接触位置における 速度を計算し、ヘルツ応力も歯の接触位置における歯形(歯の変 形は考慮していません)から計算しています。いずれも強度計算 および伝達誤差解析後に有効です。



3.28 歯形ファイル出力

歯形ファイルは図 3.66 のようにウォーム, ヘリカルギヤそして 工具(ホブ)の歯形(任意歯数出力可)を生成します.ファイル の種類は DXF-2D, DXF-3D, IGES-3D の 3 種類です. CAD 作図 例を図 3.67 に示します.



AMTEC www.amtecinc.co.jp
3.29 設計データ管理

データベースは, Microsoft Access Database, Microsoft SQL Server そして ORACLE MySQL Server に対応しています. また, 旧ソフ トウェアの involute Σ (Worm Gear)および involute Σ (Worm and Helical Gear)で作成した設計データの読み込みも可能です. データ ベースの設定画面を図 3.68 に示します.

※Microsoft SQL Server および ORACLE MySQL Server は、インストールさ れている必要があります.

况 データベースの設定	ŧ	
データベースサーバーの利	重類	Microsoft Access Database 🔹
Microsoft Access Data	ibase	Microsoft Access Database
データベース名	GearP	Microsoft SQL Server
データベースの場所	C:¥Pr	USTAIIIDALAFAMTEGFUBAITTUO
接続テスト 作	成	

図 3.68 データベースの設定

3.30 HELP 機能

操作途中で使い方が解らない場合は、アクティブ画面で[F1]キ ーを押すことで図 3.69 のように説明文を表示します.



3.31 ウォームギヤの種類

ウォームギヤの種類を図 3.70~3.76 に示します. なお, []内 数値はソフトウェア番号です.





[4] involute ASM(high-intensity gear design system)



図 4.1 involute ASM(high-intensity gear)

4.1 概要

involute ASM(high-intensity gear)は, 非対称圧力角インボリュート歯車(以後,非対称歯形歯車と言う)の設計支援ソフトウェアです.図4.1 に全体画面を示します.

非対称歯形歯車は、ギヤの大きさや材料を変更しないで歯面負 荷容量を増大させることができます.高圧力角歯形は標準圧力角 に比べ、ヘルツ応力は低下し、摩擦係数は小さく、すべり率は小 さく、そしてフラッシュ温度を低く抑えることができます.

4.2 ソフトウェアの構成

involute ASM の構成を表 4.1 に示します.表中の〇は,基本ソフトウェアに含まれ, 〇はオプションです. 適応歯車:インボリュート平,はすば歯車(外歯車,内歯車)

項目	機能
<1>基準ラックの設定	0
<2>歯車寸法	0
<3>推論	0
〈4〉歯形創成図	0
<5>歯車かみ合い図	0
<6>かみ合い連続回転	0
<7>歯形 DXF ファイル	0
〈8〉歯形レンダリング図	0
〈9〉歯車精度	0
<10>設計データ管理	0
<11>JGMA6101,6102, JGMA401,402	0
<12>樹脂歯車強度計算(JIS B 1759)	0
<13>軸受け荷重	0
<14>3D-IGES 歯形データ	0
<15>回転伝達誤差解析,フーリエ解析	
ワウ・フラッタ, CSV	0
<16>歯面修整(歯形,歯すじ,バイアス修整)	0
<17>歯当たり	0
<18>FEM 歯形応力解析	0

表 4.1 ソフトウェアの構成

4.3 基準ラックの設定

- 図 4.2~4.5 に設定画面を示します.
- ・歯車の組み合わせ : 外歯車×外歯車, 外歯車×内歯車
- ・基準ラック : 並歯, 低歯, 特殊
- ・歯先円決定の方式 :標準方式,等クリアランス方式
- ・鋼歯車の強度計算規格は、図 4.5 に示すように

- JGMA 401-02:1974, 402-02:1975
- JGMA 6101-02:2007, 6102-02:2009

の 2 種類があり、プラスチック歯車の強度計算規格は、JIS B 1759(2013)に対応しています.

精度 強	度						
🗴 💿 低齒	1 🔘 特殊						
記号 Pi	nion Gear	π/2					
] ant	30.00000	A COR					
] anR	17.00000						
hao 1	.200 1.200						
hfo 1	.450 1.450	roL roR					
roL 0	.220 0.220	<u>*</u> ₩#=/					
roR 0	.220 0.220	泰辛リック					
ско и	.250 0.250	■ 実寸法図					
	確定 キャンセノ	▶ 標準(2)					
精度	強度						
ŧ		歯先円決定方式					
車 💿 外歯車	車 ×内歯車	◎ 標準方式					
距離の間底		◎ 等クリアランス方式					
山口 二 印 離 表 注							
「「「こ」に開きたが							
記由心距離を	した。 (決定	▼テフォル値をセットする					
Ŧ	産定 キャンセ	ル 標準にあ					
X	4.3 寸	法					
法 精度	诸度						
	Annos						
🔘 JIS B 1702(1976) JGMA 116-02(1983)							
2(1976) JG	MA 116-02(19	83)					
2(1976) JG 2-1(1998)	MA 116-02(19 JIS B 1702-2	83) (1998)					
2(1976) JG 2-1(1998) 2-3(2008)	MA 116-02(19 JIS B 1702-2	83) (1998)					
2(1976) JG 2-1(1998) 2-3(2008)	MA 116-02(19 JIS B 1702-2	83) (1998)					
12(1976) JG 12-1(1998) 12-3(2008) 確	MA 116-02(19 JIS B 1702-2 定 キャンt	83) (1998) <u>2ル</u> 標準に戻					
12(1976) JG 12-1(1998) 12-3(2008)	ma 116-02(19 JIS B 1702-2 定 **ン1 4.4 精/	83) (1998) 2小 標準に原 度					
12(1976) JG 12-1(1998) 12-3(2008) 確 义	ma 116-02(19 JIS B 1702-2 定 <u>**v>t</u> 4.4 精)	83) (1998) 2ル					



4.4 歯車寸法

歯車寸法は、各部寸法、かみ合い率、すべり率、歯厚などを計算します. アンダーカットが発生している歯車のかみ合い率は、 TIF (True Involute Form) 径を基準に、また、歯先に丸みがある場合は歯先 R を考慮したかみ合い率を算出します.

- (1)中心距離と転位係数の関係は、以下の3種類です. <1>転位係数をピニオンとギヤに与え中心距離を決定
 - <2>中心距離を基準として各歯車の転位係数を決定
 - <3>転位係数を無視して任意に中心距離を決定

(2)転位係数の設定方式は、以下の4種類です.

- <l> 転位係数を直接入力
- <2> オーバーピン寸法を入力して転位係数を決定 非対称歯形は、またぎ歯厚測定ができませんので選択 できません.図4.8に示すまたぎ歯厚は参考値です.
- <3> 円弧歯厚を入力して転位係数を決定

図 4.6 に諸元設定画面を示します.また,転位係数入力時は,転位係数を直接入力方法以外に,歯厚から転位係数を入力することもできます.図4.7の面取り設定で歯先 R=0.2(C面も可能)としたときの寸法結果画面を図4.8 に示します.

🛃 寸法諸元 📃 🗉 🗾								
項目	記号	単位	Pin	ion	Gear			
モジュール	mn	mm		3	.00000			
歯 数	z		20		40			
圧力角(左/右)	αn	deg	30.0000	17.0000	30.0000	17.0000		
ねじれ角	β	deg	30	* 0	' 0.	.00 ″ 🔝		
ねじれ方向			右ね	Un 🚽	左ねじれ			
基準円直径	d	mm	69	.2820	138.5641			
基礎円直径(左/右)	db	mm	57.6461	65.3305	115.2923	130.6610		
歯厚入力方式			転位	転位係数 👻		係数 🔻		
転位係数	xn		0	.50000	転位係数			
測定ボール径	dp	mm	5	.000	一日弧歯厚			
オーバーボール寸法	dm	mm	78	.58227	145.30523			
歯直角円弧歯厚	Sn	mm	6	.03701	4.71239			
中心距離	a	mm		105	.60000			
歯直角法線歯厚減少量	fn	mm	0	.00000	0	.00000		
歯幅	Ь	mm	40	.00000	40	.00000		
歯先円直径	da	mm	79	.48203	145	.76406		
歯底円直径	df	mm	63	.58203	129	.86406		
基準ラーシウ歯元R(左/右)	rf	mm	0.6600	0.6600	0.6600	0.6600		
	[確定	= ++>1	276	面取り設定	E 017		

図 4.6 諸元設定

🛃 面取り設定 📃 📃									
項目		Pinion	Ge	ar					
[歯先]	武方	里辺	左歯面	右歯面	左歯面	右歯面			
面取り加工			R面取り 👻						
歯先R	ra	mm	0.200	0.200	0.200	0.200			
半径方向面取り量	cA	mm							
円周方向面取り量	сВ	mm							
確定 キャンセル クリア									

図 4.7 面取り設定

🛃 歯車寸法						• •	
		1614	Pin	ion	Gear		
項目	武巧	华 世	左歯面	右歯面	左歯面	右歯面	
正面モジュール	mt	80		3.	.46410		
正面圧力角	αt	des	33.6901	19.4444	33.6901	19.4444	
有効歯幅	bw	nm		40.	.0000		
リード	PZ	nn	376.	9911	753.	9822	
転位量	Xm	mm	1.	50000	0.	00000	
歯末のたけ	ha	mm	5.	1000	3.	6000	
歯元のたけ	hf	80	2.	8500	4.	3500	
全歯たけ	h	80	7.	9500	7.	9500	
クリアランス	с	nm	0.	9270	0.	9270	
かみ合い直径(歯先)	dsa	nm	79.4820	79.4820	145.7641	145.7641	
かみ合い直径(歯元)	dsf	nm	65.9539	66.8307	133.1030	134.8685	
基礎円筒ねじれ角	βb	deg	25.6589	28.5648	25.6589	28.5648	
正面かみ合い圧力角	αw	deg	35.0314 21.8763		35.0314	21.8763	
かみ合いビッチ円直径	dw	nm	70.	4000	140.8000		
正面法線ピッチ	pbt	00	9.0550	10.2621	9.0550	10.2621	
歯直角法線ビッチ	pbn	80	8.1621	9.0130	8.1621	9.0130	
かみ合い長さ	ga	nm	11.3380	15.5942	11.3380	15.5942	
正面かみ合い率	εα		1.2521	1.5196	1.2521	1.5196	
重なりかみ合い率	εβ			2.	.1221		
全かみ合い率	εγ		3.3742	3.6417	3.3742	3.6417	
近寄りかみ合い率	εαL		0.7901	0.9276	0.7901	0.9276	
遠のきかみ合い率	εαΗ		0.4620	0.5920	0.4620	0.5920	
すべり率(歯先)	σa		0.3922	0.6308	0.2814	0.5641	
すべり率(歯元)	σb		-0.3917	-1.2944	-0.6454	-1.7087	
オーバーボール寸法	dm'	88	78.	5823	145.	3052	
歯直角円弧歯厚	sn'	80	6.	0370	4.	7124	
正面円弧歯厚	st'	80	6.	9709	5.	4414	
キャリバ歯たけ	hj	80	5.	2123	3.	6300	
キャリパ歯厚(参考)	Sj	mm	6.	0327	4.	7119	
基準ラック歯末のたけ係数	hao		1.	2000	1.	2000	
基準ラック歯元のたけ係数	hfo		1.	4500	1.	4500	
バックラッシ	jt	mm		0.	2402		
正面法線方向バックラッシ	jtn	nm	0.1967	0.2229	0.1967	0.2229	

図 4.8 寸法結果

4.6 歯形図

歯形計算は図 4.9 に示すように歯形各部に分割数を与えること ができます. そして **歯形計算** で左右の歯形を計算し図 4.10

🛃 歯形計算諸元							
歯形項目	記号	Pinion	Gear				
フィレット分割数	vuf	30	30				
インボリュート分割数	vui	50	50				
面取り部分割数	vur	15	15				
歯先円分割数	vut	10	10				
歯すじ分割数	hul	18	18				
確定 キャンセル クリア							

図 4.9 歯形計算諸元

のように歯形図を示します. 歯形に関しての機能は補助フォーム に示すように歯形情報(図4.11),歯形創成(図4.12),ズーム, 距離計測(図4.13),R計測(図4.14)機能および直径,修整歯形 表示,作用線,歯先幅,奇数歯Y測定の表示そして回転機能があ ります.



図4.10 かみ合い図と補助フォーム





4.7 歯形レンダリング

3次元歯形のかみ合いを図 4.15 のように作図することができ, かみ合い部分に接触線を観察することができます.また,補助フ ォームにより歯形の向きを自由に変えることができ,拡大,縮小 および歯車の回転表示をすることができます.



図 4.15 歯形レンダリングと補助フォーム

4.8 歯車精度

図4.16と図4.17に新JISの歯車精度規格JISB1702-1:1998とJIS B1702-2:1998による誤差の許容値を示します.また,図4.4の設定 により新JISと旧JISの切り換えが可能です.歯車精度規格は

- JIS B 1702-1:1998, JIS B 1702-2:1998, JIS B 1702-3:2008
- JIS B 1702:1976
- · JGMA 116-02:1983

の5種類です.

					1	4.精度				- • •
						左歯面を評価 👻				
						諸 元 [JIS B 1702-1] JIS	B 1702-	2		
4 . 精度				• 💌		項目	記号	単位	Pinion	Gear
左歯面を評価・		_				単一ビッチ誤差	fpt	μn	6	6.5
- たためを1245						部分累積ビッチ誤差	Fpk	μn	8.5	12
右接面を採用 -1 、	JIS B 170	32-2				累積ビッチ誤差	Fp	μn	19	25
检查量重项目	記号	単位	Pinion	Gear		全歯形誤差	Fα	μn	8	9
積度協師	JIS		5 -	5 -		全歯すじ誤差	Fβ	μn	8.5	9
連続ビッチ数	k		2	5		片歯面に。っかいみ合い誤差	f'i	μn	8	8.5
マスタギヤ項目	記号	単位	Pinion用	Gear用		片歯面全かみ合い誤差	F'i	μn	27	34
· · · · · ·	z'		40	20		歯形形状誤差	ffα	μn	6	7
8 16	b'	0.0	40.000	40.000		歯形こう配誤差	fΗα	μn	5	5.5
中心距離	a'	nn	105.4000	103.9230		歯すじ形状誤差	ff β	μn	6	6.5
由先門直径	da'	88	145.7641	76.4820		歯すじ傾斜誤差	fH₿	μn	6	6.5
<u>pr</u>		_		1		1				
₩ 416 H	сD	17	02 1 2	の剥去		DV 4 17	1	主由	時た家植	古
凶 4.10 JI	5В	1/	02-1,-2	の取止		凶 4.17	- 1	旧尽	「計谷川	<u>E</u>

4.9 歯車強度計算(鋼)

歯車強度計算は、図 4.5 に示すように ISO6336:2006 規格に準拠 した JGMA6101-02:2007 および JGMA 6102-02:2009 規格 と JGMA401-01:1974, 402-01:1975 の 2 種類あり,設計単位は,SI単位 系,MKS単位系を選択することができます.図 4.18 に強度計算 の動力設定画面を示します.本例では高圧力角側を作用歯面とし ますが,低圧力角側を作用歯面として強度計算をすることもでき ます.材料の選択は、図 4.19 に示すように「材料」と「熱処理」 に適応した材料の選択フォームを表示します.また,図 4.20 に曲 げに関する係数設定画面を,図 4.21 に面圧に関する係数の設定画 面を示し、図 4.22 に強度計算結果を示します.

なお,画面中の 🔜 は,数値換算や各種係数,そして係数選 択をすることができる補助機能です.

🛃 強度計算[JGMA6101-02 , JGMA6102-02] 🔹 🗉 🖾									
動力JGAM6101-6102 材料JGMA6101-6102 曲げ JGMA6101-02 歯面 JGMA6102-02									
- トルク入力方式	トルク入力方式 トルク,回転速度入力基準								
● トルク→動力 ○ 動力→トルク ● Pinion ○ Gear									
項目 記号 単位 Pinion Gear									
伝達動力	P	k⊪ ▼	64	.6073					
呼びトルク	T	N·m 👻	500.0000 📃	1000.0000					
回転速度	n	min-1	1234.0000	617.0000					
負荷かみ合い回数	NL		1000000 🗸						
呼び接線力	Ft	N	14433.7567						
周 速	٧	m/s	4	.4761					
相当平歯車歯数	Z٧		30.7920	61.5840					
歯車精度JIS B 1702-1			N5 👻	N5 👻					
評価歯面			CCW(左歯面接触 c	ɛn=30.0000deg) 👻					
正面かみ合い率	εα		1.2521						
重なりかみ合い率	εβ		2	. 1221					
		確定 🛛 🌾	ゃンセル	<i>ク</i> リア					

図 4.18 強度計算(動力設定)







曲線	条件 材料が全体硬化圏、球状星給構造及び	寿命係基
	通常の表面硬化費であって,軽度の ビッチングを許容する場合。	13
回 曲線B	曲線 aにおいて、ビッチングを全く許容 しない場合。	1.1
● 曲線○	全体硬化鋼をガス室化した場合,室化鋼 をガス室化した場合,ねずみ鋳鉄の場合。	1.0
● 曲線D	全体硬化鋼を臨浴室化した場合。	1.0
	「 建定」 「 速用 」 林ヤンセ	

中程度の片当り(max/m=1.5程度)	1,5
重度の片当り (Nuas /No=2.0程度)	2.0
極端な片当り (Mnas/Mo=2.0以上)	2.0以上
Vo=歯すじ方向の平均荷重、Vmax=量	社大荷重
確定 適用	キャンセル

図 4.21 強度計算(面圧に関する係数)

, 強度結果[JGMA6101-02,JGI		- • •		
項目(JGMA6101-02曲げ)	記号	単位	Pinion	Gear
歯元曲げ応力	σF	MPa.	249.373	242.120
許容歯元曲げ応力	σFP	MPa.	638.556	638.556
総合安全率	SF		2.561	2.637
許容接線力	Ftlin	N	36995.321	38103.597
項 目(JGMA6102-02 歯面)	記号	単位	Pinion	Gear
面圧応力	σH	MPa	883.512	883.512
許容接触応力	σHP	MPa	2040.095	2040.095
総合安全率	SH		2.309	2.309
許容接線力	Felim	N	77032.490	77032.490

図 4.22 強度結果

4.9a 歯形係数

対称歯形歯車の歯形係数を決定する際の危険断面歯厚の算出方 法は、それぞれの規格で定義されていますが非対称歯形歯車の危 険断面歯厚は定義されていません。本ソフトウェアでは図 4.23 お よび図 4.24 のように高圧力角側の危険断面距離を2倍にして危険 断面歯厚としています。



(m_n=3, z=40, α=30°, β=0°, x=0) 図 4.23 危険断面歯厚(歯先荷重の例)

-	複合歯形係数計算(Ge	ar)		×	' I I	
ſ	荷重位置	歯先円i	直径(規構			歯先円直径(規格) ▼
	ホブ(ラック型工具)	ピニオ	ンカック	2		歯先円直径(規格)
	項目	記号	単位	数 値		有別1フホリュート但13(画元111) 最更荷重直径(HPSTC)
	齿先突起量	Spr	mm	0.0000		政法同主世任(川の10)
	歯形係数	YF		1.9128		
	応力修正係数	YSa		1.8616		
	複合歯形係数	YFs		3.5609		
	危険断面歯厚	SFn	mm	8.1928		
	危険断面歯たけ	hFa	mm	7.5511		
	荷重角度	αFan	deg	35.1088		
	収束角度	θ	deg	39.3150		
	荷重直径	dk	mm	127.2000		
	確定	通用		キャンセル		

荷重位置は歯先, HPSTC を選択することができます. 図 4.24 歯形係数の数値

4.10 歯車強度計算(樹脂)

プラスチック歯車の強度は、図 4.5 で JIS B 1759(2013)を選択す ることで計算できます. JIS B 1759「プラスチック円筒歯車の曲げ 強さ評価方法」は、非対称歯形歯車には適用していませんが、歯 形係数を図 4.23 と同様として計算します. プラスチック材料の許 容曲げ応力は歯車の運転試験に基づいて POM の許容曲げ応力は 各所の実験結果から 80.0[MPa]と定まり、POM 以外の材料につい ても規格に基づいて独自に決定することができます. そして歯元 曲げ応力と各種係数(歯元形状係数、寿命係数、雰囲気温度係数 等)を考慮した許容歯元曲げ応力とを比較して安全か否かを判断 します. 詳しくは規格をご覧ください. プラスチック歯車の強度 計算の例を図 4.25~4.29 に示します.

道日	교문	単位	Pin	ion		Gear			
モジュール	mn	mm			1,00000	00000			
齿数	2		16			80			
开力角(左/右)	an	dex	80.0000	80.0000 17.0000			17.0000		
ねじれ角	β	des	20	* 0	,	0.00	"		
ねじれ方向			右ね	сħ	-	左ねじれ	ı		
基準円直径	d	m	17	.0268		31.92	53		
基礎円直径(左/右)	db	mn	14.5074	16.191	4 27.	27.2014 30.3589			
歯厚入力方式			転位	係数	•	転位係数 ▼			
転位係数	×n)	0	.20000		0.00000			
測定ボール径	dp	m	2	.000		2.000			
オーバーボール寸法	dn	m	20	.57348		35.23230			
歯直角円弧歯厚	Sn	mn	1	.74741		1.57080			
中心距離	a	mn			24.80000	,			
歯直角法線歯厚減少量	fn	mn	0	.00000		0.00000			
歯幅	b	mn	10	.00000		10.00000			
歯先円直径	da	mn	19	.42684		33.92	533		
歯底円直径	df	m	14	14.92684			533		
基準5-/2歯元R(左/右)	rf	m	0.2200	0.220	0 0.	2200	0.2200		
	(確定	++>	216	面耳	的設定	クリア		

図 4.25 歯車諸元



図 4.26 強度諸元

🔩 プラスチック円筒歯車の曲げ強さ評価結果 JIS B 1759:2013 🛛 🖃 🔜										
御元曲げ 相当平歯車 係 数										
項 目(歯元曲げ)	記号	単位	Pinion	Gear						
歯元曲げ応力	σF	MPa	36.350	34.863						
歯形係数	YF		1.907	1.829						
基準ラック歯元すみ肉半径	E	nn	-0.063	-0.063						
補助係数(歯元危険断面歯	G		-0.830	-1.030						
補助角度(歯元危険断面歯	Н	rad	-0.872	-0.954						
ラック工具(ビニオンカッ	θ	rad	0.783	0.882						
歯元危険断面歯厚	SFn	nn	2.180	2.272						
曲げモーメントの腕の長さ	hFe	nn	1.551	1.563						
歯元すみ肉丸み半径	ρF	nn	0.396	0.426						
基礎円筒ねじれ角	βb	des	17	.22940						

凶 4.2/ 圏元田け	図 4.27	歯元曲げ
-------------	--------	------

歯元曲げ 相当平歯車 係 数						
項 目(相当平歯車)	記号	単位	Pinion	Gear		
齿数	zn		18.6643	34.9956		
正面かみ合い率	εαn		1.3	220		
基準円直径	dn	nn	18.6643	34.9956		
歯直角法線ビッチ	Pbn	nn	2.7207			
基礎円直径	dbn	nn	16.1638	30.3071		
歯先円直径	dan	nn	21.0643	36.9956		
外側の点を通る円の直径(den	nn	20.3109	36.3163		
外側の点の圧力角(一歯か	αen	des	37.26725	33.43289		
外側の点の角度(一歯かみ	γe	des	2.28201	1.25756		
外側の点の作用角(一歯か		der	34.98524	32.17533		

図 4.28 相当平歯車

歯元曲げ 相当平歯車 係 数				
項 目(係数)	記号	単位	Pinion	Gear
応力修正係数	Ys		1.973	1.973
危険断面歯厚と曲げモーメ	L		1.406	1.453
危険断面歯厚と歯元すみ	qs		2.750	2.665
ねじれ角係数	Yβ			0.833
リム厚さ係数	YB		1.000	1.000
バックアップレシオ	BR		2.222	2.222
許容歯元曲げ応力	σFP	MPa	58.538	62.812
曲げ強さに対する安全係数	SF		1.610	1.802
安全判定			SF>SFmin	SF>SFmin

図 4.29 係数

4.11 軸受け荷重

歯車に作用する荷重と、軸受けに作用する荷重を計算します. 荷重の種類は、接線力、法線力など各軸受けに作用する荷重 20 種類を計算します.図4.30に計算結果を示します

,軸荷重							
項目	記号	単位	Pinion	Gear			
トルク エ		N•m →	500.0000 🔜	1000.0000 📃			
軸受け間距離	p1,g1	mn	50.0000	50.0000			
軸受け間距離	p2,g2	mm	50.0000	50.0000			
inion回転方向		CCW(左歯	面接触 αn=30.000	10deg) 👻			
				🔽 参考図			
項目(単位	N)	記号	Pinion	Gear			
接線荷重		Fu	14204	.5455			
法線荷重		Fn	18939.3939				
半径方向荷	重	Fr 9469.6970					
軸方向推力]	Fa	8200	.9981			
ラジアル荷重(分	力)	Full,Fu81	7102.2727	7102.2727			
ラジアル荷重(分	力)	Fr11,Fr31	4734.8485	4734.8485			
ラジアル荷重(分	力)	Fr12,Fr32	2886.7513	5773.5027			
ラジアル荷重(合	成)	Fb1,Fb3	7338.7833	12683.3640			
ラジアル荷重(分	力)	Fu21,Fu41	7102.2727	7102.2727			
ラジアル荷重(分	力)	Fr21,Fr41	4734.8485	4734.8485			
ラジアル荷重(分	力)	Fr22,Fr42	2886.7513	5773.5027			
ラジアル荷重(合	成)	Fb2,Fb4	10417.8242	7177.8186			
		計算	キャンセル	クリア			



図 4.30 軸受荷重

4.12 歯面修整(歯形,歯すじ,バイアス修整)

図 4.31 に歯面修整の例を示します. この歯形を得るためには図 4.32 のように歯形修整を数値入力で与えることもできますが,右 側の図のようにパターン化した歯形に数値を入力して与えること もできます. 同様に,歯すじ修整も図 4.33 のように設定すること ができます. この歯形修整と歯すじ修整の 2 つを図 4.34 のように 表し,反対歯面にコピーすれば左右歯面同じ修整歯形となり,そ れを合成すると図 4.31 として表示することができます.

また、図 4.34 の画面上部のコンボボックスで「歯形」、「歯すじ」、 「歯形・歯すじ」を選択することができ、歯形たけ方向は作用線 または直径で指定することができます.また、歯形修整の倍率は 最大 1000 倍で設定することができます.



AMTEC www.amtecinc.co.jp





ご 歯車修整(Pinion)	(1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)
修整 歯形歯すじ → 歯形指定 作用線 → 歯形分割数 1 → 倍率 500 →	22.2215 22.2315 10 2710-2120 H
Imp Imp <th></th>	
TOP BOTTOM TOP BOTTOM X avis scale =1.4 (+) Y avis scale =500 X avis scale =1.4 (+) Y avis scale =500	International Action of the second se
確定 キャンセル トポグラフ	1 1025 100 100 100 100 100 100 100 100 100 10

図 4.34 歯形&歯すじ修整とトポグラフ

歯面修整を与えた歯形は、図4.35の歯形計算諸元で設定するこ とができます.ここで設定した歯形計算条件は、図4.10~4.14に 示す歯形に有効で、図4.14の歯形レンダリングに重ね合わせるこ とができるため図4.36のように表示することができます.ここで は、ピニオンに歯面修整を与えているため図中の赤色歯面の中に 黄色歯面が表れています(ギヤは無修整).





4.13 歯当たり

歯面修整(図4.31)を与えた歯車に図4.37で歯当たり条件を設 定し歯当たりを確認することができます.ここでは、平行度誤差 および食い違い誤差を0とし、接触最大クリアランスを2.0µmと したときの歯当たりを図4.38および図4.39に示します.

🛃 歯当たり諸元 📃 🗖 💌									
項目	記号	単位	数 値						
中心距離	a	mm	105.6000						
平行度誤差	P	deg	0.00000						
食い違い誤差	di	deg	0.00000						
歯すじ分割数	hul		18						
歯形補間精度	ac	μm	0.0						
回転分割数(1ピッチ当たり)	urP		50						
接触最大クリアランス	с	μm	2.0						
回転方向									
◎ BOTH(両歯面) ○	⑧ BOTH(両歯面) ○ CCW(左歯面) ○ CW(右歯面)								
確定 キャンセル クリア									
図 4.37	歯	当た	り設定						



図 4.39 歯当たり (ギヤ) & 拡大

4.14 伝達誤差

伝達誤差解析では、無修整歯形または図4.31 で与えた歯形で無 負荷時の回転伝達誤差解析をすることができます.図4.40 に伝達 誤差設定を示しますが、ここでは2D 解析または3D 解析の選択を することができ、軸の振れ、回転速度を設定することができます. また、ピッチ誤差は図4.41 のように最大値の設定または全歯のピ ッチ誤差を設定することができます.

伝達誤差解析, ワウ・フラッタ(回転むら)そしてフーリエ解 析結果を図 4.42~4.44 に示します. 図 4.42 の ^{Sound} で [音]を聞くことができます.





AMTEC www.amtecinc.co.jp

伝達誤差解析、ワウ・フラッタ、フーリエ解析結果は、図 4.42 の左下にある CSV File で図 4.45 のように CSV ファイル (本 例の場合 361 個のデータ) に出力することができます.

本ソフトウェアは無負荷での伝達誤差解析です. 負荷や軸角誤 差に対応した応力解析や伝達誤差解析、フラッシュ温度解析等は 応力解析用の[22]CT-FEM ASM をお使いください.



4.15 歯形出力

生成した歯形は、図4.46の歯形ファイル形式 で出力すること ができます. 3D-IGES の場合、歯形を一体型と分割型を選択する ことができ、分割型の場合は歯元フィレット部、インボリュート 歯面, 歯先 R, 歯先部に分割して図 4.47 のように出力します.

図 4.48 に示す座標補正設定では、金型用に使用することを考慮 し、モジュール収縮率や圧力角補正、ねじれ角補正そして放電ギ ャップを考慮した歯形を出力することができます.例として図 4.49 にモジュール収縮率 20/1000 を考慮した歯形図(2D)を示しま す. また, 歯形座標値を図 4.46 画面下方の

 TEXT 2D
 により テキストファイルで出力することができます.





図 4.48 座標補助設定

4.16 内歯車の計算例

クラール収縮 カ角補正(左

内歯車は図 4.3 の設定で「外歯車×内歯車」を選択することで 計算をすることができます. 歯車諸元, 寸法, かみ合い図, 歯形 レンダリング、歯当たりの例を図 4.50~4.53 に示します. なお、 図 4.52 のピニオンは、図 4.31 と同じ歯面修整を与えています.ま た、強度計算、伝達誤差解析そして歯形出力などは「外歯車×外 歯車 と同様です.



図 4.50 諸元 (内歯車)





かみ合い 図 4 51



4.17 FEM 歯形応力解析 (オプション)

FEM 解析例を図 4.54、4.55 に示します. 設定方法は involute Σ iii (spur and helical gear design system)と同様です.



4.18 その他

印刷機能, [HELP]機能, 設計データの保存・読み込み等は, [1] involute Σ iii (spur and helical gear design system) と同様です.

※非対称歯形歯車の3次元応力解析や歯面応力、フラッシュ温度 などの解析は、[22]CT-FEM ASM をお使いください.

[5] Planetary gear design system (遊星&不思議遊星)



☑ 5.1 Planetary gear design system

5.1 概要

Planetary gear and Mechanical paradox gear design system は、2016年12月に操作性や画面表示など改良した「Planetary gea r design system」に変わりました.本ソフトウェアは、遊星歯車 と不思議遊星を簡単に設計できるソフトで、歯数の組み合わせや 中心距離などを自動決定し、歯車寸法および歯車強度を簡単に設 計することができます.また、遊星歯車の干渉チェックおよび、 転位係数の決定、効率計算なども簡単に計算することができます. 図5.1に計算結果の全体画面を示します.

5.2 適用

(1)型 式	:等配置型
	: 遊星(プラネタリー, ソーラ, スター)
(2)歯車材料	:金属,樹脂(金属と樹脂混同可能)
(3)歯車歯形	: インボリュート歯形
(4)オプション	: 不思議遊星(3K),少歯数,ダブルピニオン,
	不等配置
上記, 遊星歯車	この歯車寸法,歯車強度,歯形設計に適用します.

5.3 プロパティ(基準ラック)

プロパティで、歯先円直径の決定方式、基準ラック、モジュー ルまたは中心距離基準、歯車精度、摩擦係数の設定をします. 図5.2にプロパティの画面を示します.



5.4 遊星歯車機構の選択

図5.3に示す遊星歯車タイプの選択をします(プラネタリー型, ソーラー型,スター型の増減速,不思議3K).



図 5.3 遊星歯車のタイプ

🕒 🖬 🗾 🗖										
遊星のタイプ	Ĵ	ラネら	(リー型(減速)		j数選択					
I 「xn」→「da, df □ 遊星歯車のイ	し自動 等配品	計算	⊽ 「xn1」	→Fxn2, xn3jÉ	目動計算					
項目	記号	単位	SUN GEAR	PLANET GEAR	RING GEAR					
入出力			入力	出力	固定					
設計速比(減速)	io			3.0000						
歯車の個数	N			4	1					
歯数	Z		35	17	69					
実速比(減速)	i			2.97143						
速比誤差	Δi	%		-0.9524						
圧力角	an	deg	20.00000							
ねじれ角	β	deg	30 * 0 * 0.0							
ねじれ方向			右ねじれ	左ねじれ	左ねじれ					
中心距離	a	mm	30.00000							
モジュール	mn	mm		1.00000						
転位係数	xn		-0.01491	-0.00725	-0.02942					
歯幅	b	ININ	10.00000	10.00000	10.00000					
法線歯厚減少量	fn	Intro	0.0480	0.0390	0.0570					
たがとう径	dp	mm	1.6881	1.7090	1.6609					
歯先円直径	da	mm	42.38470	21.61541	77.61550					
歯底円直径	df	mm	37.88470	17.11541	82.11550					
歯先R	ra	mm	0.00000	0.00000	0.00000					
歯元R	rf	INTO	0.37500	0.37500 0.37500 0.3000						
確定	元に戻	ख 🛛	クリア キャンセ	ル 歯厚.1頁け	き確認					



図 5.4 歯車諸元

図 5.5 歯数選択

- (1) 遊星歯車の個数は、1~21です.
- (2) 歯数は、直接入力する方式と、速比から計算した歯数一覧 (図 5.5)から選択する方式があります。
- (3) 中心距離よりモジュールの計算,またはモジュールより中心 距離の計算をすることができます.
- (4) 転位係数の計算は、モジュールと中心距離からバックラッシ が0になるように計算します.
- (5) 法線歯厚減少量の入力.(デフォルト値として JIS バックラ ッシ標準中間値の 1/2 を表示します.)
- (6) 歯先円直径はプロパティで設定した基準ラックの歯たけと転 位係数から標準値を計算しますが、変更が可能です.
- (7) 外歯車の歯元部の形状は、基準ラックによる創成運動によっ て生成する歯形です.内歯車の歯元は、入力 R 接続です.
- (8) 歯車の歯先は R で作成することができます.
- (9) 転位係数は、1種を変更すると残りの転位係数が連動して変化しますが、歯車それぞれ個別に入力することができます. 最適なクリアランス(歯たけの調整)と歯厚(転位係数の調整)の決定のため図 5.6 の歯厚、頂げき確認(補助設定)によって歯形を確認することができます.また、この画面によって、転位係数や歯先円直径を変更したきの歯形形状やクリアランス、干渉の確認をすることができます.この時点での歯形は歯面のみであり歯元形状は含まれていません.



図 5.6 歯厚, 頂げき確認(補助設定)

5.5 歯車寸法

歯車諸元を確定後,各種計算結果を図5.7~図5.10に示します. この画面で、干渉、効率、クリアランス、バックラッシの確認を することができます.

🌝 寸法計算結果												
「日本」		宦厚	(か)	3/숨l)	効率、干渉							
項目	記号	単位	SUN GEAR	PLANET GEAR	RING GEAR							
正面圧力角	at	des		22.795877		9	寸法計算結果					
基礎円飾ねじれ角	ßb	dec		28.024321			寸法		歯厚	1 1	いみ合い	効率.干渉
正面法線ビッチ	Pbt	80		8,3443			41.0	12.8	101705	SUNCEAR	PLANET OF AR	PDIO OFAR
歯道角法線ビッチ	Pbn	88		2.9521			法资金回知法律			1 6000	1.5240	1.5216
リード	P2	88	219.9115	106.8142	483.5398		TANDAR		100	1.7422	1.7599	1.7695
基礎円直徑	db	88	37.2578	18.0988	73.4511		また実法数	20		6	3	12
基準円道径	d	88	40.4145	19.6233	73.6743		基準また汚染屋	1	00	16,9637	7,7334	35,3827
最小有効直径(TIF)	dt	10	38.6593	18.2424	77.6155	l lin	設計またぎ金厚	1	00	16,9157	7,6944	35,4397
最大有効直径	dh	88	42.3847	21.6154	81.7775	l lin	オーカーとう深	de	00	1,6881	1,7090	1,6609
歯末のたけ	ha	10	0.9851	0.9928	1.0294		基準われ、モンサ法	da	nn	42.8297	21.8887	77,3800
歯元のたけ	hf	80	1.2649	1.2572	1.2206	l lin	設計オールペーセキン寸法	da'	00	42.4983	21.7696	77.5522
全歯たけ	h	10	2.2500	2.2500	2.2500		キャリパ歯たけ	HJ	nn	0.9964	1.0162	1.0253
転位量	XIII	10	-0.0149	-0.0073	-0.0294		基準キャリパ歯厚	Ŝj	nn	1.5597	1.5846	1.5922
齿切転位保数	xnc		-0.0851	-0.0843	0.0539		設計キャリパ造厚	21,	nn	1.5087	1.5233	1.5221
図 5.7	図 5.7 結果(標準寸法) 図 5.8 結果(歯厚関係)											
🕜 寸法計算結果						×		結果				• •
		歯厚		かみ合い	効率、干渉		寸法	Y	ť	厚	かみ合い	効率,干渉
項目	äč	劳养	I(🛛 SUN GEA	R PLANET G	EAR RING GE	AR	_ 効率					

正面かみ合い圧力用	ant	deg	22.694/	22.694/			0.9875				1
かみ合い円筒ねじれ角	βv	deg	28.9816	29.9816	-1		010010				1
かみ合いビッチ円直径	dv	nn	40.3846 19.6154	13.6154 73.6154	-	ll c	-RING GEAR 干渉				1
有効歯幅	bw	nn	10.0000	10.0000	-1	Шĭ	項目		RING		l
クリアランス	ck	nn	0.2499 0.2499	0.2500 0.2500	-		インボリュートモ港		経生したい。		1
かみ合い長さ	58.	nn	4.4394	4.7598	-		トロライド干渉		8年1 たい、		
近寄りかみ合い車	8 al		0.6359	0.7874	-1		FU11FT#				l
遠のきかみ合い率	8 82		0.6916	0.6359	-	111	トリミンク	9	€生しない。		1
正面かみ合い平	802		1.3275	1.4233	-1		-クリアランス(mm)-				1
重なりかみ合い車	sβ		1.5915	1.5915	-1		SUN歯先とPLANET	約底	0.2499(mm)		l
全かみ合い車	87		2.9190	3.0148	-1		PLANET先先とSLINE	5 m	0.2499(mm)		1
清り率(歯先側)	σa		0.7002 0.5345	0.2711 0.6330	-1		DI AUCTER LOUIS	10/0x	0.0500()		1
滑り率(歯元側)	σf		-1.1484 -2.3357	-1.7248 -0.3720	-1		FLANE INTERNO	ED 125	0.2000(mm)		1
正面法線方向バックラッシ	Jnt	10	0.0986	0.1087	-1		RING國先とPLANET	面底	0.2500(nm)		1
パっクラッジ角度	jθ	des	0.3031 0.6240	0.6886 0.1697	-		回転比				
入力軸認だっかううの角度	Σιθ	deg	0.6376	(Sun)	-1					CARRIER	
最大接触直径	dja	nn	42.3847 21.6154	21.6154 81.3510	-		1 0000 -	1 0294	0 0000	0.3365	
最小接触直径	dif	nn	38.9419 18.3343	18.2424 77.7354	-1		1 110000 1		1 010000	1 010000	
)	結	果(かみ合	·())	B	χI	5.10 結	果(?	効率. =	F冻等)	
		/FH	//*\/* ⁻ / LI	. ,	- 14	_	U.L.U. //H.	1-1-	·/~ · · ·		

5.6 歯形作図

5.6.1 かみ合い図

歯車のかみ合い図を図 5.11, 図 5.12 のように 2 次元図で表示し ます.操作画面によって、補助円や共通法線を表示することがで きますので歯面の接触位置の確認が容易です.歯車の回転角度を 変え、拡大表示することができます.



5.6.2 1 歯かみ合い図

1 歯同士のかみ合いを図 5.13 の 2 次元図で確認することができます. この画面にて内歯車と外歯車の歯先と歯元部分の干渉をよ

り詳しく確認することができます(2Dかみ合い図ではキャリヤが 公転するために確認が難しいことがあります).また,歯車の回転 角度を変え,拡大表示することができます.



5.6.3 レンダリング

歯車のかみ合いを図 5.14, 図 5.15 のように 3 次元図で表示する ことができ X, Y, Z 方向に回転させることができ図 5.16 に歯形レ ンダリングのコントロールフォームを示します.



図 5.14 歯形レンダリング





図 5.15 拡大図

5.7 すべり率グラフ

すべり率グラフ(図 5.17, 図 5.18)に,各ロールアングル(または 直径)によるすべり率を表示します.





AMTEC www.amtecinc.co.jp

図 5.16 操作画面

5.8 歯車強度

5.8.1 強度初期設定

強度初期設定画面(図 5.19)で、金属材料と樹脂材料を選択す ることができます.許容応力の σ_{Flim} と σ_{Hlim} を表中(図 5.20)から選 択します.または任意数値を入力することができます.

トルク単位は「N·m」「N·cm」「kgf·m」「kgf·cm」「gf·cm」 から選択することができます.



確定 キャンセル 図 5.20 鉄材料の許容値選択例

5.8.2 強度諸元入力

SNC815

360 380 370 390

強度諸元入力画面(図 5.21)に各種数値を入力します. トルク, 回転数は入力、出力のどちらでも設定可能です.



図 5.21 強度諸元入力

5.8.3 強度計算結果

図5.22と図5.23に強度計算結果画面を表示します.強度計算は、 効率やかみ合い率も考慮しています.金属歯車はJGMA401-01:1974, JGMA401-02:1975 に基づき強度計算を、樹脂材料の応力値は、温 度,寿命などを考慮した材料の実験値を採用しています.

/ 依閒計算結果						④ 微度計算結果					-
曲げ住さ	5	1	ち紙面曲			曲げ建に	5		音画張さ		
	記号			PLANET GEAR	RING GEAR	項目(告示辞さ)	記号	開設	SUN GEAR	PLAKET GEAR	RUNG GEAR
許容曲げ応力	OFLin	MPa.	480.5000	480.5000	480.5000	許容ヘルシ応力	<i>d</i>HI in	MPa	1275.0001	1275.0001	1275.000
曲げ有効面積	b'	nn	10.0000	10.0000	10.0000	金面有动金幅	bw	nn	10.0100	10.0000	10.000
面形体数	YF		2.4262	2.7193	2.0650	領域係数	ZH		2.2288	2.2288	2.228
简重分布係数	Y6		0.7538	0.7533	0.7026	材料定数係数	ZM	(MPa) 0.5	189.8000	189.8000	189,800
ねじれ角係数	Yβ		0.7500	0.7500	0.7500	かみあい平係数	2.6		0.8879	0.8678	0.838
寿命係数	KL		1.0000	1.0000	1.0000	寿命係数	KHL		1.0100	1.0000	1.000
寸法保險	KFx		1.0000	1.0000	1.0000	和さ係数	ZR		0.9204	0.9204	0.920
動商重係数	Kv		1.0408	1.0403	1.0403	湿滑速度係数	ZV		0.9581	0.9581	0.958
速度補正係数	KVo					硬さ比係数	28		1.0000	1.0000	1.000
温度係数	KT					简重分布係数	KHØ		1.0100	1.0000	1.000
活得保致	KLo					動育重活動	Kv		1.0404	1.0404	1.040
材質係数	KM					弹性係数	E				
呼び円面力	FR	N	619.0476	611,4996	807.4039	呼び円面力	Fc	N	\$18,5895	611.0471	606.954
許容円周力	Ftlin	N	2807.9317	2505.2723	3537.2606	许容円周力	Folin	N	500.5917	900.5917	1903.604
曲げ建さ	SIL		4,5359	4.0989	5,8236	「面面強さ	ofc		1.4559	1.4738	3,198
歯元曲げ応力	ØF	MPa.	105.9329	117.2829	82.5095	ヘルシ応力	OH	MPa	1056.6397	1050.2280	719.946

図 5.22 強度計算結果(曲げ)

図 5.23 強度計算結果(歯面)

5.9 ヘルツ応力グラフ

ヘルツ応力グラフを図 5.24 および図 5.25 に示します. かみ合い が2点接触と1点接触のヘルツ応力の違いを確認することができ ます.



5.10 その他

- (1) 歯車の歯形を出力することができます.
 - DXF ファイル : 2D, 3D 全歯かみ合い状態
 - IGES ファイル : 3D(1 歯), (図 5.66 に作図例を示します)
 - TEXT ファイル : 2 次元 1 歯座標
- (2) 寸法計算結果, 強度計算結果, 2D 図, すべり率グラフ, ヘル ツ応力グラフを印刷することができます.
- (3) 設計データを保存し、読み込みができます.

5.11 不思議遊星(3K型)

太陽、游星、内歯2個の合計4つを使用した場合、減速比を大 きくする機構として不思議遊星歯車機構がよく知られていますが 不思議遊星歯車は計算が非常に面倒です.しかし、本ソフトウェ アを使用することにより簡単に不思議游星歯車を設計することが できます.

入力は太陽歯車,固定は内歯車1,出力は内歯車2のタイプの 3K形のみを対象としています.内歯車1と内歯車2の歯数の大 小によって、同方向減速と逆方向減速が決まります.以下に設計 例を示します.

5.11.1 歯車諸元の設定

- (1) プロパティで、モジュール基準を選択します.
- (2) 図 5.3 の遊星歯車のタイプで遊星歯車機構のタイプを不思 議 3K 型を選択し,図 5.26 の不思議遊星諸元に進みます.
- (3) 設計減速比を135, 遊星歯車の個数を3個と入力します.
- (4) 歯数一覧画面を表示し、適切と思われる歯数の組み合わせを 選択します. (図 5.27 参照)
 - このときの選択条件として
 - ●実速比と設計速比の誤差
 - 歯数が小さすぎず,大きすぎない
 - ●内歯車の歯数 z₃, z₄の間に「z₁+2×z₂」の関係があるなどを考 慮し選択します.

ここでは例として $z_1=20$, $z_2=31$, $z_3=82$, $z_4=85$ を選択します.

- (5) 次に Tab キーを押し順にα20, β20, m1 を入力します. モジ ュールを入力した時点で、図 5.2 プロパティの基準ラックに基 づいて標準の中心距離と転位係数と歯先円直径と歯底円直径が 決まります.
- (6) 中心距離が 27.6686mm のために目的に応じて変更します.
- (中心距離基準入力の場合はモジュールの標準値を計算します ので、その後 JIS 規格のモジュールに後から変更することがで

きます.) 図 5.26 に諸元確定画面を示します.

(7)中心距離とモジュールが決定したあとは、歯たけ(クリアランスに影響)や歯厚(強度やバックラッシに影響)の状態を確認し変更することができます.入力画面の「歯厚・頂げき確認」ボタンを押すと、図 5.28 の歯厚、頂げき確認(補助設定)を表示します.この画面で、歯形を確認しながら転位係数や歯先円直径を変更することができます.理論インボリュート歯形の接触や歯たけ、クリアランス、内歯車の干渉を確認し、問題がないためこのまま歯車寸法を確定します.

🌝 歯車諸元												
遊星のタイプ		不思讀	€3K(減速)		 数選択							
ΓxnJ→Γda, d	印自動	計算	🔽 [xn1]	→Fxn2, xn3JÉ								
□ 遊星歯車の7	□ 遊星歯車の不等配置設定											
項目	記号	単位	SUN GEAR	SUN GEAR PLANET GEAR RING GEAR1								
入出力			7,77		固定	出力						
[設計速比(減速)	io			135.0000								
歯車の個数	N	·	1	3	1	1						
歯数	Z	·	20	31	82	85						
実速比(減速)	i			144.50000								
速比誤差	Δi	%		7.0370								
<u> </u>	an	deg		20.00000								
ねじれ角	β	deg	20 *	0 1	0.00							
ねじれ方向			右ねじれ	左ねじれ	左ねじれ	左ねじれ						
中心距離	a	mm		27.55762								
モジュール	mn	mm		1.00000								
転位係数	xn	[]	0.26858	0.17328	0.61513	-0.81387						
歯幅	Ь	mm	20.00000	20.00000	10.00000	10.00000						
法線歯厚減少量	fn	mm	0.0390	0.0440	0.0580	0.0590						
オーバーピン径	dp	mm	1.8178	1.7371	1.6810	1.5728						
歯先円直径	da	mm	23.82072	35.33607	86.49284	86.82737						
歯底円直径	df	mm	19.32072	30.83607	90.99284	91.32737						
歯先R	ra	mm	0.00000	0.00000	0.00000	0.00000						
歯元R	rf	mm	0.37500	0.37500	0.30000	0.30000						
確定	元に戻	!]	クリア キャンセ	ル 歯厚.頂け	き確認							

図 5.26 不思議 3K 遊星諸元入力



図 5.27 歯数選択



図 5.28 歯厚, 頂げき確認(補助設定)

(8) 図 5.29~5.32 に示すように寸法計算結果画面の効率やかみ合い率やすべり率を確認します.本例の不思議遊星の効率は,

図 5.32 に示すように 73.1%となります.

- (9) また、外歯車と内歯車の干渉状態を実際に1歯かみ合いによってどの程度余裕があるかを確認します.
- (10)例題の場合、モジュール1の寸法が決まりましたが、強度計算により大きさを変えなければならない場合があります。その場合には歯幅を変更したり、転位係数はそのままでモジュールや中心距離や歯先円直径をn倍するなどして対処します。回転比が大きくなるとトルクの比率も大きくなるために強度計算は慎重に行う必要があります。

🕜 寸法計算結果						- • •			
可法			歯厚	かみ合い	- Y	効率,干渉			
項目	記号	単位	SUN GEAR	PLANET GEAR	RING GEAR1	RING GEAR2			
正面圧力角	at	deg		21.172832					
基礎円筒ねじれ角	βb	deg		18.747237					
正面法線ビッチ	Pbt	mm		3.1175					
歯直角法線ビッチ	Pbn	mm		2.9521					
リード	PZ	mm	183.7080	183.7080 284.7475 753.2030					
基礎円直径	db	mm	19.8468	30.7626	81.3719	84.3490			
基準円直径	d	mm	21.2836	32.9895	87.2626	90.4551			
最小有効直径(TIF)	dt	mm	20.1670	31.6121	86.4928	86.8274			
最大有効直径	dh	mm	23.8207	35.3361	90.6557	90.9501			
歯末のたけ	ha	mm	1.2686	1.1733	0.3849	1.8139			
歯元のたけ	hf	mm	0.9814	1.0767	1.8651	0.4361			
全歯たけ	h	mm	2.2500	2.2500	2.2500	2.2500			
転位量	Xm	mm	0.2686	-0.8139					
歯切転位係数	xnc		0.2116	0.1090	0.6999	-0.7276			

図 5.29 歯車寸法

🅑 寸法計算結果						- • ×
寸法			歯厚	かみ合い	i)	効率.干渉
項目	記号	単位	SUN GEAR	PLANET GEAR	RING GEAR1	RING GEAR2
歯直角円弧歯厚	sn	mm	1.7248	1.6501	1.0613	2.1005
正面円弧歯厚	st	mm	1.8355	1.7560	1.1294	2.2353
またぎ歯数	Zħ		4	5	12	10
基準またぎ歯厚	T.	mm	10.8506	13.9215	35.7414	28.9098
設計またぎ歯厚	₩'	mm	10.8116	13.8775	35.7994	28.9688
たがとう径	dp	mm	1.8178	1.7371	1.6810	1.5728
基準オーバーピン寸法	dn	mm	24.4103	35.6976	86.1984	86.7829
設計オーバーピン寸法	dn'	mm	24.3235	35.5879	86.3597	86.9894
キャリパ歯たけ	Hj	mm	1.3009	1.1925	0.3835	1.8050
基準キャリバ歯厚	Sj	mm	1.7647	1.6964	1.1230	2.1631
設計キャリバ歯厚	Sj'	mm	1.7234	1.6496	1.0578	2.0963

図 5.30 歯厚

🕝 寸法計算結果								• 💌	
寸法	γ		歯厚		かみ合し	3	効率.1	効率.干渉	
項目	項目 記号 単位		SUN GEAF	SUN GEAR PLANET		GEAR RING GEAR1		nd RING2	
正面かみ合い圧力角	αwt	deg	23.	3289	23	.3289	13.	5267	
かみ合い円筒ねじれ角	βv	deg	20.	2852	20	.2852	19.	2433	
かみ合いビッチ円直径	dw	mm	21.6138	33.5014	33.5014	88.6167	31.6402	86.7555	
有効歯幅	bw	mm	20.	0000	10	.0000	10.	0000	
クリアランス	ck	mm	0.2292	0.2292	0.2708	0.2708	0.4380	0.4380	
かみ合い長さ	ga.	mm	4.	3669	4	.9469	4.	8405	
近寄りかみ合い率	8 al		0.	6608	(1.9260	1.	6016	
遠のきかみ合い率	£ 82	·	0.	7400	(.6608	-0.	0490	
正面かみ合い率	εa		1.	4008	1	.5868	1.	5527	
重なりかみ合い率	εβ	·	2.	1774	1	.0887	1.	0887	
全かみ合い率	ε γ		3.	5781	2	.6755	2.	6414	
滑り率(歯先側)	σa		0.5762	0.6042	0.1474	0.3240	0.3649	-0.0258	
滑り率(歯元側)	σf		-1.5268	-1.3597	-0.4792	-0.1729	0.0252	-0.5745	
正面法線方向バックラッシ	jnt	nm	0.	0876		.1077	0.	1088	
ボックラッジ角度	jθ	deg	0.5061	0.3265	0.4012	0.1517	0.4052	0.1478	
入力軸総バゥクラッシ角度	Σjθ	deg			1.134	1 (Sun)			
最大接触直径	dja	mm	23.8207	35.3361	35.3361	90.3275	35.3361	89.6187	
最小接触直径	djf	mm	20.3372	31.9564	31.6620	86.4928	31.7130	86.8274	

図 5.31 かみ合い

🕑 寸法計算結果				- • •
寸法	歯厚		いみ合い	効率.干渉
0.7155				
-RING GEAR 干渉-				
項目	R	ING 1	RING2	
インボリュート干	③ 発生	しない。	発生しない	۱,
トロコイド干渉	発生	しない。	発生しない	۱.
トリミング	発生	しない。	発生しない	1 ₀
- クリアランス(mm)			1	
SUN歯先とPLAN	ET歯底 (.2292(mm)		
PLANET歯先とSU	IN歯底 〔	.2292(mm)		
PLANET歯先とRI	VG歯底(.2708(mm)		
RING歯先とPLAN	ET歯底 (.2708(mm)		
PLANET歯先とRIN	IG2歯底 [.4380(mm)		
RING2歯先とPLAN	IET歯底 〔	.4380(mm)		
回転比			,	
SUN	PLANET	RING1	CARRIER	RING2
1.0000	-0.3226	0.0000	0.1961	0.0069

図 5.32 干渉関係

AMTEC www.amtecinc.co.jp

5.11.2 歯車かみ合い図

図 5.33 にかみ合い図を示します. 図 5.34 の拡大図で遊星歯車に 2つの内歯車がかみ合っている様子が良く解ります.また,図5.35 に示す歯形レンダリングで不思議游星のかみ合い回転の様子を観 察することができます.



図 5.33 かみ合い図

図 5.34 部分拡大



図 5.35 レンダリング(減速比 135)

5.11.3 平歯車不思議遊星の例

(1) 歯車強度計算やすべり率そしてヘルツ応力グラフは、遊星歯

車と同様に計算することができます.(説明省略)

(2) 平歯車の不思議遊星歯車の作図例を図 5.36 に示します.



図 5.36 レンダリング(平歯車,減速比 93.8)

5.12 少歯数 (オプション)

歯数が4歯以下の遊星歯車を設計することができます. 最小歯 数は1歯です. 少歯数の場合は、正面かみ合い率が小さくなるた め、ねじれ角を大きくする必要があります、以下に太陽歯数が1、 遊星歯数が2,内歯車の歯数が5の遊星歯車の作図例を示します.



5.13 ダブルピニオン(オプション)

図 5.2 プロパティでダブルピニオンを設定します. 以下に設計 例を示します.

🎯 歯車諸元										
遊星のタイプ	Ĵ	ラネタ	マリー型(減速)	· (#	臌選択					
i ΓxnJ→Γda, dt	白白動	計算	🔽 🕅	→Γxn2, xn3jÉ	目動計算					
□ 遊星歯車の子	等配置	嚴定								
項目	記号	単位	SUN GEAR	PLANET GEAR	PLANET GEAR	RING GEAR				
入出力	·		────────────────────────────────────	出力	出力	固定				
設計速比(減速)	io									
歯車の個数	N		1	3	3	1				
歯 数	Z		18	12	13	51				
実速比(減速)	<u> </u>			-1.83333						
速比誤差	Δi	%		0.0000						
圧力角	αn	deg	20.00000							
ねじれ角	β	deg	20 *	0 '	0.00					
ねじれ方向	<u> </u>		右ねじれ	左ねじれ	右ねじれ	右ねじれ				
中心距離	a	mm	20.00000	16.6	6667	25.33333				
モジュール	mn	mm	<u> </u>	1.25000						
転位係数	xn		0.01505	0.02258	0.00878	0.05643				
曲 幅	Ь	mm	15.00000	15.00000	15.00000	15.00000				
法線歯厚減少量	fn	mm	0.0430	0.0380	0.0390	0.0560				
オーバーピン径	dp	mm	3.0000	3.0000	3.0000	3.0000				
歯先円直径	da	mm	26.48162	18.51912	19.81484	65.80000				
歯底円直径	df	mm	20.85662	12.89412	14.18984	71.10741				
凿先R	ra	mm	0.10000	0.10000	0.10000	0.20000				
凿元R	rf	mm	0.46875	0.46875	0.30000	0.30000				
確定	元に戻	(†	クリア キャンセ	ル 歯厚.頂け	き確認					

図 5.39 諸元設定

⑦ 寸法計算結果									
可選			歯厚	かみ合い) (効率.干渉			
項目	記号	単位	SUN GEAR	PLANET GEAR	PLANET GEAR	RING GEAR			
正面圧力角	at	deg		21.172832					
基礎円筒ねじれ角	βb	deg		18.747237					
正面法線ピッチ	Pbt	mm		3.8969					
歯直角法線ビッチ	Pbn	mm		3.6902					
リード	PZ	mm	206.6716	137.7810	149.2628	585.5694			
基礎円直径	db	mm	22.3277	14.8851	16.1255	63.2617			
基準円直径	d	mm	23.9440	15.9627	17.2929	67.8413			
最小有効直径(TIF)	dt	mm	22.3968	14.8937	16.1289	66.0833			
最大有効直径	dh	mm	26.3877	18.4364	19.7294	70.7744			
歯末のたけ	ha	mm	1.2688	1.2782	1.2610	1.0207			
歯元のたけ	hf	mm	1.5437	1.5343	1.5515	1.6330			
全歯たけ	h	mm	2.8125	2.8125	2.8125	2.6537			
転位量	×m	mm	0.0188	0.0282	0.0110	0.0705			
歯切転位係数	xnc		-0.0352	-0.0219	-0.0368	0.1219			

図 5.40 寸法

🌝 寸法計算結果						- • ×		
寸法	T		黄厚	かみ合い	, Y	効率.干渉		
項目	記号	単位	SUN GEAR	PLANET GEAR	PLANET GEAR	RING GEAR		
歯直角円弧歯厚	sn	mm	1.9314	1.9436	1.9300	1.8526		
正面円弧歯厚	st	mm	2.0554	2.0683	2.0538	1.9714		
またぎ歯数	ZM		3	2	2	7		
基準またぎ歯厚	T	mm	9.6145	5.8054	5.8145	25.1002		
設計またぎ歯厚	P	mm	9.5715	5.7674	5.7755	25.1562		
オーバーヒッン径	dp	mm	3.0000	3.0000	3.0000	3.0000		
基準オーバーピン寸法	dm	mm	29.6053	21.4715	22.6690	0.0000		
II設計オーパーと°ン寸法	dm'	mm	29.5215	21.4035	22.5984	60.4962		
キャリパ歯たけ	Hj	mm	1.3048	1.3326	1.3106	1.0137		
基準キャリパ歯厚	Sj	mm	1.9754	1.9801	1.9682	1.9120		
設計キャリバ歯厚	Sj'	mm	1.9299	1.9400	1.9270	1.8486		

図 5.41 歯厚

🅑 寸法計算結果							-	
寸法	γ		歯厚		かみ合い		効率.1	涉
項目	記号	単位	SUN GEAF	PLANET	GEAR PL	ANET GEAR	PLANET #	And RING
正面かみ合い圧力角	awt	deg	21.	5154	21.	.5154	21.	5153
かみ合い円筒ねじれ角	βw	des	20.	0431	20.	.0431	20.	0431
かみ合いビッチ円直径	dw	mm	24.0000	16.0000	16.0000	17.3333	17.3333	68.0000
有効歯幅	bw	mm	15.	0000	15.	.0000	15.	0000
クリアランス	ck	mm	0.3121	0.3121	0.3122	0.3122	0.3130	0.4717
かみ合い長さ	ga	mm	5.	1359	5.	.0102	5.	4228
近寄りかみ合い率	E a 1		0.	6428	0.	.6429	0.	6429
遠のきかみ合い牢	8 a.2		0.	6751	0.	6428	0.	7487
正面かみ合い率	802		1.	3179	1.	.2857	1.	3916
重なりかみ合い率	εβ		1.	3064	1.	.3064	1.	3064
全かみ合い率	ε γ		2.	6244	2.	.5921	2.	6980
滑り率(歯先側)	σa		0.9353	0.7676	0.8857	0.9183	0.3284	0.8929
滑り率(歯元側)	σf		-3.3033	-14.4604	-11.2336	-7.7498	-8.3337	-0.4890
正面法線方向バックラッシ	jnt	mm	0.	0855	0.	.0813	0.	1003
ドックラッジ角度	jθ	deg	0.4390	0.6585	0.6260	0.5778	0.7129	0.1817
入力軸総バータラーシン角度	Σjθ	deg			1.3711	(Sun)		
最大接触直径	dja	mm	26.3877	18.4364	18.4364	19.7294	19.7294	69.9929
最小接触直径	djf	nm	22.6474	14.8975	14.9098	16.1817	16.1340	66.0833

図 5.42 かみ合い

				- • 💌
寸法	歯厚	かる	ን ሰብ	効率.干渉
0.9248				
-RING GEAR 干渉				
項目	RING			
インボリュート干渉	発生しない	۱.		
トロコイド干渉	発生しない	۱.		
トリミング	発生しない	۱.		
-クリアランス(mm)				
SUN歯先とPLANET歯	底 0.312	(mm)	(
PLANET歯先とSUN歯	底 0.312	(mm)	「重重	配置図
PLANET歯先とRING歯	底 0.3122	2(mm)		
RING歯先とPLANET歯	底 0.3122	(mm)		
PLANET歯先とRING2歯	底 0.3130	J(mm)		
RING2歯先とPLANET歯	底 0.471	(mm)		
回転比				
SUN PLAI	NET PLA	NET	CARRIER	RING
1.0000 -2.	8636 1	.5944	-0.5455	0.0000

図 5.43 干涉& 効率



図 5.44 かみ合い 1(2D)



図 5.45 かみ合い 2(2D 拡大)



図 5.46 歯車の配置



図 5.47 歯形レンダリング

曲厅發	1 5	Y	歯面引	10 E			
項目(曲げ強さ)	記号	単位	SUN GEAR	PLANET GEAR	PLANET GEAR	RING GEAR	
許容曲げ応力	σFlim	MPa	480.5000	480.5000	480.5000	480.5000	
曲げ有効歯幅	b'	nm	15.0000	15.0000	15.0000	15.0000	
歯形係数	YF		2.8091	3.2102	3.2996	2.0650	
荷重分布係数	Yε		0.7588	0.7778	0.7778	0.7186	
ねじれ角係数	Yβ		0.8333	0.8333	0.8333	0.8333	
寿命係数	KL		1.0000	1.0000	1.0000	1.0000	
寸法係数	KF×		1.0000	1.0000	1.0000	1.0000	
動荷重係数	Kv		1.0942	1.0942	1.0942	1.0942	
速度補正係数	KYo						
温度係鼓	KT						
潤滑係数	KLo						
材質係数	KM						
呼び円周力	Ft	N	1388.8890	1362.1706	1332.4998	1321.3256	
許容円周力	Ftlim	N	3862.9636	3297.6611	3208.2736	5548.5157	
曲げ強さ	Sft		2.7813	2.4209	2.4077	4.1992	
歯元曲げ応力	σF	MPa	172.7588	198.4810	199.5672	114.4264	

図 5.48 強度結果(曲げ)

) 強度計算結果						
曲げ	強さ	<u> </u>	ち都面歯	1		
	記号	単位	SUN GEAR	PLANET CEAR	PLANET GEAR	RING GEAR
許容ヘルツ応力	σHlim	MPa	1275.0001	1275.0001	1275.0001	1275.000
歯面有効歯幅	bw	mn	15.0000	15.0000	15.0000	15.000
領域係数	ZH		2.3505	2.3505	2.3505	2.350
材料定数係数	ZM	(MPa)^0.5	189.8000	189.8000	189.8000	189.800
かみあい率係数	Zε		0.8711	0.8819	0.8819	0.847
寿命係数	KHL		1.0000	1.0000	1.0000	1.000
粗さ係数	ZR		0.9109	0.9067	0.9067	0.916
湄滑速度係数	ZV		0.9649	0.9649	0.9649	0.964
硬さ比係数	Z¥		1.0000	1.0000	1.0000	1.000
荷重分布係数	KHβ		1.0000	1.0000	1.0000	1.000
動荷重係数	Kv		1.0938	1.0938	1.0938	1.098
弹性係数	E					
呼び円周力	Fc	N	1392.1371	1365.3566	1335.6165	1324.415
許容円周力	Felim	N	825.9408	691.8104	691.8104	2139.028
歯面強さ	sfc		0.5933	0.5067	0.5180	1.615
ヘルツ応力	σH	MPa	1655.3000	1791,1822	1771.5669	1003.261

図 5.49 強度結果(歯面)

歯形データファイル出力や、すべり率グラフなどは基本ソフト ウェアと同じです.

5.14 不等配置遊星歯車(オプション)



図 5.50 不等配置遊星設計例

5.14.1 不等配置遊星歯車の概要

Planetary gear design systemのオプションとして「不等配置遊星 歯車」を設けました.

5.14.2 不等配置遊星歯車の設計例

プラネタリー型(減速)の不等配置の設計例を以下に示します. 図 5.51 の場合,等配置の条件では太陽歯数 15,遊星歯数 21,内 歯車歯数57 となりますが,ここで内歯車歯数を56 とする場合は, 図 5.51 の不等配置の設定を **▽ 遊星歯車の不等配置設定** とする ことで計算可能となります.

🕝 歯車諸元 📃 🗖 🗖						
遊星のタイプ プラネタリー型(減速) … 歯数選択						
▼ 「xn」→「da, d	▼「xn」→「da, df」自動計算 「 kn」→「xn2, xn3」自動計算					
	`⇒∎Lu	生命又/上 2447-5-		DLANET OF AD	DINC CEAD	
<u>4</u> E	記与	뿌	SUN GEAN	FLANET GEAN	NING GEAN	
人出力				出力		
設計速比(減速)	io			5.0000		
歯車の個数	N		1	3	1	
歯 数	Z		15	21	57	
実速比(減速)	<u> </u>			4.80000		
速比誤差	Δi	%	-4.0000			
圧力角	an	deg	20.00000			
ねじれ角	β	deg	25 *	30 '	0.00 *	
ねじれ方向			右ねじれ	左ねじれ	左ねじれ	
中心距離	a	mm		30.00000		
モジュール	mn	mm		1.50000		
転位係数	xn	·	0.03371	0.02408	0.08187	
歯幅	Ь	mm	20.00000	20.00000	20.00000	
法線歯厚減少量	fn	mm	0.0460	0.0490	0.0640	
オーバーヒッン径	dp	mm	2.6047	2.5708	2.5246	
歯先円直径	da	mm	28.02952	37.97199	91.97350	
歯底円直径	df	mm	21.27952	31.22199	98.72350	
歯先R	ra	mm	0.10000	0.10000	0.10000	
歯元 R	rf	mm	0.56250	0.56250	0.56250	
確定	元に戻	す	クリア キャンセ	ル 歯厚頂け	き確認	

図 5.51 等配置遊星歯車の諸元

内歯車の歯数を 56 に変更した入力画面を図 5.52 に示します. モジュールは図 5.51 と同じく m_n1.5 にしていますので内歯車の転 位係数が少し大きくなっています.例題では,はすば歯車につい て示していますが平歯車も設計することができます.

また, [歯厚・頂げき確認]の機能も使用可能ですが, ここでは 説明を省略します. 詳しくは図 5.6 をご覧ください. 図 5.53~5.55 に寸法結果等を示します.

🕜 歯車諸元 📃 🔍 🖂							
遊星のタイプ プラネタリー型(減速) … 歯数選択							
▼「xn」→「da, df ▼ 遊星歯車の子	 レ [xn]→[da, df]自動計算 レ [xn1]→[xn2, xn3]自動計算 レ 遊星歯車の不等配置設定 						
項目	記号	単位	SUN GEAR	PLANET GEAR	RING GEAR		
入出力			入力 (出力	固定		
設計速比(減速)	io	·		5.0000			
歯車の個数	N	·	1	3	1		
歯数	Z	·	15	21	56		
実速比(減速)	l i			4.73333			
速比誤差	Δi	1%		-5.3333			
圧力角	an	deg	20.00000				
ねじれ角	β	deg	25 *	30 '	0.00		
ねじれ方向		[]	右ねじれ	左ねじれ	左ねじれ		
中心距離	a	mm		30.00000			
モジュール	mn	mm		1.50000			
転位係数	xn		0.03371	0.02408	0.68962		
歯幅	Ь	mm	20.00000	20.00000	20.00000		
法線歯厚減少量	fn	mm	0.0460	0.0490	0.0640		
オーバーヒッン径	dp	mm	2.6047	2.5708	2.5246		
歯先円直径	da	mm	28.02952	37.97199	92.13486		
歯底円直径	df	mm	21.27952	31.22199	98.88486		
歯先 R	ra	mm	0.10000	0.10000	0.10000		
歯元R	rf	mm	0.56250	0.56250	0.56250		
確定	元に戻	वि	クリア キャンセ	ル 歯厚.頂け	き確認		

図 5.52 不等配置遊星歯車の諸元

🌝 寸法計算結果				[- • ×
ा हो है।	i	歯厚	かん	ን ስት	効率.干渉
項目	記号	単位	SUN GEAR	PLANET GEAR	RING GEAR
正面圧力角	αt	deg		21.961905	
基礎円筒ねじれ角	βb	deg		23.862812	
正面法線ビッチ	Pbt	mm		4.8421	
歯直角法線ビッチ	Pbn	mm		4.4282	
リード	PZ	mm	164.1905	229.8667	612.9779
基礎円直径	db	mm	28.1194	32.3672	86.3125
基準円直径	d	mm	24.9284	34.8997	93.0660
最小有効直径(TIF)	dt	mm	23.1648	32.7667	92.2640
最大有効直径	dh	mm	27.9413	37.8755	98.2931
歯末のたけ	ha	mm	1.5506	1.5361	0.4656
歯元のたけ	hf	mm	1.8244	1.8389	2.9094
全歯たけ	h	mm	3.3750	3.3750	3.3750
転位量	×m	mm	0.0506	0.0361	1.0344
歯切転位係数	xnc	[-0.0111	-0.0237	0.7520

図 5.53 寸法結果[不等配置]

🤣 寸法計算結果					_	• 🗙
寸法	Ë	厚		かみ合い	効率	料.干渉
項目	記号	単位	SUN GEAF	PLANET	GEAR R	NG GEAR
正面かみ合い圧力角	awt	deg	22.	3654	25.	9615
かみ合い円筒ねじれ角	βw	deg	25.	5639	26.	1978
かみ合いビッチ円直径	dw	mm	25.0000	35.0000	36.0000	96.0000
有効歯幅	bw	mm	20.	0000	20.	0000
クリアランス	ck	mm	0.3742	0.3742	0.4564	0.4564
かみ合い長さ	ga	mm	6.	2653	6.6678	
近寄りかみ合い率	εal		0.	6559	0.9732	
遠のきかみ合い率	ε a2		0.6380		0.4038	
正面かみ合い率	εα		1.	2939	1.3770	
重なりかみ合い率	εβ		1.	8271	1.	8271
全かみ合い率	εγ		3.	1211	3.	2042
滑り率(歯先側)	σa		0.6750	0.7751	0.1243	0.4818
滑り率(歯元側)	σf		-3.4456	-2.0769	-0.9299	-0.1419
正面法線方向バータラーシ	jnt	mm	0.1039		0.	1236
ドックラッジ角度	jθ	deg	0.5149	0.3678	0.4374	0.1640
入力軸総パックラッジ角度	Σjθ	deg	1.1273		(Sun)	
最大接触直径	dja	mm	27.9413	37.8755	37.8755	97.7752
最小接触直径	djf	mm	23.3344	33.1452	32.9812	92.2640

図 5.54 かみ合い数値[不等配置]

🕗 寸法計算結果			- 0 💌
寸法	歯厚	かみ合い	効率.干渉
· 効率 0.983	4		
- RING GEAR 干涉	¢		
項目		RING	
インボリュー	下干渉 第	修生しない。	
FD⊐7 F ²	F渉 角	修生しない。	
トリミン:	५ 🗍	修生しない。	
クリアランス()	nm) —		
SUN歯先とPL	ANET歯底	0.3742(mm)	
PLANET歯先と	-SUN歯底	0.3742(mm)	
PLANET歯先と	RING歯底	0.4564(mm)	
RING歯先とPL	ANET歯底	0.4564(mm)	
回転比			
SUN	PLANET	RING	CARRIER
1.0000	-0.3521	0.0000	0.2113

図 5.55 干涉効率[不等配置]

AMTEC www.amtecinc.co.jp

ツールバーの 不等配置設定 をクリックすることで図 5.56 を表示します.不等配置の表示は、図 5.56 の[A1]歯車が基準歯車 となります.また、不等配置角度は任意に入力することができま せんので図 5.57 の[B]に示す角度表の中から選択します. 遊星歯 車の配置角度は、例題の場合、71 種類存在します.

図 5.56 の[最小配置]をクリックすると[A2]歯車と[A3]歯車の歯 先円が接することがないように配置した図を図 5.58 に示します.

今,図 5.57 の[B]の角度の中から 2 番目の 10.1408 度を選択した 場合の歯形かみ合いを図 5.59 に,[C]の拡大図を図 5.60 に,また, 歯形レンダリングを図 5.61 に示します.



その他,強度計算,歯形データファイル出力などは基本ソフト ウェアと同じです. 遊星の個数を5としたときの計算例を図5.62 ~5.64 に示します.

🕜 歯車諸元 📃 🖃 🗾							
遊星のタイプ プラネタリー型(減速) 歯数選択							
▼ [xn I→[da df I自動計算 ▼ [xn1I→[xn2 xn3]自動計算							
▼ 遊星歯車の不等配置設定							
項目	記号	単位	SUN GEAR	PLANET GEAR	RING GEAR		
入出力			入力	出力	固定		
設計速比(減速)	io			5.0000			
歯車の個数	N		1	5	1		
歯数	Z	·	16	14	45		
実速比(減速)	l i	·		3.81250			
速比誤差	Δi	1%		-23.7500			
圧力角	an	deg		20.00000			
ねじれ角	β	deg	20 *	30 '	0.00 *		
ねじれ方向			右ねじれ	左ねじれ	左ねじれ		
中心距離	a	mm		30.00000			
モジュール	IIIN	mm		1.80000			
転位係数	xn	[0.34113	0.38987	0.51135		
歯幅	b	mm	20.00000	20.00000	20.00000		
法線歯厚減少量	fn	mm	0.0460	0.0490	0.0640		
オーバーヒッン径	dp	mm	2.6047	2.5708	2.5246		
歯先円直径	da	mm	35.57522	31.90729	84.71722		
歯底円直径	df	mm	27.47522	23.80729	92.81722		
歯先R	ra	mm	0.10000	0.10000	0.10000		
歯元R	rf	mm	0.56250	0.56250	0.56250		
確定	元に戻	. 7	クリア キャンセ	ル 歯厚.頂け	き確認		

図 5.62 不等配置設計例 2



5.15 歯形データファイル出力

生成した歯車の歯形は図 5.65 でファイル出力することができます. 図 5.66 および図 5.67 に CAD 作図例を示します.



図 5.66 CAD 作図例 (太陽)

図 5.67 CAD 作図例(内歯)

5.16 HELP 機能

操作方法を知りたい場合は[HELP]機能を使うことができます.



AMTEC www.amtecinc.co.jp

[6] Hob Erase (歯車電極用エンドミル歯形解析)



図 6.1 Hob Erase

6.1 概要

歯車電極用エンドミル歯形解析ソフトウェア Hob Erase(ホブイ レーズ)は、収縮率、放電ギャップ、圧力角補正、ねじれ角補正を 考慮し切削時の包絡線軌跡を解析したエンドミル歯形座標値を決 定するソフトウェアです. 図 6.1 に、全体画面を示します.

エンドミル歯形は、歯車の歯直角断面歯形ではなく切削時の包 絡線軌跡を解析し座標値を決定しています.平歯車の場合は、歯 車歯形とエンドミル歯形は一致しますが、はすば歯車の場合は歯 数が少ない程、また、ねじれ角が大きいほどエンドミル歯形と歯 車歯形の差は大きくなります.歯車のインボリュート面は歯形解 析により決定し、歯底付近のフィレットカーブは創成運動に基づ いて決定していますので完全な理論歯形となります. Hob Erase は、インボリュート平、はすば歯車(外歯車)に適用します.

6.2 初期設定

初期設定では、①モジュール収縮率、②圧力角補正率、③ねじ れ角補正率、④放電ギャップ、⑤歯元R係数を設定します.収縮 率を考慮したモジュールを入力する場合は、収縮率に0を入力し ます.

6.3 入力項目

歯車諸元の入力は、①モジュール、②歯数、③圧力角、④ねじ れ角、⑤転位係数、⑥歯先円直径、⑦歯底円直径、⑧歯厚減少量 を入力します.

6.4 出力項目

(1)エンドミル歯形を画面作図します.

(2)エンドミル歯形座標値を表示します. (円弧補間座標値)

(3) 歯形 DXF ファイルを出力します.

理論座標値を 0.5µm の精度で円弧補間データに変換します. (4)諸元を印刷します.

(5) 歯形図を印刷します.

(6) 設計データの登録(読込み)をします.

6.5 エンドミル加工による歯形試験結果例

図 6.2 の歯形試験結果 1 は、収縮率=2%, 圧力角補正=0, ねじ れ角補正=0 としてエンドミルの刃形を Hob Eraseで求め製作した 歯車の検査結果を示します.図 6.3 の歯形試験結果 2 は、相当平 歯車歯形をエンドミルの刃形として製作した歯車の検査結果を示 します.

A	1	ite	12
ile	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	15 11	1× ·· +
1 + +	sh	13	*
J	J	Ut	U
st. 1 ++q	J	B:	B1 11 +
31	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	Bi 11 +	3
·h - ++-	in a second	" " +	15 ··· +
41 - +	sh ,	D, .,	B1 11 + +
vh	J1	B1 11 +	Br 11 Toronto
1830 ··· -+	1.3 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	ille "	· 44: 10
	11h -1 -+++	·Un	10,
····	124 -2 -4	····	the street
1.31 · 1 - ++4	un i mana	···· · +	N +
est + +++1	*.A :+A		
*** ' +	H-4	111 · +	** *****
図 6.2 歯形	試験結果1	図 6.3 歯刑	彩試験結果2

[7] Differential change gear calculation system (有理数分解)



図 7.1 有理数分解(差動換え歯車)

7.1 概要

- (1) 有理数分解ソフトウェアは、小数点数値を2種類の分数に分 解するソフトウェアです. 全体画面を図7.1 に示します.
- (2)分数に分解する数値は、図7.2のように小数点数値を直接入 力する方法とホブ盤を登録(名称,定数,歯数最大,歯数最小) し、モジュール、ねじれ角を入力して計算する2種類の方法が

あります. 図 7.3 にホブ盤の登録例を示します.

- (3) 分解精度は、小数点以下6桁以上の精度で歯数の組み合わせ 全てを表示します.また、図 7.2 のように同歯数を含まない表 示とすることもできます.
- (4) 減速歯車の歯数決定にも使用することができます.



図 7.3 ホブ盤登録の例

AMTEC www.amtecinc.co.jp

[8] Tooth thickness converter (転位歯厚変換)



図 8.1 転位歯厚変換

8.1 概要

転位歯厚変換 (図 8.1)は、歯厚と転位係数の関係を計算するソ フトウェアです。

- (1) 歯車の種類:インボリュート歯車(外歯車, 内歯車)
- (2)使用するピン(ボール)を歯形上に作図しますのでスプラインなどの歯たけが低い歯形には、Dカットピンの使用限界を知ることができます(図8.4および図8.5参照).
- (3) またぎ歯厚,オーバーピン寸法,弦歯厚の変化量そしてホブ の追い込み量の関係を計算します.

8.2 歯車諸元入力

モジュール,歯数,圧力角,ねじれ角を入力し,歯厚は,①転 位係数,②またぎ歯厚,③オーバーボール寸法,④円弧歯厚の4 種類あります.ここでは図 8.2 のようにオーバーボール寸法を基 準に計算する例を示します.歯先円直径,歯底円直径は並歯の標 準値が入力されますが,変更は可能です.諸元入力後,[確定]で 図 8.3 の寸法結果を表示します.

🕅 歯車諸元)		
歯車の種類	Ð		外歯車 ▼			
項目	記号	単位	敖 値			
モジュール	mn	mm	3.00000			
歯 数	Z		20			
圧力角	αn	deg	20.00000 *			
ねじれ角	β	deg	30 * 0 * 0.00 "			
ねじれ方向			右ねじれ 🔹			
基準円直径	d	mm	69.2820			
歯厚入力方式			オーバーボール寸法 🔍			
転位係数	×n		0.59960			
またぎ歯数	ZM		4			
またぎ歯厚	W	mm	33.49153	オールド		
測定較相径	dp	mm	6.00000	<u></u>		
わがっずい小寸法	dm	mm	82.00000	オーバ		
歯直角円弧歯厚	Sn	mm	6.02180	歯直		
基礎円直径	db	mm	63.8705			
歯先円直径	da	mm	78.8796			
歯底円直径	df	mm	65.3796			
歯幅	Ь	mm	30.0000			
歯先R	ra	mm	0.3000			
基準ラック歯元R	rf	mm	1.1250			
確定 キャンセル クリア						
	図 8	.2	諸元	-		



🗮 歯車寸法			- • •
項目	記号	単位	数 値
正面圧力角	αt	deg	22.79588
リード	ΡZ	mm	376.99112
転位量	×m	mm	1.79880
歯末のたけ	ha	mm	4.79878
歯元のたけ	hf	mm	1.95122
全歯たけ	h	mm	6.75000
基礎円筒ねじれ角	βb	deg	28.02432
歯先円筒ねじれ角	βa	deg	33.31812
キャリバ歯たけ	hj	mm	4.89689
キャリバ歯厚	sj	mm	6.01754
正面またぎ歯厚	Wa	mm	37.94008
正面円弧歯厚	St	mm	6.95339
正面歯溝円弧歯厚	Ut	mm	3.92941
歯直角歯溝円弧歯厚	Un	mm	3.40298
正面モジュール	mt	mm	3.46410
正面転位係数	xt		0.51927

図 8.3 寸法結果

8.3 2D 歯形図

図 8.4 に歯形と測定ボールの位置を示します. 図 8.4(a)は図 8.2 の歯車ですが, 図 8.4(b)は内歯車の例を示します.



8.4 レンダリング

図8.5に3次元歯形と測定ボールの位置を示します.



8.5 歯厚変化

図 8.6 のように、またぎ歯厚、オーバーピン寸法、弦歯厚変化 量のうちいずれか1種類を入力することにより他の2種類の歯厚 変化量とホブ追い込み量を表示します.

🕅 歯厚変化 📃 🖃 💌						
項目	記号	敖値(下限)	數値(上限)			
またぎ歯厚変化量	81	0.10000	0.20000			
設計またぎ歯厚	W	33.59154	33.69154			
オーバーボール寸法変化量	δdm	0.20834	0.41534			
設計オーバーボール寸法	dm	82.20836	82.41536			
弦歯厚変化量	δSj	0.12230	0.24490			
設計弦歯厚	Sj	6.13984	6.26244			
ホブ追い込み変化量	δH	0.14619	0.29238			
初期値 キャンセル						

図 8.6 歯厚変化

[9] Elliptical gear design system (楕円系歯車)



図 9.1 Elliptical gear design system

9.1 概要

非円形歯車はカムに比較して滑りが少なく、リンク機構に比較 してコンパクトな設計ができます.また,確実に荷重を伝達する ことができるなど非常に有利な特徴を有しています.

楕円系歯車設計システム(Eliptical gear design system)は、作図例 に示しますように同葉数だけでなく異葉数の設計も可能です.

9.2 諸元入力画面

基準ラックを図 9.1 に、諸元入力画面を図 9.2 に示します。例 題の場合、ピニオンの葉数を2、ギヤの葉数を3としていますが、 葉数は、1~10の範囲で設定することができます.



図 9.2 基準ラック

∾ 寸法諸元				- • •
項目	記号	単位	ピニオン	ギヤ
モジュール	mn	mm	0	.70208
葉 数	ν		2	3
基準長直径	A	mm	20.0000	26.3626
基準短直径	В	mm	9.0000	15.3626
歯 数	z		22	33
法線歯厚減少量	fn	mm	0.0000	0.0000
歯幅	b	mm	7.0000	7.0000
ピニオンカッタ刃元R係数	cr		0.3000	0.3000
	(確)	Ë 🐐	ゃンセル	クリア
	図 9.3	諸シ	元入力	

9.3 寸法結果

図 9.3 に楕円系歯車の寸法結果を示します.

∾ 寸法結果				
項目	記号	単位	ピニオン	ギヤ
最大歯先円直径	daMax	mm	21.1233	27.4860
最小歯底円直径	dfMin	mm	7.5958	13.9585
基準円直径	d	mm	14.5000	20.8626
中心距離	a	mm	17.	6813
クリアランス	ck	mm	0.1404	0.1404
トータルバックラッシ	BL	mm	0.	0000

図 9.4 楕円系歯車の寸法

9.4 椿円系歯車の基準線

図 9.5 に楕円系歯車の基準線を示します.



9.5 変位曲線グラフ

角度変位,角速度変位,角加速度変位グラフを図 9.6 に示しま す.このグラフの角度カーソルと図 9.5 及び図 9.9 の歯形軌跡図の ピニオン回転角と連動しています.



9.6 歯形創成図

図 9.7 及び図 9.8 に歯形創成図を示します.



図 9.7 歯形創成図(P)

9.7 歯形軌跡図

図 9.9 に歯形軌跡図をを示します.



9.8 歯形レンダリング

楕円系歯車の歯形レンダリングを図 9.10 に示します. コントロ ールフォームにより視点や回転角を変更することができます.



図 9.10 歯形レンダリング

9.9 歯形ファイル

楕円系歯車の歯形を CAD ファイル (DXF, 3D-IGES) で出力す ることができます. 図 9.11 にファイル出力例を示します.



図 9.11 2D-DXF ファイル出力と作図例

9.10作図例



9.10作図例

楕円系歯車ソフトウェアを用いて設計した波動歯車例を図9.13に 示します.他の波動歯車作図例を[101],図101.13に示します.



※ CAM 曲線を与え、これに歯を生成するソフトウェアは、別途 お問い合わせください。

[10] Worm Bite2 (ウォームバイト刃形解析)



10.1 概要

ウォームの歯切り加工は、図10.2のようにフライスカッタ(または砥石)で加工するK形(3形)歯形が一般的ですが、小形のウォームや電極に使用されるウォームはバイトで切削されています.加工方法として図10.3のようにバイトを軸方向に対し平行に取り付けて切削すればウォームの軸方向歯形は直線となります.しかし進み角が大きくなると一方の刃のすくい角が負となり反対側では逃げ角を大きくとらなければならないため切削が困難となります.このような場合には図10.4のようにバイトをねじ面に対し直角に取り付けて切削する事になります.

図 10.4 のようにバイトを歯直角に取り付けてウォームを切削 する (N形ウォーム)と切削後のウォーム軸方向歯形は直線とは なりませんが, Worm Bite2 は切削後のウォーム軸方向歯形が直 線となるようにバイトの形状を生成するソフトウェアです.



図10.2 K形ウォーム 図10.3 A形ウォーム 図10.4 N形ウォーム

[11] Gear navigation system



図 11.1 Gear navigation system

11.1 概要

Gear navigation system は、ホブ、ピニオンカッタ、シェービン グカッタ、ホーニングの各工具による歯車加工形状解析と、その かみ合いのシミュレーションをすることができるソフトウェアで す. また、データベースによる工具管理機能を有し、条件に見合 う工具を共用計算することにより検索することができます.

歯車加工シミュレーションは、歯面、歯元、歯先、面取り形状 と各数値の計算,特にホーニングでは、歯形修整、歯すじ修整、 歯面修整後の形状を計算しグラフ表示します.更に、かみ合いシ ミュレーションでは、加工後の歯形をかみ合わせて歯当たりを観 察することができます.図 11.1 に Gear navigation system の画面の 様子を示します.

11.2 適用歯車

- ・インボリュート平,はすば歯車
- •外歯車, 内歯車

11.3 適用工具

3.1 ホブ

標準, セミトッピング, プロチュバランス, プロチュバランス セミトッピング, 転位ホブ, 刃先修整ホブ

(セミトッピングホブは刃底のR面およびC面が可能)

3.2 ピニオンカッタ

標準, セミトッピング, プロチュバランス, プロチュバランス セミトッピング (セミトッピングは刃底R面, C面が可能) ピニオンカッタは, 外歯車と内歯車に適用します.

- 3.3 シェービングカッタ
- 3.4 ホーニング

ドレスギヤには、歯形修整、歯すじ修整および歯面修整の設定 が可能です.また<u>被削歯車と諸元の異なるドレスギヤ</u>を設定す ることも可能です.

11.4 歯車諸元設定

被削歯車の諸元設定を図 11.2 に示します. ここではホブ加工, シェービング加工,ホーニング加工を1回づつ行うものとしてド レスギヤに歯面修整を与えた場合の例を以下に示します.

🚷 歯車諸元			- • -
歯車の種類			外歯車 💌
項目	記号	単位	数 値
モジュール	mn	mm	2.50000
歯 数	Z		20
圧力角	۵n	deg	20.00000 *
ねじれ角	β	deg	20 ' 0 ' 0.0 "
ねじれ方向		·	右ねじれ 💌
転位係数	xn	·	0.0000
歯先円直径	da	mm	58.2089
歯底円直径	df	mm	46.9589
黄 幅	Ь	mm	30.0000
基準円直径	d	mm	53.2089
基礎円直径	db	mm	49.6170
基礎円筒ねじれ角	βb	deg	18 * 44 * 50.1 *
	曜定	1 4 0)	tili 997
図 11	.2	歯車	諸元設定



22 ホブ刃形修整-1

Hold free?

11.5 工具諸元設定

11.5.1 ホブ諸元設定

各種ホブの設定項目を図 11.3~11.6 に示

します.ホプ諸元は、最大3工程まで設定することが可能です. 入力したホブ数値の実刃形形状を[刃形図]で作図することができ ます.また、図11.3のようにホブの刃元を修整することもできま す.ここでは図11.6のホブを使用してシミュレーションをします.

·陞 ホゴ	唐 進		
種類力表	コバラン	ブ ス	▼□ 転位ホブ
項 7°07-11	것	* <u>ンク</u> *	数 値
モジュール	mn	mm	2.50000
圧力角	an	deg	20.00000 *
刃元の形状			C面 🔽
「刃末のたけ」	ha	mm	3.1250
刃厚	S	mm	3.9270
刃先R	r	mm	0.9375
面取り高さ	h'	mm	5.1000
有効刃たけ	he	mm	6.2500
面取り角	a'	deg	45 0 0 0
すすみ角	Ϋ́	deg	5 ' 0 ' 0 "
ねじれ方向	·		右ねじれ 💌
溝数	N		12
条数	Zw		1
工具データ管理番号			
工具データ備考			
確定 キャン制	597	匚 修整	· 参考図 刃形図
			検索 登録
J			



図 11.5 プ ロチュハ ランス転位おブ

図 11.4 セミトッピング ホブ

囖 ホブカッタ諸元 [1] 💦 🗖 📃				
種類 プロチュ	パランスセミ	トッヒ・ンク	💽 🗖 転位ホブ	
項目	記号	単位	数 値	
モジュール	mn	mm	2.50000	
圧力角	αn	deg	20.00000 *	
刃元の形状			C面 👤	
「刃末のたけ」	ha	mm	3.1250	
刃厚	8	mm	3.9270	
刃先R	r	mm	0.9375	
面取り高さ	h'	mm	5.1000	
有効刃たけ	he	mm	6.2500	
面取り角	α'	deg	45 ° 0 ' 0 ″	
刃先逃げ角	θ	deg	8 0 0 0 "	
刃先突起量	н	mm	0.0350	
刃先逃げ量	В	mm	0.2000	
「すすみ角」	Υ	deg	5 0 0 0	
ねじれ方向			右ねじれ 💌	
溝 数	N		12	
│ 条 数	Zw		1	
工具データ管理番号				
工具データ備考(対称品番)				
確定 \$*)비 (<u> 97</u>	参考図 刃形図 検索 登録	



図 11.6 プロチュバランスセミトッピングホブ

11.5.2 ピニオンカッタ諸元設定

各種ピニオンカッタの設定項目を図 11.7~11.10 に示します. ピ ニオンカッタ諸元は、最大3工程まで設定することができま す.ホブと同様に入力した数値の実刃形形状を[**刃形図**]で作図す ることができます.

🙆 ビニオンカッタ	7諸元〔	1]		
種類			標準 💌	
項目	記号	単位	数 値	
刃 数	Zc		69	
刃先円直径	da	mm	189.8207	
基準円直径	d	mm	183.5707	
刃底円直径	df	mm	141.8565	
刃厚入力方式			キャリパ刃厚 💌	
キャリパ刃たけ	hj	mm	3.1436	
キャリパ刃厚	sj	mm	3.9268	
またぎ刃数	ZM		10	
またぎ刃厚	W	mm	72.9974	
刃先R	r	mm	0.9375	
工具データ管理番号				
工具デーク備考(対称品番)				
確 定 特別 クリア			7 参考図 刃形図	
			検索 登録	

🔒 ピニオンカッタ	7諸元 [1]	- 0 🔀
種類		セミ	トッピング 💌
項目	記号	単位	数 値
刃 数	Zc	·	69
刃先円直径	da	-	189.8207
基準円直径	d	mm	183.5707
刃底円入力方式		·	面取り高さから決定 ▼
刃底円直径	df	-	177.5331
刃厚入力方式			キャリバ刃厚 👤
キャリパ刃たけ	hj	-	3.1436
キャリバ刃厚	sj	-	3.9268
またぎ刃数	ZM		10
またぎ刃厚	N.	-	72.9974
刃先R	r	-	0.9375
面取り高さ	hc		5.2000
面取り刃厚	SC	-	2.6631
面取り角	θ	deg	48 * 30 * 0
工具データ管	理番号		
工具データ備考(対称品	番)	
曜定 ‡	e)til	207	7 参考図 刃形図
			検索登録

図 11.7 標準ピニオンカッタ

😂 ピニオンカック	5諸元 [1]	- • •
種類		ブロ	チュバランス 💌
項目	記号	単位	數 値
刃 数	Zc		69
刃先円直径	da	IIM	189.8207
基準円直径	d	m	183.5707
刃底円直径	df	m	176.9405
刃厚入力方式	·		キャリバ刃厚 💌
キャリパ刃たけ	hj	nm	3.1436
キャリパ刃厚	sj	nm	3.9268
またぎ刃数	ZN		10
またぎ刃厚	Y	m	72.9974
刃先R	r	IIM	0.9375
刃先逃げ量	E	IIM	0.0250
工具データ管	理番号		
工具データ備考	対称品	番)	
輝定 1	ŧ)t ii ,	クリ7	2 参考図 刃形図 検索 登録
図 11.9	7°	ロチュ	い ランスヒ ニオン

図 11.8 セミトッピ ングビ ニオンカッタ

😂 ピニオンカッタ諸元 [1]			- • •
種類		7°DF1/	ドラスはトッピング 📃
項目	記号	単位	数 値
│ 刃 数	Zc		69
刃先円直径	da	-	189.8207
基準円直径	d	-	183.5707
刃底円入力方式	·	·	面取り高さから決定 ▼
刃底円直径	df	-	176.9405
刃厚入力方式			キャリバ刃厚 💌
キャリバ刃たけ	hj	-	3.1436
キャリバ刃厚	sj	-	3.9268
またぎ刃数	ZII		10
またぎ刃厚	N.	-	72.9974
刃先R	r	-	0.9375
面取り高さ	hc	-	5.3750
面取り刃厚	SC		2.6631
面取り角	θ	deg	45 0 0 0
刃先逃げ量	E	-	0.0250
工具データ管	理番号		
工具データ備考(対称品	番)	
曜定中	e))tille	クリア	7 参考図 刃形図
	_		検索登録
図 11.1	0	プロチ	ュハ゛ランスセミ

トッピング ビ ニオンカッタ

11.5.3 シェービングカッタ諸元設定

カッタ

シェービングカッタ諸元設定例を図 11.11 に示します.

🚱 シェービングカ	ッタ諸	沅	- • •
項目	記号	単位	数 値
刃数	Z		71
ねじれ角	β	deg	10 ° 0 ' 0 ″
ねじれ方向	[[]	左ねじれ 💌
基準円直径	d	mm	180.2382
刃先円直径	da	mm	185.2382
刃たけ入力方式	[[]	任意入力 💌
有効刃たけ	he	mm	5.6250
基礎円直径	db	mm	169.0614
またぎ刃数	ZM		9
またぎ刃厚	W	mm	65.3298
刃幅	Ь	mm	30.0000
セット角	θ	deg	-10.00000
工具データ管理番号			
工具データ備考(対称品番)			
麗 定 特沙地	2	リア	検索登録
図 11.11 ミ	ンエー	-ビン	グカッタ諸元

11.5.4 ホーニング諸元設定

ホーニング諸元設定は、ドレスギヤ諸元、ホーニング砥石諸元 をそれぞれ設定します.ホーニングは、2 工程まで設定すること ができます. ドレスギヤ諸元項目を図 11.12, ドレスギヤの歯面修 整設定を図 11.13, ドレスギヤ修整トポグラフを図 11.14, ホーニ ング砥石諸元項目を図 11.15 に示します.

😡 ドレスギヤ諸元	[1]		- • -
計算方法	A: N°U	スキッヤー	→砥石→歯車 📃
項目	記号	単位	数 値
歯数	Z		20
ねじれ角	β	deg	20 * 0 * 0.0 "
ねじれ方向		[]	右ねじれ 💌
基準円直径	d	mm	53.2089
基礎円直径	db	mm	49.6170
歯先円直径	da	mm	59.4589
歯底円直径	df	mm	45.7089
歯厚入力方式			またぎ歯厚 💌
またぎ歯数	Zm		8
またぎ歯厚	W	mm	19.32000
測定ピン径	dp	mm	4.2800
オーバーピン寸法	dm	mm	59.06991
歯幅	b	mm	30.0000
ドレスリング外径	dD	mm	59.4589
曜定	te)t		7//7 🔽 修整
図 11.12		ドレ	スギヤ諸元

_	
	● ホーニング接版 [1] 1251:(本) - 110(1) - 111(1) - 11(1) - 111(1) - 11(1) - 11(1) - 11(1) - 11(1) - 11(1)
-	Top * Left Flack 1 Bottos
_	Top 1 Laft Fland 2 High Fland 2 Botton
-	- ×300 - ×300 Top + Left Flack 3 Top + Bight Flack 3 Bottom
<u> </u>	
	Top * Left Flack 5 + + + bottom
	・ ×100 - ×100 地区2万 由すじ ・ 277 「GoodFranky」
	(歯面修整, 歯すじ)

図 11.13 ドレスギヤ修整



ホーニング砥石諸元 [1] □						
入力方法		軸交差角,軸間距離を入力 💌				
項目	記号	単位	数 値			
歯 数	Z		131			
ねじれ角	β	deg	10 0 0.0			
ねじれ方向	[[右ねじれ 💌			
軸交差角(ト・ルス)	ΣD	deg	-10 0 0.0 "			
車間距離(トッレス)	aD	mm	139.6717			
車自問記を離(リンク゛)	aR	mm	134.7000			
軸交差角(歯車)	Σ	deg	-10 0 13.3			
軸間距離(歯車)	a	mm	139.7201			
基準円直径	d	mm	332.5522			
歯先円直径	da	mm	328.8589			
歯底円直径	df	mm	338.8023			
基礎円直径	db	mm	311.9301			
由溝円弧歯厚	Sn	mm	3.9623			
歯先幅	S	mm	2.5762			
転位係数	xn	·	0.01941			
干渉(ドレスギヤ)	[[]	発生しない			
/ クリアランス(ドレス刃底)	[mm	1.9033			
りリアランス(歯車歯先)	[mm	0.5766			
りりアランス(歯車歯底)	[mm	1.2299			
16 元 ++>)地 ///ア						
図 11.15	5 7	ホー	・ニング砥石			

11.6 歯車仕上歯厚設定

トポグラフ

各工具での歯車仕上歯厚は、またぎ歯厚、ピン寸法、円弧歯厚 での設定が可能です.図 11.16 に歯車仕上歯厚設定画面を示しま す.本例ではホブ加工、シェービング加工、ホーニング加工を1 回づつ行います. ホブでまたぎ歯厚 W1=19.350mm の粗加工を行 い, 最終のホーニング加工で W3=19.287mm に仕上げる手順を示 しています.

👼 歯車仕上歯厚					- ×
項目	記号	単位	わごかり [1]	ジェービンクドカッタ	ホーニンクドカッタ [1]
歯厚入力方式		[またき歯厚 👻	またき歯厚 👻	またぎ歯厚 👻
またぎ歯数	Zm		xnc=0.03694	3	3
またぎ歯厚	W	mm	19.35000	19.32000	19.28684
加定ピン径	dp	mm	4.2800	4.2800	4.2800
オーバーセッフ寸法	dm	mm	59.22616	59.15220	59.06992
歯直角円弧歯厚	Sn	mm	3.99421	3.96228	3.92699
またぎ歯厚変化量	δ₩	mm		-0.0300	-0.0332
オーバーセン変化量	∂dm	mm		-0.0740	-0.0823

図 11.16 歯車仕上歯厚設定

11.7 歯車歯形

諸元と加工条件を設定すると、歯車形状を表示します. 歯形図 では、各工具で加工した歯形形状の重ね合わせや直径、距離の計 測,加工後の歯形などを容易に確認することができます.図11.17 に歯形選択画面を,図 11.18~11.25 に解析後の歯形を示します.



11.8 加工数值

各工具での加工数値を図 11.26~11.29 に示します. これらの表 で面取り長さ,歯面直径,歯車体積,各直径などの詳細数値を確 認することができます.

🌐 加工数値表			×
工具の種類	1	げかり	[1] 💌 🛄
項目	記号	単位	数 値
半径方向面取り長さ	hp	mm	0.2609
円周方向面取り長さ	hk	mm	0.1660
面取り開始直径	dh	mm	57.6870
歯先幅	Sc	mm	1.6750
歯面開始径	fd	mm	50.7979
作用線長さ(dh~fd)	RL	mm	9.2689
有効歯たけ	he	mm	3.4446
歯車体積	V	mm3	6.610E+4
歯先円直径	da	mm	58.2089
歯底円直径	df	mm	47.1436
切り込み深さ	h	mm	5.5327
ホブセット角	βs	deg	-15.0000
歯面多角形誤差	Δe	mm	0.0014

🎞 加工数値表			×
工具の種類	t*:	わかり	[1] 💌 📃
項目	記号	単位	数 値
半径方向面取り長さ	hp	mm	0.3611
円周方向面取り長さ	hk	mm	0.3273
面取り開始直径	dh	mm	57.4868
歯先幅	Sc	mm	1.2742
歯面開始径	fd	mm	49.9951
作用線長さ(dh~fd)	RL	mm	11.4478
有効歯たけ	he	mm	3.7458
歯車体積	٧	mm3	6.581E+4
歯先円直径	da	mm	58.2089
歯底円直径	df	mm	46.9589
切り込み深さ	h	mm	5.6250

図 11.26 おブ 加工数値

図 11.27 ビニオンカッタ加工数値

Ⅲ 加工数値表			×
工具の種類) Ýz	-ヒミング	709 💌 🛄
項目	記号	単位	数 値
半径方向面取り長さ	hp	mm	0.2322
円周方向面取り長さ	hk	mm	0.1474
面取り開始直径	dh	finfin	57.7446
歯先幅	Sc	mm	1.6750
歯面開始径	fd	nn	50.6211
作用線長さ(dh~fd)	RL	TOTO	9.7535
有効歯たけ	he	foto	3.5617
歯車体積	V	mm3	6.603E+4
かみ合い中心距離	a	mm	116.7719
加工最小直径	TC	mm	50.6211
刃先と歯車歯底の隙間	C	finfin	0.5810
歯直角かみ合い圧力角	anc	deg	20.0618
かみ合い率	ε		1.6916
図 11.28 シェーヒ	ング	`カッ!	加工数值

加工数植表			×
工具の種類	- #H2	ングがっか	· [1] 💌 🛄
項目	記号	単位	数 値
半径方向面取り長さ	hp	mm	0.1976
円周方向面取り長さ	hk	mm	0.1269
面取り開始直径	dh	mm	57.8137
歯先幅	Sc	mm	1.6750
歯面開始径	fd	mm	50.2975
作用線長さ(dh~fd)	RL	mm	10.7144
有効歯たけ	he	mm	3.7581
歯車体積	V	mm3	6.594E+4
加工最小直径	TC	mm	50.2975
図 11.29 ホ	ーニン	が加	工数値

11.9 歯形誤差グラフ

加工後の歯形形状を示す歯形誤差グラフを図11.30に示します. 特に,被削歯車と異なる諸元のドレスギヤや,バイアス修整等の 複雑な修整を施したドレスギヤを使用した場合,正確に歯形が加 工されるか否かの判断を容易にすることができるように各直径で の修整量や歯形全体の傾向を示すトポグラフ,倍率の指定など豊 富な機能を備えています.

図 11.31 は、ホーニング後の歯すじ誤差グラフ例であり、歯面 形状と歯すじ形状を表したトポグラフを図 11.32 に示します.







図 11.32 トポグラフ

11.10 歯形座標値ファイル出力

加工後の歯形座標値を CAD データとして出力することができ ます.ファイル形式は DXF と IGES をサポートしています.図 11.33 に歯形座標値ファイル出力フォームを図 11.34 に CAD 作図 例を示します.





ル出力

11.11 歯車かみ合い

加工シミュレーションした歯形データを保存しておくことで任 意の歯車歯形データ同士のかみ合いシミュレーションを行うこと ができます. 図 11.35 にかみ合いシミュレーションの画面を示し ます.



図 11.35 かみ合いシミュレーション

11.12 歯車データの選択

登録したデータから、かみ合わせる歯車のデータを選択し設定 します.図11.36にかみ合い歯車を選択した画面を示します.

🎇 歯車選択				-X		
項目	記号	単位	駆動(外)	従動(外)		
管理番号			Demo-P	Demo-G		
モジュール	mn	mm	2	.50000		
歯数	Z	「 「	20	40		
圧力角	an	deg	20	.00000		
ねじれ角	β	deg	20°0	0.0"		
ねじれ方向		·	右ねじれ	左ねじれ		
転位係数	xn		0.00000	0.00000		
またぎ歯数	Zm		3	6		
またぎ歯厚	W	mm	19.28684	42.26384		
測定ビン径	dp	mm	4.2800	4.2300		
 ビン寸法 	dm	mm	59.06992	112.15778		
歯直角円弧歯厚	Sn	mm	3.92699	3.92699		
基準円直径	d	mm	53.2089	106.4178		
基礎円直径	db	mm	49.6170	99.2341		
歯先円直径	da	mm	58.2089	111.4178		
歯底円直径	df	mm	46.9589	100.1678		
歯幅	b	mm	30.0000	30.0000		
設計中心距離	a	mm	80	.0000		
設計クリアランス	ck	mm	0.8117	0.8117		
曜 定 キャンセル ///7						

図 11.36 かみ合い歯車歯形データ選択

11.13 歯車かみ合い図

図 11.37 の歯形図選択で2D歯車かみ合い図、3Dかみ合いモ デル、従動歯車の回転運動軌跡、連続回転図を表示します。2D 歯車かみ合い図は、部分拡大、距離計測機能や円作図機能をサポ ートしていますので、かみ合いの状態を細部に渡り確認すること ができます. 図 11.38~11.44 にかみ合い図および運動軌跡図を示 します.



図 11.37 かみ合い歯形図選択





図 11.38 かみ合い図



 歯形レンダリング

図 11.40 かみ合い図距離計測 (トップクリアランスの測定)



図 11.44 かみ合い連続回転

11.14 かみ合い歯形ファイル出力

かみ合った状態の歯車歯形データを CAD データとして DXF お よび IGES 形式で出力することができます. 図 11.45 にかみ合い歯 形ファイル出力フォームを示します.



図 11.45 かみ合い歯形ファイル出力

11.15工具管理(オプション)

Gear navigation system は、保有の工具諸元をデータベースに登録しておくことにより、加工シミュレーション時に共用計算や加工後の面取り長さや有効歯面長さなどの条件に見合う適正工具を検索することができます.工具管理の画面の様子および設定項目を図11.46~11.50に示します.



図 11.46 工具管理の画面

☆ ホブカッタ管理									
登録 検索 削	登録 検索 削除 井沙胡 勿? 参考図 刃形図								
基本項目	補	助項目							
種類	標準		■▼□ 刃形修整						
項目	記号	単位	数 値						
管理番号									
モジュール	mn	-							
圧力角	an	deg	20.00000 *						
刃末のたけ	ha	-							
刃元のたけ	hf	-							
刃厚	S	-							
刃先R	r	-							
すすみ角	Υ	deg	5 0 0 0 "						
ねじれ方向			右ねじれ 💌						
溝数	N		12						
条数	Zw		1						

😬 ピニオンカッタ管理 📃 💌							
登録 検索 削除 キャン 切り 参考図 刃形図							
基本項目補助項目							
種類	* *		•				
項目	記号	単位	数 値				
管理番号							
モジュール	nn	m					
刃数	Zc	·					
圧力角	αn	deg	20.00000 *				
ねじれ角	β	deg					
ねじれ方向			30000k 💌				
基準円直径	nn	mm					
刃先円直径	da	m					
刃底円直径	df	m					
刃厚入力方式	·	·	キャリバ河厚 💌				
キャリパ刃たけ	hj	m					
キャリバ刃厚	sj	m					
またぎ刃数	ZN						
またぎ刃厚	N.	m					
刃先R	r	m					

図 11.47 ホブ諸元

図 11.48 ピニオンカッタ諸元

ジェーヒ、ング、カッタ管理	×		
登録 検索 削	<u>///7</u> ++)///		
基本項目	補助	項目	研削歯車
項目	記号	単位	数 値
管理番号	[
モジュール	III III	mm	
刃 数	Z	·	
圧力角	αn	deg	20.00000 *
ねじれ角	ß	deg	
ねじれ方向	[*8*8* -
基準円直径	d	mm	
刀先円直径	da	mm	
刃たけ入力方式			基礎円まで ▼
有効刃たけ	he	mm	3063068
基礎円直径	db	mm	
またぎ刃数	ZM		
またぎ刃厚	W	mm	
刃幅	b	m	

C 11-L 19 11	77 E*±		
登録 検索	削除	R I	<u>777</u> ++5741
基本項目		補助	項目研削歯車
項目	記号	単位	数 値
加工方法		[]	プランジ 💌
内径	dc	mm	
材質			
メーカ			
工具名			
図面番号			
品番		·	
数 量	·	[
製作日	[[2010年03月09日 🔹
登録日	[[2010年03月09日 🔹
消耗度		X	
備考			
-			

図 11.49 シェービングカッタ諸元

図 11.50 基礎円盤諸元

11.16 その他の機能

16.1 ホブの取り付け角度計算(オプション), (図 11.51) 転位ホブのホブ取り付け角度を計算します.

🮇 ホブカッタの取り付け角度 📃 🗾 🗾								
項目	記号	単位	歯車	ホフドカッタ				
モジュール	mn	mm	2.00000	1.94122				
歯数,条数	Z,Zw	·	20	1				
圧力角	αn	deg	20.00000 *	14.50000 *				
ねじれ,すすみ角	β,γ	deg	12 ° 30 ' 0.0 "	0 0 0 0.0 "				
ねじれ方向			右ねじれ 💌	右ねじれ 💌				
取り付け角度 β set deg -12°7'37"								
「計算」「キャンセル								
		1.		5 古				

図 11.51 ホブの取り付け角度

16.2 データベースの形式

Gear navigation system は,設計データの管理,工具管理などの 情報,検索などは SQL サーバを使用して行います.

データベースを容易に構築,管理することができるように補助 ツールが付属されています (図 11.52~11.53 参照).

本ソフトウェアでは Microsoft SQL Server が必要です¹⁾.





1) SQL サーバを準備していない場合

データベースを mdb ファイルで管理するソフトウェアもござ いますのでご注文の際にお申し付けください.

※付録[B]のギヤホーニングシミュレーションをご覧ください.

[12] ANSI/AGMA2001-C95 (歯車強度計算)



図 12.1 AGMA2001-C95

12.1 概要

AGMA2001-C95 の規格に基づいて歯車の強度計算をします. 歯 形の幾何係数(I,J)は, AGMA908-B89 に基づいています. (1)適用規格

[ANSI/AGMA2001-C95] :Fundamental Rating Factors and Calculation Methods for Involute Spur and Helical Gear Teeth

[Annex A] :Method for Evaluating the Risk of Scuffing and Wear

[ANSI/AGMA 908-B89] :Geometry Factor for Determining the Pitting Resistance and Bending Strength of Spur, Helical and Herringbone Gear Teeth

(2)歯車の種類

インボリュート平,はすば歯車(外歯車,内歯車) (3)工具

ホブおよびピニオンカッタ(プロチュバランス含む) (4)歯車の強さ

曲げ強さ、歯面強さ、寿命および幾何係数の詳細数値 (5)スカッフィング

すべり率,ヘルツ応力,油膜厚さ,フラッシュ温度のグラ フと摩耗およびスカッフィング発生確率

12.2 初期設定

(95 初期設定 💶 🛋	□5 ピニオン基準工具		
91 F/J	項目	記号	単位
ギヤの種類 歯車の形状	種類		
○外歯車 ○平歯車 ○1373番■	形状		
〇内歯車 〇やまば歯車	全刃たけ係数	ho	
	刃末のたけ係数	hao	
	円弧刃厚係数	tce	
圧力角(deg) 20.00000 °	刃先R係数	rt	
ビニオン工具 ギヤ工具 確定 キャンセル	刃先までの距離係数	ter	
図 12.2 初期設定画面	図 12.3	Τļ	見設

刃先R係数	rt		0.3750
日先までの距離係数	ter		
図 12.3	ΤĮ	見設	定画面

ビニオン

1,5708

標準 2.2500

12.3 歯車諸元入力

(1)歯車精度は、AGMA, JIS を選択することができます. (2) 歯面粗さは Ra(µm) で入力してください.

C35 歯車諸元				- • 💌	
項目	記号	単位	ピニオン	ギヤ	
歯直角モジュール	IIN	IIM	3.00000		
歯数	Np,Ng		20	30	
ねじれ角	ψs	deg	20 * 30	, 0 ,	
ねじれ方向			右ねじれ 💌	左ねじれ 💌	
造幅	Fp,Fg	nm	30.0000	30.0000	
転位係数	×n		0.20000	0.10000	
歯直角法線歯厚減少量	fn	nm	0.0720	0.0720	
歯先円直径	da	nm	71.2566	102.6848	
中心距離	C	nm	80.9404		
リム厚さ	t R	nm	20.0000	80.0000	
クラウニンクド・エントドリリーフ			有	ب ا	
歯車精度の規格			JIS	規格 💌	
歯車精度等級		[3	3	
歯面粗さ(Ra)	fp,fg	μm	8.000	3.000	
測定ビン径	dp	nm	5.000	5.000	
	曜定] † ₩2	til		

図 12.4 歯車諸元入力画面

12.4 動力および係数入力

- (1) 動荷重係数,荷重分配係数などは[0][TAB]で理論値が入力され ます.
- (2) 平歯車の場合には歯先荷重または外の最悪荷重点を選択する ことができます.
- (3) 入力する数値に関するグラフおよび表などは[表示]機能によ り参照する事ができます.

図 12.5 に動力および係数入力画面を示します. 図 12.6 および 図 12.7 に係数、グラフの表示例を示します.



図 12.5 動力及び係数設定



12.5 材料入力

- (1) 図 12.8 に材料の設定画面を示します.
- (2) [参考]をクリックすると材料に適応した許容応力数の表を 図 12.9 のように表示します.

			×
	#	2	-
	SCM440		
	高周波	対焼入れ	•
	グレード 1	-	
60	HRC		参考
c)	1210	MPa	キャンUN
t)	310	MPa	曜定
	60 c)	新 SCM440 高周辺 グレード 1 60 HRC c) 1210 t) 310	SCM440 高間波焼入れ グレード1 ▼ 60 HRC c) 1210 MPa t) 310 MPa

図 12.8 ピニオン材料の設定

Table 7 – Major metallurgical	factors affecting the all	owable contact stress number, sec, and				
allowable bending str Metallurgical factor	ess number, set, of thro Grade 1	Ugh hardened steel gears ^{1) 2) 3)} Grade 2				
ASTM E112 grain size	Predominantly 5 or finer	Predominantly 5 or finer				
Jpper transformation products which rimarity include bainite and fine searlite. ⁴⁾	Not specified	Max controlling Max upper section, inches transformation (see annex F), products at 400X to 10.0 incl 10%, Over 10.0 No blocky femite (due to improper austenization)				
Decarburization and stock removal	Not specified	None apparent at 400X, stock removal sufficient t remove any decarburization.				
Specified hardness at surface, spc only	See figure 8	See figure 8				
Specified hardness at root, sec only	See figure 9	See figure 9				
Clean Iness ⁵⁾	Not specified	AMS 2301 or ASTM A866 for wrought ster (certification not required). Castings are permissibil with primarily round (Type 1) suffide inclusions				
Sulfur	Not specified	0.025% maximum for wrought 0.040% maximum for castings				
3.5.6% manufactor to cashing TOTES						

図 12.9 材料許容応力数

12.6 強度結果

図12.10に強度計算結果を示します.図12.11および図12.12に, 幾何係数の詳細数値と係数を決定する際の歯形図を示します.

C95 平、はすば歯車強度計算					
項目	記号	単位	ビニオン	ギヤ	
有効歯幅	F	INTO	30.	0000	
周 速	vt	m/s	4.0685		
接線荷重	Wt	N	4915.	8040	
[歯面強さ]					
弾性係数	Cp	√ MPa	190.	1995	
幾何係數	I		0.	1592	
硬度比係数	CH		1.	0000	
歯数比係数	CG		0.	6000	
歯すじ修正係数	Cmc		0.	8000	
ビニオン形状係数	Cpf		0.	0273	
ビニオン位置係数	Cpm		1.	0000	
かみあい精度係数	Cma		0.	0499	
かみあい修正係数	Ce		0.8000		
応力繰り返し係数	ZN		1.0000 1.02		
許容接触応力数	Sac	MPa	1210 1210		
接触応力数	Sc	MPa	844.7122		
許容接触荷重係数	Kac	MPa	5.5386 5.795		
接触荷重係数	K	MPa	4.	2176	
許容伝達動力	Pac	k#	26.2641	27.4835	
歯面強さ(Pac/P)	SFc		1.3132	1.3742	
Service factor	Csf		2.0519	2.1471	
[曲げ強さ]					
リム厚さ係数	KB		1.0000	1.0000	
幾何係數	J		0.5117	0.5082	
応力繰り返し係数	YN		1.0176	1.0250	
許容単位荷重	Uat	MPa	111.1384	111.1826	
単位荷重	UL	MPa	54.	6200	
許容曲げ応力数	Sat	MPa	310	310	
曲げ応力数	St	MPa.	124.0323	124.8811	
許容伝達動力	Pat	k\	40.6951	40.7113	
曲げ強さ(Pat/P)	SFt		2.0348	2.0356	
Service factor	Ksf		2.5434	2.5445	

図 12.10 曲げ, 歯面強さ結果



図 12.11 幾何係数(J)



図 12.12 幾何係数(I)

12.7 寿命結果

負荷の回数と図12.7 グラフより曲げ強さに対する寿命時間を計 算します.図12.13 に寿命計算結果を示します.

℃5 寿命結果			[- • •
項目	記号	単位	ビニオン	ギヤ
[歯面強さの寿命]				
予想応力繰り返し係数	ZN'		0.873	0.873
予想寿命負荷回数	No	cycs	3.740E+09	3.740E+09
予想寿命時間	Lc	hrs	5.194E+04	7.791E+04
[曲げ強さの寿命]				
予想応力繰り返し係数	YN'		0.500	0.504
予想寿命負荷回数	Nt	cycs	2.149E+24	1.465E+24
予想寿命時間	Lt	hrs	2.984E+19	3.052E+19
1	10.10	$\pm \Delta$	(十日	

図 12.13 寿命結果

12.8 スカッフィング評価

- (1) 油(ISO 粘度グレード)は VG46~VG1500 を選択することがで きます.また,範囲外の場合は動粘度,平均温度などを入力 することができます.(図 12.14)
- (2) 歯面粗さは Ra(µm)で入力してください.
- (3) 摩擦係数の方式は, AGMA 方式, 一定値, ISO 方式を選択 する事ができます.
- (4) すべり率, ヘルツ応力, フラッシュ温度, 油膜厚さのグラフ を表示します. (図 12.15~図 12.18)
- (5) 摩耗とスカッフィングの発生する確率を表示します.



図 12.14 スカッフィング評価の設定



12.9 その他機能

- (1) データ管理画面を図 12.19 に示します.
- (2) 印刷(寸法,強度,寿命,スカッフィング,グラフ)日本語印刷 と英語印刷(オプション)ができます.
- (3) 係数などの図,表,グラフを表示します.
- (4) 計算結果, グラフをクリップボードに出力することができ ます.

1	修理番号	F	-	*		作成年月日 [*****	*
作成者名 ****** 圧刀用 20.00000								
歯直	角モジューノ	νr	0.	00000		検索数:	12 議第	朝開始
No.	整理番号	ギヤ(の種類	歯車の	形状	歯直角モジュール	圧力角	
1	Manual	外	歯車	ーはすね	「歯車	3.00000	20.00000*	- 10
2	S8.	内	歯車	平前	車	2.00000	20.00000*	00
3	Yos	外	歯車	平古	車	5.00000	20.00000°	00
4	Hira	外	歯車	平古	車	4.00000	20.00000°	00
5	Hasuba	外	歯車	しますは	ば歯車	4.00000	20.00000*	20
6	AlphaS₩	外	歯車	平古	車	2.00000	20.00000°	00
4								F

図 12.19 テータ管理設定

[13] Electroplated wheel profile design system (Diamond tool ねじ状砥石歯形)



⊠13.1 Electroplated wheel profile design system

13.1 概要

ねじ状砥石をドレスするためのダイヤモンド工具の歯形を生成 することができるソフトウェアです. 歯面修整を持つ歯車を研削 する場合,ダイヤモンド工具の修整量は歯車と同じではありませ ん. また、本ソフトウェアでは13.4項のように歯形修整を充実さ せています. 図 13.1 に全体画面を示します.

13.2 適用

- (1) 歯車の種類:円筒歯車(外歯車)
- (2) 歯形: インボリュート

13.3 歯車諸元設定

図 13.2 に歯車諸元を設定します.転位係数は、またぎ歯厚、ま たはオーバーボール寸法からも入力することができます.

9 Work gear setting							
Item	Symbol	Unit	Value				
Normal module	mn	mm	5.00000				
Number of teeth	z		22				
Normal pressure angle	αn	deg	20.00000				
Helix angle	β		20 * 0 ' 0.00 "				
Helix direction			Right hand 🔻				
Input type of tooth thickness			Profile shift coefficient 👻				
Normal profile shift coefficient	xn		0.20000				
Number of teeth spanned	zm		8				
Base tangent length	W	mm	39.42492				
Ball diameter	dp	mm	8.55246				
Over ball distance	dm	mm	130.44699				
Normal circular tooth thickness	Sn	mm	8.58192				
Tip diameter	da	mm	129.05955				
Root diameter	df	mm	106.55955				
Face width	b	mm	45.00000				
Chamfering			Chamfer 💌				
Chamfering diameter	dc	mm	128.56000				
Chamfering width	c2	mm	0.25000				
ОК	Ca	incel	Clear				

図 13.2 諸元入力

13.4 歯形修整

歯形修整(図13.3)は歯形方向に最大50分割まで設定すること ができ、画面右側の数値を任意に設定することができます.



旧バージョンでの歯形修整は2種類でしたが、今回、図13.4の ように5種類を揃えています.本例では、type3(円弧)の例を示 します.



13.5 ねじ状砥石の設定

図 13.2 の歯車を研削するねじ状砥石の諸元設定画面を図 13.5 に示します. なお、歯車とねじ状砥石と取り付け角は、Lead angle であり、ねじ状砥石と電着砥石の取り付け角は、Setting angle です.

Orinding wheel sett	ing			×
Item	Symbol	Unit	Value	
Number of threads	ZW		1	
Pressure angle	a_w	deg	20.00000	
Normal module	mn_w	mm	5.00000	
Lead direction			Right hand	▼
Outside diameter	D_w	mm	150.00000	
Tip radius	R	mm	1.50000	
Lead angle	γ	deg	2 * 5 ' 2.19	
Thickness(Space)	S	mm	7.85398	Reference figure
Thickness(Tooth)	Т	mm	7.85398	
Top clearance	u	mm	0.00000	
Bottom clearance	k	mm	0.50000	
Addendum	ha_w	mm	6.25000	
Dedendum	hf_w	mm	5.50000	
Pitch circle diameter	d_w	mm	137.50000	
Face width	b_w	mm	50.00000	B.
Setting angle	β Set	deg	-17 * 54 ' 57.81	
Reference	<u>O</u> K	<u>C</u> ance	l Clea	

図 13.5 ねじ状砥石の諸元設定

13.6 電着砥石 (ダイヤモンドツール) の設定

図 13.5 のねじ状砥石をドレスする電着砥石 (ダイヤモンドツー ル)の諸元設定画面を図 13.6 に、電着砥石寸法を図 13.7 に示しま す

歯車,ねじ状砥石,電着砥石諸元を設定した後に,図13.8 で歯 形計算条件(分割数)を設定し、計算に進みます.

• Electoplated wheel			
Item	Symbol	Unit	Value
Outside diameter	D	mm	200.00000
Side clearance	C	mm	0.10000
Bottom clearance	Р	mm	0.50000
Base diameter	BD	mm	189.00000
Radius of crowing	Cr	mm	0.00000
Reference	<u>0</u> K	Gance	l Clear

図 13.6 電着砥石の諸元設定



図 13.8 歯形計算設定

13.7 歯形図

図 13.9~図 13.12 に歯車歯形,ねじ状砥石で研削後の歯形,ねじ状砥石歯形,電着砥石歯形を示します. そして図 13.13 および図 13.14 にレンダリングを示します.





図 13.11 理論歯形と研削後歯形の重ね合わせと計測





図 13.13 レンダリング (歯車とねじ状砥石)



図 13.14 レンダリング(ねじ状砥石と電着砥石)

13.8 歯形グラフ

図 13.3 で与えた歯車の歯形修整が得られるように、ねじ状砥石の歯形を生成させ、次に、ねじ状砥石で創成運動をさせたときの 歯車の歯形を歯形グラフとして図 13.15 に示します.

図 13.15 のスライダバーでは、作用線長さが 32.098mm で歯形 修整量が 7.1µm であることを示しています. なお、面取りを与え ているためグラフの歯先部で歯形が大きく逃げています.



AMTEC www.amtecinc.co.jp

57

13.9 電着砥石(ダイヤモンドツール)DXF ファイル出力

電着砥石の形状選択画面を図 13.16 に示します. ダイヤモンドツール形状を DXF ファイルで出力する場合,図 13.5 で設定したねじ状砥石の諸元により選択する形状が決まります. ここでは図 13.16 の左上のツール形状のダイヤモンドツール形状 を出力した例を図 13.17 に示します.

電着砥石歯形の3ヶ所の座標点をRで近似すると図13.18よう に R=970.4mm であることが解ります. ただし,指示位置によっ て R の大きさは変わります. また,図13.19のように歯車の正面 歯形(歯形修整を含む)を出力することができます.



図 13.19 CAD 作図例(正面歯形)

13.10 HELP 機能

本ソフトウェアはの操作説明は、図 13.20 のように HELP 機能 を有しています.入力時,不明な項目や操作が解らないときは, その画面をアクティブとして[F1]キーを押すことで図 13.21 のよ うに説明画面を表示します.



図 13.21 歯形修整の説明



[14] GearPro iii (involute gear profile design system)



図 14.1 GearPro iii (インボリュート歯形出力)

14.1 概要

本ソフトウェアは, GearPro Master を新しくしたソフトウェア です. 2016年2月を以って GearPro Master の販売は終了し, GearPro iiiの販売とさせていただきます.

本ソフトウェアは成形歯車にも考慮し真円ではない歯車の歯形 も生成することができ、歯形・歯すじ修整、そして軸方向直径修 整にも対応していますので成形歯車の製造には最適なソフトウェ アといえます.また、工具(ホブ、ピニオンカッタ)加工にも対 応した歯形を生成することができますので金属歯車の加工シミュ レーションとしても使用することができます.

今までオプション扱いしていた機能も一部,基本ソフトウェア に含めると共に種々新しい機能も追加し,HELP機能も設けてい ます.図 14.1 に GearPro iii の全体画面を示します.

14.2 ソフトウェアの構成

GearPro iiiの構成を表 14.1 に示します.表中の○は基本ソフト ウェアに含まれ◎はオプションです.また,△は、別途お問い合 わせください.

No.	項目	掲載項	構成
	基準ラック (JIS)	14.4	0
1	BS 規格	14.4	0
	DIN58400	14.4	0
2	歯車諸元	14.5	\bigcirc
3	工具諸元	14.6	0
4	歯形、歯すじ修整	14.7	\odot
5	軸方向直径修整	14.8	\odot
6	真円度修整	14.9	0
7	歯形計算		\bigcirc
8	2D 歯形図	14.10	\bigcirc
9	測定ボール位置図	14.10	\bigcirc
10	歯形レンダリング	14.11	\bigcirc
11	歯形出力ファイル	14.12	0
12	カウンターラック歯形	14.13	\bigcirc
13	成形砥石歯形		\triangle
14	設計データ管理	14.14	0

表 14.1 ソフトウェアの構成

14.3 適用

- (1) 歯車の種類:円筒歯車(外歯車,内歯車)
- (2) 歯形:インボリュート
- (3) 基準ラック:JIS,BS,DIN58400
- (4) 工具

- (4.1) ホブ,転位ホブ:標準,セミトッピング,プロチュバランス、プロチュバランスセミトッピング
- (4.2) ピニオンカッタ:標準,セミトッピング,プロチュバランス,プロチュバランスセミトッピング
- (4.3) 工具による加工:外歯車はホブまたはピニオンカッタ で加工し内歯車はピニオンカッタで加工します.
- (5) 生成歯形:歯車歯形,電極歯形
- (6) 修整:歯形,歯すじ,真円度,軸方向直径
- (7) 成形研削用砥石歯形の生成

14.4 基準ラック(プロパティ)

基準ラックを図 14.2 に示します.基準ラックの種類は JIS 規格 の他に, BS 規格 (オプション) および DIN4158400 規格 (オプシ ョン) による基準ラックも設定することができます. 図 14.3 に BS 規格と DIN58400 規格の基準ラックを示します.



「基準設定」では図 14.4 のように歯車の種類(外・内歯車の選 択),歯形基準(基準ラック創成,工具切削,歯元 R 接続)そし て歯形設計基準(歯車歯形,電極)を設定することができます. 歯形基準で歯元 R 接続を選択できますが,これは古い図面にも対 応することを考慮して設けています.



歯元を単一Rにすることの不具合は、歯数が少ない場合、相手 歯車の歯先干渉の原因となります.また、強度計算は歯元形状が トロコイド形状であることを前提としていますのでそこに単一R で歯車を製作すると強度計算の意味をなしません.そして、歯元 単一R形状は、トロコイド形状に比して応力集中が大きくなりま す.このことは JIS B 1759(2013)「プラスチック円筒歯車の曲げ強 さ評価方法」や成形プラスチック歯車研究専門委員会発行の「プ ラスチック歯車の設計指針」にも記載されています.

14.5 歯車諸元

図14.5に示すように歯車諸元を設定します.歯厚入力方式では、 ①転位係数、②またぎ歯厚、③オーバーボール寸法④円弧歯厚の 内から1つを選択します.図14.6に寸法結果を示します.

🖁 歯車寸法諸元				
項目	記号	単位	數 値	
モジュール	mn	mm	2.00000	ホーパナノズ 米 枚
歯数	Z		20	単ム1121未安火 ・
圧力角	αn	deg	20.00000 *	またぎ歯厚
ねじれ角	β	deg	22 * 30 * 0.00 "	たが、小村法
ねじれ方向			右ねじれ 👻	面但用門凱爾厚
基準円直径	d	mm	43.2957	
歯厚入力方式			転位係数 🗸	
転位係数	xn		0.20000	
またぎ歯数	ZM		4	
またぎ歯厚	W	mm	21.64034	
測定較相径	dp	mm	3.56300	
オーバーボール寸法	dm	mm	49.11554	
歯直角円弧歯厚	Sn	mm	3.43277	
基礎円直径	db	m	40.2824	
歯先円直径	da	mm	48.0957	
歯底円直径	df	mm	39.0957	
歯幅	ь	mm	20.0000	
歯先 R	ra	mm	0.2000	
基準ラック歯元R	rf	mm	0.7500 🛄	
(確定		キンセル クリア	
			図 14.5 歯車諸元	

項目	記号	単位	数 値
正面圧力角	αt	deg	21.50238
リード	PZ	mm	328.37509
転位量	×m	mm	0.40000
歯末のたけ	ha	mm	2.40001
歯元のたけ	hf	mm	2.09999
全歯たけ	h	mm	4.50000
基礎円筒ねじれ角	βb	deg	21.07593
歯先円筒ねじれ角	βa	deg	24.70885
キャリバ歯たけ	hj	mm	2.45806
キャリバ歯厚	sj	mm	3.43015
正面またぎ歯厚	₩a	mm	23.19176
正面円弧歯厚	St	mm	3.71560
正面歯溝円弧歯厚	Ut	mm	3.08527
歯直角歯溝円弧歯厚	Un	mm	2.85042
正面モジュール	mt	mm	2.16478
正面転位係数	xt		0.18478

今,図 14.4(d)の設定で「電極」として収縮率を図 14.7 のように 設定したとき、歯車寸法および電極寸法は図 14.8 のように決まり ます.

28 电極,型用補正諸元							
項目	ā	;号	単位	ļ	汝 値		
モジュール収縮率		Sp		20).00		
圧力角補正率	S	α		(0.00	/1000	
ねじれ角補正率	S	β			3.00		
放電ギャップ		δ	µ4.m.	20).00		
歯 幅	_	h'	mm	20			
	_					bu z	
		唯疋		19761	L	707	
2	x 14	47	雷	極設定			
	-1 1-	.,	не				
🖁 歯車寸法結果						• 💌	
項目	記号	単位	1 1	(歯車)		[倕,型)	
正面圧力角	αt	deg	:	21.50238	21.	50238	
リード	ΡZ	mm		328.37509	336	02972	
まに/六月							
#X112.3#C	×m	mm		0.40000	0.	40816	
歯末のたけ	×m ha	mm mm		0.40000 2.40001	0.	40816	
 単ムロ重 歯末のたけ 歯元のたけ 	×m ha hf	mm mm		0.40000 2.40001 2.09999	0. 2. 2.	40816 42899 16285	
 転12重 歯末のたけ 歯元のたけ 全歯たけ 	×m ha hf h	mm mm mm		0.40000 2.40001 2.09999 4.50000	0. 2. 2. 4.	40816 42899 16285 59184	
 戦12重 歯末のたけ 歯元のたけ 全歯たけ 基礎円筒ねじれ角 	×m ha hf h ßb	nm nm nm nm deg		0.40000 2.40001 2.09999 4.50000 21.07593	0. 2. 2. 4. 21.	40816 42899 16285 59184 07593	
 戦10里 歯末のたけ 歯元のたけ 全歯たけ 差礎円筒ねじれ角 歯先円筒ねじれ角 	×m ha hf βb βa	nm nm nm des des		0.40000 2.40001 2.09999 4.50000 21.07593 24.70885	0. 2. 2. 4. 21. 24.	40816 42899 16285 59184 07593 69111	
 戦し並 歯末のたけ 歯元のたけ 全歯たけ 差曜円筒ねじれ角 歯先円筒ねじれ角 キャリパ歯たけ 	×m ha hf βb βa hj	nm nm nm deg deg		0.40000 2.40001 2.09999 4.50000 21.07593 24.70885 2.45806	0. 2. 2. 4. 21. 24. 24. 2.	40816 42899 16285 59184 07593 69111 48823	
 戦し並 歯末のたけ 歯元のたけ 全歯たけ 差磁円筒ねじれ角 歯先円筒ねじれ角 キャリパ歯たけ 	xm ha hf βb βa hj sj	mm mm mm deg deg mm		0.40000 2.40001 2.09999 4.50000 21.07593 24.70885 2.45806 3.43015	0. 0. 2. 2. 4. 21. 24. 2. 3.	40816 42899 16285 59184 07593 69111 48823 45774	
 	xm ha hf βb βa hj sj Wa	mm mm mm deg deg mm mm		0.40000 2.40001 2.09999 4.50000 21.07593 24.70885 2.45806 3.43015 23.19176	0. 0. 2. 2. 4. 21. 24. 2. 3. 23.	40816 42899 16285 59184 07593 69111 48823 45774 62177	
 * ALUE 	xm ha hf βb βa hj sj Wa St	mm mm mm deg deg mm mm mm		0.40000 2.40001 2.09999 4.50000 21.07593 24.70885 2.45806 3.43015 23.19176 3.71560	0. 0. 2. 2. 4. 21. 24. 24. 23. 23. 3.	40816 42899 16285 59184 07593 69111 48823 45774 62177 74536	
 ■ xuu = ● 志木のたけ â元のたけ 金造たけ 金造たけ 金端にしれ 金売にし 金売にし 金売にし 金売にし 金売 金売	xm ha hf βb βa hj sj Wa St Ut	mm mm mm des des des mm mm mm		0.40000 2.40001 2.09999 4.50000 21.07593 24.70885 2.45806 3.43015 23.19176 3.71560 3.08527	0. 0. 2. 2. 4. 21. 24. 24. 23. 23. 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3.	40816 42899 16285 59184 07593 69111 48823 45774 62177 74536 19431	
戦10年 歯末のたけ 歯元のたけ 全間たけ 全部たけ 差研門剤なじれ角 キャリパ造たけ キャリパ造厚 正面またざ歯厚 正面部評別造厚 造面骨筋溝門別造厚	xm ha hf βb βa hj sj Wa St Ut Un	mm mm deg deg mm mm mm		0.40000 2.40001 2.09999 4.50000 21.07583 24.70885 2.45806 3.43015 23.19176 3.71560 3.08527 2.85042	0. 2. 2. 4. 21. 24. 24. 23. 23. 23. 3. 23. 23. 23. 23.	40816 42899 16285 59184 07598 69111 48823 45774 62177 74536 19431 95116	
●はU並 箇末のたけ 箇元のたけ 全間たけ 全部たけ 基礎円筒ねじれ角 商先円筒ねじれ角 キャリパ箇たけ 年ャリパ箇尽 正面告末き歯厚 正面告満円弧箇厚 正面告満円弧箇厚 正面告満円弧箇厚 正面も満円弧箇厚 正面もデスュール	xm ha hf βb βa hj sj Wa St Ut Un mt	mm mm des des des mm mm mm		0.40000 2.40001 2.09999 4.50000 21.07533 24.70885 2.45806 3.43015 23.19176 3.71560 3.08527 2.85042 2.16478	0. 2. 4. 21. 24. 23. 23. 23. 3. 3. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2	40816 42899 16285 53184 07593 69111 49823 45774 62177 74536 19431 95116 20896	

図14.8 歯車と電極歯車の寸法

14.6 工具諸元 (オプション)

歯切り工具は、ホブまたはピニオンカッタを選択することがで きます.工具寸法入力画面を 14.9 に、参考図を図 14.10 に、入力 した工具の実刃形を図 14.11 に示します.設定した工具による創 成歯形を図 14.12 および図 14.13 に示します.工具の種類は、14.2 の適用に示すように種々工具に対応しています.



プロチュバランスセミトッピングピニオンカッタの入力画面を 図14.14に,設定した工具による創成歯形を図14.12および図14.13 に示します.



14.7 歯形, 歯すじ修整 (オプション)

歯面修整を与える場合,図 14.17 で設定します.修整は,歯形 修整,歯すじ修整,歯形・歯すじ修整の3通りを選択することが できます.ここでは,歯形・歯すじ修整の例を示します.図 14.18 で歯形修整,図 14.19 で歯すじ修整を与えた結果を図 14.20 に示し ます.修整量の与え方は,図 14.18 の場合,数値を直接入力する こともパターン形状から入力することもできます.また,分割数 は最大 50 点まで設定することができます.



図 14.20 歯形・歯すじ修整の設定とトポグラフ

<u></u>

確定 キャンセル

図 14.26 では歯形修整1本と歯すじ修整1本を与えた例を示していますが,バイアス修整の場合は,図 14.21 のように歯形3本(5本も可能),歯すじ1本で設定することができます.



図 14.21 バイアス修整とトポグラフ

14.8 軸方向直径修整(オプション)

軸方向直径修整は、例えば、2 段歯車を樹脂成型する場合、成 形時の収縮による歯幅方向の直径変化を補正するための機能です。 例として、図 14.22 のような直径変化があった場合の歯車は、図 14.23 のように表示することができます。





図 14.22 軸方向直径修整の 設定の例

図 14.23 基準歯形(青色)と 軸方向直径修整歯形(赤色)

14.9 真円度修整(オプション)

射出成形プラスチック歯車は、ゲートの位置によって完成した 歯車が真円形状になりません.対策としてゲート数を多くすれば 解決する場合もありますが余分な工数が必要となります.そこで、 本例では完成した歯車のゲート数が3ヶ所の成形歯車を想定し、 図 14.24 の楕円形状の歯車を考え、その逆形状の歯形を出力する と成形完成時に真円歯車が出来上がるものとしています.図 14.24 で修整量を 50µm、楕円の葉数、即ちゲート数を3として設定し ています (変更は任意可、最大 20).図 14.25 に真円度修整のグラ フを表示します.



図 14.25 真円度修整 2

図 14.26 歯形生成1は、歯形修整、歯すじ修整、真円度修整を 「正」としていますが、これは図 14.25 で設定した歯形をそのま ま出力するということです.これに対し、図 14.27 歯形出力2 は 修整方向を[逆]としています.これは与えた修整量の逆形状を出 力する意味です.即ち、この「逆」で金型を製作すれば完成時に 真円となることを目的としています.ただし、「逆」としても 100% 予測した通りにはなりませんので収縮率の程度を設定することが できます。例題では真円度のみ 80%とし、他は 100%としていま す.



AMTEC www.amtecinc.co.jp

14.10 2D 歯形図

図 14.28 は、図 14.20 の歯形・歯すじ修整を持つ歯形を図 14.25 で真円度修整を設定し、図 14.27 の[逆]で作図した歯形軌跡図です. 歯先部分の拡大図を図 14.29 に示しますが、これら歯先のずれは、 歯先修整と偏心により違いが現れ、図 14.29 の A の歯先のずれが 大きく、B と C は大きくずれていません. この理由は図 14.25 の 真円度修整量からも明らかです.図 14.28 の A 部のずれを図 14.30 のように距離計測すると 0.041mm の違いがあることが解ります. また、図 14.28 の補助フォームに示す R 計測機能は歯元形状の隅 部の大きさなどを計測する際には非常に便利です.

図 14.31 に測定ボール位置図を示しますが、これは低歯などを 測定する際、ボールと歯底が接触する場合があります. このよう なとき事前に確認することができるため現場でも有効に活用する ことができます.





14.11 歯形レンダリング

図 14.32 は、図 14.20 の歯形・歯すじ修整を持つ歯形を図 14.25 で真円度修整を設定し図 14.27 の[**逆**]で作図した歯形です.また、 図 14.33 の歯形レンダリングは、図 14.26 の[**正**]で作図しています ので図 14.32 と色合いが反転しています.





図 14.33 歯形レンダリングと補助フォーム

14.12 歯形ファイル出力

歯形ファイルは,図 14.37 のように DXF-2D, DXF-3D, IGES-3D, TEXT 2D を生成(任意歯数出力可)することができます.また,工具刃形も出力できます.図 14.38 および図 14.39 に CAD 作図例を示します.



14.13 カウンターラック歯形

図 14.37 の歯車(基準ラック創成歯形)を加工する場合のホブ 寸法を図 14.38 に示します.

🔏 歯車寸法諸元 🛛 💼 🕰						
項目	記号	単位	数値			
モジュール	In	m		2.	00000	
歯 数	Z			20		
臣力角	an	des		20.	00000	*
ねじれ角	β	deg	22 *	30 '	0.00	*
ねじれ方向				右ねし	:n	•
基準円直徑	d	80		43.	2957	
宦厚入力方式				転位在	駥	-
重动应该能数	xn			0.	20000	
またぎ歯数	20		4			
またぎ歯厚		10		21.	6403	
測定#14/徑	de	- 10		3.	56300	
オーバーギール寸法	dn	m	49,11554			
齿道角円肌齿罩	Sn	m		3.	43277	
基础円直径	db	m		40.	2824	
做先門直径	da.	m		48.	2000	
曲應円直径	df	m		33.	7000	
金 1%	ь	m		20.	0000	
歯先 R	ra	m	0.0000			
基準ラック歯元R	rf	m		0.	7500	
(確定		やいせル		2	17
図 14.37 歯車諸元 2						

🎖 カウンターラック	歯形図		- • ×
項目	記号	単位	数 値
刃末のたけ	ha	m	2.1978
刃元のたけ	hf	m	2.0522
全刃たけ	h	m	4.2500
刃 厚	S	m	3.1416
ピッチ	t	m	6.2832
刃先R	- r -	m	0.7500
DV 14 3	0	+	

14.14 設計データ管理

データベースは, Microsoft Access Database, Microsoft SQL Server そして ORACLE MySQL Server に対応しています. また, 旧ソフ トウェアの GearPro Master で作成した設計データの読み込みも可 能です.

※Microsoft SQL Server および ORACLE MySQL Server は、インストールされている必要があります。

◆成形研削用の砥石歯形の生成も可能です.詳しくは、別途お問い合わせください.

[15] involute Σ (crossed helical gear design system)



図 15.1 involuteΣ(ねじ歯車)

15.1 概要

ねじ歯車寸法計算ソフトウェアは.ねじ歯車の寸法計算を行い, 歯形かみ合いと2次元と3次元歯形のCADデータを出力します.

15.2 初期設定

図 15.2 に設計基準の設定を示します.

(1)軸角の変更

転位を与えた場合や中心距離を変更した場合に,軸角を変更する方式と軸角を変更しない方式(Buckingham)を選択します. (2)歯先円直径の決定方式:標準方式および等クリアランス方式 (3)基準ラックの設定:並歯.低歯.特殊

(4)中心距離と転位係数の関係は、以下の3種類です. <1>転位係数をピニオンとギヤに与え中心距離を決定 <2>中心距離を基準として各歯車の転位係数を決定 <3>転位係数を無視して任意に中心距離を決定



15.3 諸元入力画面

図 15.3 に諸元入力画面を示します.

Σ 諸元入力				- • •				
項目	記号	単位	ピニオン	ギヤ				
モジュール	mn	mm	2.0	0000				
歯 数	Z	[]	12	33				
圧力角	an	deg	20.0)0000 °				
ねじれ角	β	deg	45 30 0 40 30 0					
ねじれ方向			右ねじれ	右ねじれ				
転位係数	×n	·	0.200000	0.100000				
中心距離	a	mm	61.10687					
法線歯厚減少量	fn	mm	0.2000	0.2000				
歯幅	Ь	mm	20.0000	20.0000				
歯先円直径	da	mm	39.0412	91.1957				
歯底円直径	df	mm	30.0412	82.1957				
測定ビン径	dp	mm	3.4991	3.3895				
歯先R	ra	mm	0.0000	0.0000				
またぎ歯数	ZM	「	4 8					
		[確]	定 teydl					
	図 15.3 諸元設定							

15.4 寸法結果

図 15.4~図 15.6 にねじ歯車の寸法,かみ合い,歯厚計算結果を 表示します.

Σ 寸法計算結果				×
歯車寸法		かみ	哈い 】	歯厚
項目	記号	単位	ピニオン	ギヤ
基礎円筒ねじれ角	βb	deg	42* 5' 7"	37* 36' 35"
基準円直径	d	mm	34.2412	86.7957
基礎円直径	db	mm	30.3883	78.2895
有効歯元円直径	dt	mm	31.5369	83.4137
有効歯先円直径	dh	mm	39.0412	91.1957
歯末のたけ	ha	mm	2.4000	2.2000
歯元のたけ	hf	mm	2.1000	2.3000
全歯たけ	h	mm	4.5000	4.5000
正面モジュール	mt	mm	2.8534	2.6302
正面圧力角	at	deg	27.4421	25.5782
歯直角ビッチ	PN	mm	6.	2832
正面ビッチ	pt	mm	8.9643	8.2629
相当歯数	ZV		34.8494	75.0546

図 15.4 歯車寸法結果

∑ 寸法計算結果				×
歯車寸法	þ	いみ合い		歯厚
項目	記号	単位	ピニオン	ギヤ
歯直角かみ合い圧力角	awn	deg	20.8	168
正面かみ合い圧力角	awt	deg	28.6106	26.6544
かみ合いビッチ円直径	dw	mm	34.6150	87.5987
かみ合いと。が円筒ねじれ角	βw	deg	45°48′39″	40* 45' 38"
軸角	Σ	deg	86.5	717
クリアランス	C	mm	0.4884	0.4884
歯直角かみ合い率	εn		1.7042	
歯直角法線方向バゥクラッシ	jnn	mm	0.4	00
歯直角円周方向バゥクラッシ	jtn	mm	0.4:	28
接触歯幅	bw	mm	7.1661	6.5251

図 15.5 かみ合い数値

Σ 寸法計算結果				- ×		
歯車寸法	た	いみ合い	, j	黄厚		
項目	記号	単位	ピニオン	ギャ		
歯直角基準円弧歯厚	sn	mm	3.4328	3.2872		
歯直角設計円弧歯厚	sn'	mm	3.2199	3.0743		
正面設基準円弧歯厚	st	mm	4.8976	4.3229		
正面設計円弧歯厚	st'	mm	4.5939	4.0430		
またぎ歯数	ZM		4	8		
基準またぎ歯厚	W	mm	21.8480	46.4176		
設計またぎ歯厚	w'	mm	21.6480	46.2176		
オーバービン直径	dp	mm	3.4991	3.3895		
基準われたの寸法	dm	mm	39.9141	91.7010		
設計オーバーピン寸法	dm'	mm	39.4170	91.1520		
基準キャリパ歯たけ	hj	mm	2.4422	2.2180		
「設計キャリバ歯たけ	hj'	mm	2.4372	2.2157		
基準キャリパ歯厚	sj	mm	3.4314	3.2869		
設計キャリバ歯厚	sj'	mm	3.2188	3.0741		

図 15.6 歯厚数値

15.5 歯形図





図15.8の歯形レンダリングでかみ合い接触線が歯車の回転に伴い移動する様子を確認することができます.



図 15.9 歯形レンダリング

15.6 歯形の接触軌跡 (オプション)

図 15.10 に歯の接触軌跡を示し,図 15.11 に接触座標を示します. さらに、図 15.11 にすべり速度とすべり率数値を、図 15.13 および 図 15.14 にすべり速度とすべり率グラフを示します.



×軸回転角	141	•			
Y軸回転角	60	4			•
Z軸回転角	0	4			•
Z軸移動量	200	4		_	•
回転速度	1	4			•
カデイステップ角	0.0	4			•
回転方向 ● 正転 ○ 迫		Win	e Frame	Bac	<color< td=""></color<>
軸角誤差 食い込み角	0.000	•			•
Pinion 🔽	Gear 🔽	接	触面(P)	Ⅳ接	触面(G)

図 15.10 歯面の接触軌跡と補助フォーム

∑ 接触座標				- • •	5
ファイル出た		滑り速度 ビ	ニオン rpm [60.000	
番号	直径(P)	歯幅(P)	直径(G)	歯幅(G)	•
1	31.8612	-3.1610	91.1957	2.8782	
2	32.0407	-2.8985	90.8790	2.6392	
3	32.2202	-2.6489	90.5808	2.4119	
4	32.3997	-2.4102	90.2984	2.1946	
5	32.5792	-2.1811	90.0297	1.9860	
6	32.7587	-1.9602	89.7731	1.7849	
7	32.9382	-1.7467	89.5272	1.5905	
8	33.1177	-1.5398	89.2909	1.4021	
9	33.2972	-1.3387	89.0634	1.2190	
10	33.4767	-1.1430	88.8437	1.0408	
11	33.6562	-0.9522	88.6313	0.8670	
12	33.8357	-0.7658	88.4256	0.6973	
13	34.0152	-0.5835	88.2261	0.5313	
14	34.1947	-0.4049	88.0323	0.3687	
15	34.3742	-0.2298	87.8438	0.2093	
16	34.5537	-0.0580	87.6603	0.0528	
17	34.7332	0.1108	87.4815	-0.1009	
18	34.9127	0.2768	87.3072	-0.2520	-
•				Þ	

図 15.11 接触座標

2 滑り速度表						
ファイル出力	滑りグラフ					
番号	直徑P(nm)	直径G(nm)	滑り速度P(m/s)	滑り速度G(nm/s)	滑り率P	滑り平G
1	31.8612	91.1957	67.6612	73.5723	-0.0874	0.0803
2	32.0407	90.8790	68.2991	72.8777	-0.0670	0.0628
3	32.2202	30.5808	68.9446	72.2169	-0.0475	0.0453
4	32.3997	90.2984	69.5968	71.5856	-0.0286	0.0278
5	32.5792	90.0297	70.2549	70.9800	-0.0103	0.0102
6	32.7587	89.7731	70.9180	70.3976	0.0073	-0.0074
7	32.9382	89.5272	71.5858	69.8359	0.0244	-0.0251
8	33.1177	89.2909	72.2576	69.2931	0.0410	-0.0428
9	33.2972	89.0634	72.9332	68.7676	0.0571	-0.0606
10	33.4767	88.8437	73.6120	68.2581	0.0727	-0.0784
11	33.6562	88.6313	74.2938	67.7635	0.0879	-0.0364
12	33.8357	88.4256	74.9784	67.2828	0.1026	-0.1144
18	34.0152	88.2261	75.6653	66.8151	0.1170	-0.1325
14	34.1847	88.0323	76.3545	66.3596	0.1309	-0.1506
15	34.3742	87.8438	77.0457	65.9158	0.1445	-0.1689
16	34.5537	87.6603	77.7387	65.4830	0.1577	-0.1872
17	34.7332	87.4815	78.4334	65.0607	0.1705	-0.2055
18	34.9127	87.3072	79.1295	64.6484	0,1830	-0.2240

図 15.12 すべり速度, すべり率





図 15.14 すべり率

15.7 歯形データ

ねじ歯車の歯形座標を DXF または 3D-IGES ファイルに出力す ることができます.(IGES ファイル出力は,オプションです) 図 15.15 で設定し作図した例を図 15.16 に示します.

Σ ファイル出	Ъ	×
○ 2D出力		
● ビニオン	○ギヤ	
直線補間	C 円弧補間	5
補問精度		μm
1 11212211112		
出力歯数	12	
	12	
出力 出力 歯 幅 分 割 数 歯 転 た け 分 割 数 歯 た に 力 動 数 し 力 歯 数 し う 間 数 し う 歯 数 し う 歯 数 し う 歯 し う も 雪 数 し う も 雪 も つ も う い う の う い う い う い う の う い う い う い う の 割 数 し つ ろ 割 数 し つ ろ 割 数 し つ ろ 割 数	12 20 20	
出力 出力 歯 電 分 割 数 「 歯 た け 分 割 数 「 し た に 分 割 数 「 し た に 分 割 数 「 し た に う 割 数 「 し 、 し 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	12 20 20 Fj IGES	



図 15.16 CAD 作図例

[16] 成形砥石歯形解析(単溝, 複溝)



図 16.1 成形砥石歯形解析

16.1 概要

はすば歯車を成形研削する場合,3次元干渉が発生し,ねじれ 角や砥石の直径などによってその量は大きく変化します.本ソフ トウェアは干渉解析を行い砥石歯形を決定するソフトウェアです. 歯形解析は,インボリュート歯形部分は勿論のこと歯元のトロコ イド曲線部分も解析しますので正しい砥石座標を得ることができ ます.

本ソフトウェアは、1溝、2溝または3溝の歯溝を同時に研削す る砥石の歯形を出力するソフトウェアです.図 16.1 に全体画面を 示します.

16.2 歯車の種類と歯形

(1)歯車の種類	:外歯車
(2)歯 形	: インボリュート平歯車及びはすば歯車
(3)砥石の種類	: 単溝加工用,複溝加工用(オプション)
(4)歯形修整	: 定型5種類+フレキシブルタイプ

16.3 歯車諸元入力

図 16.2 に、歯車諸元の入力画面を示します.歯厚入力は、転位 係数,またぎ歯厚,オーバーボール寸法から入力することができ、 歯元形状は、フィレット形状、単一 R 形状、PG ホブ(オプショ ン)、PG 歯形(オプション)に対応しています.



補助設定機能は、図 16.3 に示すように歯先 R, 歯先 C 面に対応 しています. ただし、2 溝、3 溝用砥石には R 面、C 面を与える ことができません. また、電極用歯車を研削することを考慮し、 モジュール収縮率、圧力角補正も可能です.



16.4 歯形修整

歯形修整は図 16.4~16.7 に示すように 5 種類の修整およびフレ キシブル修整に対応しています.本例では図 16.4 の歯形修整を持 つ歯形を解析します.図 16.5 は図 16.4 の歯形修整量をグラフ表示 した結果です.縦倍率の標準値は 500 倍ですが,任意に設定する ことができます.

図 16.6 に歯形修整 2 型~5 型を示し,図 16.7 に歯形修整フレキ シブル型を示します.




16.5 歯形計算条件

砥石歯形解析の計算条件を図 16.8 に示します. 同時加工歯溝数 は、1溝、2溝、3溝を選択することができます. ここでは一般的 な加工法である1溝加工の例を示します. 図 16.8 の[確定]で、砥 石形状および歯車歯形を計算します. 本ソフトウェアでは、歯車 のねじれ角以外の傾け角で研削する場合の砥石の形状も決定する ことができます.

🦰 歯形計算条件設定	- • •						
計算条件項目	記号	単位	数 値				
同時加工津	┃1溝加工(標準加工) 💌						
計算砥石外径	Do	mm	200.0000				
砥石セット角度	θs	deg	30.00000				
砥石刃元逃げ量	HL	mm	1.000				
砥石歯厚減少量	砥石歯厚減少量 WL mm 0.0000						
確定 キャンセル 戻す							

図 16.8 砥石歯形の計算条件

16.6 歯車歯形と砥石歯形

歯車諸元および歯形の計算条件に基づき砥石の歯形を生成しま す.そして,その砥石を用いて研削した場合の歯車歯形も計算し ます.図 16.9 は,理論歯形と修整を与えた歯形そして砥石で研削 した歯形を表示しています.

図16.9は、研削後の歯形と無修整歯形を重ね合わせた図であり、 図16.10 で歯先部を拡大し、距離測定をすると歯先部で10µm 修 整されていることが解ります.



図 16.10 研削歯形と無修整歯形(距離測定)

図 16.11 に砥石歯形を,図 16.12 に砥石座標の設定を,図 16.13 に砥石座標を示します. 砥石形状は DXF ファイルに,そして砥石座標値は図 16.14 のようにテキストファイル(.txt)に出力することができます.



13 1 2 3 4	中心X(mm) -39.1204 -25.2723 -44.8861	中心Y(mm) -10.6581 -3.5690	半径R(mm) 39.4443	開始X(mm) -4.1812	開始Y(mm)	
-5 6 7 9 10 11 12 13 14 15 16	-707.0377 -63.8188 -491.7386 -45.3733 -43.7901 -15.3201 -27.2067 -21.0659 -14.6537 -26.4831 -23.0475 -12.2720 153.5403	-13.6750 -325.3899 -22.4807 -219.6027 -13.8490 -13.1011 -0.7690 -5.9555 -3.3683 -0.7627 -5.7140 -4.3677 -0.0685 66.5169	23.8872 45.9514 777.8057 66.8316 537.9709 46.4665 44.7160 13.6899 26.6586 19.9951 13.0740 25.8876 22.2081 10.6068 168.0753	-4.0656 -3.9974 -3.3484 -3.2888 -3.1957 -3.1957 -3.1356 -2.9419 -2.7740 -2.7374 -2.6832 -2.5593 -2.5593 -2.5593 -2.5593 -2.5593 -2.5593	7, 4253 7, 2927 5, 9756 5, 8448 5, 5492 5, 5190 5, 0908 4, 7089 4, 6245 4, 4882 4, 2872 4, 2872 4, 0765 3, 9506 3, 3670	

図 16.14 砥石座標

16.7 歯形レンダリング

図 16.14 に示す歯車と砥石のかみ合いレンダリングに綺麗な接 触線を確認することができます.表示画像は、コントロールフォ ームで回転角や観察位置を変更することができます.



設計歯車と砥石のかみ合い 図 16.14 歯形レンダリング

[16.A] 複溝成形砥石歯形解析

歯車諸元および歯形修整は、単溝と同様です.以下に3溝砥石 の計算例を示します.

🦰 歯形計算条件設定			- 0 🔀			
計算条件項目	記号	単位	数 値			
同時加工津	377月1日11日 💌					
計算砥石外径	Do	mm	200.0000			
砥石セット角度	θs	deg	30.00000			
砥石刃元逃げ量	HL	mm	1.000			
砥石歯厚減少量	WL	mm	0.0000			
確定 キャン地 戻す						

図 16.15 砥石歯形の計算条件(複溝)



図 16.16 砥石歯形(複溝)



図 16.17 砥石座標(複溝)



図 16.18 歯形レンダリング(複溝)

[16.B]内歯車用成形砥石歯形解析

外歯車と同様に、3次元干渉が発生し、ねじれ角や砥石の直径 などによってその量は大きく変化します.本ソフトウェアは研削 時の3干渉解析を行い砥石歯形を決定するソフトウェアです.

16.B.1 歯車の種類と歯形

(1)歯車の種類 : 内歯車
(2)歯 形 : インボリュート平歯車及びはすば歯車
(3)砥石の種類 : 単溝加工用

16. B. 2 歯車諸元入力

図 16.19 に、歯車諸元の入力画面を示します。歯厚入力は、転 位係数、またぎ歯厚、ビトゥイーンピン寸法から入力することが できます。

🥖 歯車諸元 (内歯車)				
歯車設定	歯先討	定		
項目	記号	単位	数 値	
モジュール	mn	mm	3.00000	
歯 数	z		65	
圧力角	an	deg	20.00000	
ねじれ角	β	deg	25 * 30 ' 0.00 "	
ねじれ方向			右ねじれ 💌	
基準円直径	d	mm	216.0461	
歯厚入力方式	·	·	じょうんつとの寸法 💌	
転位係数	xn		0.28148	
またぎ歯数	ZM		10	
またぎ歯厚	W	mm	88.36818	
測定ボール径	dp	mm	5.000	
ビトゥイーンピン寸法	dm	mm	211.00000	
歯直角円弧歯厚	Sn	mm	4.09769	
基礎円直径	db	mm	200.3682	
歯先円直径	da	mm	210.0000	
歯底円直径	df	mm	223.5000	
歯幅	Ь	mm	30.0000	
歯元 R	rf	mm	1.0000	
6	锭	キャンセル	<u>戻す /リア</u>	

図 16.19 歯車諸元

補助設定機能は,図 16.20 に示すように歯先 R,歯先 C 面に対応しています.



16.B.3 歯形計算条件

内歯車用砥石歯形解析の計算条件を図 16.21 に示します.

🦂 歯形計算条件設定						
計算条件項目	記号	単位	数 値			
計算砥石外径	Do	mm	200.0000			
↓ 砥石セット角度	θs	deg	25.50000			
砥石刃元逃げ量	HL	mm	1.000			
砥石歯厚減少量	WL	mm	0.0000			
確定 キャン地 戻す						

図 16.21 砥石歯形の計算条件

16.B.3 歯車歯形と砥石歯形

歯車諸元および歯形の計算条件に基づき砥石の歯形を生成しま す. そして, その砥石を用いて研削した場合の歯車歯形も計算し ます. 図 16.21 は、歯車諸元で修整を与えた歯形、無修整歯形そ して砥石で研削した歯形を表示することができます.



図 16.21 歯車歯形

図 16.22 に砥石歯形を,図 16.23 に砥石座標の設定を,そして図 16.24 に砥石座標を示します. 砥石形状は DXF ファイルに, そし て砥石座標値はテキストファイル (.txt) に出力することができま す.





図 16.23 砥石座標の設定



図 16.24

16.B.4 歯形レンダリング

図 16.24 に示す歯車と砥石のかみ合いレンダリングに綺麗な接 触線を確認することができます.表示画像は、コントロールフォ ームで回転角や観察位置を変更することができます.



設計歯車と砥石のかみ合い 図 16.24 歯形レンダリング

16. その他機能 (外歯車, 内歯車)

- (1) 砥石で生成した歯車歯形を図 16.25 の「歯形出力」で DXF および IGES ファイルで出力することができます.
- (2) データ管理

🥖 歯形出力	—				
₢ 2D-DXFファイル					
ा 3D- IGES7७१	16				
出力歯数	22				
補間精度(µm)	1.0000				
歯幅分割数	41				
出力	キャンセル				

図 16.25 歯形出力

[17] トロコイド曲線を使用した歯車



図 17.1 トロコイド曲線を使用した歯車

17.1 概要

インナーロータの歯数,アウターロータの歯底円直径および偏 心量を基準として,それぞれの歯形を決定します.歯形曲線は, ころがり円直径や偏心量によって変化し,生成した歯形から,各 部屋の面積計算を行い吐出量(cc/rev)を算出します.また,3次元歯 形で表示します.

17.2 諸元入力画面

- (1) ロータ諸元の入力画面を図 17.2 に示します.
- (2) サーキュラーピッチの変更により歯の大きさを変更することができます.
- (3) クリアランスを与えた歯形を生成することができます.
- (4) アウターロータの歯底部分はフルRまたは任意のRで接続することができます.
- (5) ころがり円直径により歯形曲線を変更することができます.
- (6) 歯幅は吐出量の計算及び三次元の歯形表示に使用します.
- (7) 歯形生成分割角度は、歯形の細かさの尺度です.

🙃 hojfh"o-y諸元 📃 📼 💌						
項目	記号	単位	ረንት-ወ-ጵ	ፖሳጵ-በ-ጵ		
歯 数	Z		8	9		
偏心量	е	mm	1.0	5000		
歯底円直径	df	mm	29.6757	40.5000		
歯先円直径	da	mm	35.6757	32.6757		
基準円直径	d	mm	24.0000	27.0000		
サーキュラーピッチ	CP	mm	9.4	42478		
ころがり円直径	Rb	mm	1.5000			
チッフ゜クリアランス	ck	mm	0.0000			
歯底逃げ量	cb	mm		0.9122		
歯底 R 設定方法				フルR接続 💌		
歯底R	rO	mm		2.7135		
歯幅	Ь	mm	18.0	0000		
製品内径/外径	Di/OD	mm	12.0000	45.0000		
歯形生成分割角度	λ	deg		0.10000		
押付チッフ。クリアランス	cko	mm	0.0000			
	確 定 キャンセル					

図 17.2 ロータ諸元の設定

17.3 ロータの歯形図

ロータのかみ合い組図を図 17.3 に示します.また,補助機能に よりピッチ円の作図やインナーロータの回転角度を変更した図を 作図(拡大図)することができます.図 17.4 にロータの歯形座標 を表示します.



17.4 歯形 DXF 出力

17.5 面積計算

①ロータ組図, ②インナーロータ歯形, ③アウターロータ歯形 を円弧データ DXF ファイルで出力することができます. 図 17.5 に設定フォームを, 図 17.6 に CAD 作図例を示します.





図 17.6 CAD 作図例

歯形計算後,各面積および吐出量を図 17.7 に示します. 図中の ×マークはロータ歯形の接点を示します.



17.6 レンダリング図

歯形レンダリングを図 17.8 に示します. 図 17.9 のコントロール フォームにより視点や回転角を変更することができ,歯形図に接 触線を観察することができます. 図 17.10,図 17.11 に作図例を示 します.



	4	-20	│×軸回転角 │
•	•	5	Y軸回転角
•	•	-20	Z軸回転角
•	•	325	Z軸移動量
•	•	1	回転速度
•	•	0	「カミアイステップ角」
		0 BackColo	ハミア1ステッブ門 Wire Frame

図 17.9 コントロールフォーム

図 17.8 歯形レンダリング

図 17.10 作図例 1



[18] Adduction differential gear design system



図 18.1 Adduction differential gear

18.1 概要

Adduction differential gear (愛称:ピンコイド歯車)は、外歯車 と内歯車に1歯差または2歯差を与えた内転差動式の歯車減速装 置です.インボリュート歯形を用いて同じ機構を成立させること ができますが、効率やかみ合い干渉の点からも内歯車にピンを配 置する歯形が有利と言えます.

18.2 諸元入力

- (1) 歯車諸元の入力画面を図 18.2 に示します.
- (2) 最大歯数差は、2 歯です.
- (3) 外歯車の歯形は、内歯車のピン径と、ころがり円および偏心 量から決定します.
- (4) 外歯車の歯厚管理用に、またぎ歯数を設定します.
- (5) 円弧補間精度は, CAD データ作成時の精度です.

🦯 歯車諸元			[- • •
項目	記号	単位	外歯車	内歯車
モジュール	mn	mm	2.0	0000
歯数	Z		20	21
ピン径	Pq	mm		3.5000
基準円直径	d	mm	40.0000	42.0000
偏心量	е	mm	0.1	3500
ころがり円直径	dw	mm	40.0000	41.7000
歯先円直径	da	mm	40.2000	38.5000
歯底円直径	df	mm	36.8000	41.9000
製品外径	od	mm	55.0	0000
またぎ歯数	Zw		5	
またぎ歯厚	W	mm	25.1412	
歯幅	b	mm	12.0	0000
円弧補間精度	Ci	μm	0.5000	
	[曜定	4v)til	

図 18.2 諸元入力

18.3 かみ合い図

図 18.3 にかみ合い図を示します. 部分拡大によりピンと外歯の かみ合いを確認することができます.



18.4回転図

図 18.5 に歯車回転図を示します.



18.5 歯形レンダリング

図 18.6 に歯形レンダリングを示します. X,Y,Z 軸で観察角度の 変更ができ、Z 軸移動量で拡大,縮小ができます.また,かみ合 いステップ角により回転速度を変更することができます.



18.6 偏心量を変更した歯形

図 18.2 の歯車で偏心量を 1.3mm に変更した歯形を図 18.7 および図 18.8 に示します.





18.7 DXF ファイル出力

図 18.9 に CAD 作図例を示します.



AMTEC www.amtecinc.co.jp

[19] VGR ラック設計システム



図 19.1 VGR ラック設計システム

19.1 概要

VGR(Variable Gear Ratio)ラック設計システムは、ピニオンを基準にして、ギヤレシオカーブに基づいて運動するラックの歯形を 生成し、強度計算、FEM歯形応力解析、すべり率グラフ、ヘルツ 応力グラフを計算することができるソフトウェアです.

19.2 ピニオンの諸元入力

ラックとかみ合うピニオンの諸元と、ラックを生成するための ピニオン諸元を入力します.図19.2にピニオン諸元の入力画面を、 図19.3 にピニオンの寸法を示します.

🦯 ピロが諸元						
項目(ピニオン)	記号	単位	ビニオン うっり生成用ピニオ			
モジュール	mn	mm		1.85000		
歯数	Z			8		
圧力角	an	deg	2	20.00000		
ねじれ角	β	deg	2	5.00000		
ねじれ方向			右ねじれ 💆			
基準円直径	d	mm	16.3300			
転位係数	xn	·	0.55000			
歯先円直径	da	mm	20.9560	22.0000		
歯底円直径	df	mm	14.5000	15.3360		
歯厚減少量	fn	mm	0.0000	0.0000		
歯先 R	Ra	mm	0.5000	0.5000		
基準うり、歯元R係数	Reo		0.3750	0.3750		
歯先りリアランス	ckt	mm	0.5220			
歯底クリアランス	ckb	mm	0.4180			
測定ピン径	dp	mm	4.0000			
軸交差角	Σ	deg	2	20.00000		
	[]	曜 定	++>til			
図 10.2 ピーナン 志二の 肌宁						

図 19.2 ピニオン諸元の設定

🦰 ピニオン寸法				— ×
項目	記号	単位	ビニオン	うめ生成用ピニオン
またぎ歯数	ZM		2	2
またぎ歯厚	W	mm	9.1624	9.1624
オーバーセッフ寸法	dm	mm	24.2471	24.2471
歯末のたけ	ha	mm	2.3130	2.8350
歯元のたけ	hf	mm	0.9150	0.4970
正面円ビッチ	Ps	mm	6	.4128
歯直角円ピッチ	Pn	mm	5	.8119
基礎円直径	db	mm	15	. 1537
歯直角歯先幅	Sn	mm	0.9295	0.1006

図 19.3 ピニオンの寸法結果

19.3 ピニオン歯形図

ピニオンの歯形図を図 19.4 に示します. 図 19.5 は、歯形の部分 拡大図です.





図 19.4 ピニオン歯形図

19.4 ギヤレシオカーブ

ピニオンの回転角に対するラックゲイン(mm/rev)の数値を設定 します.図 19.6 は直線変化のグラフですが、図 19.7 は、スプライ ン曲線で接続しています.

- ストッパ位置の入力 ピニオンの最大回転角度がラック長となります.
- (2) 図中の一点鎖線は、
 ①ころがり円がピニオン歯先円のときのストロークゲイン
 ②ころがり円がピニオン基準円のときのストロークゲイン
 ③ころがり円がピニオン基礎円のときのストロークゲイン を示します。
- (3) グラフ表示後、スクロールバーをスライドさせると上部にピニオン回転角とラックストローク値を表示します。
 図 19.6 および図 19.7 は、ピニオン回転角の増加に伴いラックゲインも増加していますが、ラックゲインを減少させることも可能です。



図 19.6 ギヤレシオカーブ(直線接続)



19.5 ラックの諸元設定

ラックの諸元設定画面を図 19.8 に示します. ラックの基準角度 の設定により、ラックの基準位置(ピニオン回転角 0 deg 位置)にお ける中央断面の歯形が、歯山または谷を選択します. ラック寸法 の計算結果を図 19.9 に示します.

🥖 ラック諸元				- • 💌
項目(ラック)	記号	単位	ラック(ローケドイン)	ラック(ハイケドイン)
外径	daR	mm	34	.5000
中心距離	a	mm	23	.0000
測定ピン径	dp	mm	4.0000	4.0000
ラック基準角度	• 🕾	01	」 ○ 角度指定	deg deg
	碷	定	キャンセル	
図 1	9.8	ラン	ックの諸元	設定
/ 799寸法				
項目	記号	単位	<u>ラック(ローケイン)</u>	5.0(1115-12)
モジュール	mn	mm	1.7474	2.1938
圧力角	an	deg	5.8039	37.5869
ねじれ角	β	deg	3.5268	10.0766
ねじれ方向			左ね	じれ
オーバーヒッフ寸法	dm	mm	36.1364	34.2073
歯先高さ	ht	mm	32.5820	32.5820
ビッチ高さ	pt	mm	32.6268	30.1094
歯底高さ	hb	mm	29.2500	29.2500
軸方向ビッチ	Px	mm	5.5000	7.0000
歯直角ビッチ	Ph	mm	5.4896	6.8920
正面かみあい率	εα		1.0068	0.7088
重なりかみあい率	εβ		1.2099	1.7794
総合かみあい率	εγ		2.2167	2.4883
赤直角赤朱峘	Sn	mm	1.7850	1.2674



19.6 VGR ラックの歯形創成図

ラック歯幅中央断面歯形の創成図を図 19.10 に示します. 図の Aは、ラック軸の中央位置でありBは、ストッパ位置を示します. 左右の歯形の変化を確認することができます.



19.7 VGR ラックの3D 歯形計算

歯形計算の前に歯形の分割数を設定します(図 19.11).

🔺 歯形計算	×
分割数	数値
「ヒ゜ニわ歯幅方向」	50
ううり歯幅方向	30
うり歯たけ方向	30
○ 歯底幅 - ⊙ -	动外径
OK † †)	/tll
図 19.11 歯形計	・算の設定

19.8 レンダリング図

歯形計算終了後, [レンダリング図]ボタンを押すと, ピニオン とラックの歯形かみあい図を表示します. レンダリング図は, 座 標軸の角度を変更することにより, 視点を変えて観察することが できます.

図 19.12 にピニオン上面から観たレンダリング図を示します. また,図 19.13 のラック背面から観察したレンダリング図には, かみあい接触線を観察することができます. 図 19.13 の右に示すコントロールフォームで、 ①座標軸の角度変更 ②ズーム ③ワイヤフレーム、シェード表示切り換え ④背景色の設定 ⑤ラックストロークチェック(ピニオンまたはラックの移動)

の機能があります



図 19.12 レンダリング(ピニオン上面から観察)



図 19.13 レンダリング(ラック背面から観察)

19.9 CAD ファイル出力

ピニオンと VGR ラックの歯形を DXF または IGES ファイルで 出力することができます. 図 19.14 および図 19.15 にファイル出力 設定を示します. CAD 作図例を, 図 19.16~図 19.19 に示します.



AMTEC www.amtecinc.co.jp

19.10 すべり率グラフ

ラック軸中央のかみ合い位置とストッパ位置でのかみ合いにお けるすべり率グラフを図 19.20 及び図 19.21 に示します. 図 19.20 のピニオン歯元で大きなすべりが発生しています.





19.11 強度計算

JGMA 強度計算に基づいた計算結果を図 19.22 および図 19.23 に示します. ラックの強度は、Low Gain 側と High Gain 側の2箇 所の歯形について強度計算をします.

※AGMA 強度計算は、別途お問い合わせ下さい.

🥖 JGMA強度計算諸元 📃 🖃 🗾 🖂								
項目	ビニオン					VGR	ラック	
熱処理	高周]波烁	込れ	•	高調	目波焼	入れ	-
材料記号	SCM440			•	SCM440			-
心部硬度	HV		242		HV		242	
表面硬度	HV		500		HV		500	
σFlim(MPa)			265.0				265	.0
σHlim(MPa)			1069.0				1069	.0
JIS精度等級(1976)		3		•		3		-
項 目	記号	+	単位		ピニス	セ	VGR	ラック
トルク	T		N-m		5.000			
回転数	n		rpm		60.000			
軸受け支持方法					両軸受けに対称 _		-	
寿命繰り返し回数	L				1000000)	
歯車の回転方向						正転の	のみ	-
周速	V V	V m/s		0.0514				
歯形修整					有		IJ	-
歯面粗さ	Rmax	(μm		6	.00		6.00
負荷時歯当り状況						良	好	-
材料定数係数	ZM		(MPa) ⁰).5	189	.800	18	9.800
潤滑油係数	ZL				1	1.000		1.000
過負荷係数	Ко					1	.000	
歯元曲げ安全率	SF -				1.200			
菌面預傷安全率	I SH			_		1	.150	
	[曜 定] [キャン04]							

図 19.22 強度計算設定

🦰 JGMA強度計算結果						
項目(曲げ)	記号	単位	ピニオン	うっり(ローケドイン)	うっり(パクジイン)	
許容曲げ応力	σFlim	MPa	265.000	265	.000	
曲げ有効歯幅	b'	mm	20.614	13.775	21.217	
歯形係数	YF		1.675	2.065	2.065	
荷重分布係数	Yε		0.840	0.397	1.622	
ねじれ角係数	Yβ		0.792	0.971	0.916	
寿命係数	KL		1.000	1.400	1.400	
寸法係数	KF×		1.000	1.000	1.000	
動荷重係数	Kv		1.000	1.000	1.000	
呼び円周力	Ft	N	611.767	713.253	560.397	
許容円周力	Ftlim	N	7556.469	9341.765	4691.756	
曲げ強さ	Sft		12.352	13.097	8.372	
歯元曲げ応力	σF	MPa	21.454	20.233	31.652	
項目(面圧)	記号	単位	ピニオン	うっり(ローケドイン)	うっか(パイか・イン)	
許容ヘルツ応力	σHlim	MPa	1069.000	1069	.000	
面圧有効歯幅	bw	mm	18.764	13.775	21.217	
領域係数	ZH		2.296	4.075	1.942	
寿命係数	KHL		1.000	1.300	1.300	
かみあい率係数	Zε		0.917	0.952	1.155	
粗さ係数	ZR		1.008	1.004	1.010	
潤滑速度係数	ZV		0.891	0.891	0.891	
硬さ比係数	ZW		1.000	1.000	1.000	
荷重分布係数	KH /S		1.000	1.000	1.000	
動荷重係数	Kv		1.000	1.000	1.000	
呼び円周力	Fc	N		612.370		
許容円周力	Fclim	N	1327.453	480.501	2241.640	
歯面強さ	Sfc		2.168	0.785	3.661	
ヘルツ応力	σн	MPa	726.064	1206.806	558.730	

図 19.23 強度計算結果

19.12 ヘルツ応力グラフ

ラック軸中央のかみ合い位置とストッパ位置でのかみ合いにお けるヘルツ応力グラフを図 19.24 および図 19.25 に示します.





19.13 FEM 歯形応力

ピニオンと VGR ラックの2次元 FEM 歯形応力解析をします. 図 19.26 に FEM 設定画面を,図 19.27 および図 19.28 に応力分布 図を示します.

📙 FEM 解析諸元								
項目	記号	単位	ピニオン	ラック(ローケ・イン)	うっり(パイケ・イン)			
材料記号			SCM440	SCM	440			
縦弾性係数	E	MPa	205800.0	205800	.0			
「ポアソン比」	ν		0.300 0.300		.300			
縦分割数	Vd		12	12	12			
横分割数	Hd		22	23	18			
荷重点位置	Pn		2	2	2			
荷重	Ft	N	611.77 713.25 560.40					
色階調数	nc		100					
変位倍率	Sd		100					
羅定員物別								







※ ラックの修整などに関しては、別途お問い合わせください.

[20] Face gear design system iii



図 20.1 Face gear design system iii

20.1 概要

本ソフトウェアは, Face Gear Design System を新しくした商品 です. 今までオプション扱いしていた機能も一部,基本ソフトウ ェアに含めています,また,軸角は90°以外も計算でき,ピニオ ン歯数1歯(少歯数オプション)にも対応しています.

本ソフトウェアは、ピニオンの歯形(インボリュート)を基に して、それにかみ合うフェースギヤの3次元歯形を決定し、軸角 誤差を与えたときの、かみ合い時の歯当たり(接触距離)や実か み合い率、伝達誤差、すべり速度、そして、すべり率の機能も追 加しました.図 20.1 にソフトウェアの全体画面を示します.

20.2 ソフトウェアの構成

ソフトウェアの構成を表 20.1 に示します. 表中の〇は基本ソフトウェアに含まれ、〇はオプションです.

No.	項目	掲載項	構成
1	ピニオン寸法	20.3	0
2	ギヤ寸法	20.4	0
3	組み図	20.4	0
4	断面図	20.5	0
5	歯形計算	20.6	0
6	歯形、歯すじ修整	20.7	0
7	任意修整	20.7	0
8	歯形レンダリング	20.8	0
9	接触解析	20.9	0
10	歯形出力	20.10	0
11	少歯数	20.12	0
12	設計データ管理		0

表 20.1 ソフトウェアの構成

20.3 ピニオン寸法

図 20.2 にピニオン諸元の設定画面を示します. ピニオン歯数は 6~99 入力できますが、少歯数対応機能(オプション)として 1 ~5 歯入力することができます. 少歯数の設計例は 20.12 項に示し ます.

ねじれ角は 0°~80°までを設定することができ、歯厚入力方 式では、転位係数、またぎ歯厚、オーバーピンそして転位量から 選択することができます.また、面取りは C 面と R 面で設定する ことができます.

図 20.3 にピニオン寸法の計算結果を示します.オーバーピン径 は理論値を表示しますが、使用するピン径に合わせて変更するこ とができます.

🛁 ピニオン寸法(入力1	l)		- • •	
項目	記号	単位	数 値	
歯直角モジュール	mn	mm	1.0000	
歯数	z		9	
歯直角圧力角	αn	deg	20.0000	齿直角时位区数
ねじれ角	β	deg	40 * 0 * 0.00 "	またぎ歯厚
ねじれ方向			右ねじれ 👻	オーバービンオ法
基準円直径	d	mm	11.7487	■転1立量
基礎円直径	db	mm	10.6118	
歯厚入力方式			歯直角転位係数 →	
歯直角転位係数	xn		0.30000	
またぎ歯数	Zm		****	
またぎ歯厚	W	mm	****	
使用ピン径	dp	mm	****	円弧R 👻
オーバーピン寸法	dm	mm	****	面取り無し
転位量	×m	mm	0.3000	HGAR
法線歯厚減少量	fn	mm	0.0000	
歯先円直径	da	mm	14.2000	
歯底円直径	df	mm	9.8487	
歯元(工具刃先)R	Rf	mm	0.3750	
歯幅	Ь	mm	10.0000	
歯先端部形状			円弧R 🖌	- ピニオン寸法(入力1)
歯先R	Ra	mm	0.2000	
歯先0面(縦方向)	Cah	mm	****	
歯先0面(横方向)	Caw	mm	****	Cah
確定 戻す	一棵	準	クリア 閉じる	- I- Caw 1

図 20.2 ピニオン諸元

🚽 ピニオン寸法(結果1)		- • 💌	
項目	記号	単位	数 値
正面モジュール	mt	mm	1.3054
正面圧力角	αt	deg	25.4138
基礎円筒ねじれ角	βb	deg	37.1586
軸方向ビッチ	Pt	mm	4.8875
リード	Pz	mm	43.9871
全歯たけ	h	mm	2.1757
歯切転位係数	×nc		0.3000
最小インボリュート直径(TIF)	dt	mm	10.7575
最大インボリュート直径	dh	mm	14.0591
歯直角円弧歯厚	sn	mm	1.7892
正面円弧歯厚	st	mm	2.3356
またぎ歯数	ZM		2
基準またぎ歯厚	w	mm	10.8047
設計またぎ歯厚	w	mm	10.8047
使用ビン径	dp	mm	1.8694
基準オーバービン寸法	dm	mm	14.8599
設計オーバービン寸法	dm'	mm	14.8599

図 20.3 ピニオン寸法

20.4 フェースギヤ寸法

図 20.4 にフェースギャ諸元設定画面を示します. 軸角入力範囲 は 45°~135°です. オフセットを与えるとフェースギャの歯形 生成に強く影響を及ぼすためフェースギャの外径側には歯先尖り が,また,内径側にはアンダーカットが生じ易くなります. その ため,入力時には注意が必要ですが,標準値および制限値を示し ますので入力は容易です. なお,「刃先 R」はフェースギャを生成 するときの工具の刃先 R を示しています. また,オフセットと内 径,外径の定義を図 20.5 に示し,寸法結果と組み図を図 20.6 およ び図 20.7 に示します. なお,オフセットとねじれ角には制限があ ります.

🚽 ギヤ寸法(入力2) 📃 🗉							
項目	記号	単位	敖 値				
歯 数	Zŝ		46				
オフセット	е	mm	8.0000				
軸角	Σ	deg	90.0000				
クリアランス	cka	mm	0.2500				
クリアランス	ckf	mm	0.2500				
歯直角法線方向バックラッシ	jn	mm	0.1000				
歯先R = 刃元R	ra	mm	0.2000				
歯元R = 刃先R	rf	mm	0.2500				
内端直径	Di	mm	46.0000				
外端直径	Do	mm	56.0000				
確定 戻す 標準 クリア 閉じる							
図 20.4 フェ	<u> </u>	スギ	ヤ諸元				

AMTEC www.amtecinc.co.jp



20.5 断面図

図 20.8 にピニオン歯形を示します.ただし、ピニオンの赤線の 歯形は図 20.2 で設定したピニオン諸元に基いた歯形で、緑線はギ ヤを加工する工具の刃形です.



20.6 歯形計算

ギヤの歯形を計算する際、歯形分割数(図 20.9 参照)と歯幅分 割数(図 20.11 参照)を設定します.このとき、図 20.9 に刃先と がりに発生の有無を表示します.刃先尖りが生じる場合は、フェ ースギヤの歯形を正しく生成することができません.



図 20.9 設定 (フェースギヤ歯形)

歯形計算終了後,図 20.10 を表示します. ピニオンとギヤの位置 (Js, Je)の定義を図 20.12 に示し、ギヤの歯形(断面)の例を図 20.13 に示します.



20.7 歯形・歯すじ修整

歯形および歯すじ修整は図 20.14~20.16 のように定型で与える ことができ,設定した修整を図 20.16 のように表示することがで きます.また,定型で設定した修整は図 20.17 のように任意修整 にデータを引き継ぐことができます.





AMTEC www.amtecinc.co.jp

図 20.17 の任意修整では、歯面の分割や各位置でのデータの変 更が容易であり図 20.17(b)のように修整を色分布で表すことがで きます.本例では、図 20.17 のようにピニオンは無修整とし、ギ ヤに歯面修整を与えるものとします.ここで設定した歯面修整は、 CSV ファイルとして出力することができますし、他で作成した CSV ファイルを読み込むこともできます.



20.8 歯形レンダリング

生成した歯形を図 20.18 のように表示することができます. 歯の接触を確認するため自動回転機能や回転補正,そして軸角に誤差を与え歯の接触を確認することができます.



20.9 接触解析

図 20.19 で接触解析の設定を行い[確定]すると生成した歯形の 伝達誤差解析,歯当たり(接触距離)や、すべり速度を計算しま す.

 ・ ・							
項目 記号 単位 数 値							
角度分割数	N		101				
軸角誤差	ΔΣ	deg	0.0000				
ねじれ角誤差	Δβ	deg	0.0000				
誤差X	Δx	mm	0.0000				
誤差Y	⊿y	mm	0.0000				
誤差Z	⊿z	mm	0.0000				
回転数	n	1/min	600.000				
最大接触距離	L	μum	5.00				
全かみ合い率	εγ		2.29				
確定 戻す クリア 閉じる 参照							

図 20.19 接触解析設定

そして、歯面修整を考慮し、かみ合い接触を基にして全かみ合い率(本例では ε_μ=2.29)を計算します. 伝達誤差解析結果 (TE=0.19μm)を図 20.20 に、フーリエ解析結果を図 20.21 に示します.



歯当たり解析(接触距離)とすべり速度,そして、すべり率を 図 20.22~20.24 に示します.本例では、図 20.17 でギヤに歯面修 整を与えていることから図 20.22 では歯面両端部で接触が弱くな っていることが解ります.また、フェースギヤは、ギヤの外側と 内側で、すべりの差が大きくなることから図 20.23 や図 20.25 で、 すべり速度を確認することができます.なお、伝達誤差や、すべ り速度(率)は、軸の取り付け誤差を与えても解析することがで き、これらは両歯面について解析可能です.







(a)ピニオン





図 20.25 歯当たり解析(接触距離)のセル表示

20.10 歯形出力

生成した歯形を図 20.26 で出力することができます. 図 20.18 の歯形を 3D-IGES で出力し, CAD で作図した例を図 20.27 に示し ます.



図 20.26 歯形出力



20.11 軸角 Σ=120°および Σ=70°の例

ピニオンおよびギヤの諸元を同じとして図 20.28 のように軸角 を Σ =120°としたときの計算例を図 20.29~20.31 に示します.



また、ピニオンおよびギヤの諸元を同じとして図 20.32 のよう に軸角を Σ =70° としたときの計算例を以下に示します.



20.12 少歯数 (オプション)

高減速比を得るためピニオン歯数 $z_1=1$ を設定することができます. ここでは $z_1=2$ とし、ギヤ歯数を $z_2=51$ とした例を以下に示します. また、少歯数の場合でも図 20.28 のように軸角を 90°以外で設計することができます.

🚽 ピニオン寸法(入力)	1)					
項目	記号	単位	数 値			
歯直角モジュール	mn	mm	1.0000			
歯 数	z		2			
歯直角圧力角	αn	deg	20.0000			
ねじれ角	β	deg	70 * 0 ' 0.00 "			
ねじれ方向			右ねじれ 👻			
基準円直径	d	mm	5.8476			
基礎円直径	db	mm	4.0044			
歯厚入力方式			歯直角転位係数 ▼			
歯直角転位係数	xn		0.50000			
またぎ歯数	Zm		****			
またぎ歯厚	W	mm	****			
使用ピン径	dp	mm	****			
オーバーピン寸法	dm	mm	****	ビニオン寸法(結果1)	고문	単位
転位量	×m	mm	0.5000	正面モジュール	nt	nn
法線歯厚減少量	fn	mm	0.0000	正面圧力用 基礎円筒ねじれ角	βb	des des
歯先円直径	da	mm	8.8476	軸方向ビッチ リード	Pt Pz	10 10
歯底円直径	df	mm	4.3476	全面たけ	h	nn
備元(工具刃先)R	Bf	mm	0.3750	最小インボリュート直径(TIF)	dt	10
歯幅	ь	mm	15.0000	最大インボリュート直径 由直角円頭曲厚	dh sn	nn
歯牛端部形状				正面円頭金厚 またまゆめ	st 78	nn
	- De		0.2000	基準またぎ歯厚		nn
IEI 7CK	ка	mm	0.2000	設計またぎ歯厚	*	nn
	O.L	mm	*****	使用ビン径	dp	nn
歯先C面(縦方向)	L Gan			M # 27 - 10 - P 17 #	da	0.0
歯先C面(縦方向)	Can		dalalalah	104+7 - 11 - P1 173	du"	
歯先C面(縦方向) 歯先C面(横方向)	Caw	mm	*****	設計オーバービン寸法	da'	10
歯先C面(縦方向) 歯先C面(横方向)	Caw	mm Bitt		設計オーバービン寸法 測定ビン径 三針寸法(ビン〜歯先)	de' de des	10 10

図 20.36 ピニオン諸元と寸法

🚽 ギヤ寸法(入力2) 📃 🗖						
項目	記号	単位	数 値			
歯 数	Zg		51			
オフセット	е	mm	15.0000			
軸角	Σ	deg	90.0000			
クリアランス	cka	mm	0.2500			
クリアランス	ckf	mm	0.2500			
歯直角法線方向バックラッシ	jn	mm	0.1000			
歯先R = 刃元R	ra	mm	0.2000			
歯元R = 刃先R	rf	mm	0.2500			
内端直径	Di	mm	145.0000			
外端直径	Do	mm	165.0000			
確定 戻す 標準 クリア 閉じる						
N	-	1 1	.=+/			

図 20.37 ギヤ諸元

致他

2.9238 46.7808 62.0091 3.3432 6.6864 2.2500 0.5000 4.3326 8.8018 1.3348 5.6569

0.0000

9.5452 10.2429

AMTEC www.amtecinc.co.jp







1.0

ビニオン回転角

-172.1 -3.0 -0.12

▼ 未接触部

表示形式 シューディング の ワイヤーフレーム

数値 CSV出力

図 20.50 伝達誤差

図 20.52 すべり速度



♥ 未接触書

0.0000

0 0000

0.0000

0.0000

0.0000

600.000

10.00 2.91

図 20.51 接触距離



-0.10

項目

半个回転誤差 半个回転誤差

基本 訓遊 回転 色分

接触距離 最大値 最小値

21081

記号 単位

 χ
 des

 y1
 μ/deg

 y2
 μ rad

 y3
 μ/n

所図:すべり速度:全回転角度

確定 標準

| 布距離

すべり速度 すべり率 n/s 2.3888
 n/s 0.0528

[21] L-Hypoid gear design system



図 21.1 L-Hypoid gear design system

21.1 概要

L-Hypoid gear design system は、寸法、歯形、強度計算をトータ ルに設計することができます.ハイポイドギヤの歯形、歯すじは、 歯切り機械から生成されるものですが、本ソフトウェアでは、球 面インボリュート歯形を持つスパイラルベベルギヤ(大歯車)にオ フセットを与えピニオンの歯形を解析し1組の歯車としています. 図 21.1 に全体画面を示します.

21.2 寸法設定

図 21.2 に寸法設定画面を示します.数値が不明な場合は、標準 値を入力することができ、ねじれ角やオフセット量、工具半径な どを自由に設定することができます.図 21.2 では勾配歯を選択し ていますが、等高歯も設計することができます.

📙 寸法諸元(ANSI/AGMA2005-B88)							
項目	記号	単位	ビニオン	ギヤ			
分類	·		「」「」「」「」」「」「」」「」」「」」「「」」」「」」」「」」」」」」」」	こ 一 一			
円錐形状			標準	テーパ 💌			
「正面モジュール」	mt	mm	6	.00000			
歯数	n,N		11	45			
平均圧力角	Φ	deg	19	.00000 🔻			
オフセット量	E	mm	40.0000				
ねじれ角	Ψ	deg	48.44633				
ねじれ方向			左ねじれ 💌	右ねじれ			
軸角	Σ	deg	90.00000				
歯幅	F	mm	41	.69000			
AGMA精度等級	·		9(JIS= 3) 🔻	9(JIS= 3) 💌			
工具の種類	·	·	Mill	ing 💌			
工具半径	rc	mm(in)	114.300 (4.500) 💌			
切り刃数	NS						
中央円弧歯厚	tn, Tn	mm	9.1000	4.8000			
りリアランス係数	k2			0.1250			
工具刃先R	rt	mm		0.7200			
歯面粗さ	Rmax	μm	10.0000	10.0000			
確定 <mark>キャンセル</mark>							

図 21.2 寸法諸元設定

21.3 寸法計算結果

AGMA2005-B88 規格に基づいてハイポイドギヤの各部寸法を 計算します.図21.3に寸法結果を示します.図21.4の諸元修整で、 歯形の解析精度を設定し、クラウニング、歯形修整、歯先円すい 角、歯たけなどを変更することができます.

_ 寸法結果(ANSI/AGMA2005-B88)					
項目	記号	単位	ビニオン	ギヤ	
中央正面モジュール	mm	mm	5.11101		
凹面圧力角	Φ1	deg	13	.92678	
凸面圧力角	Φ2	deg	24	.07322	
ビッチ円錐頂点の位置	Z	mm		-0.0738	
歯先円錐頂点の位置	Go,Zo	mm	9.9861	-1.2348	
歯底円錐頂点の位置	GR,ZR	mm	13.6969	-0.0738	
外端円錐距離	Ao	mm		141.7191	
中央円錐距離	AmP, AmG	mm	128.1239	120.7213	
基準円直径	d,D	mm	87.9334	270.0000	
外端歯先円直径	do,Do	mm	103.8947	271.6387	
ビッチ円錐角	[γ,Γ]	deg	16.78092	72.28633	
外端歯末のたけ	aoG	mm		2.6929	
外端歯元のたけ	boG	mm		9.2828	
外端有効歯たけ	hk	mm		10.8603	
外端全歯たけ	ht	mm	12.1669	11.9757	
中央歯末のたけ	a	mm	6.7945	2.1288	
中央歯元のたけ	Ь	mm	3.2442	7.9099	
クリアランス	С	mm	1.1154	1.1154	
中央有効歯たけ	h	mm	8.9233		
中央全歯たけ	hm	mm	10	.0387	
歯元角の和	Σδ	deg	5	.28816	
歯元角 しんしょう しんしょ しんしょ	Ô	deg	1.46901	3.74879	
歯末角	a	deg	3.58355	1.53937	
歯底円錐角	γR, ΓR	deg	15.31191	68.53754	
歯先円錐角	γο,Γο	deg	20.36446	73.82570	
90°相当歯数比	m90		3	. 1308	
中央円ビッチ	Pm	mm	16	.0567	
Crossing Point~外端歯先	xo,Xo	mm	129.9617	40.6281	
中央ビッチ円直径	dm	mm	73.9820	229.9956	
中央歯直角円弧歯厚減少量	fn	mm	0.0836	0.0331	
ギヤ外端ねじれ角	ΨoG	deg		35.84757	
中央歯直角キャリパ・歯厚	tnc	mm	8.9767	4.6993	
中央歯直角特別や歯たけ	ac	mm	7.0624	2.1364	
<u>トータルバックラ</u> ッシ		mm	0	. 1664	
中央ねじれ角	ΨP,ΨG	deg	48.44177	29.19668	

図 21.3 寸法結果(標準値)

/ 修整諸元入力				
ビニわ粗さ 密 🖌				▶ 粗
歯幅方向分割数(hu)	3	1 世	aたけ方向分割数(vu	ı) <u>40</u>
項目	記号	単位	▼ ピニオン	▼ # ヤ
歯車歯先 R	Rtip	mm	0.6000	0.6000
外端部りラウニング半径	Crwh	mm	500.0000	270.0000
外端部りラウニンク、量	Crh	mm	0.1000	0.0000
内端部りラウニング半径	Crwt	mm	500.0000	270.0000
内端部りラウニンク、量	Crt	mm	0.0300	0.0000
外端部歯先修整量	Tr	mm	0.0000	0.0000
外端部歯先修整たけ	Th	mm	0.0000	0.0000
歯先円錐角	8 da	deg	20.36446 *	73.82570 *
歯底円錐角	ôf	deg	15.31191 *	68.53754
外端歯末のたけ	aoG	mm		2.6929
外端歯元のたけ	boG	mm		9.2828
外端歯先円直径	do	mm	103.8947	
□ 参考図の表示	M	Æ	teotell Res	et

図 21.4 修整諸元設定

🦰 寸法結果(諸元変更後)				×	
項目	記号	単位	ビニオン	ギヤ	
中央正面モジュール	mm	mm	5.11101		
凹面圧力角	Φ1	deg	13.	.92678	
凸面圧力角	Φ2	deg	24.	.07322	
ビッチ円錐頂点の位置	Z	mm		-0.0738	
歯先円錐頂点の位置	Go,Zo	mm	9,9862	-1.2350	
歯底円錐頂点の位置	GR, ZR	mm	13.6969	-0.0707	
外端円錐距離	Ao	mm		141.7191	
中央円錐距離	AmP, AmG	mm	128.1239	120.7213	
基準円直径	d,D	mm	87.9334	270.0000	
外端歯先円直径	do,Do	mm	103.8947	271.6387	
ビッチ円錐角	[γ,Γ	deg	16.78092	72.28633	
外端歯末のたけ	aoG	mm		2.6929	
外端歯元のたけ	boG	mm		9.2828	
外端有効歯たけ	hk	mm		10.8603	
外端全歯たけ	ht	mm	12.1669	11.9757	
中央歯末のたけ	a	mm	6.7945	2.1286	
中央歯元のたけ	Ь	mm	3.2442	7,9070	
クリアランス	C	mm	1.1154	1.1125	
中央有効歯たけ	h	mm	8,9231		
中央全歯たけ	hm	mm	10.0387		
歯元角の和	Σδ	deg	5.	.21780	
歯元角 しんしょう しんしょ しんしょ	Ô	deg	1.46901	3.74879	
歯末角	α	deg	3.58354	1.53937	
歯底円錐角	γR,ΓR	deg	15.31191	68.53754	
歯先円錐角	γο,Γο	deg	20.36446	73.82570	
90°相当歯数比	m90		3.	.1308	
中央円ビッチ	Pm	mm	16.	.0567	
Crossing Point~外端歯先	xo,Xo	mm	129.9617	40.6281	
中央ビッチ円直径	dm	mm	73.9820	229.9956	
中央歯直角円弧歯厚減少量	fn	mm	0.0836	0.0331	
ギャケ外端ねじれ角	ΨoG	deg		35.84757	
中央歯直角キャリパ。歯厚	tnc	mm	8.9767	4.6993	
中央歯直角キャリパ・歯たけ	ac	mm	7.0624	2.1366	
トータルバックラッシー	j	mm	0.	. 1664	
中央ねじれ角	ΨP,ΨG	deg	48.44177	29.19668	

図 21.5 寸法結果(修整諸元変更後)

21.4組み図

図21.5の寸法計算結果に基づいたハイポイドギヤ寸法を図21.6

に示します.





21.5 強度計算

21.5.1 動力設定

ハイポイドギヤの強度計算は,ANSI/AGMA2003-A86 規格に基づいています.図 21.7 に動力諸元設定を示します.図 21.8 および図 21.9 に,Life Factor グラフを示します.



幾何係数(I,J)の標準値を図 21.10 に示しますが,図 21.11 および図 21.12のグラフを参考にして任意に変更することができます.

🔺 幾何係数			-X
項目	記号	ピニオン	ギヤ
面圧用幾何係数	I	0	1.18698
曲げ用幾何係数	JP,JG	0.25112	0.31410
オフセット係数	E/D	0	.15
🗆 Iのグラフ	□ Jの5	ブラフ [曜定日 キャンセル
		コな米ない画い	(住)(古)

図 21.10 幾何係数(標準値)



図 21.11 幾何係数(I)



図 21.12 幾何係数(J)

21.5.3 材料設定

図 21.13 に材料,熱処理,硬度,許容応力数を設定します.

🦰 材料設定				- • •
<u>ل</u> ال	ニオン材料			ギ ヤ材料
材料名	網		材料名	鋼
材料記号	aaa	à	材料記号	bbb
熱処理	浸炭焼入れ ▼		熱処理	浸炭焼入れ ▼
硬度(HRC)	60		硬度(HRC)	55
許容面圧応	力数(MPa)	1240.0	許容面圧応	力数(MPa) 1240.0
許容曲げ応	力数(MPa)	380.0	許容曲げ応	力数(MPa) 380.0
□ 参考表の	表示	曜	定	引筆性係数

図 21.13 材料設定

21.5.4 強度計算結果

ハイポイドギヤの強度結果を図 21.14 に示します.

4 強度計算結果(ANSI/AGMA2003-A86)						
項目	記号	単位	ビニオン	ギヤ		
歯数比	mG			4.091		
周 速	Vt	m/s		4.604		
効 率	ζ	%	96	3.379		
定格ビニオントルク	TD	N•m	572	2.983		
等価ビニオントルク	TP	N•m	572	2.983		
歯面強さ						
応力調整係数	Cb		(0.634		
内部動荷重係数	Cv		(0.928		
U係数	U		().239		
最小動荷重係数	Cvmin		().238		
重なりかみあい率	mF		2	2.760		
寸法係数	Cs			1.000		
荷重分配係数	Cm			1.200		
歯すじ修正係数	Cxc		1.500			
歯面状態係数	Cf		1.000			
幾何係数	I		0.187			
寿命係数	CL		1.000			
硬さ比係数	CH		1.000			
許容面圧応力数	Sac	MPa	1240.000 1240.000			
面圧応力数	Sc	MPa	731.513	705.027		
許容伝達動力	Pac	k₩	172.414	166.171		
歯面強さの余裕率	SFc		2.874	2.770		
曲げ強さ						
内部動荷重係数	Kv Kv		().928		
寸法係数	Ks		1.000	1.000		
荷重分配係数	Km		1.200			
歯筋曲線係数	K× K		1.061			
幾何係數	J		0.251 0.314			
寿命係数	KL		1.000			
許容曲げ応力数	Sat	MPa	380.000 380.000			
曲げ応力数	St	MPa	252.918	272.534		
許容伝達動力	Pat	k₩	90.152	103.541		
曲げ強さの余裕率	SFt		1.503	1.726		

図 21.14 強度計算結果(曲げ, 面圧)

21.5.5 寿命計算結果

図 21.15 に寿命計算結果を示します.

🦰 寿命計算結果				×	
歯面強さの寿命	記号	単位	ピニオン	ギヤ	
予想寿命係数	CL'		0.590	0.590	
予想寿命負荷回数	Nc	Cycs	5.665E+16	5.665E+16	
予想寿命時間	Lc	hrs	1.574E+13	6.438E+13	
曲げ強さの寿命	記号	単位	ピニオン	ギヤ	
予想寿命係数	KĽ,		0.666	0.717	
予想寿命負荷回数	Nt	cycs	1.000E+07	1.000E+07	
予想寿命時間	Lt	hrs	2.778E+03	1.136E+04	

図21.15 寿命結果

21.6 歯形レンダリング

図21.4 で設定した歯幅方向および歯たけ方向分割数に基づいて 歯形を解析し表示します.図21.16 および図21.17 に歯形レンダリ ングを示します.図21.18 の歯形レンダリングは、図21.17 に加工 カッタを重ね合わせた図です.



図 21.16 歯形レンダリング1



図 21.17 歯形レンダリング 2



図 21.18 歯形レンダリング(カッタ表示)

ここで出力するハイポイドギヤの歯形は、歯切盤によって得られた歯形ではありません。両歯車の歯形は(1)~(3)で決定しています.

- (1) ギヤ(大歯車)を球面インボリュート歯形で出力します.
- (2) 歯すじ曲線は、諸元設定の工具半径で決定します.
- (3) ピニオン(小歯車)の歯形は、ピニオン軸にオフセットを与え、 ギャ歯形とかみ合うように歯形を決定しています.

21.7 CAD ファイル

ピニオンとギヤの歯形は, DXF および IGES ファイルで出力す ることができます.図 21.19 にファイル出力フォームを,図 21.20

および図 21.21 に CAD 作図例を示します.

🦰 ファイル出力	×
歯数	
●ビニオン ○ギヤ	
C DXF 📀 IGES	
◎ 多角形メッシュ	
C 歯幅方向分割	
確定	

図 21.19 ファイル出力



21.8 歯当たり解析 (オプション)

歯当たり解析例を以下に示します. 図 21.22 に歯当たり解析設 定を, 図 21.23 に解析例を示します.

📙 歯当り解析 📃 💌						
項目	記号	単位	モディル			
ギヤ回転角度	θr	deg	0.0000			
ギヤ操作角度	θs	deg	0.0000			
ピニオン角度誤差X	$\Delta \phi \times$	deg	0.0000			
ピニオン角度誤差Y	Δ¢y	deg	0.0000			
ピニオン角度誤差Z	Δ¢z	deg	0.0000			
ピニオン取り付け誤差X	ΔΧ	mm	0.0000			
ピニオン取り付け誤差Y	ΔΥ	mm	0.0000			
ピニオン取り付け誤差Z	ΔZ	mm	0.0000			
ピニオン座標舗の割数	·		1			
ギヤ座標細分割数			1			
食い込み限界距離	「	μm	600			
回転位置分割数	·	·	3			
設定値確認モデル 解析	歯当り	表示	歯当り数値			
○ Iビッチ歯当り(複数の回転位置で計算)						
● 固定位置歯当り(回転角度 θ r位置のみで計算)						
色分布最大距離		μm	600			
じたけ接触歯面 〇 に	රක	۲	凹面			

図 21.22 歯当たり設定



図 21.23 歯当たり

21.9 その他機能

- (1) 軸受け荷重計算
- (2) 設計データの保存, 読み込み
- (3) 印刷(寸法, 強度計算, 組図)
- オプション:歯形測定データの生成 (Zeiss 社3次元測定機用)

[22] CT-FEM ASM(非对称歯形歯車応力解析)



図 22.1 CT-FEM ASM

22.1 概要

非対称歯形歯車は、ギヤの大きさや材料を変更しないで歯面負 荷容量を増大させることができます.高圧力角歯形は標準圧力角 に比べ、ヘルツ応力は低下し、摩擦係数およびすべり率は小さく、 そしてフラッシュ温度を低く抑えることができます.詳しくは 【付録 Ⅱ】をご覧ください.

CT-FEM ASM は,非対称歯形歯車(高強度歯車)のFEM 応力 解析ソフトウェアです. **CT-FEM Opera iii**と同様フラッシュ温度, 摩擦係数,油膜厚さ,スカッフィングや摩耗の発生確率そして寿 命時間の計算ができ,また,歯面端部接触解析や最適歯面修整機 能も付加しています. 図 22.1 に全体画面を示します.

22.2 ソフトウェアの構成

CT-FEM ASM の構成を表 22.1 に示します.表中の〇は,基本 ソフトウェアに含まれ, ◎はオプションです.

適応歯車:インボリュート平,はすば歯車(外歯車,内歯車)

項目	機能
<1>基準ラックの設定(非対称歯形)	0
<2>歯車寸法	0
<3>歯車かみ合い図	0
〈4〉歯面修整	0
<5>3D 応力分布	0
<6>歯面評価(1)	
摩擦係数,油膜厚さ,発熱量,	0
損失動力,PV 値,PVT 値	
<7>スカッフィング発生確率 ⁽¹⁾	0
〈8〉摩耗発生確率⑴	0
<9>寿命時間 ⁽¹⁾	0
<10>効率 ⁽¹⁾	0
<11>3D-FEM 歯形応力解析	0
<12>端部部当たり解析	0
<13>回転伝達誤差解析、フーリエ解析、CSV	0
<14>内歯車	0
<15>最適歯面修整の生成機能	0
	していません.

表 22.1 ソフトウェアの構成

22.3 基準ラックの設定

図 22.2 に設定画面を示します.

- ・歯車の組み合わせ :外歯車×外歯車,外歯車×内歯車
- ・基準ラック : 並歯, 低歯, 特殊
- ・歯先円決定の方式 :標準方式,等クリアランス方式



22.4 歯車寸法

歯車寸法は、各部寸法、かみ合い率、すべり率、歯厚などを計算します. アンダーカットが発生している歯車のかみ合い率は、 TIF (True Involute Form) 径を基準にかみ合い率を決定します.また、歯先に C 面や丸みがある場合は C または R を考慮したかみ 合い率を算出します.

(1)中心距離と転位係数の関係は、以下の3種類です。
 <1>転位係数をピニオンとギヤに与え中心距離を決定
 <2>中心距離を基準として各歯車の転位係数を決定
 <3>転位係数を無視して任意に中心距離を決定

(2)転位係数の設定方式は、以下の3種類です.

<1>転位係数を直接入力

<2>オーバーピン寸法を入力して転位係数を決定

<3>転位量を入力して転位係数を決定

転位係数の入力は、転位係数を直接入力方法以外に、歯厚を基準にして転位係数を逆算することもできます. なお、非対称歯形歯車の「またぎ歯厚」測定はできませんので転位係数の設定方式には含みません. 図 22.3 に諸元設定画面を、図 22.4~22.6 に寸法結果を示します. 図 22.7 に非対称歯形歯車のオーバーボール測定位置図を示します.



歯車寸法 かみ合い寸法	その他				
項目	記号	単位	鼓値(Pinion)	敖値(Gear)	
正面モジュール	mt	m	4.5	303	
正面圧力角	αt	des	33.1803(L) /	' 19.0990(R)	
基礎円筒ねじれ角	βb	des	28.9898(L) /	26.6768(R)	
基礎円直径	db	m	72.0410(L) / 81.3373(R)	155.4569(L) / 175.5173(F	
全歯たけ	h	m	9.0000	9.0000	
歯切転位係数	xnc		0.4500	0.0000	
最小インボリュート直径	dt	m	80.9964(L) / 82.2786(R)	177.1718(L) / 178.7887(F	
最大インボリュート直径	dh	m	96.6753(L) / 96.6753(R)	192.7415(L) / 192.7415(F	
歯直角円弧歯厚	sn	m	7.8727	6.2832	
正面円弧歯厚	st	m	8.9164	7.1161	
オーバービン径	dp	m	7.7738	6.9972	
基準オーバービン寸法	dn	m	101.0832	195.6964	
設計オーバービン寸法	dn'	m	101.0832	195.6964	
3次元オーバーボール図					

図 22.4 寸法結果 1



寸法結果2 図 22.5

🎬 計算結果							
歯車寸法 かみ合い寸法 その他							
項目	記号	単位	敖値(Pinion)	敖値(Gear)			
最大面圧(膜要素応力)	σh	MPa	1817.41				
要素数			40479	32301			
節点数			67718	54266			
最大曲げ応力(σ1)	σ1	MPa	483.08	561.85			
最大曲げ要素番号			21004	23668			
	22.6	≓Lá	当然田の				



22.5 かみ合い図

図 22.8 に正面かみ合い図(左歯面接触)を示します。補助フォ ームで基準円直径や作用線を作図することができ、スクロールバ ーで歯車を回転させることができます.また、歯形を拡大するこ ともできます.



図 22.8 正面かみ合い図

22.6 かみ合いグラフおよびすべり率グラフ

図 22.9 にかみ合いグラフを示します. このグラフでは横軸にピ ニオンの作用線長さを、縦軸にギヤの作用線長さを示しています のでかみ合いの関係が良く解ります. 図 22.9(a)の場合, ピニオン の接触直径が85.853mmのときギヤの接触直径は190.192mmです. また, そのときのピニオンの作用線長さは 23.350mm で, ギヤは 54.786mm です. さらに、図 22.8 の正面かみ合い図と連動させる ことができますので歯のかみ合いも把握することができます.

図 22.10 の回転角度計算(図 22.9 中の[逆算]ボタン)は、接触 直径、作用線長さ、ロールアングルそして回転角度の関係を計算 するための補助計算機能です. また, 図 22.11 にすべり率グラフ を示します.





図 22.11 すべり率グラフ

22.7 歯面要素(入力2)

図 22.12 に歯面要素設定画面を示します. ここではトルクとヤ ング率、ポアソン比そして歯形の分割数を設定します.ヤング率、 ポアソン比をプラスチック材料とすることによりプラスチック歯 車も解析することができます.解析歯形は1歯、3歯、5歯を選択 することができますので、 例題歯車のように全かみ合い率が大き い場合には5歯を選択します.また、ピッチ誤差を与えることが できますので例題歯車では、ピニオンに 6µm のピッチ誤差を与え 解析する例を示します.



22.8 歯形歯すじ入力

定型の歯形修整および歯すじ修整は各々3 種類(Type1~3)あ ります.本例で与えるピニオンの歯形修整を図 22.13 に、歯すじ 修整を図 22.14 に示します.ただし、ギヤは無修整とします.



22.9 3D 任意歯面修整

3D 歯面修整は図 22.15 のように直接入力することもできますし、 図22.13および図22.14で設定した修整を引き継ぐこともできます. 図 22.15 は、図 22.13 と図 22.14 で設定した修整を 3D 表示したも のです(ギヤは無修整のため省略).また、この歯形を CSV ファ イルで出力することも、歯車検査結果データ(CSV ファイル)を 読み込むこともできます.



22.10 歯面要素 3D 図

図 22.15 で設定した歯形を 3D 図で確認することができます. 補 助フォームでは歯車を回転、ズームさせることができ、中心距離 誤差や組み立て誤差角度を設定し、歯当たりを確認することがで きます. 図 22.16(a)は歯面修整を持つ歯形を表示したもので、(b) は、それに理論歯形(ピニオン赤色とギャ青色)を重ねた合わせ た図です.また,図 22.17 に歯面要素メッシュモデルを示します.





歯面要素メッシュモデル 図 22 17

22.11 歯面解析

歯車諸元やトルクそして歯面修整を与えたときの歯面応力を解 析します.解析角度は、1ピッチ角度と最大接触角度の2種類あ ります. ここでは例題として図 22.18 のように最大接触角 (θ_{max}=64.68°)を60分割し、食い違い角誤差をφ₁=0.01°、平行度 誤差を φ₁=-0.001°として計算します.この軸角誤差は、負荷によ り軸受や歯車箱が歪んだときの誤差角であり、この原因により歯 当たりが変化し応力分布に変化を生じさせます.



22.12 歯面応力解析結果

歯面応力解析結果を図22.19に示します.解析の結果、図22.19(a) はピッチ誤差を与えているため同じ歯面応力分布となっていない ことが解ります.同じく(b)は、最大応力を全歯に示したものです.



(a)ピッチ誤差考慮 図 22.19 歯面応力 (σ_{Hmax}=1817MPa)

(b)全歯共通

歯面全体応力分布を図 22.20 に示します. 図 22.21 は, 歯面応力 の最大と最小を示したものであり、最大歯面応力はピニオン回転 角 θ_n =14.247°時であることが解ります.



AMTEC www.amtecinc.co.jp



(a) $\sigma_{\text{Hmax}} = 1814 \text{MPa}(\theta_{p} = 14.25^{\circ})$ (b) $\sigma_{\text{Hmin}} = 1574 \text{MPa}(\theta_{\text{p}} = -13.77^{\circ})$ 図 22.21 歯面応力の最大と最小

歯面全体の応力分布(セル表示)を図 22.22 に示します. 例題 の場合、歯幅方向に98個(歯幅面取り部含む)、歯たけ方向に70 個(歯先面取り含む)の領域の応力を表示しますので歯面位置に おける応力値が解ります.また、ここに表示している応力値は CSV ファイルで出力することができます.

各々の回転角時の応力は、図 22.23 のようにピニオン回転角に 応じた応力分布を連続して表示することができますので応力変化 と接触位置を把握することができます.



22.13 フラッシュ温度, 摩擦係数, 油膜厚さ 他

フラッシュ温度を計算するときの設定画面を図 22.24 に示しま す. ここでは、回転速度、歯面粗さの他に材料(熱伝導率)を選 択します(図 22.25). 潤滑油の種類は鉱物油, 合成油を選択する ことができますが、規格外の場合は、任意に動粘度や油の平均温 度などを設定することができます.フラッシュ温度,摩擦係数, 油膜厚さの計算結果を図 22.26~22.33 に示します. また, スカッ フィング発生確率、摩耗の発生確率を図 22.34 に示します.





図 22.34 損傷確率

22.14 端部解析 (オプション)

22.11~22.13 項ではインボ リュート歯面について解析し ましたが、ここでは歯先や側 面部の端部解析(図 22.35)を した結果を示します.

解析の結果 図 22.36 のよう にピニオン歯元とギヤ歯先に σ_{Hmax} = 4204 MPa もの大きな応 力が発生します. フラッシュ 温度はインボリュート歯面の 解析では図 22.26 のように歯



図 22.35 歯面設定(端部解析)

先部で 42.8℃だったものが端部解析では図 22.37 のようにピニオ ン歯元で172℃に大きく上昇していることが解ります.





22.15 FEM 解析

FEM 解析するため図 22.38 でメッシュモデルを作成します. こ こでは標準モデルでメッシュを作成しますが、設定の方法は歯形 を精度で決める方法と歯形を分割数で決める方法の2通りがあり ます. メッシュ分割した歯形は、図 22.39 のように 2D メッシュモ デルや図 22.40 の 3D メッシュモデルで確認することができます. また, 3D-FEM メッシュ要素は座標と節点を図 22.41 のように表 示することができます.

モデル形状 ● 標準 ○ ハブ付 	固定 ▼ (! ▼ [!	条件 側面固定 底面固定	÷ C)割方法) 精度分割) 個数分割	222	
項目		記号	単位	鼓値(Pinion) 鼓値(Gear)	
歯元分割数		NL1		5	5	
歯面分割数		NL2		5	5	
歯先分割数		NL3		3	3	
側面分割数		hN0		5	5	
底面分割数		wNO		15	15	
底面部直径		dn	mn	61.6753	157.7415	
2次元細分書勝	τ	N		20	20	
細分割直径		dq1	mm	81.6375	192.7415	
細分割直径		dq2	mn	75.6753	171.7415	
確定 戻す 標準 閉じる クリア 参照						

図 22.38 メッシュモデル設定





図 22.40 3D メッシュモデル

図 22.39 2D メッシュモデル

🕌 聚素的点	表						
筋点定標(P)	第五座橋	t(G) 夏:#	招动(P) 景	(年前点(G)			
	要求委告	28.d.1	10.62	10.63	\$1,64	10.65	NA.
1	1	81935	82376	83364	82785	81640	8127
2	2	8 1663	83230	84847	(3548	82444	120
3	3	82.444	84872	85428	84475	83254	1204
4	4	81254	84897	86262	85261	84014	8364
5	5	84034	85619	99184	85324	84815	844
8	6	84805	84206	07404	00514	05435	8611
2	7	85495	88789	87869	87861	86032	1501
1	8	84092	87813	93481	87570	86924	163
3		85624	87813	83361	88852	87122	1631
10	10	87122	88295	89472	88521	87535	1735
11	11	87595	88764	83144	88310	80318	8781
12	12	88038	89215	90183	89418	88474	1625
13	12	81474	83653	90776	89872	888318	1993

図 22.41 FEM メッシュ要素

メッシュモデルは図 22.42 のようにリム・ハブモデルとして生 成することができますのでプラスチック歯車のような弾性率が小 さい歯車には有効です.



次に,図 22.38 で設定したメッシュモデルで FEM 解析をする例 を以下に説明します.

図 22.18 の歯面解析設定で設定した角度(-28.578°~36.102°)を 60 分割していますので歯面応力が最も大きい 0p=14.247°(図 22.21) の角度を選択し FEM 解析します. かみ合い角度内での曲げ応力 の変化を知りたい場合は図22.43の口を全てチェックすれば60組 の曲げ応力を計算することができます(解析数が多いため必要な かみ合い角度のみ選択し計算することが有効).

解析する項目は、図 22.45 に示す応力、変位そしてひずみの 3 種類です. FEM 解析結果を図 22.45~22.48 に示します.



図 22.46 最大主応力

(b) ギヤ σ_{1max} =594MPa



(a)ビニオン ε_{1max} =2.51×10⁻³

図 22.48 ひずみ

図 22.49 の解析結果一覧表でピニオンの最大主応力の最大値 σ_{1max}= 525MPa の要素番号は 31695 ということが解りますので、こ の番号を図 22.50 の「点滅」に入力すると応力分布図(〇印中で ▲が点滅します) で確認することができます.

FEM 解析結果後,図 22.51 のように歯幅方向の任意の位置での 応力を表示することができます.図 22.51 は歯幅中央位置 (zd=-3mm)における応力を示しています。

	R 大値表示	•	確定									
F索応力P()	#Pa) 要索印	5力G(MPa)	節点実位P(μ	 約点更佳 	16(µn) ±7	チチみP 主乙	530					
	要主番号	σ×	бy	σz	₹xy	₹82	₹ zx	σ1	σ2	<i>0</i> 3	σ'n	^
1	31635	423.97	139.66	91.59	196.84	-18.84	-7.01	524.58	92.78	37.85	461.72	
2	31794	444.18	105.63	81.80	174.87	-20.84	-18.03	519.65	83.25	28.67	466.09	
3	31694	405.68	145.92	78.15	202.04	-8.15	19.98	516.53	81.86	32.32	461.44	1
4	31420	472.00	51.10	101.32	73.96	-15.80	-48.52	491.18	95.78	37.54	427.51	1
5	31795	413.87	86.89	78.01	160.81	-14.81	-35.04	484.37	74.45	28.85	433.88	1
8	31421	458.25	45.33	102.85	71.72	-20.07	-65,89	482.87	91.81	31.84	423.98	1
7	31697	375.50	143.17	62.03	187.65	-8.57	-18.01	480.97	61.16	38.57	481.55	1
8	31636	388.35	125.82	60.82	180.19	-5.16	-18,81	480.89	60.54	33.58	484.47	1
9	31793	412.72	\$8.46	92.17	159.41	-8.97	-2.25	479.50	92.99	30.87	421.03	1
10	31419	454.65	46.61	103.97	63.00	-16.48	-43,83	471.30	99.69	34.24	408.23	1
11	31796	400.65	87.09	75.01	156.84	-15.08	-38,69	470.74	71.04	30.97	421.17	1
12	31658	373.3B	110.28	61.30	185.20	-18,89	-20,09	470.42	60.08	14,43	434.96	1.

図 22.49 解析結果一覧



図 22.50 ピニオン σ_{1max} の位置



22.16 寿命時間

歯面応力解析および FEM 解析後に寿命時間を計算します. こ こでは材料の歯面強さに対する許容応力値 σHim=2000MPa とした 寿命時間を図 22.52 に示します.



図 22.52 寿命時間

22.17 回転伝達誤差(オプション)

図 22.18 の歯面解析設定画面で与えた回転角度内での回転伝達 誤差を図 22.53 に、フーリエ解析結果を図 22.54 に示します.



22.18 内歯車の解析 (オプション)

「外歯車×内歯車」の解析結果を図 22.55~22.66 に示します. ピニオンの歯面修整(図 22.14) もトルクも「外歯車×外歯車」 の例(図22.12)と同じにしています.



歯車寸法 かみ合い寸法	その他			
項目	記号	単位	数値(Pinion)	数値(Gear)
正面モジュール	nt	nn	4.5	303
正面圧力角	at	deg	33.1803(L)	/ 19.0990(R)
基礎円簡ねじれ角	βb	deg	23.9898(L)	/ 26.6768(R)
基礎円直径	db	m	72.0410(L) / 81.3373(R)	208.5397(L) / 235.4500(R
全歯たけ	h	m	9.0000	9.0000
歯切転位係数	xnc		0.4500	0.3000
最小インボリュート直径	dt	m	80.9964(L) / 82.2786(R)	244.5654(L) / 244.5654(F
最大インボリュート直径	dh	m	96.6753(L) / 96.6753(R)	260.8589(L) / 260.5543(R
歯直角円弧歯厚	sn	nn	7.8727	5.2235
正面円弧歯厚	st	nn	8.9164	5.9160
オーバービン径	dp	nn	7.0159	6.9299
基準オーバービン寸法	dn	nn	98.8373	241.4933
設計オーバービン寸法	dn'	nn	98.8373	241.4933

図 22.57 寸法結果 1

AMTEC www.amtecinc.co.jp



22.19 最適歯面修整量解析(オプション)

図 22.14 のように歯面修整を一様に決めるのではなくトルク, ピッチ誤差そして軸角誤差を考慮したとき歯面応力が最小となる 修整量を決めることができる機能です.設計条件下での負荷容量 を大きくすることができます.

例として,図22.3 歯車で図22.11のトルクとピッチ誤差,図22.18 の軸角誤差の条件で計算 (4)歯面+修整量解析 した最適歯面修整 を図22.67 および図22.68 に示します.



次に、図 22.67 の歯形で解析した歯面応力の図 22.69 および図 22.70 は、図 22.20 の σ_{Hmax}=2364MPa に比べ 28%低下し、図 22.71 のフラッシュ温度も図 22.26 に比べ 3.6℃低下しています.



T_{ff}=13.9(℃) 図 22.71 フラッシュ温度

※非対称歯形歯車の付録[H]および資料(Web)をご覧下さい.

[23] Hob Chip (切粉形状シミュレーション)



図 23.1 Hob Chip

23.1 概要

Hob Chip は、ホブ切削時における切粉の切取り形状や切取り厚 さの計算や、ホブ切れ刃位置における切取り量をシミュレーショ ンすることができるソフトウェアです. 図 23.1 に全体画面を示し ます.

23.2 歯車諸元入力

歯車諸元を,図23.2に示します.加工方法は,図23.3に示すように「両歯面仕上げ」,「片歯面仕上げ」,「1回削り」の3通りがありますが,本例では1回削りとして計算を進めます.加工歯厚は,「またぎ歯厚」,「オーバーピン寸法」,「円弧歯厚」の内から選択します.本例では,図23.4のように,またぎ歯厚を21.734mmとして計算を進めます.



23.3 ホブ諸元入力

ホブの種類は、「標準」、「セミトッピング」、「プロチュバランス」、

「プロチュバランスセミトッピング」と「転位ホブ」に対応して います.本例では「プロチュバランスホブ」を使用します.図 23.5 で設定するホブの各部寸法は,図 23.6の[参考図](刃先部詳細)で, また,入力後の刃形形状は図 23.7 で確認することができます.





23.4 歯形図

ホブ加工後の歯形を図 23.8 の歯形選択画面で歯形創成図(図 23.9)、歯形軌跡図(図 23.10)、歯形レンダリング(図 23.11)の作図が できます.これらの歯形は、図 23.5 で設定したホブを使用して作 図したものであり図 23.10 の歯形軌跡図からも明らかなようにホ ブのコブ形状を考慮した歯形図となっています.



ホブ加工後の歯車寸法を図 23.12 に示します.本例の場合,面 取りホブでないため面取りは発生していません.また,インボリ ュート開始径(歯面開始径) 43.6343mm は,図 23.13 の歯形軌跡 拡大図で確認することができます.

🎹 加工数値表	Ⅲ 加工数値表							
工具の種類		あフ゛[1						
項目	記号	単位	数值					
半径方向面取り長さ	hp	mm						
円周方向面取り長さ	hk	mm						
面取り開始直径	dh	mm						
歯先幅	Sc	mm	1.2510					
歯面開始径	fd	mm	43.6343					
作用線長さ(dh~fd)	RL	mm	8.0915					
有効歯たけ	he	mm	3.3033					
歯車体積	V	mm3	1.987E+4					
歯先円直径	da	mm	50.2409					
歯底円直径	df	mm	41.2409					
切り込み深さ	h	mm	4.5000					
ホブ取り付け角	βs	deg	-7.3417					
歯面多角形誤差	Δe	mm	0.0011					

図 23.12 ホブ加工数値表



図 23.13 歯形軌跡拡大図

23.5 ホブ加工

23.5.1 ホブ加工条件

ホブ加工の送り方向と送り量を図 23.14 で設定します.本例で はコンベンショナルカットとし,送り量は 1mm/rev としています. ここでホブの取り付け角度を変更(オプション)し,切り屑の形 状の変化を計算することもできます. (23.6 参照)



23.5.2 切削体積

ホブ加工後の全切削体積と同時切削体積のグラフを図 23.15 に 示します. このグラフは, 横軸を切れ刃番号, 縦軸を切削体積 (mm³)にしたグラフです. 同時切削体積とはホブの左右の角部が 同時に切削(ワークと接触)するときの切削体積です. ここでの切 削体積は, ある1つの切れ刃がホブ1回転当たりに1溝を削る体 積です.

切れ刃番号は,ホブの創成中心刃を0として負側の番号は先行刃 (創成中心刃より前に存在する切れ刃)を意味し,正側の番号は後 続刃(創成中心刃より後に続く切れ刃)を意味します.本例の場合, 切れ刃番号は-18から+17までを検討切れ刃としています.

図 23.15 のグラフより,本例の場合には切れ刃番号-2 の刃が全 切削体積も同時切削体積も最大となります.図 23.16 に切削体積 表を示します.



図 23.15 切削体積グラフ

┓ 体積	責数値表(単位:n		۲	
番号	切れ刃番号	全切削体積	同時切削体積	•
18	-1	0.8382	0.4359	
17	-2	0.9116	0.4202	
19	0	0.7332	0.3392	
16	-3	0.9187	0.2992	
20	1	0.6296	0.2624	
21	2	0.5231	0.1902	
- 22	0	0.6161	0.1050	
	22 23	16 切削休	: 1:1:1:1:1:1:1:1:1:1:1:1:1:1:1:1:1:1:1	

図 23.16 切削体積表

23.5.3 切取り厚さ

図 23.15 の切削体積で最大となる切れ刃番号である-2 に着目す ると、切取り形状と切取り厚さは図 23.17 となり、最大切取り厚 さは 114.3µm となります.しかし、切取り厚さが最大となるのは 図 23.18 に示すように切れ刃番号が-5 であり、その厚さは 121.3µm です.



図 23.17 切取り厚さ形状と数値(切れ刃番号-3)



図 23.18 切取り厚さ形状と数値(切れ刃番号-5)

23.5.4 歯溝図

図 23.19~23.26 に, 歯溝を基準として切れ刃が削り取る形状を 切れ刃番号-15 から+13 までを示します. 切れ刃番号と切り粉 (uncut chip)形状の変化が良く解ります.



図 23.19 歯溝図(切れ刃-15)



図 23.20 歯溝図(切れ刃-10)



図 23.25 歯溝図(切れ刃+8)

23.5.5 ホブ刃形と切り粉の関係

切削体積が最大となる切れ刃番号-2において切取り厚さの大き い切れ刃位置を図 23.27 で確認すると、表の最上段列に示すホブ 座標番号の35番目となります.このホブ座標番号の35番目は, 図 23.28 のホブ刃先の赤丸の点で示されます. また, 切取り厚さ が最大となる切れ刃番号が-5 では、ホブ座標番号の43番目とな ります.従って、本例では、切取り体積と切削厚さから推測する と、この位置(図 23.28、図 23.29)でホブの摩耗が大きくなること を予測することができます.



図 23.27 切取り厚さ形状と数値(切れ刃番号-2)



23.6 ホブ取り付け角度誤差(オプション)

ホブに取り付け角度誤差を与えて切りくず計算をすることがで きます. 誤差角度の入力範囲は±2度ですが、大きい誤差角度にな ると計算できないことがありますので適度な誤差角度を入力する 必要があります.

ホブの取り付け角度を変更することにより切り屑の形状が変化 するためドライカットの切削に有効です.

ホブの取り付け角度を変更しても、はすば歯車のリードが変化 することはありません.ただし、加工後の歯形は圧力角が変化し ます.また、転位ホブ歯切りとは異なるため入力した歯車寸法と はなりません. 図 23.30 にホブ取り付け角度誤差の設定画面を示 します.

┗ 計算画面								
┌送り方式			- ホブ取り付け角	誤差———				
 ・ ・ ・	○ なし	● 入力						
項目	記号	単位	ホブ[1]	ホブ[2]				
テーブルー回転あたりの送り量	FO	mm/rev	1.0000	1.0000				
ホブ取り付け角誤差	Δφ	deg	0.0100	****				
一確	確定」送り方向図							

図 23.30 ホブ取り付け角度誤差の設定

23.7 ソフトウェアについて

Hob Chip は、元九州大学工学研究院知能機械システム部門の梅 崎先生が開発した「ホブ切りにおける切取り厚さ数値解析プログ ラム」を計算プログラムとして使用しています.

[24] involute Σ (spur and helical 少歯数対応)



図 24.1 involuteΣ(少歯数歯車)

24.1 概要

involuteΣ(少歯数歯車)は、歯数を1枚、2枚の少歯数歯車に 対応した設計が可能です.図24.1に全体画面を示します.

24.2 歯車寸法諸元

例題数値を図 24.2 としたときの寸法を図 24.3 に示します.

🔼 寸法諸元			_	. • 💌
項目	記号	単位	ピニオン	ギヤ
モジュール	mn	mm	2	.00000
歯数	Z		1	20
圧力角	αn	deg	20	.00000 *
ねじれ角	β	deg	60 0	' <u>0.0</u> "
ねじれ方向		·	右ねじれ	左ねじれ
転位係数	xn		0.50000	0.50000
中心距離	а	mm	43	.92263
法線歯厚減少量	fn	mm	0.20000	0.20000
歯幅	b	mm	12.00000	9.00000
歯先円直径	da	mm	10.00000	86.00000
歯底円直径	df	mm	1.00000	77.00000
測定ビン径	dp	mm	5.000	4.000
歯先R	ra	mm	0.00000	0.00000
	曜	定	キャンセル 推論	育1 推論2

図 24.2 寸法諸元

💈 寸法計算結果				— ×	
正面かみあい圧力角	αw	deg	39 22	2 4	▲
かみあしピッチ門直径	dw	mm	4.1831	83.6622	
歯直角基準円弧歯厚	sn	mm	3.8695	3.8695	
正面基準円弧歯厚	st	mm	7.7391	7.7391	
正面法線ビッチ	pbt	mm	10.	. 1596	
歯直角法線ビッチ	pbn	mm	5.	.9043	٦
かみあい長さ	ga	mm	4	.3657	
正面かみあい率	εα		0.	.4297	
重なりかみあい率	εβ		1.	.2405	
全かみあい率	εγ		1.	.6702	
オペリ座 (告牛)	สัง		0 7556	0 7340	-

図 24.3 寸法結果

24.3 歯形

歯形図を図 24.4~24.7 に示します. 図 24.7 にかみ合い接触線を 観察することができます.



図 24.4 歯形創成







図 24.6 歯形レンダリング 1

図 24.7 歯形レンダリング 2

24.4 すべり率とヘルツ応力グラフ

ピニオン歯数を1とすれば高減速比を得ることができますが、 少歯数の場合、図24.8のようにピニオン歯元で非常に大きなすべ りが発生します.また、図24.9のようにピニオンの歯元で急激な ヘルツ応力が発生しますので慎重な設計が必要です.



24.5 ピニオン歯数2のかみ合い

ピニオン歯数を2としたときの歯形を図24.10~24.13に示しま



24.6 内歯車 (ピニオン歯数2のかみ合い)





※ 歯形出力 (2D-DXF, 3D-IGES), 強度計算等の説明は省略しま す. 詳細は別途お問い合わせください.

[25] involute Gemma



図 25.1 involute Gemma

25.1 概要

involute Gemma は, 大阪精密機械㈱様の歯車測定機 CLP-35/65, GC-1HP)で測定した実データを使用して歯形相対誤差, 歯当たり, 回転伝達誤差をシミュレートすることができるソフトウェアです. 図 25.1 に involute Gemma の画面を, 図 25.2 に CLP-35 の写真を示 します.



図 25.2 歯車測定機(CLP-35:大阪精密機械(株)様ご提供)

25.2 歯車諸元設定

歯車諸元は、図 25.4 の測定データ検索画面から選択します.検 索項目は、日付、歯車の種類(外歯車、内歯車)、モジュール、歯 数、圧力角、歯幅などを検索することができます.駆動歯車と従 動歯車の両歯車を選択して歯車諸元を確定することができますが、 歯厚と中心距離は任意に変更することができます.歯厚は、転位 係数、またぎ歯厚、オーバーピン寸法から選択して入力すること ができます.

図25.5に示すように従動歯車に理論歯車を設定することにより 理論歯車とのかみ合いシミュレーションも可能です.

🞇 歯車諸元				- • •
項目	記号	単位	駆動(外歯車)	従動(外歯車)
諸元名称			FFF 95	RSFR95
歯直角モジュール	mn	mm	1.	.50000
歯 数	Z		86	82
歯直角圧力角	an	deg	14.	.50000
ねじれ角	β	deg	30.	25000
ねじれ方向			右ねじれ	左ねじれ
歯先円直径	da	mm	154.5300	147.6700
基準円直径	d	mm	149.3340	142.3880
基礎円直径	db	mm	143.0600	136.4060
歯幅	Ь	mm	18.0000	18.0000
歯厚入力方式			転位係数 ▼	転位係数 ▼
転位係数	xn		0.00000	転位係数
またぎ歯数	ZM		11	またざ画厚 ビン寸法
またぎ歯厚	W	mm	48.96465	48.93522
測定ビン径	dp	mm	2.4410	2.4440
ピン寸法	dm	mm	152.39916	145.54282
中心距離	8	mm	145.1	3611
		確定	キジ制全て勿	1

図 25.3 歯車諸元

🐉 駆動歯車用測定データ様	索	×		
日付		☑ 歯車諸元		
		検索 キャンル クリア		
	歯車諸元			
選択項目	検索項目	数 値		
● モジュール ト	歯車の種類	外歯車 💌		
日期日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日	モジュール	1.50000		
📋 ฉบิกค 👘				
□ねじれ角(少数点) □ わじわち向				
□ 歯先円直径 -				

図 25.4 測定データの検索

🐉 マスターギヤ			—
項目	記号	単位	従動歯車
歯車の種類		·	外歯車 ▼
歯直角モジュール	mn	mm	1.50000
歯数	Z		
歯直角圧力角	an	deg	14.50000
ねじれ角	β	deg	30.25000
ねじれ方向		·	左ねじれ 💌
転位係数	xn	·	
歯先円直径	da	mm	
基準円直径	d	mm	
基礎円直径	db	mm	
歯幅	Ь	mm	18.00000
ð	崔定	秘	<u> </u>

図 25.5 マスタギヤ設定画面

25.3 誤差グラフ

図 25.3 の「諸元名称」で読み込んだ歯形測定データ(歯形誤差, 歯すじ誤差)をグラフで表示することができます. 誤差倍率も任意 に拡大することができ,測定番号を各々表示することができます. また, グラフ線上にマウスを置くと作用線長さ, 直径, 誤差を表 示します.



25.4 解析諸元

シミュレーションをする際に必要な解析諸元を図25.8で設定します. 例題の場合,解析測定歯番号は平均値を使用し,駆動軸回転方向は,両回転,右回転,左回転の内,両回転を選択します.

また,平行度誤差および食い違い誤差はともに0度とし,接触最 大隙間を1μmとして歯当たりシミュレーションをします.



図 25.8 解析諸元

25.5 相対誤差

図 25.9 および図 25.10 に歯形の相対誤差を表示します.分割数 は、Z 方向 X 方向ともに最大 30 分割の表示をすることができ、 誤差倍率は任意に設定することができます.図 25.9 および図 25.10 の分割数は 9×15 とし,誤差倍率を 500 倍として表示しています.



25.6 歯当たり

図 25.8 の解析諸元で歯当たりシミュレーションした結果,右歯 面の歯当たりを図 25.11 に,左歯面の歯当りを図 25.12 に示します. この歯当たりは,歯幅の中央部よりやや左側に位置していますが, 歯形誤差および歯すじ誤差グラフより妥当な位置であると判断す ることができます.また,歯当たり跡の面積は,図 25.8 の接触最 大隙間数値を大きくすると広くなります.



25.7 回転伝達誤差

図 25.8 の解析諸元で回転伝達誤差を解析した結果,右歯面の 回転伝達誤差は図 25.13 となり,伝達誤差は 5.34(sec)となります. 左歯面の回転伝達誤差は図 25.14 となり伝達誤差は 4.59(sec)とな ります.また,縦軸の単位は(sec)または(µrad)を選択することがで きます.



歯車の全歯測定を行い、回転伝達誤差を解析した例を図 25.15 にそしてフーリエ解析した例を図 25.16に示します.



図 25.15 回転伝達誤差(全歯測定の例)



図 25.16 フーリエ解析(全歯測定の例)

25.8 食い違い誤差を与えた場合の歯当たりと回転伝達誤差

図 25.8 の解析諸元で解析諸元の食い違い誤差を 0.2 度として解析した結果を図 25.17 および図 25.18 に示します.解析結果より, 左歯面の歯当たりは歯幅中央に移動し,回転伝達誤差は 4.59(sec)から 3.63(sec)に小さくなることが解ります.



AMTEC www.amtecinc.co.jp

25.9 内歯車

図 25.19 の外歯車をマスタギヤとして内歯車の歯当たりと回転 伝達誤差シミュレーションの結果を以下に示します.

図 25.20 に内歯車の歯形誤差グラフを、図 25.21 に歯すじ誤差グ ラフを示します. 図 25.22~25.28 に解析諸元と解析結果を示しま す.



図 25.19 歯車諸元



図 25.20 内歯車歯形誤差グラフ



🎇 解析諸元 - 0 -歯形 解析測定歯番号 理論値 ▼ 平均値 ▼ 驱動軸回転方向 両回転 Ŧ 歯形方向分割数 100 歯すじ方向分割数 100 平行誤差(deg) 0.0000 食い違い誤差(deg) 0.0000 歯当たり 計算角度分割数 30 接触最大隙間 (µm) 0.20 回転伝達誤差 計算角度分割数 50 標準値 確定 차池

図 25.22 解析諸元





図 25.25 歯当たり(右歯面)





図 25.26 歯当たり(左歯面)

Tip Side

Root Side

図 25.24 相対誤差(左歯面)

🎖 歯当たり (Driven Gear Left Face) 👝 💷 💌

 Z分割本数
 11 •

 X分割本数
 15 •

0.00 //

Bottor

25.10 解析データ管理

図 25.29 に示しますように解析結果をデータベースに保存する ことができます.また,図 25.30 で管理データ(名称,歯車番号, 図面番号など)または歯車諸元(モジュール,歯数,圧力角など) で検索することができます.



25.11 オプション

- ①1 歯かみ合いにおける歯当たりと回転伝達誤差
- ② ワウ&フラッタと「音」
- ③ 周波数解析
- ④ 回転伝達誤差の CSV 出力
- ⑤ ピッチ誤差を考慮した歯当たりと回転伝達誤差
- (6) ···

25.12 その他

歯車測定機の測定プログラムによっては適応しない場合(旧タ イプの測定プログラム,特殊仕様など)があります.

[26] CGR ラック&ピニオン設計システム



図 26.1 CGR ラック&ピニオン設計システム

26.1 概要

CGR(Constant Gear Ratio)ラック設計システムは、ギヤレシオに 基づいて運動するピニオンとラックの歯形を生成し、強度計算、 FEM歯形応力解析、すべり率グラフ、ヘルツ応力グラフを計算す ることができます.

26.2 ピニオンの諸元入力

ラックとかみ合うピニオンの諸元と、ラックを生成するための ピニオン諸元を入力します.図26.2にピニオン諸元の入力画面を、 図26.3 にピニオンの寸法を示します.

🦯 ピニオン諸元			- • 💌
項目	記号	単位	ビニオン
モジュール	mn	mm	1.85000
歯 数	Z	·	8
圧力角	an	deg	20.00000
ねじれ角	β	deg	25.00000
ねじれ方向		[右ねじれ 💌
基準円直径	d	mm	16.3300
転位係数	xn	·	0.55000
歯先円直径	da	mm	21.0000
歯底円直径	df	mm	14.5000
歯厚減少量	fn	mm	0.0000
歯先 R	Ra	mm	0.5000
基準うっク歯元R係数	Reo		0.3750
測定ビン径	dp	mm	4.5000
軸交差角	Σ	deg	20.00000
曜			

図 26.2 ピニオン諸元の設定

🦰 L° 二水寸法			×
項目	記号	単位	ピニオン
正面圧力角	as	deg	21.88023
またぎ歯数	ZM	·	2
またぎ歯厚	W	mm	9.1624
オーバーセッフ寸法	dm	mm	25.5494
歯末のたけ	ha	mm	2.3350
歯元のたけ	hf	mm	0.9150
正面円ビッチ	Ps	mm	6.4128
歯直角円ビッチ	Pn	mm	5.8119
基礎円直径	db	mm	15.1537
基礎円筒ねじれ角	βb	deg	23.39896
TIF直径	TIF	mm	15.5779
歯直角歯先幅	Sn	mm	0.8969

図 26.3 ピニオンの寸法

26.3 ピニオン歯形図

ピニオン歯形図を図 26.4 に示します. 図 26.5 は、歯形の部分拡 大図です.





26.4 ギヤレシオ

ピニオンの回転角に対するラックゲイン(mm/rev)の数値を設定 します.図 26.6 にギヤレシオの設定グラフです.例題の場合,ラ ックゲインは 50(mm/rev)ですが任意に設定することができます. (1)ストッパ位置の入力

ピニオンの最大回転角度がラック長です.

(2)図中の一点鎖線は、①ころがり円がピニオン歯先円のときのストロークゲイン、②ころがり円がピニオン基準円のときのストロークゲイン、③ころがり円がピニオン基礎円のときのストロークゲインを示します。

(3)グラフ表示後,スクロールバーをスライドさせると上部にピニ オン回転角とラックストローク値を表示します.



299aB76	2993876							
項目	記号	単位	数 値					
ピッチ数(左/右)	N		10 10					
直径	daR	mm	35.0000					
理論中心距離	aÛ	mm	23.0000					
組立中心距離	a	mm	23.0000					
基準ビッチ高さ	ph	mm	31.3175					
歯末のたけ	ha	mm	1.4700					
歯元のたけ	hf	mm	1.7800					
歯先クリアランス	ckt	mm	0.4625					
歯底クリアランス	ckb	mm	0.4625					
法線歯厚減少量	fn	mm	0.0000					
測定ピン径	dp	mm	3.090					
歯先 R	ra	mm	0.2500					
歯元 R	rf	mm	0.7000					
中央位置			山基準 ▼					
中央位置角度	bA	deg	0.0000					
詳細図 確定 10 21 参考図								
図 267 ラックの諸テ設定								

26.5 ラックの諸元設定

ラックの諸元設定画面を図 26.7 に示します. ラックの位置角度 の設定によりラックの基準位置(ピニオン回転角 0°位置)にお ける中央断面の歯形が決まります.また,歯山または谷を選択す ることができます.図 26.8 にラック参考図を,図 26.9 にラック寸 法の計算結果を示します.



AMTEC www.amtecinc.co.jp

26.6 CGR ラックの歯形軌跡図

ラック歯幅中央断面の歯形軌跡図を図 26.10 に示します.



図 26.10 ラックの軌跡図

26.7 レンダリング図

歯形計算終了後,[レンダリング図]ボタンを押すと,ピニオン とラックの歯形かみあい図を表示します.レンダリング図は,座 標軸の角度を変更することにより,視点を変えて観察することが できます.

図 26.11 にピニオン上面から観たレンダリング図を示します. また,図 26.12 のラック背面から観たしたレンダリング図には, かみあい接触線を観察することができます.図 26.11 の右に示す コントロールフォームで,

①座標軸の角度変更
②ズーム
③ワイヤフレーム、シェード表示切り換え
④背景色の設定
⑤ラックストロークチェック(ピニオンまたはラックの移動)

の機能があります.



図 26.11 レンダリング(ピニオン上面から観察)



図 26.12 レンダリング(ラック背面から観察)

26.8 CAD ファイル出力

ピニオンと CGR ラックの歯形を DXF または IGES ファイルで 出力することができます. 図 26.13 にファイル出力設定を示しま す. CAD 作図例を, 図 26.14, 図 26.15 に示します.



図 26.14 CAD 作図(IGES)

(ラック) 図 26.15 CAD 作図(IGES)

26.9 すべり率グラフ

ラックとピニオンのかみ合いにおけるすべり率グラフを図 26.19に示します.



26.10 強度計算

JGMA 強度計算に基づいた計算結果を図 26.17 に示します.

😕 JGMA強度計算諸			-		x			
項目		ピニ	オン			CGR	ラック	
熱処理	高周	「波烁	込れ	-	高周	1)波焼	入れ	•
材料記号	SCM440			•	SCM440			•
心部硬度	HV		263		HV		263	
表面硬度	HV		540		HV		540	
σFlim(MPa)			284.5				284.5	i
σHlim(MPa)			1128.0				1128.0)
JIS精度等級(1976)		3		•		3		•
項目	記者	;	単位		ピニス	わ	CGR5	·))
トルク	T		N-m		70.000		·	-
回車支数	n		rpm		60.000			-
軸受け支持方法					両軸受けに対称 ▼			
寿命繰り返し回数	L					1000000		
歯車の回転方向						正転の	のみ	-
周 速	V		m/s		0.0514			
歯形修整						有	IJ	-
歯面粗さ	Rmac	<	μm	μm 6.		.00	6	.00
負荷時歯当り状況						良	好	•
材料定数係数	ZM		(MPa) ^{0.5}		189	.800	189	.800
潤滑油係数	ZL				1.	.000	1.	.000
過負荷係数	Ко				1.000			
歯元曲げ安全率	SF			1.200				
歯面損傷安全率	SH					1	.150	
	ŀ	産定	<u>+</u> +>>tl					
図 26 17 改 由 社 答 起 二								

図 26.17 強度計算諸元

AMTEC www.amtecinc.co.jp

A JGMA強度計算結果							
項目(曲げ)	記号	単位	ピニオン	CGRラック			
許容曲げ応力	σFlim	MPa	284.500	284.500			
曲げ有効歯幅	b'	mm	23.328	21.478			
歯形係数	YF		1.691	1.359			
荷重分布係数	Yε		0.837	1.024			
ねじれ角係数	Υβ		0.792	0.943			
寿命係数	KL		1.000	1.400			
寸法係数	KF×		1.000	1.000			
動荷重係数	Κv		1.000	1.000			
呼び円周力	Ft	N	8562.657	8784.804			
許容円周力	Ftlim	N	9137.647	10725.229			
曲げ強さ	Sft		1.067	1.221			
歯元曲げ応力	σF	MPa	266.598	233.028			
項目(面圧)	記号	単位	ビニオン	CGRラック			
許容ヘルツ応力	σHlim	MPa	1128.000	1128.000			
面圧有効歯幅	bw	mm	21.478	21.478			
領域係数	ZH		2.294	2.086			
寿命係数	KHL		1.000	1.300			
かみあい率係数	Zε		0.915	1.005			
粗さ係数	ZR		1.002	1.001			
潤滑速度係数	ZV		0.891	0.891			
硬さ比係数	ZW		1.000	1.000			
荷重分布係数	KHβ		1.000	1.000			
動荷重係数	Κv		1.000	1.000			
呼び円周力	Fc	N	8573	.178			
許容円周力	Fclim	N	1679.942	2841.275			
歯面強さ	Sfc		0.196	0.331			
│ ヘルツ応力	σH	MPa	2548.196	1959.401			

図 26.18 強度計算結果

26.11 ヘルツ応力グラフ

ラックとピニオンのかみ合いにおけるヘルツ応力グラフを図 26.19 に示します.



26.12 FEM 歯形応力 (オプション)

ピニオンと CGR ラックの 2 次元 FEM 歯形応力解析をします. 図 26.20 に FEM 設定画面を,図 26.21 および図 26.22 に応力分布 図を示します.

🦂 FEM 解析諸	沅			, • 💌		
項目	記号	単位	ビニオン	CGRラック		
材料記号			SCM440	SCM440		
縦弾性係数	E	MPa	205800.0	205800.0		
ポアソン比	ν		0.300	0.300		
1 縦分割数	٧d		12	12		
横分割数	Hd		22	20		
荷重点位置	Pn		2	2		
荷重	Ft	N	8562.66	8784.80		
色階調数	nc		100			
変位倍率	Sd		100			
躍 定 ++>地						

図 26.20 FEM 解析諸元





※強度計算は、AGMA2001-C95 規格にも対応可能です.別途お問 い合わせ下さい.

[27]インボリュートスプライン寸法設計 (JIS B 1603)



27.1 概要

スプライン寸法設計は, JIS B 1603:1995 規格に基づいています. スプライン形状や、歯厚、はめ合い公差も容易に決めることがで き,設計した歯形をCADデータに出力することもできます.図27. 1に全体画面を示します.

27.2 基準ラック

図 27.2 に基準ラックの設画面を示します.



27.3 諸元入力

図 27.3 の諸元入力画面でモジュール、歯数、圧力角を入力し[標 準値]をクリックすると全ての寸法を設定することができますが, 任意に変更することもできます。歯先形状は、丸みおよび面取り のいずれかを選択することができ、スプラインの歯元形状はフィ レット形状または任意 R を選択することができます.



図 27.3 諸元入力

27.4 スプライン寸法

図27.3で設定した諸元に基づき誤差の許容値、歯厚公差、大径、 小径公差等を図 27.3 のように表示します.



27.5 歯形

図 27.4 に歯形を,図 27.5 にオーバーピン寸法(歯形とピンの位 置)を示します.また、図 27.6 に歯形レンダリングを、図 27.7 に DXF ファイル出力画面を示します.



図 27.7 ファイル出力

[28]傾斜ウォームギヤ設計システム



図 28.1 傾斜ウォームギヤ

28.1 概要

ー般のウォームギヤは、90度直行型ですが、配置の制約からウ オーム軸を若干傾けて取り付けなければならないことがあります. その場合、ホイールのねじれ角や歯形は大きく変わることになり ます.本ソフトウェアは、90度直行型以外のウォームギヤの寸法 および歯形の CAD データ出力、3D 歯形かみ合い、歯車寸法を計 算・表示します.

28.2 基準ラック

図 27.2 に基準ラックの設定画面を示します.歯たけは並歯,低 歯,特殊たけに対応しています.また,歯形基準は歯直角および 軸断面方向基準を選択することができます.ウォームの形式は, A形(1形),K形(3形:オプション),I形(4形:オプション) に対応しています.



28.3 歯車諸元設定

図 27.3 に歯車諸元の入力画面を示します.

- (1) 最大モジュールは25です.
- (2) ウォームの条数は1~6です.
- (3) 軸交差角を設定することができます. (±45 度)
- (4) 歯厚基準は、法線歯厚減少量または横転位を選択することができます。
- (5) ウォームに歯先修整を与えることができます.
- (6) 強度計算は28.6項のように計算することができます.

💈 歯車諸元 (Worm	Type: 3	形)		. • 💌				
項目	記号	単位	ウォーム	ウォームホイール				
歯直角モジュール	mn	mm	1	.00000				
軸/正面モジュール	_mx/mt	mm	1.02062	1.17329				
歯直角圧力角	an	deg	20	.00000				
軸/正面圧力角	ax/at	deg	20.37880	23.12458				
条数, 歯数	Zw,Z2		3 🔻	36				
基準円直径	d,	mm	15.0000	42.2385				
すすみ,ねじれ角	γ,β	deg	11.53696	31.53696				
交差角	Σ	deg	20	.00000				
ねじれ方向			右ねじれ 💌	右ねじれ				
転位係数	,X2			0.00000				
歯厚基準			法線歯厚減少量·					
法線歯厚減少量	fn	mm	0.00000	0.00000				
横転位係数	Xh		0.00000	0.00000				
理論ビン径	dp'	mm	1.7100	1.6886				
加定ビン径	dp	mm	1.8000	1.8000				
のどの直径	, dt	mm		44.2384				
歯先円直径	da	mm	17.0000	46.3450				
歯底円直径	df	mm	12.5000	39.7384				
設計中心距離	a	mm	28	.6193				
歯幅	Ь	mm	16.7000	9.7000				
歯先 R	歯先R Ra mm 0.3000							

図 28.3 歯車諸元

28.4 工具設定と寸法結果

ウォームホイール加工用のホブ諸元を設定します.ウォームが 3型の場合,砥石直径を設定します.ホブの直径およびホブ取付 角によりホイールの歯形は変化します.図28.4に工具諸元設定画 面を,図28.5にウォームギヤの寸法を示します.

Σ 工具諸元										
, <u> </u>	ウォーレ加工用									
項目	記号	単位	数 値							
砥石外径	Gd	mm	300.0000							
クォームホイール加工用										
項目	記号	単位	数 値							
条 数	ZwH	·	3 💌							
基準円直径	dH	mm	18.0000							
すすみ角	γH	deg	9.59407							
取り付け角	βH	deg	21.94289							
取り付け中心距離	aH	mm	30.1193							
刃先R	raH	mm	0.2000							
確定 <mark>キャンゆ</mark> 戻す <mark>クリア</mark>										

図 28.4 工具諸元

∑ 寸法結果				×		
項目	記号	単位	ウォーム	ウォームホイール		
歯末のたけ	ha	mm	1.0000	0.9999		
歯元のたけ	hf	mm	1.2500	1.2501		
全歯たけ	h	mm	2.2500	2.2500		
クリアランス	ck	mm	0.2501	0.2501		
基礎円直径	db	mm		38.8448		
リード	PZ	mm	9.6191	188.0912		
ビッチ	РХ	mm	3.2064	5.2248		
理論中心距離	a	mm	28.6193			
直径係数	Q	·	14.6969			
のど丸み半径	rt	mm		8.0001		
歯底幅	Wn	mm	0.6609			
キャリバ歯たけ	hj	mm	1.0016	1.0106		
理論弦歯厚	Sjo	mm	1.5708	1.5706		
設計弦歯厚	Sj	mm	1.5708	1.5706		
三針寸法(ピン〜歯先)	dma	mm	17.3699			
│ 三針寸法(ピン〜ピン)	dm	mm	17.7399			
「おどったい」す法	dmH	mm		44.9362		
歯直角かみ合い率 εα 3.0239						
「 りィーはイールのど丸み半径rtの変更(干渉対策用)」 確定						

図28.5 ウォームギヤの寸法

AMTEC www.amtecinc.co.jp

28.5 歯形

歯形かみ合い図を図 28.6 に、歯形レンダリングを図 28.7 および 図 28.8 に示します. 図 28.8 ではかみ合い接触線を歯面中央に確認 することができます.



図 28.7 歯形レンダリング1と補助フォーム



28.6 CAD 作図例

生成した歯形を CAD データに出力することができます. 図 28.9 に出力画面を,図 27.10~27.12 にウォームとホイールの CAD 作図例を示します.



図 28.9 歯形データファイル出力



図 28.11 CAD 作図例(3D-IGES),

28.6 強度計算

トルク設定を図 28.12 で設定し,図 28.13 で材料に応じた許容応 力を設定することにより図28.14のように強度結果を表示します.

Σ 樹脂(PA)強度諸ラ	τ(1/3)	_			
項目	記号	単位	ウォーム	ウォームホイール		
トルク	Т	N-m 💌	3.0000	24.8564		
回転数	n	rpm	600.0000	50.0000		
寿命繰り返し回数	L		1000000.	0000		
潤滑状態			グリス 💌			
歯面温度	t	°C	60.0000			
過負荷係数	Kv		1.0000			
有効歯幅	bw	mm	9.7000			
荷重分布係数	Yε		0.3307			
摩擦係数	μ		0.0811			
確定 <mark>キャンセル</mark> 戻す <u>り</u> ルア						

図 28.12 トルク,回転数設定

∑ 樹脂(PA)材料任意	∑ 樹脂(PA)材料任意入力(2/3)							
項目	記号	単位	ウォーム	ウォームホイール				
弾性率	E	MPa	205800.0000	2095.7955				
ポアソン比	ν		0.3000	0.3500				
許容曲げ応力	σb	MPa	200.0000	19.0288				
許容せん断応力	σs	MPa		11.4173				
許容ヘルツ応力	σH	MPa	500.0000	20.2410				
確 定 <mark>キャンは</mark> 戻す <mark>り)7</mark>								

図 28.13 許容応力設定

∑ 樹脂(PA)強度結果(3,	/3)				
項目	記号	単位	ウォーム	93~6#7~10	ウォーム歯直角形状
周速	V	n/s	0.4712	0.1106	/
効 率	ηR		0	6905	
歯直角法線力	Fn	N	1999	.9998	
接線力	Ft	N	400.0000	1134.6052	
軸方向力	Fa	N	1353.0097	838.6336	/ на 🔪
半径方向力	Fr	N	511.6233	511.6233	
曲げ強さ					
歯形係数	YF		0.4380	0.4102	/ ³
最弱新面歯厚	Sj	mn	2.3829	2.2991	
最弱断面歯たけ	Hj	mn	2.1607	2.1476	<u> </u>
潤滑係数	KL		1	.3150	ホイール歯直角形状
曲げ応力	σbt	MPa	111.2484	118.7764	/
安全率(σbt/σb)	Sfb		1.7978	0.1602	/
せん断強さ					
断面積	A	n m²		22.3015	
せん断応力	σst	MPa		27.8687	/ ни \
安全率(σst/σs)	Sfs			0.4097	
ち飯面曲					
曲率半径	ρ	mn	30.6830	17.7010	/ ⁸⁰
ヘルツ応力	σHt	MPa	38	.8742	/
安全率(σ╫/σዘ)	Sfh		12.8620	0.5207	/
csv出力 分力			☞ 曲率半径 🏼 ρ	▶ 最弱断面	歯たけ Hi ▼ 最弱断面歯厚 Sj

図 28.14 強度結果



図 28.15 分力記号
[29] L-Niemann worm gear design system



29.1 L-Niemann worm gear design system

29.1 概要

ウォームの歯形は、直線または凸歯形が多く使用されています が、Niemann は凹歯形を提唱しました。そして台形ウォーム、イ ンボリュートウォームおよび凸歯形ウォームに比較して凹円弧歯 形のウォームの許容円周力はかなり大きくなることを Heyer は比 較実験を行いこのことを証明しています。本ソフトウェアは、 Niemann が提唱した歯形だけでなく任意に歯形半径を与えること ができ、その歯形の CAD データ出力、3D 歯形かみ合い、歯車寸 法を計算・表示します.

29.2 基準ラック

図 29.2 に基準ラックの設定画面を示します. 歯たけは並歯, 低 歯, 特殊たけに対応しています. また, 歯形基準は歯直角および 軸断面方向基準を選択することができます.



29.3 歯車諸元設定

図 29.3 に歯車諸元の入力画面を示します.

- (1) 最大モジュールは25です.
- (2) ウォームの条数は1~6です.
- (3) 軸交差角を設定することができます. (オプション)
- (4) ウォームの凹半径を任意に与えることができます.
- (5) 歯厚基準は、法線歯厚減少量または横転位を選択すること ができます。
- (6) ウォームに歯先修整を与えることができます.

💈 歯車諸元 (Worm Type: L-Niemann) 🛛 🕞 💷						
項目	記号	単位	ウォーム	ウォームホイール		
歯直角モジュール	mn	mm	1	.00000		
軸/正面モジュール	_mx/mt	mm	1.02062	1.02062		
歯直角圧力角	αn	deg	20	.00000		
軸/正面圧力角	ax/at	deg	20.37880	20.37880		
条数,歯数	Zw,Z2		3 🔻	36		
基準円直径	d,	mm	15.0000	36.7423		
「すすみ,ねじれ角」	γ,β	deg	11.53696	11.53696		
交差角	Σ	deg	0.00000			
ねじれ方向			右ねじれ 💌	右ねじれ		
転位係数	,X2			0.00000		
<u></u> ∎R	Rm	mm	15.0000			
歯厚基準			法線歯周	昇減少量 💽		
法線歯厚減少量	fn	mm	0.00000	0.00000		
横転位係数	Xh		0.00000	0.00000		
理論ビン径	dp'	mm	1.7100	1.6979		
測定ビン径	dp	mm	1.8000	1.8000		
のどの直径	, dt	mm		38.7423		
歯先円直径	da	mm	17.0000	40.3145		
歯底円直径	df	mm	12.5000	34.2423		
設計中心距離	a	mm	25	.8712		
山 歯 幅	Ь	mm	16.7000	9.7000		
_ 凿先 R	Ra	mm	0.3000			
🔲 ウォーム歯先修整	き 確定	. ‡ ⊎⊃t	# 標準 戻	र् <u>ग</u> ्र		

図 29.3 歯車諸元

29.4 工具設定と寸法結果

ウォームホイール加工用のホブ諸元を設定します.ホブ取付角の標準値は軸方向ピッチを合わせた角度です.ホブの直径および ホブ取付角によりホイールの歯形は変化します.図 29.4 に工具諸 元設定画面を,図 29.5 に L-Niemann ウォームギヤの寸法を示しま す.

Σ 工具諸元							
ウォームホイール加工用							
項目	記号	単位	数 値				
条数	ZwH		3 💌				
基準円直径	dH	mm	18.0000				
すすみ角	γH	deg	9.59407				
取り付け角	βH	deg	1.94289				
取り付け中心距離	aH	mm	27.3712				
刃先R	raH	mm	0.2000				
確定 <mark>キャン地</mark> 戻す <mark></mark> りア							

図 29.4 工具諸元

Σ 寸法結果				×		
項目	記号	単位	ウォーム	ウォームホイール		
歯末のたけ	ha	mm	1.0000	1.0000		
歯元のたけ	hf	mm	1.2500	1.2500		
全歯たけ	h	mm	2.2500	2.2500		
クリアランス	ck	mm	0.2501	0.2501		
基礎円直径	db	mm		34.4426		
リード	PZ	mm	9.6191	565.4862		
ピッチ	PX	mm	3.2064	15.7080		
理論中心距離	a	mm	25	.8712		
直径係数	Q		14.6969			
のど丸み半径	rt	mm		8.0001		
歯底幅	Wn	mm	0.2704			
キャリバ歯たけ	hj	mm	1.0000	0.9999		
理論弦歯厚	Sjo	mm	1.5708	1.5708		
設計弦歯厚	Sj	mm	1.5708	1.5708		
三針寸法(ピン〜歯先)	dma	mm	17.3769			
│ 三針寸法(ピン〜ピン)	dm	mm	17.7538			
オーバーボール寸法	dmH	mm		39.4840		
歯直角かみ合い率	εα		2	.7593		
「 ウォーレホイールのど丸み半径rtの変更(干渉対策用)」 確定						

図 29.5 L-Niemann ウォームギヤの寸法

29.5 歯形

歯形かみ合い図を図 29.6 に、歯形レンダリングを図 29.7 および 図 29.8 に示します. 図 29.8 ではかみ合い接触線を歯面中央に確認 することができます.



図 29.8 歯形レンダリング 2

29.6 CAD 作図例

生成した歯形を CAD データに出力することができます. 図 29.9 に出力画面を,図 29.10 にウォームとホイールの CAD 作図例 (IGES)を示します.

💈 歯形ファイル出力
○ ウォーム基準2 Dかみあい図(DXF)
○ ホイール基準2 Dかみあい図(DXF)
○ 3 Dかみあい図(DXF)
● ヴォーム(IGES)
🔿 ウォーム柿イール(IGES)
保存 <mark>キャンセル</mark>

図 29.9 歯形データファイル出力



図 29.10 CAD 作図例(3D-IGES)

29.7 軸交差角対応 L-Niemann worm gear (オプション)

軸交差角を 20 度とした場合の設計例を図 29.11 および図 29.12 に示します. また, 歯形図を図 29.13~29.15 に, CAD 作図例を図 29.16~29.17 に示します. 軸交差角は±45 度まで入力可能です.

🗴 歯車諸元 (Worm Type: L-Niemann) 🛛 🕞 💷 🕰						
項目	記号	単位	ウォーム	ウォームホイール		
歯直角モジュール	mn	mm	2.00000			
軸/正面モジュール	mx/mt	mm	2.01008	2.13858		
歯直角圧力角	αn	deg	18	.00000		
軸/正面圧力角	ax/at	deg	18.08479	19.15889		
条数, 歯数	Zw,Z2		1 💌	35		
基準円直径	d,	mm	20.0000	74.8501		
すすみ,ねじれ角	γ,β	deg	5.73917	20.73917		
交差角	Σ	deg	15.00000			
ねじれ方向			右ねじれ 💌	右ねじれ		
転位係数	,X2			0.00000		
<u></u> ∎R	Rm	mm	20.0000			
歯厚基準			法線歯厚減少量 ▼			
法線歯厚減少量	fn	mm	0.80000	-0.80000		
横転位係数	Xh	·	-0.42058	0.42058		
理論ビン径	dp'	mm	3.3220	3.3447		
測定ビン径	dp	mm	3.0000	3.0000		
のどの直径	,dt	mm		78.8503		
歯先円直径	da	mm	24.0000	82.3351		
歯底円直径	df	mm	15.0000	69.8503		
設計中心距離	a	mm	47.4251			
歯幅	Ь	mm	32.8000	15.2000		
歯先 R	Ra	mm	0.2000			
□ ウォーム歯先修動	隆 [確定]	. ‡ ⊎yt	り 標準 戻	<u>לא אין אין אין אין אין אין אין אין אין אי</u>		

図 29.11 歯車諸元 1

∑ 寸法結果				- ×	
項目	記号	単位	ウォーム	ウォームホィール	
歯末のたけ	ha	mm	2.0000	2.0001	
歯元のたけ	hf	mm	2.5000	2.4999	
	h	mm	4.5000	4.5000	
クリアランス	ck	mm	0.4999	0.4999	
基礎円直径	db	mm		70.7043	
リード	PZ	mm	6.3149	583.7049	
ビッチ	РХ	mm	6.3149	16.6773	
理論中心距離	a	mm	47.4251		
直径係数	Q		9.9499		
のど丸み半径	rt	mm		9.0000	
歯底幅	Wn	mm	1.4352		
キャリバ歯たけ	hj	mm	2.0000	2.0001	
理論弦歯厚	Sjo	mm	3.1416	3.1416	
設計弦歯厚	Sj	mm	2.3004	3.9828	
三針寸法(ピン〜歯先)	dma	mm	22.4528		
三針寸法(ピン〜ピン)	dm	mm	20.9056		
「おどっずつけ法」	dmH	mm		80.3518	
歯直角かみ合い率	εα		3	.1098	
□ ウォームホイールのど丸み半径rtの変更(干渉対策用)) 確定					

図 29.12 歯車寸法







29.7 傾斜角度が-20度の設計例

軸交差角を-20 度とした場合の諸元設定を図 29.18 に,工具諸元 と寸法を図 29.18,図 29.20 にそして歯形レンダリングを図 29.21 に示します.ウォームねじれ方向と交差角を逆にすると接触線は 同方向に比べ長くなっていることが解ります.

図 29.17 CAD 作図例

💈 歯車諸元 (Worm Type: L-Niemann) 🛛 💼 💽						
項目	記号	単位	ウォーム	ウォームホイール		
「歯直角モジュール」	mn	mm	1.00000			
軸/正面モジュール	_mx/mt	mm	1.02062	1.01101		
歯直角圧力角	۵n	deg	20	.00000		
軸/正面圧力角	ax/at	deg	20.37880	20.20246		
条数,歯数	Zw,Z2		3 💌	36		
基準円直径	d,	mm	15.0000	36.3963		
すすみ,ねじれ角	γ,β	deg	11.53696	-8.46304		
交差角	Σ	deg	-20.00000			
ねじれ方向			右ねじれ 💌	左ねじれ		
転位係数	,X2			0.00000		
<u></u> ∎R	Rm	mm	15.0000			
歯厚基準			法線歯厚減少量 ▼			
法線歯厚減少量	fn	mm	0.00000	0.00000		
横転位係数	Xh		0.00000	0.00000		
理論ビン径	dp'	mm	1.7100	1.6987		
測定ビン径	dp	mm	2.0000	2.0000		
のどの直径	, dt	mm		38.3964		
歯先円直径	da	mm	17.0000	39.9348		
歯底円直径	df	mm	12.5000	33.8964		
設計中心距離	a	mm	25	.6982		
歯幅	Ь	mm	16.7000	9.7000		
歯先 R	Ra	mm	0.3000			
□ ウォーム歯先修動	□ ウォーム歯先修整 [確定] ++/地 [標準] 戻す					

図 29.18 歯車諸元 2

Σ 工具諸元			×					
項目	記号	単位	数 値					
条数	ZwH		3 💌					
基準円直径	dH	mm	16.0000					
すすみ角	γH	deg	10.80692					
取り付け角	βH	deg	-19.26996					
取り付け中心距離	aH	mm	26.1982					
刃先R	raH	mm	0.3000					
確定 <mark>キャンセル</mark> 戻す <mark>クリア</mark>								

図 29.19 工具諸元

Σ 寸法結果				×		
項目	記号	単位	ウォーム	ウォームホイール		
歯末のたけ	ha	mm	1.0000	1.0001		
歯元のたけ	hf	mm	1.2500	1.2500		
全歯たけ	h	mm	2.2500	2.2500		
クリアランス	ck	mm	0.2500	0.2500		
基礎円直径	db	mm		34.1571		
リード	PZ	mm	9.6191	-775.7791		
ピッチ	PX	mm	3.2064	-21.5494		
理論中心距離	a	mm	25	.6982		
直径係数	Q		14.6969			
のど丸み半径	rt	mm		7.0000		
歯底幅	۳n	mm	0.2728			
キャリパ歯たけ	hj	mm	1.0000	1.0000		
理論弦歯厚	Sjo	mm	1.5708	1.5708		
設計弦歯厚	Sj	mm	1.5708	1.5708		
三針寸法(ピ)~歯先)	dma.	mm	17.7893			
三針寸法(ピン~ピン)	dm	mm	18.5786			
われず利寸法	dmH	mm		39.8937		
歯直角かみ合い率	εα		2	.7426		
□ ウォーレホイールのど丸み半径rtの変更(干渉対策用) 確定						

図 29.20 歯車寸法



図 29.21 歯形レンダリング

AMTEC www.amtecinc.co.jp

[30] Tapered and crossed gear design system



⊠ 30.1 Tapered and crossed gear

30.1 概要

Tapered and crossed gear design system は、平行軸歯車の組み合わ せではなく、軸交差角を持つインボリュート歯車を設計するソフ トウェアです.ピニオンは修整を与えない歯車であり、これに軸 角を持つ相手歯車の理論歯形の生成と、ねじ状砥石で研削するこ とを前提として、砥石歯形の決定および砥石の運動を決め研削後 の歯形を解析します.そして、ピニオン歯形と研削後の歯形また はギヤの理論歯形をかみ合わせることにより、かみ合い接触線や 歯当たりを確認することができます.図 30.1 に全体画面を示しま す.

30.2 歯車諸元入力

図 30.2 に, 歯車諸元(ピニオン)の入力画面を, 図 30.3 にピニオンの歯形を示します.諸元入力は, 円筒歯車と同じです.



30.3 ギヤ諸元の設定

図 30.4 に、ギヤ諸元の入力画面を示します. 図 30.2 で与えたピ ニオンに、かみ合うギヤの諸元を設定します. ここで入力するバ ックラッシは一対歯車としてのバックラッシです. 図 30.3 で与え たピニオンの歯厚減少量を考慮してギヤの歯厚減少量を決定しま す. なお、入力諸元項目および基準歯幅位置は「記号参照」ボタ ンで確認することができます.

図 30.4 に、ギヤの歯形を決定する際に基準とする歯形分割数 と歯幅分割数を示します. 例題では歯形、歯幅ともに 41 分割とし てピニオンとかみ合うギヤの理論歯形を計算します.

🚽 ギヤ歯車諸元入力(特殊歯車) 💦 🗖 📃 🗾							
項目	記号	単位	ギヤ(特殊歯車)				
歯 数	Zξ		37				
軸交差角	¢с	deg	10.000000				
テーパ角	φt	deg	5.000000				
法線方向バックラッシー	Jn	mm	0.1500				
歯幅	Ь	mm	40.0000				
基準歯幅位置	ЬGO	mm	20.0000				
左側面歯先円直径	daL	mm	135.2562				
歯幅分割数	БNO		41				
歯面分割数	hNO		41				
麗定 元に戻す 別ア 閉じる							
[記号参照(テーパ寸法)] 記号参照(分割数)							
		1.714					

図 30.4 ギヤ歯車諸元入力



図 30.5 分割数

30.4 組み図

図 30.6 に歯車組図を示します.



30.5 歯形レンダリング

図 30.7 に歯形レンダリング画面を示します. この画面のギヤの 歯形は,理論歯形ですが,図 30.8 は研削後のギヤとピニオンのか み合いです. 図中に綺麗な接触線を確認することができます. 表 示画像は,コントロールフォームで回転角や観察位置を変更する ことができ,ねじ状砥石とギヤを研削している歯形レンダリング 画面(図 30.9)では,ねじ状砥石とギヤの研削線を確認することが できます.



ピニオンとギヤ(理論歯形)のかみ合い 図 30.7 歯形レンダリング 1



30.6 砥石基準寸法入力

図 30.10 に、ねじ状砥石の設定画面を示します. ここでは、ね じ状砥石形状および加工基準を設定します. 画面に示す「△ギヤ 回転」とは、ピニオン歯面とかみ合うギヤの歯面を研削する際、 歯車(テーブル)に微小な回転調整を与える方法を採用すること を意味します. また、砥石の追い込みは、歯車と砥石の軸間調整 を行いギヤの歯面を仕上げます.

ピニオンにかみ合うギヤの理論歯形を、ねじ状砥石で研削するため図 30.10の条件から砥石の歯形は図 30.11に示す形状となり、砥石歯形は DXF ファイルで出力することができます.







30.7 砥石追い込み線図

図 30.12 に砥石の追い込み線図を示します. 例題の場合, △ギ ヤ回転(テーブル回転)と砥石と歯車の軸間調整を許可しています ので両者の運動でギヤの歯面を仕上げます. また, 図 30.12 の線 図は, Z 方向位置(歯幅方向)が, -31.872mm のとき砥石追い込み量 は, -0.0004mm でありテーブル規定の回転角に-0.0027(deg)を与え 研削していることになります. この線図と歯車および砥石の位置 関係は, 図 30.12 下方のスライドバーを移動することにより, 図 30.13 のギヤと砥石の位置関係図で確認することができます.また, 砥石の追い込み量とギヤの∠回転角は[CSV]ファイルに出力する ことができます.





図 30.13 ギヤと砥石の位置関係

30.8 研削後の歯形

研削後の歯幅中央の歯形(No.21)を図 30.14 に示します. 歯幅端 部の歯形と, 歯幅中央の歯形はわずかですが変化します. 図 30.14 のピッチ円部を拡大すると理論歯形と加工後の歯形に 0.0044mm の差がありますが, 理論歯形と研削後の歯形を重ねた 図 30.15 に示すように両者の歯形は, ほぼ同じです.



図 30.14 研削後の歯形と理論歯形(No.21)

AMTEC www.amtecinc.co.jp



図 30.15 歯形(Topography)

30.9 歯当たり

歯当たり解析の設定画面を図 30.16 に、歯当たり解析結果を図 30.17 に示します. そして図 30.18 に接触距離を色分布表示した画 面を示します. 例題歯車の場合,この歯当たり解析結果から、平 行軸はすば歯車のように両端部まで接触線を確保することができ ます.

以上のように、ねじ状砥石を図 30.12 の線図に従って研削する と、平行軸はすば歯車のように長い接触線を持つテーパギヤを設 計(製造)することができます.また、ギヤの理論歯形を金型で 製造する方法でも良好な歯当たりを持つ歯車が得られます.



図 30.16 歯当たり解析(設定)



図 30.17 歯当たり解析(歯の接触)



図 30.18 歯当たり解析(接触数値)

30.10 歯形出力

歯形出力は、砥石歯形、理論歯形(ピニオン、ギヤ)そしてねじ 状砥石で研削したギヤの歯形を DXF または IGES ファイルで出力 することができます. 図 30.19 に、ねじ状砥石で研削した歯形を 3D-IGES 出力し CAD で作図した例を示します.



30.11 計算例

本ソフトウェアを用いて ASME DETC2003・PTG-48089 で発表 された自動車用歯車(欧州メーカ)の歯当たりを検証すると図 30.20 のように B 社のほうが良好な歯当たりを有していることが 解ります.





m3, z1=27, z2=27, a=20°, m2.5, z1=3 β=28°, Σ=8.0° β=29 (a) A 社 図 30.20 歯当たり確認

m2.5, z1=31, z2=29, α=17.5°, β=29.5°, Σ=8.6° (b) B 社

[31]AGMA925-A03 (Scoring)

Effect of Lubrication on Gear Surface Distress



図 31.1 AGMA925-A03

31.1 概要

AGMA925-A03:2003:2003 の規格に基づいて歯車歯面損傷に対 する潤滑効果を評価します.

(1)適用規格

AGMA925-A03 Effect of Lubrication on Gear Surface Distress (2)歯車の種類

インボリュート平,はすば歯車(外歯車,内歯車)

31.2 歯車諸元入力

図 31.2 に歯車諸元入力の画面を示します.

歯車諸元入力は, AGMA925-A03 の[Annex A Flow chart for evaluating scuffing risk and oil film thickness] に基づいています.

A Geometry data						
Description	Symbol	Pinion	Gear	Unit		
Input unit		S	I 🗾			
Output unit		S	I 🗾			
Gear type		Exte	rnal 💌			
Driving member		Ge	ar 💌			
Nomal module	mn	4	.00000	mm		
Number of teeth	z1,z2	21	26			
Normal generating pressure angle	αn	20	.00000	deg		
Helix angle	β	0.00000		deg		
Helix direction		**	****			
Operating center distance	aw	96	.00000	mm		
Standard outside radius	ra1,ra2	46.57090	57.27700	mm		
Face width	b	66	.04000	mm		
Profile modification		hi	load 💌			
	OK Canc	el Clear				

図 31.2 歯車諸元入力

31.3 材料データ設定

図 31.3 に材料データ設定画面を示します.

使用する材料,ヤング率,ポアソン比,歯面粗さなどを設定します.

A Material data						
Description	Symbol	Pinion	Gear	Unit		
Modulus of elasticity	E1,E2	206842.71880	206842.71880	N/mm²		
Poisson's ratio	v1,v2	0.30000	0.30000			
Average surface roughness at Lx	Ra1x,Ra2x	0.50800	0.50800	μm		
Filter cutoff of wavelength x	Lx	0	.80000	mm		
Method for approximating mean coef. friction	µmet	AGMA217.01[7]a	nd Kelley[2] 💌			
Mean coefficient friction, constant	µm const	0.	. 10900			
Welding factor	Xw	1.	.00000			
OK Cancel Clear						

図 31.3 材料データ設定

31.4 荷重データ設定

図 31.4 に荷重データ設定画面を示します. かみあいにおける伝達動力,回転数及び係数を設定します.

🖌 Load data 📃 📼 💌						
Description	Symbol	Value	Unit			
Transmitted power	P	20.61944	k₩			
Pinion speed	n1	308.57000	rpm			
Overload factor	Ко	1.00000				
Load distribution factor	Km	1.40000				
Dynamic factor	Kv	1.06383				
Cancel Clear						

図 31.4 荷重データ設定

31.5 潤滑条件設定

図 31.5 に潤滑条件設定画面を示します.

歯車の潤滑条件として潤滑油の種類、ISO グレード番号を選択し 設定します.

A Lubrication data			• 💌
Description	Symbol	Value	Unit
Lubricant type		Mineral oil 💌	
ISO viscosity grade number		460 💌	
Kinematic viscosity at 40 deg C	ν40	407.00000	nm²/s
Temperature at which $\eta 1$ was determined	θ1	40.00000	°C
Temperature at which 7/2 was determined	θ 2	100.00000	°C
Dynamic viscosity at temperature θ 1	η1	27.17816	nm²/s
Dynamic viscosity at temperature θ 2	η2 	4.29418	nm²/s
Parameter for calculating $lpha$	k	0.010471	
Parameter for calculating $lpha$	S	0.134800	
	DK Cance	Clear	

図 31.5 潤滑条件設定

31.6 温度条件設定

図 31.6 に温度条件設定画面を示します. 歯車の歯の温度,オイルの温度などの諸条件及び計算方式を設定 します.

Description	Symbol	Pinion	Gear	Unit
Select ØN input type		Input tooth	temperature 💌	
Tooth temperature	θH	82	.22222	10
Thermal contact coefficient	BM1, BW2	16.53373	16.53373	N/[nm s*.5K]
Oil inlet or sump temperature	0 oil	71	.11111	°C
Parameter for calculating tooth temperature	ksunp	1.0 if sp	lash lube 💌	
Select n∥ input type		Input	71년 💌	
Dynamic viscosity at gear tooth temperature	21	43	.00000	nPa·s
Select a input type		Input pressure	-viscosity o 💌	
Pressure-viscosity coefficient	a	0	.02205	nm²/N
Method of calculating scuffing temperature	0 Snet	EP gear oil in	accordance 💌	
Scuffing temperature	θS	316	.29084	°C
Maximum flash temperatrue of test gears	θflMax,test	888	84	10
Tooth temperature of test gear	0 H, test	88	84	°C
Number of calculation points		25		

図 31.6 温度条件設定

31.7 計算結果 1(Geometry)

図 31.7 に Geometry 計算結果を示します.



図 31.7 Geometry の計算結果

31.8 計算結果 1(Gear tooth velocity and loads)

図 31.8 に Gear tooth velocity and load 計算結果を示します.

A Result 1				• 💌	
GEONETRY CALCULATION	GEAR	TOOTH VELOCITY	AND LOADS		
MATERIAL PROPERTY AND TOOTH SURFACE FINISH	All				
GEAR TODTH VELOCITY AND LOADS					
Description	Symbol	Pinion	Gear	Unit	
Angular velocity	ω1, ω2	32.313375	26.099264	rad/s	
Operating pitch line velocity	vt	1.	386038	n/s	
Nominal tangential load	Ftnom	14876.	538066	N	
Combined derating factor	KD	1.	489362		
Actual tangential load	Ft	22156.	550486	N	
Normal operating load	Fwn	24080.	178937	N	
Normal unit load	wn	364.	630208	N/nn	

図 31.8 Gear tooth velocity and load 計算結果

31.9 計算結果 1(Material property and tooth surface finish)

図 31.9 に Material property and tooth surface finish 計算結果を示します.

A Result 1		-	• 🗙		
GEOMETRY CALCULATION GEAR TOOTH VELOCITY AND LOADS					
MATERIAL PROPERTY AND TOOTH SURFACE FINISH ATT					
MATERIAL PROPERTY AND TOOTH SURFACE FINISH					
Description	Symbol	Value	Unit		
Reduced modulus of elasticity	Er	227299.690989	N/mm ²		
Average of pinion and gear average roughness	Ravex	0.508000	μm		
Surface roughness constant	CRavgx	1.816720			
Composite surface roughness at filter cuttoff	σ×	0.718420	μm		
)					

🗵 31.9 Material property and tooth surface finish

31.10 計算結果 2

図 31.10 に計算結果 2 を示します.

各かみ合い点における Load sharing ratio, Flash temperature および Film thickness の数値を表で出力します.



図 31.10 計算結果 2

31.11 グラフ(Load sharing factor)

図 31.11 にグラフ(Load sharing factor)を示します.



⊠ 31.11 Load sharing factor

31.12 グラフ(Contact temperature)

図 31.12 にグラフ(Contact temperature)を示します.



⊠ 31.12 Contact temperature

31.13 グラフ(Central film thickness)

図 31.13 にグラフ(Central film thickness)を示します.



図 31.13 Central film thickness

31.14 グラフ(Rolling velocities)

図 31.14 にグラフ(Rolling velocities)を示します.



⊠ 31.14 Rolling velocities

31.15 計算結果(Scuffing と摩耗の確率)

図 31.15 に Scuffing と摩耗の確率を示します.

**** Risk of scuffing ****	Symbol	Val	ue	Unit
Method of calculating scuffing temperature	0 smet	2.	000000	
Mean scuffing temperature	θs	316.	290835	°C
**** Probability of scuffing ****	Symbol	Value		
Maximum contact temperature	y i	107.	868819	°C
Mean scuffing temperature	μγ	316.	290835	°C
Approx. standard deviation of scuffing temp.	σγ	47.	443625	°C
Standard normal variable, x =	(y-μy)/σy	-4.	393046	
Probability of scuffing		Pscuff = 5%	or lower	
Based on AGMA925-A03 Table 5, scuffing risk	· [Lo	w	
**** Risk of wear ****	Symbol	Pinion	Gear	Unit
Average surface roughness	Ra1x,Ra2x	0.508000	0.508000	μm
Average surface roughness (rms)	Rq1x,Rq2x	0.563880	0.563880	μm
Arithmetic average of rms roughness	Rqxavg	0.	563880	μm
Minimum specific film thickness	λmin	0.	425408	
Pitchline velocity is less than 5 m/s	vt 🛛	1.	386038	m/s
Mean min. specific film thk. (eq. 110)	μλMin	0.	215956	
Std. dev. of min. spec. film thk. (eq. 111)	σλMin	0.	112623	
**** Probability of wear ****	Symbol	Val	ue	Unit
Minimum specific film thickness	У	0.	425408	
Mean minimum specific film thickness	μγ	0.	215956	
mour arrithman opport to this chickloss		0	112623	
Standard deviation of the min. specific film	σγ	υ.	112020	
Standard deviation of the min. specific film Standard normal variable, x =	σy (y-μy)/σy	1.	859753	

図 31.15 Scuffing と摩耗の確率

※表示桁数は、規格に準じています.

[32]正弦歯形歯車設計システム



図 32.1 正弦歯形歯車設計システム

32.1 概要

古くからポンプギヤ用として提案されてきた正弦曲線で構成さ れる歯形を基準ラックとする歯車(以下,正弦歯形歯車)は、イ ンボリュート歯車に比べすべり率が小さいため動力損失が小さく なります.そのため、かみ合い時の摩擦発熱量が減少し、歯の温 度上昇も押さえられると考えることができる.このことから、プ ラスチック歯車の温度上昇に伴うプラスチック材料の許容曲げ応 力の低下も小さくなりプラスチック歯車の負荷容量も大きくなる と期待できます.

また,正弦歯形歯車のかみ合いは,インボリュート歯車に比べ, かみ合い点における相対曲率が小さく,歯の幾何形状についても 危険断面における歯厚が大きいことなどから歯面接触応力,歯元 曲げ応力の低下をもたらし,負荷容量増加に有利に働くことも期 待できます.以上の理由により用途によっては有効な歯形である と考えています.

32.2 歯車の種類と歯形

(1)歯車の種類 : 外歯車(平歯車およびはすば歯車)(2)歯 形 : 正弦曲線歯形

32.3 基準ラック

正弦歯形歯車の基準ラックを図 32.2 に示します.基準ラックの 歯溝を切れ刃とするカウンタラック(ホブ等)が創成する歯形を 歯数毎に求めることができ,このカウンタラックによって創成し た正面歯形を基に成形研削も容易に可能です.



32.4 歯車諸元入力

図 32.3 に、歯車諸元の入力画面を示します. 正弦歯形歯車の転 位係数の和は常に0 でなければなりません.

/ 歯車諸元入力 🛛 🗖 🔍 🔁						
□ 転位係数を任意に入力(「xt1」+「xt2」=0の時のみかみ合います。)						
項目	記号	単位	Pinion	Gear		
正面モジュール	mt	mm	1.	0000		
歯 数	Z		15	40		
ねじれ角	β	deg	20 * 0	, 0.00 "		
ねじれ方向			右ねじれ 💌	左ねじれ		
基準円直径	d	mm	15.0000	40.0000		
$Y = A \cdot \sin \theta$	A		1.	250000		
転位係数	×t		0.12000	-0.12000		
歯先クリアランス	cka	mm	0.2500	0.2500		
歯先円直径	da	mm	17.2400	41.7600		
歯底円直径	df	mm	12.7400	37.2600		
円弧歯厚減少量	fr	mm	0.0500	0.0500		
歯先R	Ra	mm	0.0000	0.0000		
歯幅	Ь	mm	8.0000	8.0000		
確定 元に	灵す	<i>5</i> 97	閉じる うめ	参照 入力参照		

図 32.3 歯車諸元

32.5 歯車寸法

歯車寸法,かみ合い率,すべり率の計算結果を図 32.4 に示しま す.正弦歯形歯車のような非インボリュート歯車は,理論中心距 離でのみ正しくかみ合いますが,本ソフトウェアでは故意に中心 距離を変更することもできます.

🦰 寸法計算結果				×	
項目	記号	単位	Pinion	Gear	
歯直角モジュール	mn	mm	0.	.9397	
正面圧力角	α	deg	21.	.80141	
転位量	×m	mm	0.1200	-0.1200	
正面円弧歯厚	St	mm	1.6169	1.4246	
有効最大直径	dh	mm	17.2400	41.7600	
有効最小直径	dt	mm	12.7400	37.2600	
歯末のたけ	ha	mm	1.1200	0.8800	
歯元のたけ	hf	mm	1.1300	1.3700	
リード	Lead	mm	129.4718	345.2582	
バックラッシー	jr	mm	0.	. 1000	
正面かみあい率	εα		1.2446		
重なりかみ合い率	εβ		0.9268		
全かみ合い率	εγ		2.	. 1715	
滑り率(最大)	σa		0.505	0.505	
滑り率(最小)	σf	·	-1.019	-1.020	
理論中心距離	a.	mm	27.	.5000	
設計中心距離	aJ	mm	27.	.5000	
測定ボール径	dp	mm	1.8622	1.8622	
オーバーボール寸法	dn	mm	17.9986	42.7965	
□ 中心距離を任意に変更(変更すると正しくかみ合いません。)					
確定(aJ , dp) 元に戻す 標準					
	Du a	0.4	바바		

図 32.4 歯車寸法

32.6 歯形

図 32.5 に正弦歯形歯車のかみ合いを示します. インボリュート 歯車の場合,接触線は直線となりますが,正弦歯形歯車の接触線 はS字線となります. そのため,かみ合い始めの点pからかみ合 い終わりの点qまでが,かみ合い角度となります. 従って,イン ボリュート歯車の場合,相手歯車の歯数が多くなるとかみ合い率 は増加しますが,正弦歯形歯車のかみ合い率は,大きな増加はあ りません.図 32.6 の歯形レンダリングの歯面中央に接触線を確認 することができます.また,図 32.7 および図 32.8 に CAD 作図例 を示します.







32.7 すべり率

図 32.9 に正弦歯形歯車のすべり率を,図 32.10 にインボリュー ト歯車のすべり率と正弦歯形歯車のすべり率を重ね合わせた図を 示します. ただし、インボリュート歯車の諸元は正弦歯形歯車と 同じとしています.

図 32.10 より, 正弦歯形歯車(ピニオン)のすべり面積は, インボ リュートに比べ 1/3.5 と小さく,正弦歯形歯車(ギヤ)のすべり面積 は、1/1.90と小さいことが解ります.





と正弦歯形歯車のすべり率

図 32.9 正弦歯形歯車の すべり率

表 32 1	すべり面積	

	,	
	最大すべり率	すべり面積
正弦歯形歯車(P)	-0.918	12.4
正弦歯形歯車(G)	0.479	13.4
インボリュート歯車(P)	-10.1	43.4
インボリュート歯車(P)	0.910	25.7

32.8 かみ合い率の変化

インボリュート歯車(図 32.11)と正弦歯形歯車(図 32.12)のかみ合 い率の変化を示します. ピニオンの歯数を18に固定してギヤの歯 数を 18,25,30,50,100 と変化させたときのかみ合い率を図 32.13 お よび表 32.2 に示します. その結果, インボリュート歯車は, ギヤ 歯数が増加するとともにかみ合い率も大きくなりますが、正弦歯 形歯車は、ほとんど変化がありません.



図 32.13 かみ合い率の変化

表 32.2 かみ合い率							
z_1	z_2	а	$\mathcal{E}_{\alpha(\text{Involute})}$	$\mathcal{E}_{\alpha(\text{Sine})}$			
18	18	18.000	1.5298	1.2422			
18	25	21.500	1.5707	1.2473			
18	30	24.000	1.5916	1.2487			
18	50	34.000	1.6422	1.2498			
18	100	59.000	1.6911	1.2498			

32.9 伝達誤差

伝達誤差解析結果を図 32.14 および図 32.15 に示します.



図 32.15 伝達誤差解析結果

32.10 さいごに

正弦曲線歯車の正面かみ合い率は、インボリュート歯車に比し て小さいですが、すべり率がインボリュート歯車より小さいため 発熱量の低下と効率向上が期待できます.

◆プラスチック歯車(m1,z48)の実験例では同諸元のインボリュ ート歯車に比して効率が向上しています.詳細は、**付録**EJをご覧 ください.

[33] ピン&ラック設計システム



図 33.1 ピン& ラック設計システム

33.1 概要

ラック&ピニオンは、カタログ[19]の VGR ラック, [26]の CGR ラックがありますが、本ソフトウェアは、ピニオンをピン歯車と してかみ合うラックを生成することができます.

33.2 歯車諸元入力

図 33.2 に, 歯車諸元の入力画面を示します. また, 図 33.3 に寸 法を示します.

🦯 諸元入力			×	
項目	記号	単位	数 値	
ピッチ	Pt	mm	2.0000	
歯 数	Z		12	
ラック生成ピン径	dpT	mm	1.0000	
製品ビン径	dpJ	mm	1.0000	
ビン径中心	Rm	mm	3.5697	A ##
ラック歯たけ	h	mm	1.2000	ogb
ラック歯先R	ra	mm	0.1200	Ψ $+$ Rm Ψ
歯幅	Ь	mm	6.0000	
バックラッシー	Jt	mm	0.0200	-Pt -
ラック高さ	Ho	mm	3.6000	MATORAL
確定一元度	すりフ	우		



🦰 寸法計算結果			—			
項目	記号	単位	数 値			
有効歯たけ	ht	mm	1.1295			
ラックビッチ高さ	hm	mm	2.9000			
アンダーカット発生			発生しない			
回転中心からラック歯先までの距離	La	mm	2.8697			
回転中心からラック歯底までの距離	Lf	mm	4.0697			
回転中心からラック底面までの距離	Lo	mm	6.4697			
記号参照						

図 33.3 歯車寸法

33.3 歯形

図33.2でバックラッシを与えていますので図33.4では図中の右 側のピンのみ接触しています.



図 33.5 にラックのピン寸法を示します.図 33.2 に示す入力画面 でラック歯形生成用ピン径と製品ピン径を同じとすることでバッ クラッシをゼロとするラックを得ることができます.



33.4 強度計算

図 33.7 に強度結果を示します.



図 33.6 強度結果

33.5 CAD 作図例

図 33.7 にファイル出力設定を,図 33.8 に CAD 作図例を示しま



33.6 その他

ピン&ラックと同じくピニオンをピン歯車としたときの相手円 筒歯車の歯形を生成するソフトウェアを図 33.9 および図 33.10 に 示します (カタログ省略).



AMTEC www.amtecinc.co.jp

[34] Hypo-Trochoid gear design system



図34.1 Hypo-Trochoid gear design system

34.1 概要

Hypo-Trochoid gear design system は、トロコイド曲線歯車(外歯 車×内歯車)を設計するソフトウエアです.かみ合い率はインボ リュート歯形に比して数倍あり、歯形設計、歯のかみ合いを計算 することができます.この歯車の歯形はトロコイド曲線であるた め、すべり率はインボリュート歯形に比べて小さく、且つ、ほぼ 一定であるため動力損失の低減に有効です.また、本例(図 34.3) のようにピニオンを自公転させてかみ合う歯車とすれば、1 対の 歯車で高減速比(本例 *i*=1/49)とすることができます.

34.2 設計·歯形

内転トロコイド歯形を図 34.2 の考え方で生成します. ピッチ円 半径 (R_p) に接しながら滑りなく転がり円半径 (R_r) を回転させ, 運動する軌跡半径 (R_m) 上の1点が描く軌跡を歯形座標としてい ます. なお, $R_m=R_r$ とすると,内転サイクロイド曲線です.

歯数差を小さく(1~2 歯差)してピニオン(外歯車)の自公転 を利用して速比を大きくすることができます.しかし,かみ合い 率を1以上とする設計とするための数値を直接入力することは非 常に困難であるため,本ソフトウエアではモジュールと歯数の入 力後,かみ合い率を基準にして設計基準値を表示する機能を有し ています.



34.3 寸法設定

本例では、ピニオンを自公転させてかみ合う歯形の生成例を示 します.図 34.3 上部の青抜き枠の組み合わせ(外歯車;出力,内 歯車;固定,腕;入力)として、モジュール1,外歯車歯数(z₁=50), 内歯車歯数(z₂=51)としたとき、かみ合い率を満足させ、且つ、 内転トロコイド歯形の転がり円半径 (*R_r*) や軌跡半径 (*R_m*) を設 定する場合,図 34.3 でモジュール,歯数入力後,

参考寸法(R、 △ Rm、 dmax、 dmin) により設計基準値を決定すること ができます. 図 34.4 は、最小かみ合い率を 3.0 としたときの組み 合わせであり、この中から 11 番目の寸法を選択すると図 34.3 の 紫色の項目は、図 34.5 に示す値となります.



図 34.5 寸法設定

図 34.5 の大径部丸み半径 (r_a) や小径部の丸み半径 (r_f) そして 歯厚減少量 (ΔS_f) を与えることにより歯形や各部寸法が決まりま す. その結果を図 34.6 に示しますが,歯先Rを与えることにより, かみ合い率は $\epsilon=2.425$ に低下します.また,外歯車の歯厚を小さ く (0.20mm) し,内歯車の歯厚を大きく (0.18mm) してバック ラッシ *j*=0.02mm を与えています.回転比(本例の場合 1/50) や クリアランス,干渉発生の有無を表示します.

🦯 寸法計算結果					
項目	記号	単位	外歯車	内歯車	
かみ合い率	3		2.	4246	
バックラッシ	jt	mm	0.	0200	
大径クリアランス	cka	mm	0.	1000	
小径クリアランス	ckf	mm	0.2000		
干渉			発生しません		
有劾直径(Max)	dh	mm	34.0433	35.2191	
有劾直径(Min)	dt	mm	32.5267	33.7301	
接触直径(Max)	dcMax	mm	34.0433	34.9902	
接触直径(Min)	dcMin	mm	32.9116	33.7301	
回転比(出力軸/入力軸)	·		-0.020000		
回転比(入力軸/出力軸)		·	-50.	000000	
滑り率(最大接触直径)	σh		-0.0695	0.0650	
滑り率(最小接触直径)	σt		-0.0192	0.0188	

図 34.6 寸法計算結果

34.4 歯形図

図34.5 で設定した歯車諸元に基づき内転トロコイド歯形を生成 し図 34.7 のように作図します. 図 34.8 は, 図 34.7 のかみ合い部 A の拡大図(図中○の3 歯が同時接触) であり, 図 34.9 は同じく B の拡大図です. かみ合い図(2D)では, 図 34.10 のように距離計 測(歯先間距離が 0.096mm) をすることができます.



図 34.10 かみ合い(距離計測)

図 34.11 および図 34.12 に歯形レンダリングを示します. この図 では図 34.3 で設定した歯車の組み合わせに応じて歯車が回転します. また,図 34.12 に示すように接触線を観察することができます.





34.5 オーバーボール寸法

生成した歯形の管理のためオーバーボール (ビトイーン) 寸法 を図 34.13 および図 34.14 のように計算することができます.



図 34.13 オーバーボール寸法 (外歯車)



34.6 すべり率

本例の内転トロコイド歯形のすべり率は、図 34.6 の寸法計算

結果に示すように最大接触直径では $\sigma_h=0.0695$ であり,最小接触 直径では $\sigma_{=}=0.0192$ で,歯形位置(直径)におけるすべり率の変化 は,図 34.15 で知ることができます.この図から本例の内転トロ コイド歯形のすべり率は,ほぼ一定であることが解ります.



図 34.15 すべり率

34.7 強度計算

強度計算は、図 34.16 に示す強度設定画面でトルク,回転速度, 過負荷係数等を入力します.材料の許容応力は,直接入力するか, または、図 34.16の材料選択表を用いて設定することができます.



					020	00	1034	
					640	57	1064	L
					660	58	1069	1
					680up	59	1074	1
						-		1
構造用	高周波焼き入れ	心部	硬さ	σFlim	歯面	硬さ	σHlim	ł
合金綱	前の熱処理条件	HB	HV	MPa	HV	HRc	MPa.	L
		230	242	265	500	49	1069	1
SCM440		240	252	274.5	520	51	1098.5	1
		250	263	284.5	540	52	1128	1
SMn443		260	273	294	560	53	1147.5	Ŀ
		270	284	304	580	54	1167	L
	確定 <u>キャンセル</u>							

図 34.16 材料選択

歯の曲げ強さは、歯たけ中央位置における歯形の曲率半径を基本とします.また、最弱断面歯厚は30度接線法(内歯は60度接線法)により決定し、歯先に荷重が作用するものとして歯元に発生する応力を計算します.さらに、曲率半径、曲げ高さそして最弱断面歯厚は、図34.17の歯形図で確認することができます.

歯面強さも曲げ強さと同様に歯たけの中央位置における歯形の 曲率半径を基本とし,発生へルツ応力を計算します.曲げ強さお よび歯面強さは,材料の許容応力と発生する応力の比としていま す. 図 34.17 に強度計算結果例を示します.



34.8 歯形出力

生成した歯形は、図 34.18 の歯形出力機能により CAD ファイル として出力することができます. 作図例を図 34.19~34.20 に示し ます.



[35] K-H-V Differential gear design system



図35.1 K-H-V Differential gear design system

35.1 概要

K-H-V Differential gear design system は、インボリュート歯車の 差動減速(増速)機構設計(歯数差0,1,2の3種類)ソフトウ エアであり、歯形設計、歯のかみ合い、すべり率、強度計算をす ることができます、歯数差が小さい場合、転位係数0の標準歯車 で設計するとインボリュート干渉等が発生しますが、本ソフトウ エアでは、かみ合い率が1以上で且つ、干渉が発生しない転位係 数の組み合わせの歯車を計算することができます.なお、トロコ イド曲線を有する差動歯車ソフトウエアは、カタログ[34]をご覧 ください.

35.2 初期設定

図 35.2 に示すように、基準ラックの設定と歯数差(1 歯差,2 歯差,0 歯差)を選択し、次に、組み合わせ(腕の固定/入力/ 出力)を選択します(図 35.2). 歯数差が0の場合は、腕(arm) を固定として歯形を作図します.



35.3 寸法設定

図 35.4 の m_n , z, a_n , β 入力後, 転位係数 (x_n) の与え方は無数 に存在しますので 補助機能を使用して, かみ合い率 1 以 上で且つ, インボリュート干渉が発生しない組み合わせを図 35.5 に示します (図中のo印).本例の場合, 55 個を表示しますが, こ の中から No.27 の転位係数 $(x_{n1}$ =-0.6, 図中の • 丸)を選択する と, 図 35.7 ように諸元が決まります.

また、転位係数とかみ合い率そして歯車寸法は、図 35.6 の表からも選択することができます.





図 35.5 補助機能(転位係数とかみ合い率)



🦯 諸元入力 💦 🗖 💷 💽							
項目	記号	単位	ピニオン	ギャ			
モジュール	mn	mm	1.	0000			
歯 数	Z		49	50			
圧力角	an	deg	20.	0000 °			
ねじれ角	β	deg	15 0	' <u>0.0</u> "			
ねじれ方向			右ねじれ・	右ねじれ・			
─歯厚入力 ────			<u> </u>				
◎ 転位係数	<u></u>	-バーピン	寸法 〇	またぎ歯厚			
転位係数	xn		-0.6000	0.2000			
オーバーピン径	dp	mm	1.654	1.674			
オーバーピン寸法	dm	mm	51.6395	49.9088			
またぎ歯数	zm		5	7			
またぎ歯厚	W	mm	13.6318	20.0987			
中心距離	a	mm	0.	9202			
法線歯厚減少量	fn	mm	0.1000	0.0000			
歯先円直径	da	mm	51.5285	50.1638			
歯底円直径	df	mm	47.0285	54.6638			
歯先R	ra	mm	0.0500	0.0500			
刃先R/歯元R	rf	mm	0.3750	0.3750			
歯幅	b	mm	10.0000	10.0000			
確定: 元に戻す 別7 閉じる 参考値 参照							

図 35.7 の諸元を [確定] すると図 35.8 および図 35.9 のように寸 法が決まります.本例の場合,トリミングが発生していますが, かみ合いには影響がないためこのまま計算を進めます.

基本寸法		かみ合い寸法					
項目	記号	単位	ビニオン	ギヤ			
正面モジュール	mt	mm	1.035	53			
正面圧力角	at	deg	20.646	39			
基準円直径	d	mm	50.7285	51.7638			
基礎円直径	db	mm	47.4703	48.4391			
基礎円筒ねじれ角	βb	deg	14.076	31			
リード	Lead	mm	594.7709	606.9091			
最大有効直径	dh	mm	51.4671	54.2473			
最小有効直径(TIF)	dt	mm	48.2779	50.2372			
歯切り転位係数	xnn		-0.7462	0.2000			
全歯たけ	h	mm	2.2500	2.2500			
項目	記号	単位	ビニオン	ギヤ			
歯直角円弧歯厚	sn	mm	2.1140	1.7164			
正面円弧歯厚	st	mm	2.1886	1.7769			
オーバーヒッン径	dp	mm	1.654	1.674			
基準オーバーピン寸法	dm	mm	51.6395	49.9088			
設計オーバーピン寸法	dm'	mm	51.3014	49.9088			
またぎ歯数	ZM		5	7			
基準またぎ歯厚	W	mm	13.6318	20.0987			
設計またぎ歯厚	W'	mm	13.5318	20.0987			
* * * *							

図 35.8 寸法

🦰 寸法計算結果							
基本寸	法			かみ合い	[法]		
項目	記号	単位	ピニオン	ギヤ			
正面かみ合い圧力角	awt	deg	58.23	76			
かみ合いねじれ角	βw	deg	25.468	99			
かみ合いた。が円直径	dw	mm	90.1796	92.0200			
有効歯幅	bw	mm	10.000	0			
クリアランス(大径)	ckh	mm	0.64	75			
クリアランス(小径)	ckt	mm	0.64	75			
最大接触直径	dja	mm	51.4671	52.9760			
最小接触直径	djf	mm	48.9042	50.2372			
正面かみ合い率	εα		1.3356				
重なりかみ合い率	εβ		0.8238				
全かみ合い率	εγ		2.15	94			
滑り率(大径側)	σa		-0.0571	0.0540			
清り率(小径側) 111111111111111111111111111111111111	σf		-0.1104	0.0995			
正面法線方向バックラッシ	jnt	mm	0.103	81			
がっクラッジ角度	jθ	deg	0.2490	0.2440			
項目	記号	単位	ビニオン(出力)	ギヤ(固定)	腕(入力)		
回転比	Vhi		-0.0204	0.0000	1.0000		
逆回転比(=1/Vhi)	Uhi		-49.0000	0.0000	1.0000		
トリミング			発生する(注意)				
インボリュート干渉			発生しない(安全)				
トロコイド干渉			発生しない(安全)				
フィレット部干渉			3	発生しない(安全))		

図 35.9 かみ合い寸法

35.4 歯形

歯車諸元(図 35.7)の歯形を図 35.10のように作図することが できます.図 34.11は、かみ合い部(A)、(B)の拡大図です.ま た、図 35.12のように距離計測も可能です.歯形レンダリング(図 35.13)は、歯車の組み合わせに応じて歯車が回転します.



図 35.13 歯形レンダリング

AMTEC www.amtecinc.co.jp

35.5 すべり率

本例のすべり率は,図 35.9 の寸法計算結果に示していますが, 歯形位置(Roll angle)におけるすべり率の変化を図 35.14 で知る ことができます.



35.6 強度計算

強度計算は、図 35.15 に示す強度設定画面で摩擦係数、トルク、 回転速度を入力します.本例の場合、摩擦係数を 0.08、腕の入力 トルクが 1(Nm)、回転速度が 1000min⁻¹とすると [確定] ボタンに よりピニオンとギヤのトルク、回転速度を計算し表示します.そ して、図 35.16 の強度諸元(材料、係数)画面を表示します.材 料選択は、図 35.17 の表から選択することもできますが、 _{6Fim}、 _{6Him} を直接入力することもできます.図 35.18 に強度結果を示します.

🦰 強度計算(トルク、	効率	設定)			[
- 55度計算の種類 ・ 金属×金属 (○ 樹脂	f×樹脂	○ 金属×樹	12		
項目		記号	数値(効率)			
摩擦係数		μ	0.0800			
外歯車と内歯車の外	加牢	21	0.9989	効率 n 1の計算	寘 ————	
外歯車と自在維手の	効率	72	0.9990	● 計算	○ 直接入力	
基準効率(η1×η	2)	70	0.9979			_
総合効率		η	0.9067			
項目	記号	単位	ビニオン	ギヤ(内)	腕	自在維手
トルク	T	Nm	44.4735	45.4290	1.0000	44.4290
実回転数	Nj	1/min	-20.4082	0.0000	1000.0000	-20.4082
相対回転数	Ns	1/min	1020.4082	1000.0000	0.0000	1020.4082
			確定	元に戻す 閉じ	3	

図 35.15 強度計算(動力設定)

🦯 金属歯車強度諸元 📃 🖃 🗾									
項目	ピニ	オン		ギヤ	(内)				
熱処理	浸炭焼	入れ 👻	浸炭焼入れ ▼			-			
材料記号	SCM415	-	SCM415			-			
心部硬度	HV	295	HV		295				
表面硬度	HV	700	HV		700				
σFlim(MPa)		431.5			431	.5			
σHlim(MPa)		1353.5			1353	.5			
JIS精度等級(1976)	3	•		3		•			
項目	記号	単位	ピニオ	レー	ギヤ	7(内)			
トルク	T	Nm	44.	474	4	5.429			
回転数	n	rpm	1020.	408	100	0.000			
軸受け支持方法			両軸	受けに	こ対称	•			
寿命繰り返し回数	L			10	00000	0			
歯車の回転方向				正転の	りみ	-			
周 速	V	m/s							
歯形修整				有	IJ	•			
歯面粗さ	Rmax	μm	6.	.00		6.00			
負荷時歯当り状況				良	好	-			
材料定数係数	ZM	(MPa) ^{0.5}	189.	800	18	9.800			
潤滑油係数	ZL		1.	000		1.000			
過負荷係数	Ко			1	.000				
歯元曲げ安全率	SF			1	.200				
歯面損傷安全率	SH			1	.150				
	確定	キャンセル							

図 35.16 強度計算(強度諸元)

<mark>A</mark> 浸炭焼	き入れ歯車								
				760 63 780 63 800 64	2 115/ 3 1147.5 3 1128 4 1108				
構造用 合金鋼	心部硬さ HB HV	σFlim MPa	有効浸炭深る	き 歯面硬さ HV HRo	σ'Hlim : MPa				
SCM415	220 231 230 242 240 252 250 263 260 273 270 284	333.5 353 372.5 382.5 402 417	比較的浅い	580 54 600 51 620 51 640 55 660 54 680 55	4 1284.5 5 1314 3 1343.5 7 1353.5 3 1353.5 9 1353.5				
SCM420	280 295 290 305 300 316 310 327 320 337	431.5 441.5 451 461 470.5		700 6 720 6 740 6 760 6 780 6	1 1343.5 1 1343.5 2 1333.5 3 1314 3 1294.5				
SNC420	330 347 340 358	480.5		- 800 6	4 1275 4 1530 -				
		11年7	E 77701						
	図 35.17 材料選択								
<u>→</u> 平、 「百日	は9は出単短 (曲)ぞ)	設品	果(JGMA:4U 畄位	レーオン	リ 🛃				
浜日	曲げ広力	acτ5 σElim	MPa	431 500	431 500				
曲げ	有効歯幅	Б'	mm	10.000	10.000				
	形係数	YF		3.067 2.00					
荷重:	分布係数	Yε		0.749					
ねじ	れ角係数	Yβ	i	0.875					
寿	命係数	KL	[1.000	1.000				
	法係数	KF×	[1.000	1.000				
動荷	锺係数	Κv	└ [1	.145				
呼び	阳周力	Ft	N	986	.343				
許容	門周力	Ftlim	N	1562.482	2320.439				
曲	げ強さ	Sft		1.584	2.350				
歯元日	曲げ応力	σF	MPa	272.392	183.608				
項目	(面圧)	記号	単位	ビニオン	ギヤ(内)				
許容^	いい応力	σHlim	MPa	1353.500	1353.500				
	有効歯幅	bw	mm	10.000					
祖:	现1杀安队 全球学校	ZH		1 000	.1/1				
寿	中1余安火 R1 い友(名志作	KHL							
1,5-05-02	ス (玄墨)	2.0 78		0 842	0.842				
調滑	速度係数	ZV		0.984	0.984				
- 硬さ	比係数	ZW		1.000	1.000				
荷重	分布係数	KH /S		1	.000				
動荷	重係数	Κv		1.086					
呼乙	四月月 一月月 一月月 一月月 一月月 一月月 一月月 一月月 一月月 一月 一月	Fc	N	1753.412					
許容	門周力	Fclim	N	567217.747	578793.578				
曲	面強さ	Sfc		323.494	329.751				
<u></u>	/ツ応力	σH	MPa	75.253	74.536				

図 35.18 強度結果

35.7 歯形出力

生成した歯形を, CAD データとして出力することができます. 図 35.19の歯形出力機能により出力した CAD データの作図例を図 35.20 および図 35.21 に示します.



AMTEC www.amtecinc.co.jp

35.8 歯数差0の設計例

2 段連結した歯車機構例(K-H-V+0)を図 35.22 に示します.1 段目は1 歯差の外・内歯車です(内歯固定,外歯出力,腕入力). 2 段目(従動側)は0 歯差の外・内歯車です.1 段目の外歯車と2 段目の内歯車を連結すると,入力軸と同じ軸上で出力することが できます.

図 35.22 では 2 段目の 0 歯差の外歯車,内歯車,腕のいずれも 固定していません.緑の従動側(差動の外歯車+0 歯差の内歯車) と赤の外歯車(出力)の回転比は同じです.従って,差動歯車の 減速比を同軸上で取り出すことができます.以下に 0 歯差歯車の 設計例を示します.



図 35.22 機構例(1段目差動,2段目0歯差)

図 35.2 の初期設定で, 歯数差0を選択します. 次に, 図 35.23 の諸元設定でモジュール, 歯数, 圧力角, ねじれ角を設定し,

を考値 により図 35.24 を表示します. そして適合する 25 個の 中から No.25 を選択し、図 35.23 の諸元を確定すると図 35.25 の歯 形を得ることができます. 図 35.25 のかみ合い部 C と反対側を拡 大した歯形拡大図を図 35.26 に示します. また、歯形レンダリン グを図 35.27 に示します.

諸元入力								
項目	記号	単位	ピニオン	ギャ				
モジュール	mn	mm	1.	5000				
歯数	Z		30	30				
圧力角	αn	deg	20.	0000 *				
ねじれ角	β	deg		' <u>0.0</u> "				
ねじれ方向	_ 		🔻	🔻				
┌歯厚入力 ―――								
○ 転位係数	0 か	-バーヒツ	寸法 〇	またぎ歯厚				
転位係数	xn		-0.3000	1.4937				
オーバーピン径	dp	mm	1.654	1.674				
オーバーピン寸法	dm	mm	0.0000	47.9930				
またぎ歯数	zm		5	7				
またぎ歯厚	W	mm	20.2493	30.9462				
中心距離	a	mm	0.	9202				
法線歯厚減少量	fn	mm	0.1000	0.0000				
歯先円直径	da	mm	48.2570	44.0974				
歯底円直径	df	mm	41.5070	50.8474				
凿先R	ra	mm	0.0500	0.0500				
刃先R/歯元R	rf	mm	0.5625	0.3750				
曲幅	Ь	mm	10.0000	10.0000				
確定記したにす	確定 元に戻す 別7 開じる 参考値 参照							

図 35.23 諸元設定



図 35.24 補助機能(転位係数とかみ合い率)



図 35.25 かみ合い図(歯数差0)



図 35.26 かみ合い図

かみ合い図(拡大)



AMTEC www.amtecinc.co.jp

[36] Double enveloping worm gear design system



☑ 36.1 Double enveloping worm gear design system

36.1 概要

このウォームギヤは、ヒンドレーウォームギヤと呼ばれ鼓形ウ オームギヤとして最も古い歴史を持ちます.ウォームホイールの 中央断面とウォームは共に同じ歯形を持ち一般の円筒ウォームギ ヤに比して、かみ合い接触線が長くなることから歯面強さに対し て有利です.本ソフトウェアは、歯車寸法、歯形計算、強度計算 をすることができ、歯形は CAD データとして出力することがで きます.

36.2 基準ラック

図 36.2 に基準ラックの設定画面を示します. 歯たけは並歯, 低 歯, 特殊たけに対応しています.



36.3 歯車諸元設定

図 36.3 に歯車諸元の入力画面を示します.

🦰 寸法諸元				×					
項目	記号	単位	ウォーム	ウォームホイール					
サーキュラーヒ゜ッチ	P	mm	3	.00000					
圧力角	φ	deg	20	.00000					
条数, 歯数	NW, NG		2	41					
基準円直径	DW,DG	mm	10.0000	39.1521					
すすみ角	λο	deg	10 ° 4	3 ' 45 "					
中心距離	C	mm	24.5761						
歯先円直径	DoW,DoG	mm	15.8259	42.0169					
歯底円直径	DRW, DRG	mm	7.6127	36.7648					
有効歯幅	FW,FG	mm	20.0000	5.0000					
ねじれ方向			右ね	じれ 🖃					
円弧歯厚	tW,tG	mm	1.5000	1.5000					
トータルバーックラッシ	トータルバ [*] ックラッジ BL mm 0.0000								

図 36.3 歯車諸元

入力する数値は、円筒ウォームギヤと同様です.

- (1) 最大サーキュラーピッチは 1000mm
- (2) ウォームの条数は1~10
- (3) 歯厚は、円弧歯厚を入力することができます.

図 36.4 に Double enveloping worm gear の寸法を示します.

			×	
記号	単位	ウォーム	93-647-16	
PN	mm	2	.9467	
mG		20	.5000	
φn	deg	19.6724		
Db	mm	14.7902		
DtW,DtG	mm	11.9099 41.062		
a	mm	0	.9549	
b	mm	1	.1937	
hk	mm	1.9099		
ht	mm	2.1486		
С	mm	0.2387		
PZ	mm	6.0000	123.0000	
	記号 Pn MG Db DtW,DtG A b hk ht c PZ	記号 単位 Pn mm MG クn deg Db mm DtW,DtG mm a mm b mm hk mm hk mm ht mm pz mm	記号 単位 ウォーム PD MM 22 MG 20	

図 36.4 ウォームギヤの寸法

36.4 歯形

図 36.3 に示す Double enveloping worm gear の歯形を計算する際, 図 36.5 のように歯形の分割数を設定し,この分割数に従って歯形 を計算します.歯形レンダリングを図 36.6 および図 36.7 に示しま す.図中に歯のかみ合い接触線を確認することができます.



図 36.5 歯形計算の設定



図 36.6 歯形レンダリング 1



AMTEC www.amtecinc.co.jp

36.5 CAD 作図例

生成した歯形を CAD データに出力することができます.ウォ ームとホイールの CAD 作図例(IGES)を図 36.8 に示します.



36.6 強度計算

強度計算(AGMA 6017-E86) x 項目 記号 単位 ウォーム ウォームホイール 構造用鋼 材料名 青銅合金 摩擦係数 u 0.0300 k₩ 2.0500 0.1000 P 伝達動力 回転数 rpm 1000.0000 48.7805 n SF 1,000 安全国 * すべり速度 0.10000 ٧ m/s 20.5000 歯数比 mG --------効率 ηR 0.8518 曜定 特別 基準圧力角係数 0.0412 Cs 修整比係数 ----0.7380 Cm 歯幅材料係数 Ca 0.2999 すべり速度係数 0.5078 Cv ---評価動力 Pw k₩ 0.1685 Pw/P ----1.68528 強さ

Double enveloping worm gear の強度計算は、AGMA 6035-A02 に 基づいて計算します. 強度計算画面を図 36.9 に示します.

図 36.9 強度計算結果

36.7 円筒ウォームギヤとの比較

円筒ウォームギヤの接触線は、図 36.10 に示すようにホイール の歯幅方向に伸びています.しかし、Double enveloping worm gear の接触線は、図 36.7 に示すようにホイールの歯たけ方向に伸びて います.更に、円筒ウォームギヤのかみ合い歯数は、2 歯の接触 ですが、Double enveloping worm gear は、4 歯が接触しています. このことから、Double enveloping worm gear の歯の負荷容量は、円 筒歯車より大きいと言えます.



ウォームギヤは大きな滑りを伴うため歯面間の潤滑油膜の形成 が重要です.円筒ウォームギヤは、図 36.10 の接触線からも解る ように接触線とすべり方向が 0°に近いところもありますが, Double enveloping worm gear の接触線は歯面の滑り方向に対して, ほぼ直角です.そのため,潤滑油膜の保持に非常に有利です.

Double enveloping worm gear は、ウォームの歯幅を図 36.11 のように小さくしても3 歯がかみ合いますのでコンパクトな設計が可能です.しかし、Double enveloping worm gear の形状は複雑であるため加工が容易ではありません.本来、Double enveloping worm gear は、専用機で加工されていますが、本ソフトウェアから生成する CAD データを用いてマシニングセンタで容易に加工することができます.



 \boxtimes 36.11 Double enveloping worm gear (b_1 =12, b_2 =5)

[37] 鼓形ウォーム&ヘリカルギヤ設計システム



図 37.1 鼓形ウォーム&ヘリカルギヤ

37.1 概要

鼓形ウォームギヤは、ヒンドレーウォームギヤ(カタログ[36]) に代表されますが、ホイール歯形の複雑さからヘリカルギヤをホ イールとした鼓形ウォームギヤがあります. 鼓形ウォームギヤは、 円筒ウォームギヤに比して同時かみ合い歯数が多く、且つ、ホイ ールの歯たけ方向のかみ合い接触線を持つことから潤滑や歯面強 さに対して非常に有利といえます. 本ソフトウェアは、鼓形ウォ ーム×ヘリカルギヤを設計することができるソフトウェアです.

ウォームギヤの体系は、以下に示すように大別することができ ます.

- (1) 円筒ウォームギヤ
- (1.1) 円筒ウォームギヤ, 24 頁
- (1.2) Niemann worm gear, 99 頁
- (1.3) ウォーム×ヘリカルギヤ, 19 頁
- (1.4) LCCW ウォーム×ヘリカルギヤ, 119 頁
- (1.5) 傾斜ウォームギヤ, 97 頁
- (2) 鼓形ウォームギヤ
- (2.1) ヒンドレーウォームギヤ, 117 頁
- (2.2) 鼓形ウォーム×ヘリカルギヤ, 119頁
- (3) 内歯車ウォームギヤ
- (3.1) 樽形ウォームギヤ, 127 頁

ウォームギヤと言えば、(1.1)の円筒ウォームギヤのことですが、 ホイールがプラスチック歯車の場合、(1.1)円筒ウォームギヤの代 用品として(1.2)の円筒ウォーム×ヘリカルギヤが大多数を占めま す.しかし、この歯車は、点接触であるため負荷容量の増大を望 むことができませんが、これを解決するのが(2.2)鼓形ウォーム× ヘリカルギヤであると考えています. 鼓形ウォーム×ヘリカルギ ヤは、円筒ウォーム×ヘリカルギヤに対し、同時かみ合い歯数が 多く(円筒ウォームの2~3倍)、また、歯たけ方向のかみ合い線 接触であるため負荷容量は増大し、且つ、潤滑に有利です.なお、 ホイールはインボリュートヘリカルギヤをそのまま用いることが でき、円筒ウォームギヤの諸元や中心距離に合わせた設計が可能 です.そのため、円筒ウォーム×ヘリカルギヤの中心距離を変更 することなく円筒ウォームを鼓形ウォームに変更するだけで済み ます.

本ソフトウェアは,上記(2.2) 鼓形ウォーム×ヘリカルギヤの歯 車寸法計算,歯形計算,強度計算をすることができ,歯形は CAD データとして出力することができます.

37.2 ヘリカルギヤ諸元入力

図 37.2 にヘリカルギヤの諸元入力画面を示します.入力範囲は, 0.1 $\leq m_n \leq 50, 10 \leq z_2 \leq 500, 5^\circ \leq \alpha_n \leq 30^\circ, 0^\circ < \beta \leq 20^\circ$ です. 図 37.2 のヘリカルギヤ諸元を確定すると,寸法を図 37.3 のように 表示します.

📙 Helical Gear寸》	ま (入力	- • •				
項目	記号	単位	数 値			
歯直角モジュール	mn	mm	1.0000			
歯 数	Z		50			
圧力角	an	deg	20.0000 *			
ねじれ角	β	deg				
ねじれ方向			右ねじれ 💌			
─歯厚入力────	-	-	·			
④ 転位係数 ○ オーバービン寸法 ○ またぎ歯厚						
転位係数	×n		0.2000			
オーバーピン径	dp	mm	1.722			
オーバーピン寸法	dm	mm	53.5386			
またぎ歯数	zm		7			
またぎ歯厚	W	mm	20.0572			
歯先円直径	da	mm	53.1713			
歯底円直径	df	mm	48.6713			
基準ラック歯元R	rf	mm	0.3750			
歯先R	ra	mm	0.1000			
歯幅	b	mm	6.0000			
確 定	確定 元に戻す 例7 閉じる					

図 37.2 ヘリカルギヤ諸元

🦰 Helical歯車寸法計算結果 🛛 🗖 🔲 🗾						
項目	記号	単位	数 値			
正面モジュール	mt	mm	1.0154			
正面圧力角	at	deg	20.2836			
基準円直径	d	mm	50.7713			
かみ合いビッチ円直径	dw	mm	51.1713			
正面かみ合い圧力角	awt	deg	21.4626			
基礎円直径	db	mm	47.6229			
基礎円筒ねじれ角	βb	deg	9.3913			
リード	Lead	mm	904.5856			
歯末のたけ	ha	mm	1.2000			
歯元のたけ	hf	mm	1.0500			
全歯たけ	h	mm	2.2500			
Tif径	Tif	mm	49.3566			

図 37.3 ヘリカルギヤ寸法

37.3 ウォーム諸元入力

図 37.4 に鼓形ウォームの諸元入力画面を示します. 条数の入力 範囲は、1 $\leq z_w \leq 3$ です. 中心距離は、理論値の他に、円筒ウォ ーム×ヘリカルギヤで設計した中心距離を設定することも可能 ですので軸間距離を変えることなく鼓形ウォーム×ヘリカルギ ヤに変更することができます.

🥖 Worm寸法(入力)2/3)						
項目	記号	単位	数 値				
形状			鼓形 ▼				
条数	ZW		1				
中心距離	a	mm	28.4651				
歯幅	bwo	mm	17.5000				
クリアランス	cka	mm	0.2500				
クリアランス	ckf	mm	0.5000				
法線方向バックラッシ	jt	mm	0.1000				
歯元R(工具刃先R)	Rf	mm	0.2000				
外径曲率偏心量	е	mm	0.0000				
歯先R	Ra	mm	0.1000				
確定 元に戻す 加7 閉じる 参照							

図 37.4 鼓形ウォーム諸元

図 37.5 に鼓形ウォーム寸法を示します.円筒ウォーム×ヘリカ ルギヤのかみ合い率 ϵ =1.71 に対し,本例の鼓形ウォーム×ヘリ カルギヤでは ϵ =5.34 となり約3倍に増加します.また,諸元設 定完了後,図 37.6 に組図を作図することができますので,鼓形ウ ォームの歯幅や全体のバランスを確認することができます.

📕 Worm計算結果					
項目	記号	単位	数値(Worn)		
軸方向モジュール	MX	mm	1.01	54	
 	Pt	mm	3.1901		
基準円直径	dwo	mm	5.7588		
端部外径	das	mm	10.4438		
中央部外径	dam	mm	7.25	89	
外径面曲率半径	ρa	mm	24.83	57	
- T P	ㅋ무	<u>ж</u>	数値(力)	みあい)	
項日	記ち	半山	Worm	Helical Gear	
バックラッシ角度	jθ	deg	12.1946 0.2439		
軸方向かみあい率	εx		5.338		

図 37.5 鼓形ウォーム寸法



37.4 歯形計算

鼓形ウォームの歯形分割数を図 37.7 で設定します. ここで設定 する分割数で生成する鼓形ウォームの歯形の細かさが決まります. また,ウォームにクラウニングおよびウォーム歯先修整を与える 場合は,図 37.8 で設定することができます.

🦂 歯形計算(入力3)	/3)		• 💌		
項目	記号	単位	戡	て値	
歯幅方向分割数	6NO		280		
円周分割数	hNO			180	
確定したにす	इन 🗌	/ሀፖ	閉じる	参照	
図 37.7 鼓形	ウォー	ームの様	す形計算の	の設定	



図 37.8 鼓形ウォームのクラウニングと歯先修整

歯形計算後の鼓形ウォームとヘリカルギヤの 3D かみ合いを図 37.9 および図 37.10 に示します.図 37.9 は、クラウニングを与え ていないかみ合いのためウォームの両端部で接触線を観察するこ とができます.一方、図 37.10 は、ウォームにクラウニング(解 り易くするため大きなクラウニング)を与えているため4 歯の接 触線となっています.



図 37.9 歯形レンダリング (理論ウォーム)



図 37.10 歯形レンダリング (クラウニング)

37.5 歯形出力

生成した歯形を CAD データとして出力することができます. 図 37.11 で出力した歯形の作図例を図 3.7.12 に示します.



37.6 強度計算

鼓形ウォームとヘリカルギヤの強度計算画面を図 37.13~37.15 に示します. 歯車材料は、図 37.13a に示すようにウォーム、ヘリ カルギヤ共に8種類から選択することができ、且つ、任意材料記 号を設定することができます.また、図 37.14 では任意の許容応 力値を設定することができます.

🦂 強度入力(強度1/	3)					x
単位						
◎ トルク「N-m」:	応力「MF	°aj	C トルク「N-cm」: 応力「MPa」			
○ トルク「kgf-cm」: 応力「kgf/mm²」			○トルク「gf-cm」: 応力「gf/mm²」			
項目	記号	単位	94-6		小畑キキ	
材料			構造用鋼	-	M90-44	
設計トルク	Т	N-m	1.00		31.8536	_
回転速度	n	rpm	1000.00		20.0000	
寿命繰り返し回数	L		1000000		200000	
潤滑状態				グリ	ス	-
周囲温度	t	°C	6	0.00		
曲げ安全率	SF			1.00	0	
せん断安全率	SS			1.00	0	
面圧安全率	SH			1.00	0	
摩擦係数	μ			0.09	0	
通負荷係数	Ko			1.00	0	
有効歯幅	bw	mm		6.00	00	
荷重分配係数	Yε			0.20	0	
	曜	定 元涙	すり別ア開	じる		

図 37.13 強度計算入力

ウォーム	^リカルギヤ		
構造用綱 ▼	M90-44	-	
1.00	構造用鋼		
1000.00	UD音詞 BS		
1000000	M90-44		-
グリ	GH-25		
60.00	14G15		
1.01	<u>mu/1µ/</u>		

図 37.13a 強度計算(材料)

🦯 材料:標準許容/	- • -					
項目	記号	単位	ウォーム	<u> </u>		
弾性率	E	MPa	205940.0	1721.1		
ポアソン比	ν		0.3000	0.3500		
許容曲げ応力	σbo	MPa	196.00	43.20		
許容せん断応力	σso	MPa		23.80		
許容ヘルツ応力	σHo	MPa	490.50	145.43		
確定 元に戻す 別7 閉じる						

図 37.14 許容応力の設定

🦯 強度計算結果(強	度3/3)				
項目	記号	単位	Worm	Helical Gear	
すべり速度	Vs	m/sec	0.3062		
周速	V	m/sec		0.0532	
効率	η		0	.637	
PV値	PV	MPa-m/s	30	.58	
接線力	Fx	N	1254	.79	
実接線力	Fxa	N	250	.96	
曲げ強さ項目	記号	単位	Worm	Helical Gear	
歯形係数	YF		0.837	0.732	
材料係数	KM		1.000	1.000	
速度補正係数	KV		1.000	1.400	
温度係数	KT		1.000	0.650	
潤滑係数	KL		1.000	1.000	
許容接線力	Fb	N	984.89	172.61	
許容曲げ応力	σblim	MPa	196.000	39.300	
発生曲げ応力	σb	MPa	49.942	57.140	
曲げ強さ	Sft		3.925	0.688	
せん断強さ項目	記号	単位	Worm	Helical Gear	
せん断円弧歯厚	So	mm		2.039	
円周歯幅	Sb	mm		7.063	
断面積	Sab	mm ²		9.599	
許容接線力	Fs	N		228.447	
許容せん断応力	σslim	MPa		23.800	
発生せん断応力	σs	MPa		26.145	
せん断強さ	Sfs			0.910	
歯面強さ項目	記号	単位	Worm	Helical Gear	
領域係数	ZH		2	.388	
材料定数係数	ZM	√ MPa	24.879		
接触歯たけ	hm	mm	1.750		
許容接線力	Fh	N	6054.316	532.225	
許容ヘルツ応力	σ Hlim	MPa	490.500	145.430	
発生ヘルツ応力	σH	MPa	99.863	99.863	
歯面強さ	Sfh		24.125	2.121	

図 37.15 強度結果

37.7 円筒ウォーム×ヘリカルギヤとの比較

図37.16の円筒ウォームギヤおよび図37.17の円筒ウォーム×へ リカルギヤの歯当たり接触は2歯のかみ合いに留まっていますが, 鼓形ウォーム×へリカルギヤの接触線は、図37.10および図37.18 に示すように歯たけ方向に4歯(クラウニングを与えている)接 触しています.このことから,鼓形ウォーム×へリカルギヤの歯 の負荷容量は,接触線および接触歯数から考えて円筒ウォームギ ヤや円筒ウォーム×へリカルギヤより大きいと言えます.そのた めウォームの歯幅を図37.18のように12.5mm と小さくしても3 ~4 歯がかみ合いますのでコンパクトな設計が可能です.

また、ウォームギヤは滑りを伴う運動のため歯面間の潤滑油膜の形成が重要です。円筒ウォームギヤの場合、歯当たりは、ホイールの歯すじ方向に伸びるため歯当たりの回転方向の出口側の潤滑が危険な場合がありますが、鼓形ウォーム×ヘリカルギヤの接触線は歯面の滑り方向に対して、ほぼ直角です。そのため、潤滑油膜の保持に非常に有利です。

鼓形ウォームの歯形は複雑であるため円筒ウォームに比して加 工が容易ではありませんが、本ソフトウェアから生成する CAD データを用いてマシニングセンタで容易に加工することができま す.



m_n=1, z₁=1, z₂=50, α=20°, d₁=5.76, γ=10°, b₁=17.5 図 37.16 円筒ウォームギヤ



*m*_n=1, *z*₁=1, *z*₂=50, α=20°, *d*₁=5.76, γ=10°, *b*₁=17.5 図 37.17 円筒ウォーム×ヘリカルギヤ



*m*_n=1, *z*₁=1, *z*₂=50, *α*=20°, *d*₁=5.76, *γ*=10°, *b*₁=12.5 図 37.18 鼓形ウォーム×ヘリカルギヤ

37.8 鼓形ウォームの製作例

図 37.19 に示す鼓形ウォーム品は、インボリュートヘリカルギ ヤに合わせて設計し、マシニングセンタにより鼓形ウォームの歯 形を加工したものです. なお、ヘリカルギヤは、プラスチック材 料 (POM) のため歯厚を大きくしています.



*m*_n=1, *z*₁=1, *z*₂=42, *a*_n=14.5°, *β*=4.13° 図 37.19 鼓形ウォーム×ヘリカルギヤ

37.9 歯たけ方向に線接触を持つ円筒ウォーム(オプション)

一般の円筒ウォーム(図 37.16 及び図 37.17)と以下に示す歯た け方向に線接触を持つ円筒ウォームは、どちらも外径は円筒形状 ですのでこれを区別するため、歯たけ方向に線接触を持つ円筒ウ オームギヤを, LCCW (Line Contact Cylindrical Worm Gear) と名 付けます.

上述した鼓形ウォームは両側面部でも接触するため同時かみ合 い歯数は多くなりますが、同時かみ合い歯数が3以上あれば良い ということであれば、外径を鼓形にする必要はなく円筒でも十分 であると考えることができます.

そこで,図 37.4の「形状」設定で、ウォームの形状を図 37.20 で円筒形として設定し、計算した結果を以下に示します. その結 果,図 37.21 のようにウォームの外径は、円筒となり、歯当たり は鼓形とほぼ同様に同時4歯接触していることが解ります.また, 図 37.22 に示す円筒ウォームの CAD 作図例のように外径が円筒形 であることから転造による製造が容易であると考えることができ ます.



(a)ウォーム諸元 (b)組図 図 37.20 LCCW (線接触円筒ウォームギヤ)



図 37.21 LCCW 歯形レンダリング





37.10 ホイールが平歯車の場合

ホイールを平歯車とした場合の計算例を図 37.23~37.25 に示し ます.ホイールがヘリカルギヤの場合,ホイールの歯幅中央に接 触線を確認することができますが,ホイールが平歯車の場合には, 接触線はホイール歯幅の下方に寄っていることが解ります.

🦰 Helical Gear寸》	去(入力	- • ×				
項目	記号	単位	数 値			
歯直角モジュール	mn	mm	2.0000			
歯 数	Z		50			
圧力角	αn	deg	20.0000 *			
ねじれ角	β	deg				
ねじれ方向		·	🔻			
- 歯厚入力			·			
 ● 転位係数 ○ オーバービン寸法 ○ またぎ歯厚 						
転位係数	xn	·	0.0000			
オーバーピン径	dp	mm	3.383			
オーバーピン寸法	dm	mm	104.5900			
またぎ歯数	zm		6			
またぎ歯厚	W	mm	33.8740			
歯先円直径	da	mm	104.0000			
歯底円直径	df	mm	95.0000			
基準ラック歯元R	rf	mm	0.7500			
歯先R	ra	mm	0.0000			
歯幅	b	mm	15.0000			
確定 元に戻す 別7 閉じる						
网 07 00 亚华古地一						

図 37.23 平歯車諸元

🦰 Worm寸法(入力	12/3)	- • •			
項目	記号	単位	数 値		
形状		·	円筒形 💌		
条数	ZW		1		
中心距離	a	mm	60.0000		
歯幅	bwo	mm	34.6000		
クリアランス	cka	mm	0.5000		
クリアランス	ckf	mm	1.0000		
法線方向バックラッシ	jt	mm	0.0000		
歯元R(工具刃先R)	Rf	mm	0.4000		
外径曲率偏心量	e	mm	0.0000		
歯先R	Ra	mm	0.0000		
確定 元に戻す 別ア 閉じる 参照					

図 37.24 ウォーム諸元



図 37.25 LCCW (ホイールが平歯車)

37.11 オプション

(1) LCCW, (2) 歯当たり(予定)

37.12 LCCW に期待するもの

大型のウォームギヤも LCCW として製作できるものと考えて いますが、小型でホイールがプラスチック歯車として使用される 用途に期待しています.現在,図 37.17 に示す円筒ウォームとプ ラスチックヘリカルギヤは、自動車用の補機や小型モータ減速用 として数多く使用されていますが、円筒ウォームとプラスチック ヘリカルギヤは、点接触であるため大きな負荷容量を望むことが できません、この円筒ウォームとプラスチックヘリカルギヤの負 荷容量を大きくするために切削や射出成形によるプラスチックウ ォームホイール(図 37.16)が実用化されていることもありますが、 ウォームホイールを射出成型で製造するためにはホイールの金型 精度や多額のコストを要します.

そこで、インボリュートヘリカルギヤの諸元を変えずにそのま ま用い,円筒ウォームを LCCW とすることにより歯車箱の大きさ を変更することなく負荷容量の増大を望むことができます.

[38] UTS (常時伝達変速システム設計)



図38.1 UTS (常時伝達変速システム設計)

38.1 概要

UTS[Uninterrupted Transmission System] は, 非円形歯車を用いた 常時伝達変速システムです.

自動車などで広く使用されている歯車式変速機は、減速比を変 える変速作業の際に駆動力を伝達できないという現象が発生する が、小森雅晴(京都大学大学院 工学研究科 機械理工学専攻) は、変速前後の歯車の両方の形状を兼ね備えた非円形歯車を用い ることにより、変速の際に生じる"駆動力抜け"をゼロにできる常 時伝達変速システム UTS を開発した.

UTS は、このシステムを簡単に設計することができるソフトウ ェアです.

38.2 UTS の概要

図 38.2 に示す UTS の構造図において各クラッチを締結する



とそれに相当する歯車が入出力軸間に駆動力を伝える.変速用歯車の非円形歯車は、図 38.3 に示す形状を持ち、区間[a]では1速歯車と区間[b]では2速歯車と一致する.この非円形歯車が、 図 38.3 上に示す区間[a]でかみ合う場合は、1速歯車と同じかみ合い状態となり、同じ減速比となる.一方、図 38.3 下でかみ合う場合は、2速歯車と同じ状態となる.図 38.3 の矢印方向に非円形歯車が回転する場合、1速状態から2速状態に変化し、その後、1 速状態に戻る.

1速から2速に変速する場合は、変速用歯車が区間[a]でかみ合い、1速状態となるときに変速用クラッチを締結する.次に1速 クラッチを解放し、変速用歯車だけが駆動力を伝達する状態とする.その後、回転が進むと、変速用歯車のかみ合いは、区間[a]から区間[b]に移り、1速状態から2速状態に変化する.ここで2速 クラッチを締結し、変速用クラッチを解放する.これにより2速 状態となり1速から2速への変速プロセスが完了する.また、2 速から1速への変速も同様である.UTS は変速中でも変速用歯車 が駆動力を伝達しているため、駆動力が抜けることがない.

◆UTS の効果

(1)加速性能を良くしつつ燃費も良くする

現在の歯車式変速機では変速時にタイヤに駆動力が伝わらな いため無駄にエネルギーが消費されるとともに速度低下を引 き起こすが、本システムでは変速時にも非円形歯車が駆動力 を伝達しながら減速比を滑らかに変化させるためエネルギー を有効に利用でき、高い加速性能も実現できる.

(2)正確な回転伝達が可能

現在の変速機では、変速時に入力軸と出力軸が遮断された空 転状態となるため回転を正確に伝達することができない.し かし、本システムでは回転角度を正確に制御することが可能 となるため、精密位置決め装置やロボットなど機械に正確な 動作が要求される分野で本システムの応用が可能である.

(3) 変速システムの適用範囲の拡大

図 38.4 に UTS の実験装置を示します.

本変速システムであればこれまで変速機を使用できなかった 分野でも利用可能であり、これにより駆動源の小型化や共通 化、高い速度と大きな駆動力を実現できる.

①1 速歯車, ②2 速歯車, ③非円形歯車, ④1 速, 2 速クラッチ, ⑤変速用クラッチ

図 38.4 UTS の実験装置

38.3 初期設定

図 38.5 に示す初期設定では、基準ラック(並歯、低歯、特殊) を設定することができます. 高歯の場合は、歯末のたけ係数、歯 元のたけ係数そして適宜に歯元 R 係数を設定してください.



図 38.5 初期設定

38.4 インボリュート歯車の諸元設定

インボリュート歯車諸元(1速,2速)の設定画面を図38.6 に 示します.1速,2速歯車の中心距離は共通です.

図 38.6 のインボリュート歯車諸元確定後,図 38.7 および 図 38.8 に示すインボリュート歯車寸法の計算画面を表示しますので, かみ合い数値やバックラッシなどを確認することができます.また,インボリュート歯車の歯形かみ合いを図 38.9 に示します.

🗖 インボリュート	歯車諸	元				
項目	記号	単位	ピニオン1	¥ † 1	E*ニオン2	ギヤ2
モジュール	mn	mm	2.	0000	1.	8000
歯数	Z		32	40	43	37
圧力角	an	deg	20.	0000 *	20.	0000
ねじれ角	β	deg	12 0	0.00	10 0	0.00
ねじれ方向			右ねじれ・	左ねじれ 🕶	右ねじれ・	左ねじれ 🗸
			·		. —	
● 転位係数	○ 朴	-バーピン	寸法 〇	またぎ歯厚		
転位係数	xn		0.1000	-0.2000	0.1750	0.0000
オーバーピン径	dp	mm	3.449	3.232	3.009	2.967
オーバーピン寸法	dm	mm	70.5836	76.7873	75.1256	63.6413
またぎ歯数	zm		4	5	6	5
またぎ歯厚	W	mm	21.7564	27.4889	30.5740	24.8867
中心距離	a	mm		73.8	000	
法線歯厚減少量	fn	mm	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000
歯先円直径	da	mm	69.8298	84.9872	82.8240	71.2274
歯底円直径	df	mm	60.8298	75.9872	74.7240	63.1274
歯先R	ra	mm	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000
歯幅	b	mm	20.0000	20.0000	20.0000	20.0000
刃先R	rf	mm	0.7500	0.7500	0.6750	0.6750
		曜定日	元に戻す	97 閉じる		

図 38.6 インボリュート歯車諸元

インボリュート歯車寸法計算結果 🛛 🖂 🗠							
(B	本寸》	5		かみ合い寸法			
項目	記号	単位	ビニオン1	ギヤ1	ピニオン2	ギヤ2	
正面モジュール	nt	nn	2.04	47	1.8278		
正面圧力角	at	deg	20.41	03	20.28	36	
基準円直径	Pcd	nn	65.4298	81.7872	78.5940	67.6274	
基礎中直径	db	nn	61.3221	76.6526	73.7203	63.4337	
基礎円筒ねじれ角	βb	deg	0.00	00	0.00	00	
リード	Lead	nn	967.0545	1208.8181	1400.2984	1204.9080	
最大有効直径	dh	nn	69.8298	84.9872	82.8240	71.2274	
最小有効直径(TIF)	dt	nn	62.5747	78.0534	76.0415	64.7573	
歯切り転位係数	xnn		0.1000	-0.2000	0.1750	0.0000	
全値たけ	h	nn	4.5000	4.5000	4.0500	4.0500	
項目	記号	単位	ビニオン1	ギヤ1	ピニオン2	ギヤ2	
由 直角 円 孤 歯 厚	sn	nn	2.9960	3.4328	2.5981	2.8274	
正面円弧齿厚	st	nn	3.0629	3.5095	2.6382	2.8711	
オーバーとつ径	dp	nn	3.407	3.298	3.298	3.287	
基準れポーセッオ法	dn	nn	70.4360	85.2846	84.1207	72.5500	
設計オーパーセッフ寸法	dn'	nn	70.4360	85.2946	84.1207	72.5500	
またぎ歯数	2%		4	5	5	4	
基準またぎ歯厚	¥.	nn	21.7564	27.4889	25.2602	19.5729	
設計またぎ歯厚	4,	nn	21.7564	27.4889	25.2602	19.5729	

図 38.7 インボリュート歯車寸法(基本寸法)

đ	基本可注	ŧ	I	かみ合い寸法		
項目	記号	単位	ビニオン1	ギヤ1	ビニオン2	ギヤ2
正面かみ合い圧力角	avt	des	20.80	31	21.68	52
かみ合いねじれ角	βv	deg	12.03	03	10.09	24
かみ合した。河田道径	dv	m	65.6000	82.0000	79.3350	68.2650
有効歯幅	bv	10	20.000	00	20.00	00
クリアランス(大径)	ckh	10	0.89	15	0.82	43
クリアランス(小径)	ckt	m	0.89	15	0.82	43
最大捆抽直径	dja	m	69.8298	84.9872	82.8240	71.2274
最小接触直径	djf	10	63.3060	78.9783	76.9740	65.6177
正面かみ合い率	ε α		1.481	33	1.44	B9
重なりかみ合い率	εβ		0.6618		0.61	42
全かみ合い率	ε γ	[2.13	01	2.06	31
滑り率(歯先側)	σa	[[0.5444	0.4845	0.4832	0.4119
滑り率(歯元側)	σf	[[-0.8674	-1.1947	-0.7003	-0.9349
E面法線方向パックラッシ	jnt	10	0.274	13	0.27	55
だっかうっき角度	jθ	des	0.5126	0.4101	0.4282	0.4977
歯数比	hi	[[1.2500	0.8000	0.8605	1.1622



38.5 非円形歯車の諸元設定

図 38.10 に非円形歯車の諸元設定画面を,また,図 38.11 に非円 形歯車の寸法結果を示します.図 38.10 で設定する不等速回転角 (θ_q) は,図 38.12 に示すように,2 つの速比を滑らかに接続す るための回転角度幅です.この範囲が大きいほど緩やかに回転比 が変化します.これを基に決定した非円形歯車のピッチ曲線を図 38.13 に示します.

📕 非円形歯車諸元	ē			, • 💌		
項目	記号	単位	ピニオン	ギヤ		
不等速回転角	θq	deg	90.	0000		
歯数	Z		38			
圧力角	α	deg	20.	0000		
歯先のたけ係数	hac	·	1.0000	1.0000		
歯末のたけ係数	hfc	·	1.2500	1.2500		
歯元R係数	Rfc	·	0.3750	0.3750		
歯先R係数	Rac	·	0.0000	0.0000		
法線歯厚減少量	fn	mm	0.1000	0.1000		
歯幅	Ь	mm	20.0000	20.0000		
ビッチ曲線分割数	PNO	·	500			
歯たけ分割数	HNO	·	21			
確定 元に戻す 別ア 閉じる						

図 38.10 非円形歯車の諸元設定

📕 非円形歯車寸法計算	純果		- • 💌	
項目	記号	単位	ピニオン	ギヤ
最大角速度比	Hil	·	1.16	22
最小角速度比	Hi2		0.80	00
大円半径	Rmax	mm	39.6675	41.0000
小円半径	Rmin	mm	32.8000	34.1325
角速度比境界角	θs	deg	54.4030	
角速度比境界角	θe	deg	144.4030	
ビッチ円周距離	L	mm	231.43	56
モジュール	mt	mm	1.93	86

図 38.11 非円形歯車の寸法



AMTEC www.amtecinc.co.jp



図 38.13 非円形歯車のピッチ曲線

38.6 速比グラフ

非円形歯車の速比グラフ(a)角度, (b) 角速度比, (c)角加速度比, (d)半径を図 38.14 に示します. なお,変速切り換え可能範囲は, 図 38.15 に緑色で示す円筒歯車の範囲であり θ s~ θ e が,角速度 比 が 変 化 し て い る 部 分 で す. こ の (b)角 速 度 比 か ら 図 38.13 のピッチ曲線が決まりますので角速度比グラフが正しく 描かれていることが重要です.また,ここで表示したグラフ数値 は csv ファイルに出力することができます.



38.7 非円形歯車の歯形図(2D)

非円形歯車の歯形を図 38.16のように表示することができます. また、歯形の拡大や距離測定の機能もあり、画面下のスクロール バーで歯車の回転角度を変更することができます.



38.8 歯形レンダリング

図 38.17 に非円形歯車の歯形レンダリングおよびコントロール フォームを示します.また、図 38.18 は、非円形歯車にピッチ円 を描いています.



図 38.17 非円形歯車の歯形レンダリング



図 38.18 非円形歯車+ピッチ円

38.9 オーバーピン寸法

非円形歯車はそれぞれの歯形が異なりますので1 歯ごとのオー バーピン寸法を図 38.19 に示します.また,図 38.20 に歯形とピン の位置を,また,図 38.21 にピン配置の CAD 作図例を示します.



図 38.19 非円形歯車のオーバーピン寸法



図 38.20 非円形歯車のオーバーピン寸法図



38.10 歯形出力

非円形歯車の歯形を図 38.22 で出力することができます. CAD 歯形作図例を図 38.23 および図 38.24 に示します.

📕 非円形歯形出	出力	
DXF(2D)	C DXF(3D)	C IGES(3D)
○ 2=オン	C ギヤ	○ かみ合い
-2次元補間種類 C 直線	泉補間	● 円弧補間
歯幅分割	割数	5
補間精度	(μm)	1.0000
回転番	号 1	•
ビニオン回転) (Deg)	0.0000
ギヤ回転剤	角(Deg)	0.0000
	確定開い	3

図 38.22 非円形歯車の歯形出力



図 38.23 非円形歯車の CAD 作図例 (DXF)



図 38.24 非円形歯車の CAD 作図例 (3D-IGES)

[39] 内歯ウォームギヤ設計システム



図 39.1 内歯ウォームギヤ設計システム

39.1 概要

ウォームギヤの体系は、以下に示すように分類することができ ます.この中で、(1)および(2)のホイールは外歯車ですが、本件の ソフトウェアは、(3)の内歯車ウォームギヤです.なお、LCCW ウ ォームギヤは、カタログ[37]で示している「歯たけ方向に線接触 を持つ円筒ウォームギヤ」のことです.

- (1) 円筒ウォームギヤ
- (1.1) 円筒ウォームギヤ, 24 頁
- (1.2) Niemann worm gear, 99 頁
- (1.3) ウォーム×ヘリカルギヤ, 19 頁
- (1.4) LCCW ウォーム×ヘリカルギヤ, 119頁
- (1.5) 傾斜ウォームギヤ, 97 頁
- (2) 鼓形ウォームギヤ
- (2.1) ヒンドレーウォームギヤ, 117頁
- (2.2) 鼓形ウォーム×ヘリカルギヤ, 119頁
- (3) 内歯車ウォームギヤ
- (3.1) 樽形ウォームギヤ, 127 頁

内歯車ウォームギヤの樽形ウォームは、鼓形ウォームのように 同時かみ合い歯数が多く、且つ、ホイールの歯たけ方向のかみ合 い接触線を持つことから潤滑に対して非常に有利といえます.本 ソフトウェアは、(3.1)樽形ウォームギヤを設計するソフトェアで すが、バックラッシおよびクリアランスを0にすればホブやねじ 状砥石の歯形として使用することができます.また、内はすば歯 車の軸とウォーム軸を直交させることができる歯形とすることが できますので、この樽形ウォーム(ホブ、砥石)の支持軸を内は すば歯車に接触させない位置に配置させることができます(ただ し、ねじれ角の制限があります).

これらを整理しますと

- (a) 本ソフトウェアは内歯車用樽形ウォームのソフトウェアですが、バックラッシと歯先クリアランスを0にすることによりホブおよびねじ状砥石の刃形を生成することができます。
- (b) ウォーム(ホブ,砥石)の取り付け角を歯車のねじれ角に合わせることなく歯(刃)形を決定することができます.
- (c) ホブの取り付け角を,歯車の軸方向に対して直角にすること もできるため,ホブ(砥石)の切削時の移動は,内歯車の形 状に遮られることなく内歯車を重ね合わせて複数個同時に加 工することができます.

39.2 内歯車諸元入力

図 39.2 に内歯車の諸元入力画面を示します. 諸元の入力範囲は、 0.1 $\leq m_n \leq 50, 10 \leq z_2 \leq 500, 5^\circ \leq \alpha_n \leq 30^\circ, 0^\circ \leq \beta \leq 30^\circ$ です. 図 39.2 の内歯車諸元を確定すると、 寸法を図 39.3 のように表示します.

🥖 Internal Gear寸法(入力1/3) 💦 💼 💌							
項目	記号	単位	数 値				
歯直角モジュール	mn	mm	2.0000				
歯数	Z		50				
圧力角	an	deg	20.0000 *				
ねじれ角	β	deg	7 0 0.00 "				
ねじれ方向			右ねじれ 👤				
- 歯厚入力							
◎ 転位係数	○ビト	イーンピ	ン寸法 〇 またぎ歯厚				
転位係数	xn		0.3563				
ボール径	dp	mm	3.368				
ビトイーンピン寸法	dm	mm	97.5907				
またぎ歯数	zm		7				
またぎ歯厚	W	mm	40.2960				
歯先円直径	da	mm	98.1762				
歯底円直径	df	mm	107.1762				
歯元R	rf	mm	0.6000				
歯先R	ra	mm	0.2000				
歯幅	b	mm	15.0000				
確定。元に戻す。別で、閉じる。							

凶 39.2 内宙	車諸元
-----------	-----

- Internal歯車寸法計算結果 🛛 🗖 🔳 🗾						
項目	記号	単位	数 値			
正面モジュール	mt	mm	2.0150			
正面圧力角	at	deg	20.1382			
基準円直径	d	mm	100.7510			
基礎円直径	db	mm	94.5916			
基礎円筒ねじれ角	βb	deg	6.5759			
リード	Lead	mm	2577.8367			
歯末のたけ	ha	mm	1.2874			
歯元のたけ	hf	mm	3.2126			
全歯たけ	h	mm	4.5000			
Tif径	Tif	mm	98.4644			

図 39.3 内歯車寸法

39.3 ウォーム諸元入力

図 39.4 に内歯ウォーム (ホブ, 砥石) の諸元入力画面を示しま す. 条数の入力範囲は、1 ≦_{Zw} ≦3 です. 中心距離は、理論値の 他に、任意に設定することも可能ですのでウォームの直径を変更 することができます. また、偏心量を与えると図 39.5(a)に示すよ うにウォームの形状が変化し、ウォーム側面部で逃げを大きくす ることができます.

🦰 Worm(Hob,砥石)寸法	(入力2)	/3) 🗖 🗖 💌			
○ 内歯用(Hob,砥石) ● 内歯Worm						
項目	記号	単位	数 値			
条数	ZW		1			
中心距離	a	mm	40.0000			
歯幅	bw	mm	20.0000			
偏心量	е	mm	0.0000			
セット角	φ	deg	0.0000			
クリアランス	cka	mm	0.5000			
クリアランス	ckf	mm	1.0000			
歯先R	Ra	mm	0.6000			
歯 元R	Rf	mm	0.4000			
バックラッシ	jt	mm	0.2000			
確定 元に戻す 別7 閉じる						
参照(a,bw,e) 参照(cka_・・) 参照(φ)						

図 39.4 内歯-樽形ウォーム諸元

AMTEC www.amtecinc.co.jp



(a) 偏心量
 (b) クリアランス
 図 39.5 内歯-樽形ウォームの機能

図 39.6 に内歯-樽形ウォーム寸法を示します.また,諸元設定 完了後,図 39.7 に組図を作図することができますので,樽形ウォ ームの歯幅や全体のバランスを確認することができます.

● 内歯用(Hob,砥石) の計算例は、39.6に示します.

A 内歯Worm計算結果	Į	-	- • -		
項目	- 記号	単位	数	値	
軸方向モジュール	M×	mm	2.015	50	
 	Pt	mm	6.330)4	
基準円直径	dwo	mm	16.41	10	
端部外径	das	mm	24.27	55	
中央部外径	dam	mm	26.170	32	
外径面曲率半径	ρa	mm	53.088	31	
-75 - 12		244/-	数値(か	みあい)	
項日	記ち	里山	Worm	Internal Gear	
バックラッシ角度	jθ	deg	12.1946	0.2439	
軸方向かみあい率	εx		3.2651		

図 39.6 内歯-樽形ウォーム寸法





39.4 歯形計算

樽形ウォームの歯形分割数を図 39.8 で設定します. ここで設定 する分割数で生成する樽形ウォームの歯形の細かさが決まります. また,ウォームにクラウニングや歯先修整を与える場合は,図 39.9 で設定することができます.

歯形計算後の樽形ウォームと内歯車の 3D かみ合いを図 39.10 および図 39.11 に示します.図 39.11 の(a)は,理論歯形のかみ合い であるため明確に3同時かみ合い線を確認することができま

🦂 歯形計算 (入力3	/3)		- • •
項目	記号	単位	数 値
歯幅方向分割数	6NO		300
円周分割数	hNO		300
確定 元頃	इन 🗌	ካ/ፖ	閉じる 参照

図 39.8 樽形ウォームの歯形計算の設定

すが,図 39.11(b)は,図 39.9 でクラウニングを与えているため右端の接触線は薄く同時かみ合い接触線は2.5 歯です.

なお、本例は、内歯車とウォームの軸角は図 39.4 で、セット角 ¢=0° としていますので 90° で組み立てることができるウォー ム歯形ですが、内歯車のねじれ角に合わせた軸角としたウォーム の歯形を生成することも可能です.



図 39.9 樽形ウォームのクラウニング



図 39.10 歯形レンダリング (理論ウォーム)



39.5 歯形出力

生成した歯形を CAD データとして出力することができます. 図 39.11の歯形を図 39.12の歯形ファイル出力により作図した例を 図 39.13 に示します.



AMTEC www.amtecinc.co.jp



図 39.13 CAD 作図例(3D-IGES)

39.6 ホブ(ねじ状砥石)

図 39.2 の内歯車を加工する内歯用ホブ(砥石)の諸元入力画面 を図 39.14 に示します.条数の入力範囲は、1 $\leq z_w \leq 3$ です.中 心距離は、理論値の他に、任意に設定することも可能ですのでホ ブの直径を変更することができます.ウォームの場合はクリアラ ンスおよびバックラッシを与えることができますが、ホブの場合 は設定できません.

図 39.15 に内歯-樽形ホブ寸法を示します.また,諸元設定完了後,図 39.16 に組図を作図することができますので,樽形ホブの 歯幅や全体のバランスを確認することができます.

🦰 Worm(Hob,砥石) 寸法(入力2/3) 💦 💼 💌							
○ 内歯用(Hob.砥石) ○ 内歯Worm							
項目	記号	単位	数 値				
条数	ZW		1				
中心距離	a	mm	40.0000				
歯幅	bw	mm	20.0000				
偏心量	е	mm	0.0000				
セット角	φ	deg	0.0000				
クリアランス	cka	mm					
クリアランス	ckf	mm	1.0000				
歯先R	Ra	mm	0.6000				
歯元R	Rf	mm	0.4000				
バックラッシ	jt	mm					
確定「元に戻す」がア」閉じる							
参照(a,bw,e) 参照(cka_・・) 参照(φ)							
図 39.	図 39.14 内歯-樽形ホブ諸元						

📙 内歯用 (Hob,砥石)	計算		
項目	記号	単位	数値
軸方向モジュール	m×	mm	2.0150
軸方向ビッチ	Pt	mm	6.3304
基準円直径	dwo	mm	16.4110
端部外径	das	mm	25.2936
中央部外径	dam	mm	27.1762
外径面曲率半径	Pa	mm	53.5881

図 39.15 内歯-樽形ホブ寸法



39.7 歯形計算

樽形ホブの歯形分割数を図 39.17 で設定します. ここで設定す る分割数で生成する樽形ホブの歯形の細かさが決まります.また, ウォームにはクラウニングを与えることができますが,ホブには クラウニングを与えることができません.

🦰 歯形計算(入力3)	- • •					
項目	記号	単位	数 値			
歯幅方向分割数	6NO		300			
円周分割数	hNO		300			
確定 元に戻す 別ア 閉じる 参照						

図 39.17 樽形ホブの歯形計算の設定

図 39.18 に樽形ホブと内歯車およびコントロールフォームを示します.また,図 39.19 に示す拡大図では内歯車の歯面と歯先にホブの刃形接触線を確認することができます.

内歯車とホブの軸角は図 39.14 でセット角 φ=0° としていま すので歯車とホブの軸角を 90° で加工することができるホブの 刃形です.



図 39.18 樽形ホブと内歯車



図 39.19 樽形ホブと内歯車(拡大図)

図 39.10 は、ウォームセット角を $\phi=0^\circ$ としていますが、内歯車のねじれ角($\beta=15^\circ$)に合わせた作図例($\phi=15^\circ$)を図 39.20に示します.ただし、ねじれ角とセット角は同じとする必要はありません.ウォームの歯形が成立する範囲であれば ϕ を自由に決めることができます.



[40] 多段減速歯車設計システム



図 40.1 多段減速歯車設計システム

40.1 概要

減速機を設計する際,総減速比に対する減速段数とその歯数比 を決め,寸法計算,強度計算,軸受荷重計算をするには計算が非 常に面倒です.例えば,全ての歯車の計算を終えた後で,初期段 の歯車の変更が生じた場合,後列の歯車を再度計算し直す必要が 生じます.

本ソフトウェアは、総減速比、段数そして動力を設定すること により歯車寸法、歯車強度計算を一括で行うことができます.そ して、歯車列の配置図を表示し、さらに歯車配置を自由に変更す ることができます.

40.2 歯数&強度計算条件

図 40.2 に歯数と強度計算条件の画面を示します. 総減速比の入 力範囲は、 $1 < \Sigma U < 10,000$ で、段数は $1 \sim 10$ で設定することができ ます. また、強度計算を規準に歯車寸法を決定しますが、その際、 曲げ強度と歯面強度の両方で歯車の大きさを決めることや曲げ強 度あるいは歯面強度だけで歯車の大きさを決めることができます. 本カタログでは $\Sigma U = 32.5$ 、3 段歯車の例を示します.

🥖 歯数&強度計算条件 🛛 🔤 💌								
項目	記号	単位	数 値					
総速比 ΣU 32.5000								
速比許容率 Σlim % 1.00								
段数	段数 N 3 3 ▼							
強度計算	強度計算							
🔽 曲げ強さを評価 🔽 歯面強さを評価								
	·····································							

図 40.2 歯数と強度計算条件の設定

40.3 歯数設定

歯数設定は、総減速比と段数により自動計算(AMTEC 独自の アルゴリズム)します. 例題では、総減速比 32.50 に対し、計算 による総減速比は 32.7 であり、その誤差は 0.76 %です. なお、 自動計算により決まった歯数は任意に変更が可能です.

🦰 歯数設定							- • •		
段数 3	総速比	総速比 32.5000 実総速比 32.7474 速比誤差(%) 0.76							
項目	14	段	2₿	3#3					
計算速比	4.0	4.0022 3.1913			2.5446				
歯数	18	72	19	61	20	51			
実速比	4.0000 3.2105 2					500			
[確定] +v)也/ <u>り</u> リア									

図 40.3 歯数設定

40.4 設計条件

図 40.4 に設計条件設定画面を示します. 材料の設定は,図 40.5 に示すように「熱処理」に適応した材料の選択フォームを表示し, 設定することができます.また,各段歯車の材料を設定した後は, 図 40.6 のように材料一覧で確認することができます.

図 40.4 の場合, 圧力角およびねじれ角は全段共通 (プロパティ で設定:図 40.24 参照) ですが,各段の歯車で任意に設定するこ とができます.図 40.7 に各段歯車の圧力角とねじれ角を変更した 例を示します.

運転温度および摩擦係数は、プラスチック歯車(今後に対応予 定)の強度計算のために設けていますので鋼歯車の場合は強度計 算に影響しません.



図 40.4 設計条件の設定1



図 40.5 材料設定の例

項目	記号	単位	11	2	2段			
材質			構造用鋼	構造用鋼	構造用鋼	構造用鋼		
熱処理			浸炭焼入れ	浸炭焼入れ	浸炭焼入れ	浸炭焼入れ		
材料記号			SCH420	SCM420	SCM420	SCM420		
心部硬度	H¥		HV 242	H¥ 242	HV 242	HV 242		
表面硬度	H¥		HV 600	HY 600	HV 600	HV 600		
許容曲げ応力	σFlim	MPa.	353.00	353.00	353.00	353.00		
許容ヘルツ応力	σHlim	MPa.	1314.00	1814.00	1814.00	1314.00		
材料定数係数	ZH	√MPa	189.80	189.80	189.80	189.80		
弾性係数	E	MPa.	205940	205940	205940	205940		
ポアソン比	ν		0.300	0.300	0.300	0.300		
•						Þ		

図 40.6 材料一覧



図 40.7 設計条件の設定 2

AMTEC www.amtecinc.co.jp

40.5 歯車寸法の設定

→法結果 で、図 40.8 を表示します.ここで表示する歯車諸元は、上記で設定した減速比や動力などを規準にして強度計算を行い、安全率(本例の場合、曲げと歯面強さ)が満足する歯車諸元を自動計算し表示しています.

ここでは、モジュール、歯数、圧力角、ねじれ角、歯幅などを 変更することができます.また、ここで表示している歯幅は強度 計算を規準に自動決定した値のため整数ではありませんので製品 の歯幅に変更可能です.今、歯幅を 18.6mm を 10mm に変更する と、再度強度計算を行い図 40.9 のように強度不足の数値を赤字で 表示します.

例題の場合,1~3段の歯車諸元数値を[確定]すると図40.10のように歯車寸法結果を表示します.

🦰 寸法設定				— ×
1段 2段 3段				
項目	記号	単位	ピニオン	ギヤ
モジュール	mn	mm	1	.25000
歯 数	Z		18	72
圧力角	αn	deg	20	.00000
ねじれ角	β	deg	15	.00000
ねじれ方向			左ねじれ 💌	右ねじれ 💽
基準円直径	d	mm	23.2937	93.1749
転位係数	xn		0.00000	0.00000
中心距離	a	mm	58	.2343
歯直角法線歯厚減少量	fn	mm	0.0750	0.0750
基礎円直径	db	mm	21.7976	87.1904
歯先円直径	da	mm	25.7937	95.6749
歯底円直径	df	mm	20.1687	90.0499
歯幅	b	mm	18.6350	18.6350
基準ラック歯元R係数	ro		0.3750	0.3750
歯先 R	ra	mm	0.0000	0.0000
クリアランス	С	mm	0.3125	0.3125
法線方向トータルドゥクラッシ	jn	mm	0.	.1500
全かみあい率	εγ		2	.8201
すべり率(歯先)	σa		0.5055	0.8296
すべり率(歯元)	σb		-4.8673	-1.0223
トルク	T	N-m	30.0000	120.0000
回転速度	n	rpm	1234.0000	308.5000
曲げ強さ	sft		1.5814	2.0087
歯面強さ	sfc		1.0414	1.0414
材質			SCM420	SCM420
	0	確定	++yytık	

図 40.8 歯車寸法の設定1

🦰 寸法設定				— ×
1段 2段 3段				
項目	記号	単位	ビニオン	ギヤ
モジュール	mn	mm	1	.25000
歯 数	z		18	72
圧力角	αn	deg	20	.00000
ねじれ角	β	deg	15	.00000
ねじれ方向			左ねじれ 💌	右ねじれ 💌
基準円直径	d	mm	23.2937	93.1749
転位係数	xn		0.00000	0.00000
中心距離	a	mm	58	.2343
歯直角法線歯厚減少量	fn	mm	0.0750	0.0750
基礎円直径	db	mm	21.7976	87.1904
歯先円直径	da	mm	25.7937	95.6749
歯底円直径	df	mm	20.1687	90.0499
歯幅	b	mm	10.0000	18.6350
基準ラック歯元R係数	ro		0.3750	0.3750
歯先 R	ra	mm	0.0000	0.0000
クリアランス	C	mm	0.3125	0.3125
法線方向トータルバックラッシ	jn	mm	0	.1500
全かみあい率	εγ		2	.2510
すべり率(歯先)	σa		0.5055	0.8296
すべり率(歯元)	σb		-4.8673	-1.0223
トルク	T	N•m	30.0000	120.0000
回転速度	n	rpm	1234.0000	308.5000
曲げ強さ	sft		0.8486	1.2126
歯面強さ	sfc		0.4650	0.4650
材質			SCM420	SCM420
		確定	キャンセル	

図 40.9 歯車寸法の設定 2

🦯 寸法結果				X	
1段 2段 3段					
項目	記号	単位	ピニオン	ギヤ	
転位量	×m	mm	0.0000	0.0000	
歯末のたけ	ha	mm	1.2500	1.2500	
歯元のたけ	hf	mm	1.5625	1.5625	
全歯たけ	h	mm	2.8125	2.8125	
リード	PZ	mm	273.1091	1092.4364	
基礎円筒ねじれ角	βb	deg	14	.07610	
正面かみあい圧力角	aw	deg	20	.64694	
かみあいと。が円直径	dw	mm	23.2937	93.1749	
歯直角基準円弧歯厚	sn	mm	1.9635	1.9635	
」 歯直角設計円弧歯厚	sn'	mm	1.8837	1.8837	
正面基準円弧歯厚	st	mm	2.0328	2.0328	
正面設計円弧歯厚	st'	mm	1.9501	1.9501	
歯直角法線ビッチ	pbn	mm	3.6902		
正面法線ビッチ	pbt	mm	3.8044		
かみあい長さ	Ga	mm	6	.0561	
正面かみあい率	εα		1	.5919	
重なりかみあい率	εβ		1	.2282	
またぎ歯数	ZM		3 🗸	9 🔽	
基準またぎ歯厚	W	mm	9.5733	32.7579	
設計またぎ歯厚	W'	mm	9.4983	32.6829	
測定ビン径	dp	mm	2.156	2.105	
基準オーバーピン寸法	dm	mm	26.2665	96.0191	
設計オーバーと シオ法	dm'	mm	26.0824	95.8095	
キャリバ歯たけ	Hj	mm	1.2886	1.2597	
基準キャリパ歯厚	Sj	mm	1.9615	1.9634	
設計キャリバ歯厚	Sj'	mm	1.8820	1.8836	
基準ラック歯末のたけ	hao'		1.0000	1.0000	
基準ラック歯元のたけ	hfo'		1.2500	1.2500	
トータルルドックラッシ	jt	mm	0	. 1653	

図 40.10 歯車寸法

40.6 強度計算結果

32度結果 で、図 40.11 に強度計算結果を表示します. なお、 歯車強度計算は、JGMA401-01:1974,402-01:1975 に基づいています. また、図 40.8 の歯車諸元は図 40.11 に示すように曲げ強さ、歯面 強さ全てが満足する歯車諸元です.

各段歯車の強度結果は 18 28 38 で選択することができます.

🦰 強度結果				×
1段 2段 34	g			
項目(曲げ)	記号	単位	ビニオン	ギヤ
許容曲げ応力	σFlim	MPa	353.0000	353.0000
曲げ有効歯幅	Ь,	mm	18.6350	18.6350
歯形係数	YF		2.9851	2.3501
荷重分布係数	Yε		0.	.6282
ねじれ角係数	Yβ		0.	.8750
寿命係数	KL		1.0000	1.0000
寸法係数	KF×		1.0000	1.0000
動荷重係数	Kv		1.	.0253
呼び円周力	Ft	N	2575.	.8015
許容円周力	Ftlim	N	4073.3212	5173.9595
許容馬力	PFlim	k₩	6.1306	7.7871
許容トルク	TFlim	N•m	47.4414	241.0415
曲げ強さ	Sft		1.5814	2.0087
歯元曲げ応力	σF	MPa	223.2227	175.7374
項目(面圧)	記号	単位	ビニオン	ギヤ
許容ヘルツ応力	σHlim	MPa	1314.0000	1314.0000
面圧有効歯幅	bw	mm	18.	.6350
領域係数	ZH		2.	. 42 47
寿命係数	KHL		1.0000	1.0000
かみあい率係数	Zε		0.	.7926
粗さ係数	ZR		0.9362	0.9362
潤滑速度係数	ZV		0.9596	0.9596
硬さ比係数	ZW		1.0000	1.0000
荷重分布係数	KH 🕫		1.	.0000
動荷重係数	Kv		1.	.0253
呼び円周力	Fc	N	2575.	.8022
許容円周力	Fclim	N	2682.3126	2682.3126
許容馬力	Pclim	k₩	4.0371	4.0371
許容トルク	Tclim	N•m	31.2405	31.2405
歯面強さ	Sfc		1.0414	1.0414
ヘルツ応力	σH	MPa	1287.6473	1287.6473

図 40.11 強度計算結果

40.7 すべり率とヘルツ応力のグラフ

インボリュート歯形の特徴としてかみ合いピッチ円ではころが り運動となりますが、これ以外ではすべりを伴う運動となります. 各歯車段のすべり率とヘルツ応力の変化グラフを図 40.12 および 図 40.13 に示します.



40.8 歯形かみ合い図

図 40.14 に各段歯車のかみ合い図を示します. コントロールフ オームで歯車を回転させることもでき,また,距離計測もできま す.



図 40.14 歯形かみ合い図

40.9 歯形かみ合い図と歯形レンダリング

図 40.14 に各段歯車のレイアウトを示します. コントロールフ オームにより寸法線や歯形を表示することができます. また, 図 40.16 のように歯車を軸方向に移動して歯車側面に隙間を与える ことや, 歯車軸をY軸方向に移動することもできます. この歯形 レンダリング(オプション)を図 40.17 に示します.

また, 歯車軸を移動する処理は, 小型の歯車装置(小型モータ 減速機等)に適しています. 図 40.18 および図 40.19 に 8 段減速歯 車を示します.





図 40.16 レイアウト2



図 40.17 歯形レンダリング1



図 40.18 レイアウト3 (8 段減速の例)



図 40.19 歯形レンダリング2 (8 段減速の例)

40.10 軸受荷重 (オプション)

歯車に作用する荷重と、軸受けに作用する荷重を計算します. 荷重の種類は、接線力、法線力など各軸受けに作用する荷重を20 種類計算します. 図 40.20 に計算結果を示します.



40.11 ファイル出力(オプション)

生成した歯形とレイアウトは、図 40.21 で出力することができ ます. 図 40.21 にレイアウトの CAD 作図例を,図 40.22 に歯車列 の CAD 作図例を示します.

🦯 ファイル出力	×
項目	数 値
種類	歯 形 ▼
段	▲ 形 201-2205
歯車の種類	3DL-1791
│ 中心座標×	0.0000
中心座標丫	0.0000
│ 中心座標Z	0.0000
補間精度(µm)	1.00
	9 💌
確定	キャンセル

図 40.21 ファイル出力





図 40.23 CAD 作図例 (歯車列)

40.11 プロパティ

(1)規準ラックと標準値

図 40.24 に規準ラックと標準値の設定画面を示します. 歯幅の 設定範囲や歯幅決定係数で減速機の大きさを決めることができま す.



図 40.24 規準ラックと標準値

(2)任意材料の登録

任意材料を図 40.25 で設定することができます. 図 40.5 の材料 選択で「任意材料」を選択することができます.

🥖 材料管理			×			
項目	記号	単位	数値			
材質			金 禹 💌			
材料記号			AAA-00			
許容曲げ応力	σFlim	MPa	353.00			
許容ヘルツ応力	σ Hlim	MPa	1314.00			
弾性係数	E	MPa	1721			
ポアソン比	ν		0.350			
備考			xyzネ±			
Ⅰ Record: 1 ▶ 登録目 井沙切り 別序 別7						

図 40.25 任意材料の設定

[41] 内歯ねじ歯車設計システム



41.1 概要

外歯車同士のねじ歯車対は、両歯車ともインボリュート歯形で あればかみ合いは成立しますが、内歯車と外歯車に軸交差角を与 え、ねじ歯車としてかみ合わせた場合、内歯車と外歯車がともに インボリュート歯形であれば歯面に大きな3次元干渉が発生する ため、かみ合いが成立しません.しかし、本ソフトウェアは、内 歯車と外歯車に任意の軸角を与えた場合であってもかみ合いが成 立する外歯車の歯形を生成することができますので内歯ウォーム ギヤ (カタログ vol.15[39]) と同様に外歯車を工具として扱うこと もできます.また、本ソフトウェアは、内歯ウォームギヤと類似 のものですが、内歯のねじ歯車として設計できるようにしたもの です.

41.2 内歯ねじ歯車

図 41.2 に歯車諸元の入力画面を示します.諸元の入力範囲は, $0.1 \le m_n \le 50, 10 \le z_2 \le 999, 5° \le \alpha_n \le 40°, 0° \le \beta \le 50° です.転位係数入$ 力後に[標準値]ボタンをクリックすると歯先円直径からバックラッシまで標準値が入力されます.そして[確定]ボタンで図 41.3 を表示します.

図 41.4 に内歯ねじ歯車のかみ合いを示しますが、この外歯車の 歯形はインボリュート歯形のため大きな3次元干渉が発生してい ます.しかし、3次元干渉を考慮した歯形のかみ合いは図 41.5 に 示すように綺麗な接触線が表れています.そして、生成した外歯 車の歯形は CAD ファイルに出力することができます.

🦰 歯車諸元入力					
- 外歯重形状					
◎ かみ合い用			○ 内歯加工用		
項目	記号	単位	内歯車	外歯車	
歯直角モジュール	mn	mm	2.	0000	
歯 数	Z		63	24	
歯直角圧力角	an	deg	20.	0000	
ねじれ角	β	deg	30.0000 *	12.0000 🕷	
ねじれ方向			右ねじれ 💌	右ねじれ 💌	
基準円直径	d	mm	145.4923	49.0723	
転位係数	×n		0.2000 *		
歯先円直径	da	mm	142.2923	53.8723	- 参考
歯底円直径	df	mm	151.2923	44.8723	の またざ出年 C 転位量 C だららだいでは
交差角	φ	deg	18.	0000	<u> </u>
中心距離	a	mm	48.	2100	また芝生味 (素切り)(細心)(本秋)
歯先R	Ra	mm	0.0000		転位活動にカーリルを合わせ「Shin+左クリック』で表示 変現け込んA転分気動を決定することができます。
歯元R	Rf	mm	0.7500	0.7500	ALL THE CONTRACTOR FOR CONTA
歯 幅	Ь	mm	20.0000	20.0000	Ckf
クリアランス	cka	mm	0.	5000	
クリアランス	ckf	mm	0.	5000	
パックラッシ	Jt	mm	0.	1000	Cka
確定元	に戻す	· /	リア 閉じる 標準	値参照	外倉車の『倉先門直径』と『倉遼門直径』は、中心 「鷽とクリアランスから計算します。
			I		-

図 41.2 内歯車諸元

🦰 寸法計算結果			- • •			
項目	記号	単位	内歯車			
ねじれ角(度分秒)	β	deg	30° 0′ 0.000″			
基礎円直径	db	mm	134.1280			
基礎円筒ねじれ角	βb	deg	28.0243			
正面モジュール	mt	mm	2.3094			
正面圧力角	αt	deg	22.7959			
歯末のたけ	ha	mm	1.6000			
歯元のたけ	hf	mm	2.9000			
全歯たけ	h	mm	4.5000			
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	pz	mm	791.6813			
歯直角基準円弧歯厚	Sn	mm	2.8504			
正面基準円弧歯厚	St	mm	3.2914			
またぎ歯数	zm	[]	11			
またぎ歯厚	W	mm	64.9222			
ビドイーンピン径	dp	mm	4.000			
「ビトイーンピン寸法」	dm	mm	139.0682			
項目	記号	単位	外歯車			
仮想ねじれ角	β _V	deg	12.0000			
歯幅分割数	BNO		41			
歯たけ分割数	hNO		41			
確定	元に戻す		閉じる			

図 41.3 内歯車寸法



図41.4 内歯ねじ歯車の かみ合い(外歯がインボリ ュート歯形)



図 41.5 内歯ねじ歯車の かみ合い(干渉を考慮した 外歯車歯形)

41.3 内歯ねじ歯車(工具)

(1) 図41.2のクリアランスやバックラッシが0であれば外歯車を 工具(または、ラッピング用歯車)と見立てることができます.本 例では内歯車のねじれ角が20°,外歯車(工具)のねじれ角が30° の歯車諸元を図41.6に示しますが、クリアランスckaは、歯車の 歯先と工具の隙間を0.5mmとして与えています.また、本ソフト ウェアではねじれ角から決まる交差角に対し±10°の補正角度 を与えることができますので本例では交差角を15°としていま す.さらに、中心距離も任意に設定することができます.図41.6 の[確定]ボタンを押すと図41.7 の内歯車寸法を表示します.

赤東洋ティカ							
○ かみ合い用			④ 内歯加工用	Ħ			
項目	記号	単位	内歯車		外歯車		
歯直角モジュール	mn	mm	2.0000				
歯 数	z		63		24		
歯直角圧力角	αn	deg	20.0000				
ねじれ角	β	deg	20.0000	*	30.0000 *		
ねじれ方向			右ねじれ	-	右ねじれ 🝷		
基準円直径	d	mm	134.0864		55.4256		
転位係数	xn		0.2000	*			
歯先円直径	da	mm	130.8864		60.8864		
歯底円直径	df	mm	139.8864		50.8864		
交差角	φ	deg	-15.0000				
中心距離	a	mm	39.5000				
歯先R	Ra	mm	0.0000				
歯元R	Rf	mm	0.7500		0.7500		
歯幅	b	mm	20.0000		20.0000		
クリアランス	cka	mm	0.5000				
クリアランス	ckf	mm	*****				
N° ックラッジ	Jt	mm	*****				
確定 元に戻す 別ア 閉じる 標準値 参照							
図 41.6 内歯車諸元(工具)							

AMTEC www.amtecinc.co.jp
A 寸法計算結果							
項目	記号	単位	内歯車				
ねじれ角(度分秒)	β	deg	20° 0′ 0.000″				
基礎円直径	db	mm	125.0349				
基礎円筒ねじれ角	βb	deg	18.7472				
│ 正面モジュール	mt	mm	2.1284				
正面圧力角	at	deg	21.1728				
歯末のたけ	ha	mm	1.6000				
歯元のたけ	hf	mm	2.9000				
全歯たけ	h	mm	4.5000				
リード	pz	mm	1157.3607				
歯直角基準円弧歯厚	Sn	mm	2.8504				
正面基準円弧歯厚	St	mm	3.0333				
またぎ歯数	zm	「 「	9				
またぎ歯厚	W	mm	52.5666				
ビトイーンピン径	dp	mm	3.000				
「ビトイーンピシオ法」	dm	mm	131.6942				
項目	記号	単位	外歯車				
仮想ねじれ角	β _V	deg	35.0000				
歯幅分割数	6NO	[]	41				
歯たけ分割数	hNO		41				
確定 元に戻す 閉じる							

図 41.7 内歯車寸法

(2) 3 次元干渉を考慮した外歯車(工具)の歯形と内歯車のかみ 合いは、図41.8のように左右歯面において綺麗な接触線を確認す ることができます.もし、3次元干渉を考慮していない歯形であ れば、図41.9のように大きな干渉が発生しますので、かみ合いま せん.



に外歯車を工具と見立てた加工後歯形(青色)と内歯(赤色)の 重ね合わせ図を示します.また,正面歯形で確認すると図 41.12 のように綺麗に重なっていることが解ります.



図 41.10 断面歯形



図 41.11 加工後歯形と内歯



図 41.12 加工後歯形と内歯の重ね図と距離計測

(4) 外歯車(工具)の歯形を計算する際,歯幅方向に 41 分割と したため、断面1の歯形と歯幅中央の断面21の歯形を図41.13に 示します. 両者の違いは歯先円直径が異なり、また、断面1の歯 形は, 左右非対称歯形です.



(5) 生成した歯形をCADデータとして出力することができます. 図 41.14 の歯形出力により作図した 3D 歯形の例を図 41.15 に示し ます.また、外歯車(インボリュート)と断面21の歯形の重ね合 わせを図 41.16 に示しますが、インボリュート歯形と工具歯形に は大きな違いがあることが解ります.



(6) 生成した外歯車(工具)の歯形(断面 21 など)を研削する場 合,図41.14の「2次元歯溝 text」で歯形ファイルを出力し,図41.17 のように YASDA GT-30 (カタログ 116 頁, [104], 機械の紹介) で 研削することができます.

AMTEC www.amtecinc.co.jp



(a) 砥石歯形(砥石径 250mm)(b) 歯形と砥石図 41.17 成形研削(YASDA GT-30)

(7) 次に、外歯車(工具)の歯幅を 1mm(図 41.6 の外歯車の歯 幅)としたときのかみ合いを図 41.18 に示します.また、外歯車 (工具)を軸方向に移動したときの歯当たりを図 41.19 に示しま すが、歯幅の位置の違いに関わらず同じ接触模様を示しています.



(a) 軸位置=+6mm
 (b) 軸位置=-6mm
 図 41.19 軸方向に移動したときの歯当たり(θ₂=0°)

(8) 内歯車が平歯車の場合も、はすば歯車と同様に計算すること ができます. 内歯ねじ歯車 ($m_n=2, z_1=130, z_2=35, \alpha=20, \beta=0, x_1=0.2, d_{al}=256.8, d_{f1}=265.8$) のかみ合いを図 41.20 に示します.また、外 歯車をインボリュート歯車とした場合のかみ合いを図 41.21 に、3 次元かみ合いとコントロールフォームを示します.



図 41.20 内歯ねじ歯車のかみ合い (干渉を考慮した外歯車)



図 41.21 内歯ねじ歯車のかみ合い (外歯がインボリュート)

41.4 外歯車(工具)の測定(オプション)

図 41.16 に示す工具歯形(断面 21:緑線)を図 41.17 のように 成形研削した場合,歯形検査を行う必要があります.そこで,歯 車測定機を用いて外歯車(工具)の各断面の歯形を測定する方法 を以下に示します.

図 41.16 の工具歯形(断面 21)の歯形はインボリュート歯形に 近い形状をしていますので $m_n \ge \beta$ は設定値とし、 α_n が解れば歯 車測定機で歯形誤差を測定することができます。その計算画面を 図 41.22 に示します。

ただし、本例の場合、歯たけ中央の歯形はインボリュート歯形 に一致していますが、歯先および歯元付近の外歯車(工具)歯形 はインボリュート歯形と比較して約 5µmの違いがあります.この 歯形の違いは、図 41.23 に示すように距離計測で確認することが できますので検査結果で配慮する必要があります.さらに、外歯 車(工具)の歯先部は内歯車の歯底部を生成しますので外歯車(工 具)の歯先部は除外する必要があります.なお、断面 21 は、左 右対称歯形ですが、これ以外の断面は、図 41.24 に示すように左 右非対称歯形です.





AMTEC www.amtecinc.co.jp

[42] Skiving cutter design system



☑ 42.1 Skiving cutter design system

42.1 概要

円筒歯車(外歯車、内歯車)の歯切り工法の一種であるパワー スカイビングは1910年に特許が成立して100年が経過しましたが、 近年、この工法が見直され国内外で専用機が上市されるようにな りました. また、歯車加工も歯切り盤ではなく近年、マシニング センタでスパイラルベベルギヤなどや特殊な歯車も加工されるよ うになっています (カタログ(vol.16), 41 頁写真).

パワースカイビングは、工具の取り付け角(交差角、テーパ角) と工具の歯形さえ決まれば高機能のマシニングセンタで加工する ことができます. Skiving cutter design system は、歯車諸元と工具 の取り付け角から工具(ピニオンカッタ)の歯形を生成すること ができるソフトウェアです. また, 生成した刃形を近似インボリ ュート刃形として生成することができます.図42.1に全体画面を 示します.

42.2 ソフトウェアの構成

Skiving cutter design system の構成を表 42.1 に示します. 表中の ○は基本ソフトウェアに含まれ、◎はオプションです. 適応歯車:インボリュート平,はすば歯車(外歯車,内歯車)

No.	項目	掲載項	構成
1	歯車寸法	42.3	0
2	工具寸法	42.4	0
3	歯形 (歯車, 工具)	42.5	0
4	組図 (2D)	42.6	0
5	歯形レンダリング	42.7	0
6	歯形創成	42.8	0
7	歯形出力	42.9	0
8	近似インボリュート刃形	42.10	0
9	設計データ管理		0
10	切り屑形状	42.12	\odot
11	工具兼用	42.13	0
12	面取り (R, C)	42.14	0

表 42.1 ソフトウェアの構成

○:標準ソフトウェア

◎:オプション

42.3 歯車寸法

被削歯車を内歯車としたとき歯車諸元は図 42.2 および図 42.3 のように設定します.転位係数は、直接入力する方法と、またぎ 歯厚,オーバーボール (ビトゥイーンボール) 寸法があります. なお,外歯車の例を 42.11 に示します.

★吉祥二				
● 图半語九				
歯車種類	〇内:	重重	◎ 外歯車	
諸元。歯先面取				面直用転位係数
項目	記号!	単位	数 値	<u>歯直角転位係数</u>
歯直角モジュール	mn	mm	3.00000	
歯 数	z		66	
歯直角圧力角	an	deg	20.00000	
ねじれ角	β	deg	26 * 30 ' 0.00 ″ 📃	
ねじれ方向			右ねじれ 👻	
基準円直径	d	mm	221.2453	
基礎円直径	db	mm	204.9441	1
歯厚入力方式			曲直角転位係数 🦊	
歯直角転位係数	xn		0.25000 📃	
またぎ歯数	Zm		0	
またぎ歯厚	W	mm	0.00000	
測定ボール径	dp	mm	0.00000	▶ 歯車諸元
ビトゥイーン寸法	dm	mm	0.00000	
法線歯厚減少量	fn	mm	0.0000	諸元菌先面取
歯先円直径	da	mm	216.7453	項 日 記号 単位
歯底円直径	df	toto	230.2453	歯先面取り
凿元 R	Rf	mm	1.1250	齿先R Ra nm
山田福	Ь	mm	30.0000	コージョー Can mm 歯厚方向 Cav mm
確定 キャンセ	UV B	えす	標準 クリア	「確定」キャンセル」戻す」

	(ぎ)さ	「「「「」「」「」「」「」「」「」「」「」「」「」「」「」「」「」」「」「」」「」」「」」「」」「」」」	
▶ 歯申請元			
台車種類	. ● ₱	「歯車	◎ 外歯車
諸元 苗先面取			
項目	記号	単位	数 値
歯先面取り			C m 🗸
齿先R	Ra	nn	849894
たけ方向	Cah	m	0.5000
歯厚方向	Caw	m	0.5000
確定 キャンセ	91	戻す	標準 クリア
	-	-	

図 42.2 歯車諸元(内歯車の例)

図 42.3 面取り設定

🏷 歯車寸法			- • ×
項目	記号	単位	數 値
正面モジュール	mt	mm	3.3522
正面圧力角	αt	deg	22.1316
基礎円筒ねじれ角	βb	deg	24.7897
軸方向ビッチ	pt	mm	21.1224
リード	pz	mm	1394.0798
全歯たけ	h	mm	6.7500
歯切転位係数	xnc		0.2500
最小インボリュート直径(TIF)	dt	mm	217.7453
最大インボリュート直径	dh	mm	228.9901
歯直角円弧歯厚	sn	mm	4.1664
正面円弧歯厚	st	mm	4.6556
またぎ歯数	ZM		11
基準またぎ歯厚	w	mm	97.3066
設計またぎ歯厚	w'	mm	97.3066
測定ボール径	dp	mm	5.0260
基準ビトゥイーン寸法	dm	mm	215.9706
設計ビトゥイーン寸法	dm'	mm	215.9706

図 42.4 寸法

42.4 工具寸法

加工工具 (ピニオンカッタ)の諸元を図 42.5 に示します. ここ では、歯車のねじれ角 26.5°に対し、加工時の公差角を ø c=20° としたときの例を示します.また、カッタの形状、位置、逃げ角 の参考図を図 42.5a, 42.5b に示します.

本ソフトウェアでは、交差角 oc, テーパ角 ot で工具を取り付 け、図 42.2 の歯車を加工するときの工具刃形をすくい角や側面逃 げ角を考慮して生成します. なお、はすば歯車加工時のピニオン カッタには、刃付け研磨が容易となるよう横すくい角(刃付け角) は与えないものとします.

🏷 工具諸元			- • •	active or				
項目	記号	単位	数 値	E				
刃 数	zc		25	H				
交差角	φc	deg	20.00000	H				
テーパ角	φt	deg	3.00000	E				
外径	Do	mm	84.0124	7)MLb				
内径	Di	mm	56.9753					
クリアランス	ckf	mm	0.5000					
刃幅	Ь	mm	15.0000					
すくい角	θe	deg	5.00000					
前逃げ角	θf	deg	5.00000					
側面逃げ角	θs	deg	2.0000					
刃先R	Ra	mm	0.7000					
ねじれ方向			右ねじれ					
仮想ねじれ角	βv	deg	6.5000					
仮想基準円直径	dv	mm	75.4852					
確定 キャンセル 戻す クリア								
図.	42.5	Τļ	具諸元					



AMTEC www.amtecinc.co.jp

42.5 歯形 (歯車,工具)

歯車歯形を図 42.6 に, ピニオンカッタの刃形を図 42.7 に示しま す.図 42.7 の青線刃形は、図 42.8 に示すピニオンカッタの加工端 面の刃形であり水色線はピニオンカッタの上面の刃形を示します. 歯形図には拡大,縮小,距離計測機能があります.



42.6 組図 (2D)

組図を図 42.9 に示します.加工座標値の工具ポイント(A, B, C) は図 42.10 に示すように歯車の中心を(0,0,0)原点としています.



42.7 歯形レンダリング

歯形レンダリング(図 42.12~42.15)では歯車とピニオンカッ タのかみ合いを確認することができます.補助機能として工具の X,Y,Z 方向の移動や回転機能がありますので図 42.13 のように工 具と歯車のかみ合い(切削)の関係を工具刃を回転させながら確 認することができます.また,図 42.15 のようにピニオンカッタ のみを表示することもできます.



図 42.13 すくい角断面と歯車

42.8 歯形創成図

歯形創成図の設定画面を図 42.15 に示します. ここでは, 粗加 工時の工具切り込み量を 5mm, 仕上げの切り込み量を 6.75mm と したときの歯形創成図を図 42.16 に示します.

項目	記号	単位	数 値					
最大切込量	hmax	mm	6.7500					
開始切込み量	h1	mm	5.0000					
終了切込み量	h2	mm	6.7500					
交差角誤差	⊿¢C	deg	0.0000					
テーバ角誤差	⊿¢⊺	deg	0.0000					
工具位置誤差X	⊿x	mm	0.0000					
工具位置誤差Y	⊿۲	mm	0.0000					
工具位置誤差Z	⊿z	mm	0.0000					
創成刃表示個数	N		41					
歯車回転角誤差	⊿θ	deg	0.0000					
設計交差角	φC'	deg	20.0000					
設計テーバ角	φT'	deg	3.0000					
確定 キャンセル クリア								
図 42.15	歯	形創	成図設定					



図 42.14 ピニオンカッタ

42.9 歯形ファイル出力

歯車歯形と工具刃形を DXF ファイルおよび IGES ファイルで出 力することができます.図 42.17 に歯形出力設定画面を,図 42.18 に工具の CAD 作図例を示します.



42.10 近似インボリュート刃形

図 42.18 で生成した刃形をインボリュートとして近似すること ができますので、工具を発注(製造)する際、容易に扱えること ができます.本例の図 42.18の刃形は,図 42.19のように左刃面の 場合, 圧力角は α_n=20.6265°, ねじれ角はβ=8°30'で近似すること ができます. 近似した刃形と理論刃形との違いは、図 42.20 に示 すようにカッタ刃先付近で 0.0007mm と僅かです.





42.12 切り屑形状 (オプション)

図 42.21 の加工条件ででスカイビング加工したときの切り屑形 状を図 42.22~42..24 に示します. 図 42.21 の加工条件では工具の 送り量、交差角および切り込み量を任意に設定することができま

す. 図 42.22 および図 42.23 の切り屑形状は、工具の1 刃が、切削 を初めてから終わるまでの形状を示しています. 図 42.24 は歯車 とすくい面の状態を示し、図 42.25 は 2D 切削厚さを 100 倍で示し ています.





基本操作 誤差設定 表示設定

図 42.22 切り屑形状





図 42.21 加工条件の 切り厚さ値(csv) で切り屑形状を図 42.24 のように csv ファイルに出力することができます.



42.13 工具兼用 (オプション)

図 42.18 の工具で図 42.2 と異なる歯車を加工するとき、この工 具でどこまで兼用できるかを計算します.

図 42.25 の歯車は、図 42.2 の歯車のモジュールと圧力角は同じ ですが、歯数とねじれ角が異なります.また、工具の取り付け角 を図 42.26 とすると図 42.27 および図 42.28 を表示することができ ます. そして, 図 42.28 の□部分を拡大して歯車諸元(図 42.25) の歯形との比較をすると図 42.29 のようにその差は 1.2µm である

ことが解ります. 同様に左歯面を計測すると 0.7µm です.

以上に示したように対象歯車と異なる工具であっても交差角と テーパ角を調整することにより、歯形誤差を微小に抑えることが できますので工具の兼用が可能です.ただし、本例の場合、極め て良く一致していますが、諸元や条件によっては良く一致しない 場合もあります.そして、図 42.26 で設定したときの歯形レンダ リング表示(図 42.27)や、加工条件(図 42.21)に基づく切り屑 形状(図 42.22)も解析することができます.

ここでは内歯車の例題を示しましたが、外歯車も同様に計算することができます. なお、工具兼用は図 42.30 のように第2 画面で計算します.





42.14 外歯車の例

外歯車も内歯車同様,工具刃形状,切り屑形状,インボリュート近似刃形を計算します.計算例を図 42.31~42.43 に示します.

🏷 歯車諸元 📃 🖃 🗾								
歯車種類	© P	南車車	◎ 外歯車					
諸元 歯先面取								
項目	記号	単位	数 値					
歯直角モジュール	mn	mn	3.00000 📃					
歯 数	z		25					
歯直角圧力角	αn	des	20.00000					
ねじれ角	β	deg	25 * 0 * 0.00 * 📃					
ねじれ方向			右ねじれ 👻					
基準円直径	d	mm	82.7533					
基礎円直径	db	mm	76.7922					
歯厚入力方式			歯直角転位係数 ▼					
歯直角転位係数	xn		0.25000					
またぎ歯数	Zm		5					
またぎ歯厚	W	mm	41.75623					
測定ボール径	dp	mm	5.30300					
わがすがいす法	dm	mm	91.50713					
法線歯厚減少量	fn	mm	0.0000					
歯先円直径	da	mm	90.2533					
歯底円直径	df	mm	76.7533					
基準ラック歯元R	Rf	mm	1.1250					
曲幅	Ь	mm	30.0000					
<u>確定</u> キャンt	9 1)	戻す	標準 クリア					

🔈 歯車寸法			- • ×
項目	記号	単位	數 値
正面モジュール	mt	mn	3.3101
正面圧力角	αt	des	21.8802
基礎円筒ねじれ角	βb	deg	23.3990
軸方向ビッチ	pt	mm	22.3009
リード	PZ	m	557.5231
全歯たけ	h	mn	6.7500
歯切転位係数	×nc		0.2500
最小心ボリュート直径(TIF)	dt	mn	79.0391
最大化ポリュート直径	dh	m	90.2533
歯直角円弧歯厚	sn	mn	5.2583
正面円弧歯厚	st	mm	5.8019
またぎ歯数	ZM		5
基準またぎ歯厚	w	mn	41.7562
設計またぎ歯厚	w'	m	41.7562
測定ボール径	dp	mn	5.3030
基準オーバーボール寸法	dm	m	91.5071
設計オーパーポール寸法	dm'	mn	91.5071

図 42.31 諸元(面取りなし)

図 42.32 寸法

項目	記号	単位	數 値				
刃 数	zc		39				
交差角	φc	deg	-20.00000				
テーバ角	φt	deg	3.00000				
外 径	Do	mm	123.4552				
内径	Di	mm	96.4181				
クリアランス	ckf	mm	0.7500				
刃幅	Ь	mm	10.0000				
すくい角	θe	deg	5.00000				
前逃げ角	θf	deg	5.00000				
側面逃げ角	θs	deg	2.0000				
刃先R	Ra	mm	1.1250				
ねじれ方向			左ねじれ				
仮想ねじれ角	βv	deg	5.0000				
仮想基準円直径	dv	mm	117.4469				
確定 キャ	確定 キャンセル 戻す クリア						

図 42.33 工具諸元



AMTEC www.amtecinc.co.jp





歯形創成図設定 図 42.39



図 42.41 involute 近似 刃形

🔊 切粉形状諸元 📃 💷 🗾						
項目	記号	単位	数 値			
歯車軸方向送り	٧z	mm/rev	0.0500			
回転角度分割数	N		51			
交差角	φc'	des	-20.0000			
設計テーバ角	øť'	deg	3.0000			
設計切込み量	h	mm	6.7500			
計算結果						
軸方向送り(mm) 歯車回	回転角(deg)	工具回転角(deg)			
0.050000 -3	360.032	286	230.769231			
-0.049996	360.000	000	-230.748537			
0.078000 -5	561.650	366	360.000000			
切粉形状(3D) 切粉厚さ(2D) 切粉厚さ値(CSV)						
確定 キャンセル						
図 42.42	加	工条	+			



図 42.43 歯車と切り屑形状(外歯車)

42.15 面取り C.R (オプション)

歯車の歯先面取りが必要な場合は、工具に面取り形状を与える ことができます.図 42.2 の歯車諸元の面取り設定は、図 42.44 の ようにC面, R面を選択することができます.

0									
Γ		歯車	锺類	© 14	南歯車	◙ 外歯車			
	諸	元	歯先面取						
I		項	B	記号	単位	藪	値		
ſ		歯先面	取り			С	面 🔻		
		歯的	もR	Ra	mm	無	붋		
		たけ	方向	Cah	mm	C			
		歯厚	方向	Caw mm 0.5000					
	確定 キャンセル 戻す 標準 クリア								

図 42.44 面取り設定

42.16 HELP 機能

- • •

開始側 終了側

加本

V IA

歯形創成

操作方法を知りたい場合は[HELP]機能を使うことができます. 図 42.45 で目次を選択することもできますし、図 42.46 のように不 明な内容がある場合、その画面をアクティブとして[F1]を押すこ とで図 42.46 の説明画面を表示します.





[43] 円弧歯すじ歯車設計システム



43.1 はじめに

円弧歯すじを持つ歯車はスラスト荷重がなく、歯の位置合わせ 能力があり、かみ合い率を大きく(平歯車に対して)することが できます.この歯車は古くから知られていますが広く採用されて 来ませんでした.それは、図43.2の方法では歯すじの曲率は工具 半径で決まるため自由度が制限されてしまうからだと推察するこ とができます.例えば、小歯車と大歯車が同じ歯数であれば図43.2 のカッタ直径は同じで良いのですが、歯数比が異なる場合は同じ 工具を使用することができません.また、良好な歯当たりを得る ためには大歯車に合わせた適切な直径(楕円となるので難しい) を持つ工具が必要です.



図 43.2 円弧歯すじ歯車の加工¹⁾

43.2 概要

本ソフトウェアでは円弧歯すじ(半径)を任意に設定すること ができますので図43.2のような歯すじ(平歯車に近い)ものから 小さな曲率まで自由(歯幅に対する制限はあります)に設定する ことができます.また,円弧だけでなくV字歯すじの歯形も生成 する機能も有しています.更に,歯形修整,歯すじ修整機能を有 していますので歯幅中央部のかみ合い(歯当たり)とすることも できます.

ソフトウェアで歯車諸元設定後は、正面かみ合い図、すべり率 グラフ、かみ合いグラフを表示し、歯すじ入力、歯形・歯すじ修 整入力(無修整も可能)をすると歯形を生成します、歯形レンダ リングで、かみ合い接触線を確認することができます。そして、 生成した歯形は DXF、3D-IGES ファイルで出力することができま すのでマシニングセンタなどで容易に加工することができます. 図 43.3 に全体画面を示します.

43.3 ソフトウェアの構成

円弧歯すじ歯車設計システムの構成を表 43.1 に示します. 表中 の〇は基本ソフトウェアに含みます. 適応歯車:インボリュート歯車(外歯車)

No.	項目	掲載項	構成
1	歯車寸法	43.4	0
2	正面かみ合い図	43.5	0
3	すべり率グラフ	43.5	0
4	かみ合いグラフ	43.5	0
5	歯すじ曲線(円弧, V字)	43.6	0
6	歯形修整、歯すじ修整	43.7	0
7	歯形レンダリング	43.8	0
8	歯形出力	43.9	0
9	設計データ管理		0

表 43.1 ソフトウェアの構成

43.4 歯車寸法

歯車諸元は平・はすば歯車と同様で図43.3のように設定します. 数値設定後,[確定]すると歯車寸法を図43.4のように表示します. ここでのかみ合い率は,正面かみ合い率を示しますが,図43.8で 歯すじ曲線を設定した後で重なりかみ合い率を計算します.

🌃 インボリュート平歯車寸法(入力1) 🛛 🗖 💷 🗾								
項目	記号	単位	敖値(Pinion)	敖値(Gear)				
モジュール	mn	mm	5.00	00				
歯数	z		13	55				
圧力角	αn	deg	20.00	00				
基準円直径	d	mm	65.0000	275.0000				
転位係数	xn		0.35000	0.00000				
法線歯厚減少量	fn	mm	0.2000	0.0000				
中心距離	a	mm	171.80	00				
歯先円直径	da	mm	78.5000	285.0000				
歯底円直径	df	mm	56.0000	262.5000				
歯元R(工具刃先R)	Rf	mm	1.8750	1.8750				
歯幅	Ь	mm	50.0000	50.0000				
歯先端部形状			HRAAR 式	H5aaR ▼				
歯先R	Ra	mm	0.5000	0.5000				
歯先0面(縦方向)	Cah	mm		1				
歯先C面(横方向)	Caw	mm		TEHRITER .				
確定	戻す] [標	準 閉じる	クリ 面取り無し				
図 43.3 諸元 C面								

📶 インボリュート平歯車	†算結果			- • 💌
項 目(単体)	記号	単位	敖値(Pinion)	鼓値(Gear)
基礎円直径	db	mm	61.0800	258.4155
全歯たけ	h	mm	11.2500	11.2500
歯切転位係数	xnc		0.2915	0.0000
最小インボリュート直径	dt	mm	61.1602	266.3973
最大インボリュート直径	dh	mm	78.1195	284.4163
正面円弧歯厚	st	mm	8.9150	7.8540
項 目(かみ合い)	記号	単位	麩値(Pinion)	敖値(Gear)
正面かみ合い圧力角	awt	deg	21.5	5890
かみ合いビッチ円直径	dw	mm	65.6882	277.9118
歯数比	zh		4.2308	0.2364
有効歯幅	bw	mm	50.0	0000
クリアランス	ck	mm	1.3000	1.3000
正面かみ合い率	εα		1.0	3915
すべり率	σ1		-2.6833	0.7285
すべり率	σ2		0.6228	-1.6510
正面法線バックラッシ	Jt	mm	0.1	2817
バックラッシ角度	Jθ	deg	0.5285	0.1249
最大接触直径	dja	mm	78.1195	284.4163
最小接触直径	djf	mm	61.5540	269.8511

図 43.4 寸法

43.5 歯形図, すべり率

図43.3 で設定した歯車の正面歯形は図43.5 のように表示することができます. 歯形の拡大や回転角度などは図43.5 に示すコントロールフォームで操作することができます.

図 43.6 のかみ合いグラフは、ピニオンとギヤの作用線の関係を 示すもので図 43.6 の歯形図と連動することができます.また、図 43.7 にすべり率グラフを示します.



43.6 歯すじ曲線

歯すじ曲線を図 43.8 で設定します. ここでは、歯すじの種類(円 弧と V 字の 2 種類) と円弧の方向(ピニオンを基準として歯車中 心軸に対して右側に位置する場合、右円弧とする)を選択します. ここでは「円弧」を選択し、歯すじ半径を $R_s=35mm$ (歯すじ半径 の最小値は $R_{smin}=b/2$)とすると、重なりかみ合い率は $\epsilon_{fp}=0.669$ となることから全かみ合い率は $\epsilon_{r_{p}}=2.060$ となります.歯車正面を観察したときの円弧歯すじ図を図 43.10 に示します.また、歯すじ 曲線を V 形とするとき、図 43.11 のように円弧 (R_{s})とねじれ角(β)を設定します.設定例と歯すじ曲線図を図 43.11 に示します.





43.7 歯形・歯すじ修整

歯形・歯すじ修整は、図 43.12 で選択し、歯形修整を図 43.13 で、 歯すじ修整を図 43.14 で設定することができます. 図 43.15 に歯形・ 歯すじ修整の参照図を示します.



例として、図 43.14(b)のようにピニオンに歯すじ修整を与えた とき、図 43.14の グラフ で図 43.16 を示しますので与えた修 整量を確認することができます.

AMTEC www.amtecinc.co.jp



43.8 歯形レンダリング

図 43.17 の無修整の歯形レンダリングでは、歯幅両端まで接触線を確認することができますが、図 43.18 の歯すじ修整を与えた歯形では、歯幅両端部で接触線を認めることができません.また、図 43.19 では食い違い誤差(∠z=0.02°)を与えた場合の歯形レンダリングでは接触線が歯幅の片方に寄っているいることが解ります.図 43.20 に V 形歯すじの歯形レンダリングを示します.

歯形レンダリングでは、観察角度、回転角度、軸誤差、接触歯 面を任意に設定することができます.また、自動回転機能で接触 線を連続して観察することができます.





図 43.18 歯形レンダリング (歯すじ修整)



図 43.19 歯形レンダリング(軸角誤差=0.02°)



43.9 歯形出力

図 43.21 に歯形ファイル出力設定画面を示します. ソフトウェ アでは 2D-DXF と 3D-IGES ファイルを出力することができます. 例として図 43.22 にピニオンの歯形を生成し, CAD で表示した図 を示します.



参考文献

1) A. N. Parshin, Arched Toothed Cylindrical Gears Manufacture on CNC Lathes and Experience of their inculcation, "Thory and Ptactice of Gearing", Russia, pp.151,2014

[44] SS-Worm gear design system



図 44.1 SS-Worm gear design system

44.1 概要

ー般に使用されている円筒ウォームギヤは、図 44.35 ように接 触歯数が少ないため大きな負荷容量を得ることができません.こ れを解決するため図 44.37 のようなヒンドレーウォームギヤや、 図 44.39 のようにホイールをインボリュート歯形とした鼓形ウォ ームギヤがあります.しかし、ヒンドレーウォームギヤは、ウォ ームもホイールも歯形が特殊であり、また、図 44.40 ではかみ合 い歯数を多くするということは可能ですが、ホイールの歯たけ方 向の線接触ですから大きな歯面応力に耐えるには限度があります.

そこで、図 44.35 のホイールで、かみ合い歯数を多くできるウ オームであれば、接触面積が広くすることができるため歯面負荷 容量の増大を見込めることができます. このようなウォームギヤ として、ホブ加工を施したホイールとかみ合うウォームの歯形を 持つ SS-Worm gear (Specific worm and Standard wheel) ソフトウェ アを開発しました.図44.1 にソフトウェアの全体画面を示します.

44.2 ソフトウェアの構成

SS-Worm gear design system の構成を表 44.1 に示します. 表中の 〇は基本ソフトウェアに含まれ, 〇はオプションです.

No.	項目	掲載項	構成
1	初期設定	44.3	0
2	歯車寸法	44.4	\bigcirc
3	ホブ寸法	44.5	0
4	組図	44.6	\bigcirc
5	歯形修整	44.7	0
6	歯形レンダリング	44.8	0
7	歯厚	44.11	0
8	歯形出力	44.12	\bigcirc
9	ホブ基準入力	44.13	0
10	回転伝達誤差	44.14	0
11	設計データ管理		\bigcirc

表 44.1 ソフトウェアの構成

44.3 初期設定

図 44.2 に初期設定画面を示します. ここで設定するウォーム形 状は, 鼓形と円筒形を選択することができますが, この形状は. 外形を表しているもので歯形ではありません.

歯形計算時の分割数は、図 44.2 の参考図ようにホイール歯面、 ホイール歯幅、ウォーム断面、ウォーム歯幅の分割数を設定する ことができます.分割数を大きくすることで歯形を密に生成する ことができますが、その分、計算時間を要することになります.



図 44.2 初期設定

44.4 歯車寸法

図 44.3 に歯車寸法の設定画面を示します.まず,入力基準は歯 直角と軸平面基準を選択することができますが,ここでは,歯直 角基準での例を示します.モジュールから歯厚減少量までは円筒 ウォームと変わりはありません.

Worm 鼓形外形偏心量(E)は、図 44.4 に示すようにウォーム を鼓形とするときウォーム外形を調整するためのものです.

🗮 歯車寸法			_	- • •
入力基準				
④ 歯直角 〇 軸平さ	6			
項目	記号	単位	鼓値(worm)	敖値(wheel)
歯直角モジュール	mn	mm	3.0	000
軸方向モジュール	m×	mm	3.0	151
歯直角圧力角	αn	deg	20.0	000
軸平面圧力角	ax	deg	20.0	927
条数、歯数	Zw,Z2		1	40
基準円直径	d	mm	30.0000	120.6045
すすみ角	Υ	deg	5 * 44	' 21.01 ″
歯直角転位係数	xn			0.0000
軸方向転位係数	xa			0.0000
ねじれ方向			右ね	ເປກ 👻
のどの直径	dt	mm		126.6045
歯先円直径	da	mm	36.0000	131.1045
歯底円直径	df	mm	22.5000	113.1045
中心距離	a	mm	75.3	023
歯幅	ь	mm	50.2000	22.8000
軸方向歯厚減少量	⊿Sj	mm	0.0000	0.0000
Worm鼓形外形偏心量	E	mm	0.00	
凿先Ra	Ra	mm		0.6000
確定 戻す	標準	閉	じる クリア	参照 E
かみ合い率	ε		5.4	7

図 44.3 歯車寸法



図 44.4 Worm 鼓形外形偏心量(E)

44.5 ホブ寸法

ホイールの歯形を生成するためのホブを設定します.ホブ寸法 は、図44.5(a)のようにホブ条数とホブ基準円直径を設定すること によりホブの取り付け角や取り付け中心距離が決まりますので, クリアランス(ホイールとホブ刃底)を変更するとホブの刃元の たけ、およびホブ刃底円直径が変化します.

一方,図44.5(b)の任意設計では、取り付け角や取り付け中心距離を任意に設定することができますので、ホイールの歯形、歯すじを変更することができます.この操作により歯当たり調整をすることができます.



44.6 組図

図 44.6 にホブとウォームとホイールの組図を,図 44.7 にホブと ホイールのかみ合いを示します.また,図 44.8 にウォーム外形寸 法(鼓形状)を示します.



図 44.6 組図 (Hob, Worm, Wheel)



44.7 歯形修整

歯の接触を 44.8 歯形レンダリングで確認し,歯当たりを調整し たい場合に歯形修整を行います.歯形修整は、図 44.9 及び図 44.10 のようにウォームとホイールそれぞれに歯形方向,歯すじ方向の 修整を設定することができます.

例えば、図 44.11 の A 部ではホイールの側端部まで接触してい ますが、これを図 44.9 でホイールの歯形修整、歯すじ修整を施す ことにより図 44.13 のようにホイール歯幅中央に接触させること ができます.また、歯面修整を与えないで歯当たりを調整する方 法は、図 44.5(b)でホブの取り付け角を変更することで、歯当たり 位置を調整することが可能です.詳しくは 44.10 歯当たり調整を ご覧ください.





図 44.10 歯形修整の説明図

44.8 歯形レンダリング

歯形レンダリングでは、歯のかみ合いやホイール加工ホブを確認することができます.

無修整歯形の歯形レンダリングを図 44.11 に示しますが,この 図の方向や拡大,縮小を図 51.12 で行うことができます.また, かみ合い誤差(X,Y,Z軸)や回転誤差,そして交差角誤差を与 え,そのときの歯当たりを確認することができます.また,図 51.12 の右上にある,かみ合い回転機能では,歯車を連続回転させるこ とができますので,かみ合い変化を把握することができます.



図 44.11 歯形レンダリング (無修整)

📜 歯形レンダ!	リング							×
基本 操作				表示形式	かみ合い回]ŧz		
誤差⊿X	0.0000	•	۱.	◎ シェーディング	- Auto	ステップ角	+0.5	-
誤差⊿Y	0.0000	•	۰.	◎ ワイヤーフレーム		0.000		-
誤差⊿Z	0.0000	٠	P.			0.000	· _	
回転誤差	0.00	*	۱.	☑ ホブ	☑ ホイール	V 1892	ホイール	
交差角誤差	0.00	•	۱.	▼ホイール工具	🗸 ウォーム	☑ 修整	ウォーム	

図 51.12 歯形レンダリング操作

AMTEC www.amtecinc.co.jp

歯形修整を与えたホイールとのかみ合いは、図 44.13(a)に示す ようにホイール歯幅中央での歯当たりを呈しています. また、図 44.13(b)は、ウォームとホイール、そしてホイール加工用ホブ(運 動軌跡)を全て表示したものです.



(a) a=75.302 mm, $\Delta \phi = 0^{\circ}$

図 44.13 歯形レンダリング

44.9 中心距離変化の影響

円弧系歯形は中心距離の変化に敏感であることから、図 44.13(a) のかみ合いが、中心距離変化および軸角変化に対し、どの程度影 響を及ぼすかを確認します.

図 44.13(a)は、理論中心距離で且つ、軸角誤差(△)が無い場 合の歯当たりで4~5 歯接触していますが、中心距離を+0.1mmと した図 44.14(b)および図 44.14(b) (∠a=+0.1mm, ∠φ=+0.1°) では 2~3 歯しか接触していません. しかし, 図 44.15(a)のように軸角 を//ø=+0.36°としても歯当たりには大きな変化はありません. このことより SS-Worm gear は、中心距離変化には敏感ですが、 軸角誤差には鈍感であることが解ります.一方,図 44.15(b)の円 筒ウォームギヤ(歯車諸元は図44.3と同じ,K形ウォーム砥石直 径=300mm)の接触歯数は、1~2 歯です. また、接触模様を見る と、円筒ウォームギヤは、ホイールの歯すじ方向ですが、SS-Worm gear は、ホイールの歯たけ方向の接触であるため、潤滑には有利 な接触であると言えます.



(a) $a = a_0 + 0.1 \text{ mm}, \ \ \phi = 0^\circ$ 図 44.14 歯当たり 1





NY名(回転 |A/10 ステップ内 41 ・ 回転 214.000 v -

(a)a=75.302mm, $\triangle \phi = +0.36^{\circ}$ 図 44.15 歯当たり 2

44.10 歯当たり調整(任意設計の例)

歯面修整を施さないで歯当たりを調整する方法として図 44.16 のようにホブ (φ50mm)の取り付け角を故意に θ=2°として加工 し、ウォームのみに歯形・歯すじ修整を与えた例を示します。 ウォームの歯形・歯すじ修整は、図 44.17 のようにウォームの右 側だけに修整(図44.10参照)を与えると、図44.18のようにホイ ールに歯面修整を与えたような歯当たりを得ることができます.



図 44.16 ホブ寸法(任意設計)



図 44.17 ホイールの歯形・歯すじ修整



図 44.18 歯当たり 3 (*a*=75.302mm, △φ=0)

44.11 歯厚

SS-Worm gear の歯厚は,図 44.19 で計算することができます. 測定ピン(球)は、標準値を表示しますが、任意に設定可能です. ウォームの歯厚測定には図 44.20(b)のようにピンを用い、ピンか らピンまでの距離を計測します. また, ホイールは, 図 44.21(b) のように球を用い球から球までの距離を計測します.



44.12 歯形出力

SS-Worm gear の歯形は図 44.22 の歯形出力フォームでウォーム とホイールの歯形 (3D-IGES) を出力することができます. 図 44.23 に CAD 作図例を示します.また,ホブ歯形も 2D-DXF ファイルで出力することができます.







既存のホブで SS-Worm gear を設計する場合, 図 44.24 でホブを

与えます. ここでは、例題として、ホイール(樹脂)とかみ合う ウォームの例を示しますが、ホイールが樹脂でウォームが鋼のた め強度バランスを考慮してホイールの歯厚を太く、ウォームの歯 厚を薄くしています.

歯車寸法(図 44.25)およびホブ寸法(図 44.26)の設定は,標準設定方法と同じです.

属 ホブ基準入力				×	属 歯車寸法				- • ×
項 目(ホイール加工用ホブ)	記号	単位	鼓値		 入力基準 ③ 齿直角 	翰平面			
歯直角モジュール	nn	nn	3.0000				315.64	This (man)	Think (-based)
街道角圧力角	αn	des	12.0000			10.05	42102	SXIE(WORL)	SCIE (WIEET)
条数	29		1		田田内モンユ	- 1/2 001		0.0	1000
ビッチ円直径	Ped	nn	30.0000		豊方向モジュ	- // = iu	der	12 (1000
すすみ角	γ	des	5 * 44 *	21.01	前平面圧力1	4 <i>ax</i>	dex	12.0	1587
ねじれ方向			古ねじれ		条数、曲数	Zw. 22		1	40
刃先円直径	da	nn	37.5001		基準円直復	d	m	30.0000	120.6045
キョリバオたけ	bi?	nn	3 7501		すすみ角	γ	des	5 44	21.01
+ - 11(7)回	- 10 - 11		2 5000		齿直角転位係	数 xn			0.0000
77.07.0944	•)		0.0000		軸方向転位係	徵 xa			0.0000
AJ700	ra		0.8000		ねじれ方向)		右れ	ມປກ 👻
金刈だけ	h	nn	7.5002		のどの直径	dt	m		126.6045
項目(加工設定)	記号	単位	鼓値		由先円直径	da	m	36.0000	131.1045
vorn/vheel 凿数	z		1	40	歯底円直径	df	an .	22.5000	113.1045
ワーク外径(ホイール)	da	nn	131.1045		中心距離	۵	an I	75.3	1023
外径からの距離	hv	nn	9.0000		歯幅	b	m	50.2000	22.8000
取り付け角(右ねじれが+方向)	θ	des	0.0000		歯直角歯厚 液:	i>∰ ⊿Sj	*n	1.2124	-1.2124
のどの直径	dt		126 6045		Worn鼓形外形偏	14量 E	m	0.00	
のどの力み半落	et.		12 0001		齿先Ra	Ba	m		0.6000
			12.0001		確定	[戻す][標準	開	じる クリア	参照 E
「耀正」戻す「閉しる」	2	Jr	STAR DV S	PHR.	かみ合い車	8		5.4	17
図 44.24 既	存	ホフ	の設定		义	44.25	歯	南寸法	Ę

🞮 ホブ寸法			
Hob形状			
◎ 理論設計 ○ 任意) 情報	取り付け	ナ角+中心距離設計)
項目	記号	単位	數値
歯直角モジュール	mn	mm	3.0000
軸方向モジュール	m×	mm	3.0151
歯直角圧力角	αn	deg	12.0000
軸平面圧力角	ax	deg	12.0587
条数	ZW		1
基準円直径	dH	mm	30.0000
すすみ角	γ	deg	5 * 44 ' 21.01 "
ねじれ方向			右ねじれ 👻
取り付け角	θ	des	0.0000
取り付け中心距離	a	mm	75.3023
刃先R	ra	mm	0.8000
刃末のたけ	ha	mm	3.7501
刃元のたけ	hf	mm	8.7501
刃先円直径	da	mm	37.5001
刃底円直径	df	mm	22.4999
クリアランス	ck	mm	0.7501
軸方向刃厚(ホイール)	Sjg	mm	3.5176
軸方向刃厚(ウォーム)	Sjp	mm	3.5176
軸方向ビッチ	Px	mm	9.4723
リード	L	mm	9.4723
ウォームバックラッシ角	θj1	deg	0.0000
ホイールバックラッシ角	θj2	deg	0.0000
バックラッシ	ja	mm	0.0000
相当すすみ角	γ'	deg	5.7392
ホブ交差形状			
のどの丸み半径	rt	mm	12.0001
確定 戻す 標準	ŧ ß	じる	クリア 参照 刃厚Sj

図 44.26 ホブ寸法

ここでは、ウォームの形状を、図 44.2 初期設定で円筒形として いますので、図 44.27 の組図や図 44.28 歯形レンダリングでウォー ムの外形は円筒形状となっています.また、図 44.29 に CAD 作図 例を、図 44.30 および図 44.31 に歯厚計算結果を示します.



AMTEC www.amtecinc.co.jp



AMTEC www.amtecinc.co.jp

[45] CT-FEM Opera iii (歯車かみ合い応力解析)



🗵 45.1 CT-FEM Opera iii

45.1 概要

2014年に発売した **CT-FEM Opera** は数々の検証を行い,数多 くの実績を持つソフトウェアですが,今回,演算速度を上げるた め並列処理プログラム化とした **CT-FEM Opera iii** に生まれ変 わりました.

例えば、 $m_n=2,z_1=z_2=20, a=20^\circ, \beta=11^\circ, b_1=b_2=10$ の歯車を 3D-FEM 解析(要素数 18335, 節点数 29638) する場合, ピニオン回転角 $\theta_1=-9^\circ\sim+9^\circ$ を 20 分割して解析すると 40 個の歯車を計算すること になるため **CT-FEM Opera**(旧)では 1 分 45 秒×40=70 分要しま す.しかし, **CT-FEM Opera iii**(新)では 13 分 43 秒で完了し ます. CPU の稼働状況は,図 45.2 のように並列処理をしていな い場合は 12%の稼働率ですが,並列処理をしている場合は 95% です.ただし,比較に使用したコンピュータは,Microsoft Surface **Pro3 (CPU:** Intel® CoreTMi7-4650UMemory, 8.0GB,2 コア 4 スレッ ド動作周波数 1.70GHz ターボブースト時 3.3GHz)です.



図 45.2 CPU 稼働状況(タスクマネージャ)

CT-FEM Opera iiiは、歯面解析を充実させフラッシュ温度、摩 擦係数、油膜厚さ、伝達誤差解析、フーリエ解析、スカッフィン グや摩耗の発生確率そして寿命時間も計算することができます. また、歯面端部接触解析や最適歯面修整機能(組み立て条件下に おける歯面応力が最小となる歯面形状を生成)も付加しています ので、端部損傷やトロコイド干渉による損傷や騒音が発生してい る歯車に適正な歯面修整を施すことにより解消することができま す.また、アニメーション機能(応力や変位の動画)も追加して いますので回転角度における応力や変位の変化を観察することが できます.そのため、損傷が発生した歯車の諸元で解析すると応 力分布現象を容易に把握することができますので、現状歯車の改 善やユーザーへの説得には非常に有効です.更に、ソフトウェア 使用時に不明な内容があれば[F1]キーを押すことでその説明が表 示されますので初心者でも容易に使いこなすことができます.図 45.1 にソフトウェアの全体画面を示します. 歯面損傷実験の解析例を付録[I] に、伝達誤差解析例を付録[J] に、そして動力損失解析例を付録[K] に示しますので是非ご覧ください.

45.2 ソフトウェアの構成

CT-FEM Opera iiiの構成を表 45.1 に示します.表中の○は, 基本ソフトウェアに含まれ, ◎はオプションです. **滴応歯車**: インボリュート平.はすば歯車(外歯車,内歯車)

表 45.1 ソフトウェアの構成	
項 目	機能
<1>基準ラックの設定	0
<2>歯車寸法	0
<3>歯車かみ合い図	0
〈4〉歯面修整	0
<5>3D 応力分布	0
〈6〉歯面評価(1)	
摩擦係数,油膜厚さ,発熱量,	0
損失動力, PV 値, PVT 値	
<7>スカッフィング発生確率 ⁽¹⁾	0
〈8〉摩耗発生確率(1)	0
<9>寿命時間 ⁽¹⁾	0
<10>効率(1)	0
<11>3D-FEM 歯形応力解析	0
<12>端部解析	0
<13>回転伝達誤差解析,フーリエ解析,CSV	O
<14>内歯車	0
〈15〉最適歯面修整の生成機能	0
<16>歯形データ出力	0
<17>動的起振力解析[45.20項]	0

(1)樹脂歯車には対応していません.

45.3 基準ラックの設定(ツール, プロパティ)

図 45.3 に設定画面を示します.

- ・歯車の組み合わせ : 外歯車×外歯車, 外歯車×内歯車
- ・基準ラック : 並歯,低歯,特殊
- ・歯先円決定の方式 :標準方式,等クリアランス方式
- ・転位係数と中心距離の関係の選択
- ・並列処理を有効にするスイッチ
- ・歯形誤差の影響を考慮するスイッチ



45.4 歯車寸法設定

歯車寸法は、各部寸法、かみ合い率、すべり率、歯厚などを計算します. アンダーカットが発生している歯車のかみ合い率は、 TIF (True Involute Form) 径を基準にかみ合い率を決定します.また、歯先に C 面や丸みがある場合は C または R を考慮したかみ 合い率を算出します. (1)中心距離と転位係数の関係は、以下の3種類です. <1>転位係数をピニオンとギヤに与え中心距離を決定 <2>中心距離を基準として各歯車の転位係数を決定 <3>転位係数を無視して任意に中心距離を決定

(2)転位係数の設定方式は、以下の4種類です.

<1>転位係数を直接入力

<2>またぎ歯厚を入力して転位係数を決定

<3>オーバーピン寸法を入力して転位係数を決定 <4>転位量を入力して転位係数を決定

転位係数の入力は、転位係数を直接入力方法以外に、歯厚を基準にして転位係数を逆算することもできます.図45.4に諸元設定 画面を図45.5~45.6に寸法結果を示します.



図 45.4 諸元設定

💯 寸法結果					
歯車寸法 かみ合い寸法					
項目	記号	単位	Pinion	Gear	
正面モジュール	mt	mm	3	.31013	
正面圧力角	αt	deg	21	.88023	
基礎円筒ねじれ角	βb	deg	23.39896		
リード	PZ	mm	334.5139	936.6388	
転位量	×m	mm	0.9000	-0.6000	
全歯たけ	h	mm	6.7500	6.7500	
最小イオギリュート直径(TIF)	dt	mm	46.6316	133.0264	
最大インボリュート直径	dh	mm	56.8520	143.2256	
正面法線ビッチ	pbt	mm	9	.6500	
正面円弧歯厚	st	mm	5.9224	4.7176	
またぎ歯数	ZM		3	7	
基準またぎ歯厚	w	mm	23.59028	59.49037	
設計またぎ歯厚	w'	mm	23.59028	59.49037	
オーバーボール径	dp	mm	5.0000	5.0000	
基準オーバーボール寸法	dm	mm	57.35700	144.49264	
設計オーバーボール寸法	dm'	mm	57.35700	144.49264	

図 45.5 寸法結果 1

			L	
i車寸法 かみ合い寸法				
項目	記号	単位	Pinion	Gear
正面かみ合い圧力角	æwt	deg	22.8	5269
かみ合いねじれ角	βw	deg	25.1	5362
かみ合いビッチ円直径	dw	mm	50.0000	140.0000
歯数比	zh		2.8000	0.3571
有効歯幅	bw	mm	30.0	000
クリアランス	ck	mm	1.1112	1.1112
正面かみ合い率	εa		1.1	256
重なりかみ合い率	εβ		1.3	452
全かみ合い率	εγ		2.4	708
すべり率(歯先)	σа		0.5659	0.4787
すべり率(歯元)	σb		-0.9183	-1.3035
正面法線バックラッシ	Jt	mm	0.2	797
バックラッシ角度	Jθ	deg	0.69561	0.24843
最大接触直径	dja	mm	56.8520	143.2256
最小接触直径	djf	mm	47.5086	135.2138

図 45.6 寸法結果 2 45.5 2D かみ合い図、レンダリング

図 45.7 に正面かみ合い図を示します.補助フォームで基準円直 径や作用線を作図することができ、スクロールバーで歯車を回転 させることができます.また、歯形を拡大することも計測するこ もできます.また、歯形レンダリングを図45.8に示します.



図 45.7 正面かみ合い図



図 45.8 歯形レンダリング

45.6 かみ合いグラフおよびすべり率グラフ

図45.8 にかみ合いグラフを示します. このグラフでは横軸にピ ニオンの作用線長さを,縦軸にギヤの作用線長さを示しています のでかみ合いの関係が良く解ります. 図45.9 の場合, ピニオンの 接触直径が 50.030mm のときギヤの接触直径は 139.969mm です. また,そのときのピニオンの作用線長さは 9.749.657mm で,ギヤ は 27.145mm です. さらに,図45.7 の正面かみ合い図と連動させ ることができますので歯のかみ合いも把握することができます.

図 45.10 の回転角度計算(図 45.9 中の[回転角度計算]ボタン) は、接触直径、作用線長さ、ロールアングルそして回転角度の関 係を計算するための補助計算機能です.また、図 45.11 にすべり 率グラフを示します.





図 45.11 すべり率グラフ

45.7 歯面要素設定

図 45.12 に歯面要素設定画面を示します. ここではトルクとヤ ング率,ポアソン比そして歯形の分割数を設定します.ヤング率, ポアソン比をプラスチック材料とすることによりプラスチック歯 車も解析することができます.解析歯形は1歯、3歯、5歯を選択 することができますので、例題歯車のように全かみ合い率が大き い場合には5歯を選択します.また、ピッチ誤差を与えることが できますので例題歯車では、ピニオンに6μmのピッチ誤差を与え て解析する例を示します.



45.8 歯形歯すじ修整設定

定型の歯形修整および歯すじ修整は各々3 種類(Type1~3) あ ります. 本例で与えるピニオンの歯形修整を図 45.13 に,歯すじ 修整を図 45.14 に示します. ただし,ギヤは無修整とします.







45.9 歯面 3D 修整設定

3D 歯面修整は図45.15 のように直接入力することもできますし, 図45.13 および図45.14 で設定した修整を引き継ぐこともできます. 図 45.15 は,図45.13 と図45.14 で設定した修整を3D表示したも のです(ギヤは無修整のため省略).また,この歯形をCSVファ イルで出力 CSV出力 することも,歯車検査結果データ(CSV フ ァイル)を読み込む CSV読込 こともできます.



45.10 修整量·歯面応力 3D 図

図45.15 で設定した歯形を3D 図で確認することができます.補助フォームで歯車を回転、ズームすることができ、中心距離誤差や組み立て誤差角度を与えたときの歯当たりを確認することができます.図45.16(a)は歯面修整を持つ歯形を表示したもので、(b)は、それに理論歯形(ピニオン赤色とギヤ青色)を重ねた合わせた図です.また、図45.17 に歯面要素メッシュモデルを示します.



(a)歯面修整

(b) 歯面修整+理論歯形 図 45.16 歯面要素



図 45.17 歯面要素メッシュモデル (図 45.12 での分割)

45.11 歯面応力解析条件設定

歯車諸元やトルクそして歯面修整を与えたときの歯面応力を解 析します.解析角度範囲の設定は、1 ピッチ角度と最大接触角度 の2種類あります(任意の角度設定は可能).ここでは例題として 図 45.18 のように開始角度 $\theta_{s=-28.578}$ °,終了角度 $\theta_{e=36.102}$ °(最 大接触角度 $\theta_{max}=64.68$ °)を60分割し、食い違い角誤差を $\phi_1==0.01$ °, 平行度誤差を $\phi_1==0.001$ °と想定し計算します.この軸角誤差は、 負荷により軸受や歯車箱が歪んだときの誤差角であり、この原因 により歯当たりが変化し応力分布に変化を生じさせます.

2 歯面応力解析条(開始,終了角度(θ:	牛設定 s,θe)設 ape	定 一星			
解析角度項目	記号	単位	敖 値		
開始角度	θs	deg	-28.578		
終了角度	θe	deg	36.102		
角度分割数	N		60		
誤差項目	記号	単位	数 値	621	
食い違い誤差	φ1	deg	0.0100		- +11
平行度誤差	φ2	deg	-0.0010	意い違い読差+1	
	確定	キャン	2ル 戻す クリア	平行度誤差 ♦2	

図 45.18 歯面解析設定画面と φ1 と φ2

45.12 歯面応力解析結果(修整量・歯面応力 3D 図)

ピッチ誤差を図 45.12 で与えているため歯面応力解析結果は, 図 45.19 のように歯によって応力分布が変わりますが,図 45.20 は,最大応力を全歯に示していますので全歯同じ応力分布です.

図 45.21 は、歯面応力の最大と最小を示したものであり、最大 歯面応力はピニオン回転角 $\theta_{\theta}=14.177^{\circ}$ 時であることが解ります.



ピッチ誤差考慮,補助フォーム 図 45.19 歯面応力 (o_{Hmax}=2295MPa)





(a)ピニオン

図 45.20 歯面応力 (oHmax=2295MPa)





(a)σ_{Hmax}=2295MPa(θ_p=14.177°)
 (b) σ_{Hmin}=1587MPa(θ_p=-11.04°)
 図 45.21 歯面応力の最大値と最小値

歯面全体の応力分布(セル表示)を図 45.22 に示します. ピニ オンの場合,歯幅方向に 98 個(歯幅面取り部含む),歯たけ方向 に 90 個(歯先面取り含む)の領域の応力を表示しますので歯面位 置における応力値が解ります.また,ここに表示している応力値 は CSV ファイル OSV出力 で出力することができます.

各々の回転角時の応力は、図 45.23 のようにピニオン回転角に 応じた応力分布を連続して表示することができますので応力変化 と接触位置を把握することができます.



図 45.23 θp=14.177°の応力 (σ_{Hmax}=2295MPa)

45.13 フラッシュ温度, 摩擦係数, 油膜厚さ 他

フラッシュ温度を計算するときの設定画面を図 45.24 に示しま す.ここでは、回転速度、歯面粗さの他に材料(熱伝導率)を選 択します(図 45.25). 潤滑油の種類は鉱物油、合成油を選択する ことができますが、規格外の場合は、任意に動粘度や油の平均温 度などを設定することができます.フラッシュ温度、摩擦係数、 油膜厚さの計算結果を図 45.26~45.33 に示します.また、スカッ フィング発生確率、摩耗の発生確率を図 45.34 に示します.



図 45.33 PVT 値

図 45.32 PV 値

🌠 損傷確率・損失			
項目	記号	単位	数 値
スカッフィング発生確率	ηs	%	< 5
摩耗の発生確率	ηf	%	24.95
動力損失	ηe	%	1.39
図 4	45.34	損傷確	率

45.14 端部解析 (オプション)

45.11~45.14 項ではインボリュート歯面について解析しました が、ここでは歯先や側面部の端部解析(図 45.35、端部を R=1.0mm と設定)をした結果を示します.

解析の結果,図45.36のようにピニオン歯元とギヤ歯先にσHmax= 4075MPa もの大きな応力が発生します. フラッシュ温度はインボ リュート歯面の解析では図 45.26 のように歯先部で 58.5℃だった ものが端部解析では図 45.37 のようにピニオン歯元で 182℃に大 きく上昇していることが解ります.











45.15 FEM 解析

図 45.12 の解析条件で, FEM 解析するため図 45.38 でメッシュ モデルを作成します. ここでは標準モデルでメッシュを作成しま すが、設定の方法は歯形を精度で決める方法と歯形を分割数で決 める方法の2通りがあります.メッシュ分割した歯形は、図45.39 のように 2D メッシュモデルで確認することができます.また, 3D-FEM メッシュ要素は要素数と節点数を図 45.40 に、節点座標 を図 45.41 のように表示することができます.



メッシュモデル設定 図 45.38



							和点番号	×	9	1	1
					,	1	1	-21.725	8,007	-15,441	
						2	- 2	-24,728	-0.036	-17,111	
						.8	1	-24,728	-0,050	-15.984	
FEM要表情報			-			4.		-28.728	-0.075	-17.500	
L CHISCHEIHHE						5	5	-24.728	0.078	-15.344	
項目	記号	単位	Pinion	Gear		8		-24,728	0.037	-17.500	
日本毎年(勝恵夫はも)	et h	HD.	220E A	1		1	1	-21,728	-0.102	-18,598	
戰/(IIII工(原要杀/III/I/	011	mra	2200.44	*		8	1.1	-28.728	8,194	-16.208	
要索数			64497	53553		8		-21.728	-0.098	-15.613	1
節古勒			106875	88762		10	10	-28.728	-0.132	-16.899	
		100	554.07	007.00		11	11	-21,728	0.135	-17.111	
戦へ囲け応力(σ1)	σι	MPa.	554.67	637.96		12	12	-28,728	0.035	-15.270	1
最大曲げ要素番号			37762	39212		13	13	-28.728	0.138	-18,471	

メッシュモデルは図 45.42 のようにリム・ハブモデルとして生 成することができますのでプラスチック歯車のような弾性率が小 さい歯車には有効です.



次に、図 45.38 で設定したメッシュモデルで FEM 解析をする例 を以下に説明します. 図 45.18 の歯面解析設定で設定した角度 (-28.578°~36.102°)を図 45.43 のように設定して(角度飛ばし選 択) FEM 解析します. この□のチェックには歯面応力が最も大き い の=14.177°(図 45.21)の角度も含めています. また, 60 分割 全てを解析するとメモリ消費と時間を費やしますので必要なかみ 合い角度のみ選択し計算することが有効です.

FEM で解析する項目は、図 45.44 に示す応力と変位そしてひず みの3種類です. FEM 解析結果を図 45.45~45.49 に示します. 変 位図は、図 45.48 のように 100 倍(倍率選択: 1,5,10,50,100,200, 500倍)で表示することができます.



として解析していますのでこれを整理すると図 45.50 のようにピ ッチ誤差(図 45.12, 6µm)を与えていることから歯元応力が大き

く変化していることが解ります. 図 45.50 で最大値を示す角度は θ_p =20.75°で、その最大応力は $\sigma_{\text{Imax}(P)}$ =555MPa と $\sigma_{\text{Imax}(G)}$ =638MPa です. この角度での解析一覧表を図 45.51 に示します.



解析結果一覧表でピニオンの最大主応力の最大値 σ_{lmax}= 555MPa の要素番号は 37762 ということが解りますので、この番 号を図 45.52 の「点滅」に入力すると応力分布図(○印中で▲が 点滅します)で確認することができます.また,FEM 解析完了後, 図 45.53 のように歯幅方向の任意の位置での応力を表示すること ができます.図45.53 は歯幅中央断面位置(zd=0mm)における応 力分布を示しています.参考のため、解析角度範囲における歯元 応力分布を図 45.54 に示します.





図 45.54 解析角度範囲における歯元応力

275.58

45.16 寿命時間

歯面応力解析および FEM 解析後に寿命時間を計算します. ここでは材料の歯面強さに対する許容応力値を *o*Him=2000MPa,曲 げ強さに対する許容応力値を *o*Fim=400MPa としたときの寿命時間 を図 45.55 に示します.



45.17 回転伝達誤差 (オプション)

図 45.18 の歯面解析設定画面で与えた回転角度内での回転伝達 誤差を図 45.56 に、フーリエ解析結果を図 45.57 に示します.



45.18 最適歯面修整量解析 (オプション)

図 45.14 のように歯面修整を一様に決めるのではなくトルク, ピッチ誤差そして軸角誤差を考慮したとき歯面応力が最小となる 修整量を決めることができる機能です. 適切な歯面修整を施すこ とにより発生する歯面応力を低減させることができます.

例として、図 45.4 歯車で図 45.58 のトルクで図 45.59 のように 軸の食い違い誤差を φ1=0.01°, 平行度誤差を φ2=-0.001°として 修整振り分け比を0.5としたとき歯面修整は図 45.60 のような歯面 修整(最適歯面修整で生成した歯面形状を微調整済み)を得るこ とができます.この歯面修整を基に歯面応力,フラッシュ温度, 摩擦係数などを計算した結果を図 45.61~45.66 に、歯元応力を図 45.67 に、そして寿命時間を図 45.68 に示します.

その結果, 歯面応力は σ_{Hmax}=2295MPa (図 45.20) から σ_{Hmax}= 1637MPa に低下しているため歯面に対する寿命時間も大幅に延 びています.





項目	記号	単位	Pinion	Gear	
歯面最大応力	$\sigma_{\rm Hmax}$	MPa	1637.395	1630.665	
最大曲げ応力(σ1)	σ1	MPa	431.274	456.083	
回転速度	n	1/min	1200.000	428.571	
許容ヘルツ応力	σHlim	MPa	2000.000	2000.000	
許容曲げ応力	$\sigma Flim$	MPa	400.000	400.000	
過負荷の回数	Ne		1		
材料の窒化の有無			非窒化材料		
使用状態			一般		
項目(歯面)	記号	単位	Pinion	Gear	
予想応力繰り返し係数	ZN'		0.819	0.815	
予想寿命負荷回数	Nc		1.00E+10	1.00E+10	
予想寿命時間	Lc	hrs	1.39E+05	3.89E+05	
項目(曲げ)	記号	単位	Pinion	Gear	
予想応力繰り返し係数	ZN'		1.078	1.140	
予想寿命負荷回数	No		2.21E+06	1.38E+06	
予想寿命時間	Lc	hrs	3.07E+01	5.38E+01	

45.19 内歯車の解析 (オプション)

「外歯車×内歯車」の解析結果を図 45.69~45.84 に示します.



####/12#A) 手膝茎(2#A) ion 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 ar 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 正: 認相触 負: 強相触 · 確定 · キャンセル · 標準 (戻す) · タリア ·

図 45.75 歯面要素設定

(第230年30月27日~00) 入力及び 者だりませてんか 0月40人の (CD954) 新古し 7 ・ 第2.5 万 ・ (1月9月2日) 「1.0 日本市 第ス人力化ソ市 (1月9月2日) pinion * 08-8,1028 211 0.885.5 an 8855 18,0074 21 16,007 28 16,0452 19 14,8952 19 14,8952 19 14,5491 07 12,0074 18 12,7019 18 WY 277 000 A. 1010000 INCOMPANY AND INCOMPANY No. Average 図 45.76 歯面修整

Inclusion and

gear

1817 I

● 修整量・値面応力3D図

10.4945 12 10.4129 16 10.4225 17 18.4549 1

1 1

14 9T C



歯面要素 (修整) 図 45.77



図 45.79 歯面応力



 $(\sigma_{\text{Hmax}}=1893\text{MPa})$

●大価 0.098 ●小価 0.049

摩擦话题

 プラウシシュ進度30回
 条柱物1 色沙魚制田原定

 原業券(Finim)
 ● ジェーディング

 原体金形(Finim)
 ● ジェーディング

 マークシッシューディング
 ● 万和田原定

 オークシューディング
 ● 大和田原定

 マーム
 ● フィーン (199)

gear

(2) 数(曲) (7— 「原:空(石)(5)



 $T_{\rm fl}=15.9(^{\circ}{\rm C})$



(a) ビニオン *σ*1max=439MPa 図 45.82





 $\mu_{max} = 0.098$

(b) ギヤ σ_{1max}=425MPa 最大主応力



※1 図 45.15 で与えた歯形や最適歯面修整で生成した歯形をファ イル出力(3D-IGES)することができますので解析や加工に使用 することができます.

※2 応力解析例を付録[I]に、伝達誤差解析例を付録[J] に、そ して動力損失解析例を付録[K]に示しますのでご覧ください.

45.20 動的起振力解析 (オプション)

高速回転機械の増加に伴い、歯車の動的挙動の解析が重要となってきているため、オプションとして動的起振力解析ソフトウェアを開発しました.はすば歯車は接触線が歯車軸に対して平行でないことから歯面の接触を3次元的に解析する必要があります. CT-FEM Operaiiiでは図45.85のモデルに基づき振動解析を行い、図45.86のようにRotational (回転)、Transverse (正面)、Tilting (傾き)、Axial (軸)の4種類の方向の振動加速度を出力します¹⁾.



図 45.85 はすば歯車の 12 自由度振動解析モデル



図 45.86 振動加速度成分

論文²に示されている実験結果との比較で本ソフトウェアの解 析結果の検証を以下に行い、その結果を図 45.87~45.103 に示しま す.図 45.87 の歯車諸元から図 45.90 までは基本ソフトウェアの操 作と同様です.動的起振力解析を行うために図 45.91 の解析諸元 で歯面間減衰比を設定しますが、ここでは鋼歯車対のため減衰比 を <u>G</u>=0.07 としています.ただし、プラスチック歯車の解析では

基本寸法 端部形状				
項目	記号	単位	Pinion	Gear
モジュール	mn	mm	2.	.00000
歯数	z		52	52
圧力角	αn	deg	20.	• 00000
ねじれ角	β	deg	30 * 0 '	0.00 ″ 🛄
ねじれ方向			右ねじれ 🗸	左ねじれ
基準円直径	d	mm	120.08886	120.08886
基礎円直径	db	mm	110.70884	110.70884
歯厚入力方式			転位係数 🗸	転位係数 🗸
歯直角転位係数	xn		0.00000 📃	0.00000
またぎ歯数	ZM		9	9
またぎ歯厚	W	mm	52.37666	52.37666
測定ボール径	dp	mm	3.3677	3.3677
オーバーボール寸法	dm	mm	124.63951	124.63951
歯直角円弧歯厚	Sn	mm	3.14159	3.14159
中心距離	a	mm	120.	08886
歯直角法線歯厚減少量	fn	mm	0.00000	0.00000
歯幅	ь	mm	20.00000	20.00000
歯先円直径	da	mm	124.08886	124.08886
歯底円直径	df	mm	115.08886	115.08886
歯元R(工具刃先R)	rf	mm	0.7500 🔜	0.7500 🔝
確定 ギャ	ンセル	戻	র ৩૫৮	ラック

図 45.87 歯車諸元(検討歯車 1)

別途減衰比を設定する必要があります.また、回転速度の上下限 値と解析回転分割数, x, y, z方向および回転方向 θx , θy , θz 方向 の減衰比を設定します.





図 45.89 歯面応力, oHmax=579MPa





図 45.91 動的起振力解析諸元(解析条件)

動的起振力解析用に歯車寸法を図 45.92 のようにボス径, ボス 幅および歯車材料の比重を設定します. 歯車と同様に図 45.93 の ように軸寸法を設定し、軸受のばね剛さ(KA, KB)を設定しま す. そして画面下の「確定」ボタンで計算を開始します.



図 45.92 動的起振力解析諸元(歯車寸法)





動的起振力解析後には、図45.95~45.98のように振動かみ合い

1 次成分表を表示することができ,円周方向の振動かみ合い1次 成分グラフを図45.99~45.102 に示します.そして,図45.99 の画 面上部にある ▶ ボタンで図45.103の音データグラフを表示し, その音を(1次音)聞くことができます.また,図45.104 では回 転速度に対応した小歯車と大歯車の音圧レベルグラフ(例題では 同歯数のため重なっています)を表示します.

以上のように動的解析を行うことで振動・騒音の低減を図れる 設計ツールとして非常に有効と考えます.解析結果の確認のため 図45.105に論文の実験値と比較した結果を示しますが良く一致し ています.なお、図45.105のTransverseとTiltingの東工大の実験 結果は回転座標系での測定のためZ-1次とZ+1次に分かれて計測 されますが、本解析は静止座標系での値となりますのでZ次とし て表示しています.

ss,Inertia,Stiffness Mesh sprir	e stilfness	origino sec-1 mesar i ron	ce(n)
項目	単位	Pinion	Gear
由車の質量	N	19.7844	19.7844
軸の質量	N	17.8054	17.8054
等価報信	88	41.0000	41.0000
レーリー係数	***	0.4857	0.4057
軸直角方向等儘質量	N	20.4327	28.4327
輸直角方向等価はねKx	N/nm	233644.8073	233644.8073
輸直角方向導価ばねKy	N/an	226308.7451	226303.7451
軸方向等值質量	N	37.5897	37.5897
轄方向等価ばね	N/nm	1499.6823	1499.6829
音車のx.y触剧りのイナーシャ	N'marsec'2	1.3604	1.9684
軸のx、y触回りのイナーシャ	N'mm'sec"2	4.0227	4.0227
x,y触回りの等価イナーシャ	N'mm'sec'2	9.9143	3.9143
×触剧りの等価はね	N-ma/rad	1503205904.4997	1503205904,4997
y触剧リの等価はね	N*am/red	1551927221.5082	1551927221.5082
歯車のz軸周りのイナーシャ	N-sa-sec ²	3.6651	3.6651
軸のz軸間りのイナーシャ	N*mn*sec'2	0.4045	0.4045
z軸間りの等価イナーシャ	N*ss*sec'2	4.0685	4,0638

図 45.95 振動かみ合い1次成分表1

66,	hertia.Stiffness Mesh sprine	stiffness			
ю.	歯面はわ開性[N/μ=s]	請整力[N]	著力点1[ma]	著力,点2[am]	^
	256,85953	125.71825	10.73953	-14.02507	10
2	256.69958	124,99008	10.95718	-13.80771	
1	256.69434	124.77814	11,10643	-13.65846	
4	255.78439	124,88038	11,18927	-18,57543	
\$	258.87328	125,44307	11,21494	-12,54598	
\$	258,88437	125,88219	11,20763	-18,55728	
2	258.90957	126,15298	11,19334	-13,57155	
I.	267.01521	128, 19224	11,18895	-13.57585	
8	257.27568	128.03340	11,18177	-18,57813	v .

図 45.96 振動かみ合い1 次成分表2

護動がみ合い1次成分表

 こ ロ
 正

 Static Analysis Amplitude of Vibration Acceleration[m/sec3] Mesh Force[N]

 Pinion Gear

Freq[Hz]	Rotation	Transverse	Tilting	Axial	1
607	0.196E+01	0.153E+00	0.205E+00	0.402E+00	н
631	0.213E+01	0.182E+00	0.219E+00	0.421E+00	Ш
655	0.233E+01	0.218E+00	0.238E+00	0.459E+00	Ш
678	0.256E+01	0.262E+00	0.259E+00	0.504E+00	11
702	0.281E+01	0.314E+00	0.281E+00	0.550E+00	Ш
726	0.308E+01	0.375E+00	0.303E+00	0.595E+00	Ш
750	0.337E+01	0.448E+00	0.330E+00	0.656E+00	Ш
774	0.364E+01	0.528E+00	0.358E+00	0.722E+00	Ш
700	0.391E+01	0.618E+00	0.382E+00	0.765E+00	ι.

図 45.97 振動かみ合い1次成分表3(小歯車の例)

atic Analysi inion Gea	s Amplitu r	de of Vibrat	tion Acceler	ation[m/sec	a] Mesh Fo	orce[N]		
Freq[Hz]	FN	FX1	FY1	FZ1	MC1	MY1	HZ1	^
607	3,13	1.07	2.55	1.47	34.19	14,90	2.76	10
631	3.39	1.16	2.76	1.59	34.16	14,99	2,99	1
655	3.70	1.27	3.01	1.74	34.12	15.03	3.27	L .
678	4.04	1.38	8.28	1.90	34.10	15.08	8.57	
702	4.42	1.51	3.60	2.08	34.05	15.11	3.91	1
726	4.85	1.66	3.34	2.28	33.99	15.17	4.28	1
750	5.28	1.80	4.28	2.48	33.85	18.22	4.66	1
774	5.68	1.84	4.82	2.67	33.91	15.27	5.01	
788	8.10	2.08	4.86	2.87	33.83	15.37	5.38	l v

図 45.98 振動かみ合い1次成分表4(小歯車の例)



図 45.99 振動かみ合い 1 次成分グラフ (Rotation)



図 45.100 振動かみ合い 1 次成分グラフ (Transvers)





図 45.102 振動かみ合い 1 次成分グラフ (Axial)



図 45.103 音波形グラフ(小歯車と大歯車の合成音)



図 45.87~図 45.105 では同歯数の解析結果を示していますが、 歯数の異なる解析結果例を図 45.106~45.109 に示します.





参考文献

 Kunihiko MORIKAWA et al.," DYNAMIC VIBRATION ANALYSIS OF HELICAL GEAR SYSTEM", Proc., MPT2001(2001)
 王韶峰,梅澤清彦,北條春夫,松村茂樹,はすば歯車系の振動 解析(第一報,起振力を考慮した多自由度シミュレーションの開 発),機論 C編, 62 巻 600 号 (1996.8), pp.3275-3282

[46] Linear bevel gear design system(IP-bevel gear)



☑ 46.1 Linear bevel gear

46.1 概要

現在、ベベルギヤは Gleason 社や Klingelnberg 社の専用歯切り盤 で加工されていますが、近年、球面インボリュート歯形(カタロ グ10頁、図 2.12 参照)を持つベベルギヤをマシニングセンタで 加工することも一般化し、小形ベベルギヤの金型や大型ベベルギ ヤでは目新しいことではなくなってきています。特に大型のベベ ルギヤでは専用歯切り盤が製造されていないことからマシニング センタで加工せざるを得ない状況下にあります。

小さな歯車では、工具の摩耗も少なく、ツールパスを細かく運動させることができ、また金型では磨きをすることにより上質な 歯面粗さを得ることができます.しかし、大型歯車の場合はエン ドミル工具を使用すると工具摩耗や切削(研削)状況などにより、 目視観察では問題にならない歯面であっても運転後には図46.2の ように歯面に鱗模様が生じてしまいマイクロピッチングが発生す る原因となります.このような現象を回避するためには円盤状の 砥石で歯面研削しなければなりません.



(応用科学研究所カタログより) 図 46.2 マシニングセンタ加工歯面のマイクロピッチングの例

スパイラルベベルギヤの場合,凸面側歯面は小さな直径を持つ 円盤形砥石であれば研削することも可能(隣の歯に接触する可能 性がある)ですが,凹面側歯面は研削することができません.

しかし、本ソフトウェアでは、円盤形砥石で歯面研削すること ができるよう大歯車の歯形と歯すじを直線として、これにかみ合 う小歯車の歯形を決定しています(歯面修整も可).そのため、大 歯車の歯面研削はエンドミル形状の工具(スワーフ加工も含む) に比べ大幅な時間短縮が可能です.また、大歯車を内歯ベベルと すること、小歯車にオフセットを与えること、軸角を90°以外と すること、そして、小歯車の歯数を少歯数(1~5 歯)とすること ができますので大減速で且つ、自由度の高い歯車対を設計するこ とができます.すなわち、この Linear bevel gear は、「設計と加工 の多様性」を持つ歯車であると言えます.

46.2 ソフトウェアの構成

Linear bevel gear design systemの構成を表 46.1 に示します.表 中の〇は、基本ソフトウェアに含まれ、◎はオプションです.

表 46.1 ソフトウェ	∟アの構成	
項目	掲載項	機能
<1>基準ラックの設定	46.3	0
<2>歯車寸法	46.4	0
<3>組図	46.5	0
〈4〉断面図	46.7	0
<5>歯形,歯すじ修整	46.8	0
<6>歯面 3D 修整	46.9	0
〈7〉レンダリング	46.10	0
〈8〉歯形出力	46.11	0
〈9〉接触解析設定	46.12	0
<10>接触解析図	46.12	0
<11>接触解析表	46.12	0
〈12〉伝達誤差グラフ	46.13	0
<13>フーリエ解析グラフ	46.13	0
<14>少歯数	46.14	0

46.3 基準ラックの設定(ツール, プロパティ)

基準ラック(並歯,低歯,特殊)を図46.3 で設定し,その基準 ラックの形状を表示すことができます.本例では,歯たけを「並 歯」とし,圧力角を17.5°とした例を示します.



図 46.3 基準ラックと形状

46.4 歯車寸法設定

図 46.4 に諸元入力画面を示します. Gear 歯形形状は,「等モジ ュール歯形」と「比モジュール歯形」の2 種類があります.「等モ ジュール歯形」は,大歯車の歯形を内端部から外端部まで同じモ ジュールで生成しますが,「比モジュール歯形」(46.15 項参照)は, 円すい距離に比例するモジュールで歯形を生成します.

🖒 歯車寸法				- • 💌	
項目	記号	単位	基準	寸法	
Gear歯形形状			等モジュール歯形		
歯直角モジュール	mn	mm	6	.0000	
歯直角圧力角	۵n	deg	17	.5000	
歯 数	z		7	33	
歯すじ角度(左/右)	β	deg	35.0000	35.0000	
軸角	Σ	deg	90	.0000	
項目	記号	単位	Pinion	Gear	
歯末のたけ	ha	mm	6.0000		
歯元のたけ	hf	mm	7.5000		
基準円すい角	φ	deg	11.9761		
オフセット	Хо	mm	0.0000		
ころがり円半径	r	mm	32.0000	140.0000	
Gear内端直径	di	mm		260.0000	
Gear外端直径	do	mm		360.0000	
Pinion内端距離	Js	mm	130.0000		
Pinion外端距離	Je	mm	180.0000		
歯幅	Ь	mm	50.0000	50.0000	
歯 厚	sj	mm		9.6000	
法線バックラッシー	Jn	mm	0	.1000	
歯先R	ra	mm	0.6000	0.6000	
歯元R	rf	mm	2.5000	2.5000	
確定 キャ	ンセル [戻す	標準	クリア	

図 46.4 諸元

AMTEC www.amtecinc.co.jp

歯車寸法は、モジュール、圧力角、歯数、歯すじ角度、軸角を 設定すれば、それ以下の歯末のたけ、歯元のたけなどの数値は、 [TAB]キーで標準値を設定することができます.例題では、歯す じ角度を左右とも 35°としていますが、異なる角度を設定するこ ともできます.また、本例では、ころがり円の標準値を使用する のではなくアンダーカットを避けるため、ころがり円を r₁=32.00、 r₂=140.00としています.さらに、大歯車の内端直径と外端直径を 変更することができますので歯幅位置での歯形使用範囲を自由に 設定することができます.図46.4を[確定]すると、図46.5の寸法 結果を表示します.寸法結果1のピニオン内端直径と外端直径は、 歯形計算後の寸法結果2(図46.11)に表示します.

項目	記号	単位	Pinion	Gear			
バックラッシ角度	Jθ	deg	0.0087	0.0409			
オフセット角	θ	deg	0	.0000			
外端円すい距離	La	mm	****	184.0050			
内端円すい距離	Lf	mm	****	132.8925			
円すい角	δ	deg	11.9761	78.0239			
外形項目	記号	単位	Pinion				
円すい高さ	Ь	mm	50.0000				
内端直径	Dt	mm	łołok	9634c			
外端直径	Db	mm	***	**			

図 46.5 寸法結果 1

46.5 組図

正面図を図 46.6 に, 側面図を図 46.7 に, 基準ラックを図 46.8 に示します. これらの図は, 縮小, 拡大, そして距離計測することができ, DXF ファイルを出力することができます. 図 46.9 に CAD 作図例を示します.





図 46.7 組図 (ZY)



46.6 歯形計算

本例では歯形を図 46.10 のように歯形分割数を 51 として計算し ます.計算結果後,図 46.11 の寸法結果 2 を表示します.

() 歯形計算	- • 💌						
項目	数 値						
Pinion歯幅分割数	51						
Gear歯幅分割数	51						
歯面分割数	51						
確定 キャンセル 戻す 標準							
図 46.10 歯形計	算の設定						
○ 寸法結果							

項目	記号	単位	Pinion	Gear		
バックラッシ角度	Jθ	deg	0.0087	0.0409		
オフセット角	θ	deg	0	.0000		
外端円すい距離	La	mm	****	184.0050		
内端円すい距離	Lf	mm	****	132.8925		
円すい角	δ	deg	11.9761	78.0239		
外形項目	記号	単位	Pin	ion		
円すい高さ	Ь	mm	50.0000			
内端直径	Dt	mm	71	.9890		
外端直径	DЬ	mm	92	.4083		

図 46.11 寸法結果 2

46.7 断面図

歯形断面を図 46.12 に形状断面を図 46.13 に示します. これらの 図も縮小, 拡大, そして距離計測することができます.



図 46.13 断面図

46.8 歯形, 歯すじ修整

図 46.14 で定型の歯形修整量と歯すじ修整量を与えることがで きます.本例では図 46.15(b), Type2 のようにピニオンにのみ歯面 修整(図 46.15b)と歯すじ修整(図 46.16)を与えギヤは無修整と します.ただし,ピニオン歯すじ修整図の Type1と Type3 および ギヤの修整はピニオンと同様のため省略します.

○ 歯形歯すじ修整	
歯形(P)=0 歯すじ(P)=2 歯形(G)=0	歯すじ(G)=0
歯形修整タイプ	
● 修整なし ○ Type1 ○ Typ	e2 🔘 Type3
<u>確定</u> キャンセル 戻す	クリア グラ フ
図 46.14 歯形, 歯すじ修	§整(設定)

AMTEC www.amtecinc.co.jp



46.9 歯面 3D 修整

図 46.15 および図 46.16 で設定した歯面,歯すじ修整を図 46.17 のように3次元で表現することができます.また、この歯面修整 の分割は任意に設定することができ、図 46.17 の画面で修整量の 変更や倍率も変更することができます.また、 CSV出力 で歯面 修整量を CSV 出力することができ、Excel で作成したデータを CSV読込 で読み込むことができます.本例では定型の修整を3 次元修整に引き継ぎましたが,直接3次元修整値を入力すること ができます.なお、ギヤは無修整のため省略します.



46.10 レンダリング

生成した歯形を図 46.18 のように表示することができ、修整歯 形に接触線を図 46.18(b)のように確認することができます.また, 図を表示する際の機能は、図 46.19 のように組み立て誤差や回転 角度(誤差)を与えることができますので歯のかみ合いを容易に 観察することができます.なお、この歯車の円すい形状は図46.20 のように表すことができます.





(a)無修整歯形

図 46.18 レンダリング

縦回転 26 < ▶ 誤差⊿X 0.000	0 < 📄 🔸
横回転 45 < ▶ 誤差⊿Y 0.000	• •
ズーム 0.00 < ▶ 誤差⊿Z 0.000	0 < 📄 🕨
X移動(%) 0.000 < ▶	D'- '
Y移動(%) 0.000 ◀ ▶ 移動モデル	Pinion 🔻
(a)基本操作 (b)誤差	設定

CENTRAL PLANCE	-		- XI X 1	1 7 2 0 .
回転	0.000	•		Þ
回転誤差P	0.0000	•		Þ
回転誤差G	0.0000	•		Þ
📄 連続回転 🛛	ステップが)	+0.8	i •



(c)回転

(d)角度 図 46.19 補助機能



46.11 歯形出力

生成した理論歯形または、修整歯形を図 46.21 で 3D-IGES ファ イルに出力することができます. 出力歯数は任意に与えることが できますので、ピニオンを全歯(7歯)、ギヤを5歯出力し、CAD で作図した例を図 46.22 に示します.



AMTEC www.amtecinc.co.jp



46.12 歯面接触解析

生成した歯形の接触距離やすべり速度、そして、すべり率を解 析することができます. 図 46.23 では1 ピッチ角度の分割数(本 例では50)を設定し、組み立て誤差などを0とし、最大接触距離 を 20um としたときの解析結果を図 46.24~46.27 に示します.

歯面修整を考慮して接触距離から全かみ合い率を計算しますの で本例では全かみ合い率は e_v=2.12 となります.また,図46.24の 接触距離解析結果では、ピニオンに歯面修整を与えていますので 歯先, 歯元そして歯幅端部で接触距離が小さくなっていることが 解ります.

接触距離やすべり速度、すべり率の解析後、図 46.27 のように 回転させることができますので角度位置における数値を把握する

🕑 接触解析設定	2		- • •			
◎ 右歯面接触	ŧ(CW)	◎ 左歯	面接触(CCW)			
項目	記号	単位	數 値			
角度分割数	N		50			
軸角誤差	ΔΣ	deg	0.0000			
ねじれ角誤差	Δβ	deg	0.0000			
誤差X	⊿x	mm	0.0000			
誤差Y	⊿y	mm	0.0000			
誤差Z	⊿z	mm	0.0000			
回転数	n	min-1	600.000			
最大接触距離	L	μm	20.00			
全かみ合い率	εγ		2.1200			
確定 キャンセル 戻す クリア						

図 46.23 接触解析の設定



(a)歯車対





ことができます. また, 図 46.28 のように, 数値範囲を指定して 表示(例:2.50~2.87m/s) することもできます. 図 46.28 では、 すべり速度を示していますが、接触距離およびすべり率も同様に 表示することができます.



図 46.25 すべり速度





図 46.26 すべり率



図 46.27 解析結果 (表)

(b)すべり率

基本操作 話差 ーディング . 7 い速度 (2.8719 8.2571 (34/50) · DHE 最大值 */s 福定 標準 すべり速度の例 図 46.27 回転 図 46.28 色分布範囲指定

46.13 伝達誤差

伝達誤差解析結果を図 46.29 に、フーリエ解析結果を図 46.30 に示します.本例の歯車の伝達誤差は TE=0.65µm であることが解 ります.



AMTEC www.amtecinc.co.jp

46.14 少歯数 (オプション)

ピニオン歯数を z1=2, オフセットを 50mm としたときの計算例 を図 46.31~46.38 に示します.本例の場合,ピニオンの歯形を内 端側と外端側を揃えるため歯すじ角度は、ギヤ左歯面側を 45°, 右歯面側を48°にしています.また、ピニオンの歯幅は、内端側 と外端側を広くしてかみ合いに余裕を持たせています.

🖒 歯車寸法			_	- • 💌
項目	記号	単位	基準	寸法
Gear歯形形状			等モジュール歯形	
歯直角モジュール	mn	mm	3	.0000
歯直角圧力角	αn	deg	15	.0000
歯 数	z		2	55
歯すじ角度(左/右)	β	deg	45.0000	48.0000
軸角	Σ	deg	90	.0000
項目	記号	単位	Pinion	Gear
歯末のたけ	ha	mm	3	.0000
歯元のたけ	hf	mm	3	.7500
基準円すい角	φ	deg	2.0826	
オフセット	Хо	mm	50.0000	
ころがり円半径	r	mm	12.0000	119.8510
Gear内端直径	di	mm		220.0000
Gear外端直径	do	mm		260.0000
Pinion内端距離	Js	mm	94.0000	
Pinion外端距離	Je	mm	125.0000	
歯幅	b	mm	31.0000	20.0000
歯 厚	sj	mm		4.7124
法線バックラッシ	Jn	mm	0.0000	
歯先R	ra	mm	0.3000	0.3000
歯元R	rf	mm	1.1250	1.1250
確定キャ	2011	戻す	標準	クリア
	<u>श्</u> र 46	31		

		5.51	四日ノロ		
○ 寸法結果			_	- • •	
項目	記号	単位	Pinion	Gear	
バックラッシ角度	Jθ	deg	0.0000	0.0000	
オフセット角	θ	deg	24.6570		
外端円すい距離	La	mm	*****	130.0859	
内端円すい距離	Lf	mm	****	110.0727	
円すい角	ô	deg	2.0826	87.9174	
外形項目	記号	単位	Pin	ion	
円すい高さ	Ь	mm	31	.0000	
内端直径	Dt	mm	28	.9713	
外端直径	DЬ	mm	31	.0256	

図 46.32 寸法結果



図 46.33 組図 (XZ)



図 46.35 レンダリング











図 46.38 すべり率

46.15 比モジュール歯形

比モジュール歯形は、円すい距離に比例するモジュールで歯形 を生成します. 比モジュール歯形の計算例を図 46.39~46.46 に示 します. 比モジュール歯形の場合, 歯すじ角度を与えることはで きません. この機能は、すぐばかさ歯車の形状とほぼ同じで、ギ ヤの歯形を直線としてピニオンの歯形を生成しています.

💍 歯車寸法 💦 💼 📃 🔤 🗾					
項目	記号	単位	基準	寸法	
Gear歯形形状			比モジュール歯形		
歯直角モジュール	mn	mm	3	.0000	
歯直角圧力角	۵n	deg	20	.0000	
歯数	z		10	37	
歯すじ角度(左/右)	β	des	*****	****	
軸角	Σ	deg	90	.0000	
項目	記号	単位	Pinion	Gear	
歯末のたけ	ha	mm	3.0000		
歯元のたけ	hf	mm	3.7500		
基準円すい角	φ	deg	15.1240		
オフセット	Хо	mm	0.0000		
ころがり円半径	r –	mm	16.0000	55.5000	
Gear内端直径	di	mm		93.0000	
Gear外端直径	do	mm		129.0000	
Pinion内端距離	Js	mm	46.5000		
Pinion外端距離	Je	mm	64.5000		
歯幅	b	mm	18.0000	18.0000	
歯厚	sj	mm		4.7124	
法線バックラッシ	Jn	mm	0	.1000	
歯先R	ra	mm	0.1000	0.1000	
歯元R	rf	mm	1.1250	1.1250	
確定 キャ	ッセル) [戻す	標準	クリア	

図 46.39 諸元

項目	記号	単位	Pinion	Gear	
バックラッシ角度	Jθ	deg	0.0279	0.1032	
オフセット角	θ	deg	0.0000		
外端円すい距離	La	mm	****	66.8142	
内端円すい距離	Lf	mm	*ołołołoł	48.1684	
円すい角	δ	deg	15.1240	74.8760	
外形項目	記号	単位	Pin	ion	
円すい高さ	Ь	mm	18	.0000	
内端直径	Dt	mm	32.1164		
外端直径	DЬ	mm	44	.5485	

図 46.40 寸法結果







図 46.45 すべり速度



図 46.42 組図 (ZY)





図 46.46 すべり率

AMTEC www.amtecinc.co.jp

46.17 内歯ベベル+オフセットの例

内歯ベベルにオフセットを与え,軸角をΣ=110°とした設計例 (図 46.47~46.55)と模型(図 46.56)を示します.内歯車ベベル ギヤでオフセットを持つ歯車は,従来のかさ歯車加工専用機では 加工が不可能であったことから設計概念としても一般化していま せんでした.しかし,Linear bevel gear は「設計と加工の多様性」 を持っていますので自由な発想で設計することができます.





項目	記号	単位	Pinion	Gear
バックラッシ角度	Jθ	deg	0.0236	0.1146
オフセット角	θ	deg	17	.4576
外端円すい距離	La	mm	*****	62.6473
内端円すい距離	Lf	m	*****	50.5220
円すい角	δ	deg	11.7566	98.2434
外形項目	記号	単位	Pin	ion
円すい高さ	ь	m	12	.3617
内端直径	Dt	mm	32	.3922
外端直径	Db	mm	37	.8074







図 46.52 レンダリング





図 46.49 歯面修整



40.51 租区 (乙1)





図46.55 すべり率



図 46.56 内歯ベベル+オフセットの模型

46.18 まとめ

Linear bevel gear は「設計と加工の多様性」を持つことから,

- ベベルギヤの外歯、内歯、そしてオフセットも自由に設計することができます. そのため、従来の考えにとらわれない歯車の使用や組み合わせが可能です(ex. Σ≠90°で容積小).
- (2) 歯形データさえあればマシニングセンタなどで加工が可能であるため歯車加工専用機の制約を受けません。そのため、ピニオンを少歯数歯車とすることも大歯車を内歯とすることもできます。
- (3) マシニングセンタなどの加工は一般化技術として定着してい るため今後、歯車加工専用機以外の加工法としての利用が進 むと考えています.
- (4) 大歯車の歯形および歯すじを直線としているため円盤形砥石 での研削が加工です.このためエンドミル形工具(砥石)に 比べ生産性が非常に高く,加工面も上質となります.
- (5) スパイラルベベルを円盤形砥石で研削する場合,図45.57のように砥石と歯面が干渉するため研削が困難(不可能)です.
 (図45.58の片テーパ形砥石でも研削は不可能)しかし,図45.58のLinear bevel gearのピニオンは円盤形砥

しかし、図 45.58 の Linear bevel gear のビニオンは円盤形砥 石で研削できることが解ります.

(6) そもそも、スパイラルベベルの歯すじが、なぜ図 45.57 のようになっているのかというと、円盤外部の平面に刃物を置き、これを運動させ歯形を作っているからであって、この歯すじ形状を当然のこととして我々は認識しています.しかし、上述したように歯面を円盤形砥石で研削できるという大きな特徴を持つこの方式のベベルギヤは、近い将来、多くの採用が進むもの(特に大型歯車)と考えています.





図 45.57 spiral bevel と円盤 形砥石

Linear bevel gearは、IP-bevel gear の名称で2016年12月22日、日刊 工業新聞7面に、そして日経もの づくり誌¹⁾2017年5月号,63~68頁 に掲載されました(図45.59). 詳細は本誌をご覧ください.

図 **45.58** Linear bevel gear のピニオンと片テーパ形砥石

図 45.59 日経ものづくり

1) 日経 BP 社, 日経ものづくり誌表紙

[47] Strain wave gearing design system



Fig.47.1 Strain wave gearing design system

47.1 Overview

Strain wave gearing design system is a software that generates wave gear tooth profile, based on basic rack or tool (hob). Meshing of the generated tooth profile and rendering can be displayed, and also 2D-DXF file output can be generated. Overall display is shown in Table 47.1.

47.2 Software configuration

Strain wave gearing design system configuration is shown in Table 47.1.

Table 47.1 Software Configuration

No.	Item	Fig	ure
	Basic rack		47.3
1	Tool (HOB)		47.12
	Type of Ring		
2	Tool dimension		47.12
3	Gear dimension	47.4	47.12.2
4	Tooth profile	47.5	47.12.3
5	Tooth modification	47.6	
6	2DTooth profile	47.7	47.12.3
7	Tooth rendering	47.8	47.12.3
8	FEM-Analysis	47.9	47.12.4
9	Hertzian stress	47.10	47.12.4
10	Output (Tooth profile)	47.11	47.12.5
11	Design-data management	47	7.13

47.3 Basic Rack (Property)

Basic rack (cup type) is shown in Figure 47.2. As basic rack can be chosen between full depth tooth, low tooth and special tooth, Initialize is used to set up special tooth with α =25°, h_{ac} =0.8, h_{fc} =1.05, r_c =0.375. After basic rack is specified, actual basic rack can be displayed as shown by Figure 47.3, by clicking Tooth profile. (Hob-based tooth profile is shown in Figure 47.12)



Fig.47.2 Basic rack (Cup type)

Reducer type C	up type	•	Set default v settings	value for gear dimension
Basic rack Standard	⊚ Stub		Specific	Tip Side
Description	Symbol	Units	Value	
Pressure angle	an	deg	25.00000	
Addendum coefficient	hac		0.8000	/\'··
Dedendum coefficient	hfc		1.0500	
Root radius coefficient	rc		0.3750	
Clearance coefficient	ckc		0.2500	
		<u>o</u> k (<u>C</u> ancel	Initialize Reference

Fig.47.3 Property and basic rack (Cup type)

47.4 Dimension

Dimension display is shown in Figure 47.4 by using the example with $m_n=0.3$, $z_{FS}=100$, $z_{CS}=102$. Although the addendum modification coefficient is shown as $x_n=0.2$, it can be set to any value. Also, tip R can be defined all the way to the addendum pointed limit. In basic rack root R, the value specified in Figure 47.2 is taken as the standard value, but it can be defined all the way to the established limit of basic rack profile. The input range is shown below.

Module	:	$0 \le m_{\rm n} \le 10$	
Number of teeth	:	$10 \le z_{\rm FS} \le 1000$,	$z_{\rm FS} + 2 < z_{\rm CS} \le 1000$
Profile shift	:	$-2 < x_n < +3$	
Face width	:	$0 \le b \le 1000$	
6			



Fig.47.4 Gear dimensions

47.5 Tooth profile calculation

The tooth profile calculation setup display is shown in Figure 47.5. Flex spline thickness, device outer diameter and number of divisions for tooth profile calculation set-up can be specified. After setting the values, click \bigcirc k to proceed to tooth profile calculation.

🕽 Calculate items 📃 🖃 🗾					
Description	Symbol	Units	Value		
Flex spline rim thickness	tf	mm	0.4500		
Reducer out diameter	oc	mm	42.0000		
Distribution number of fillet curve	vf		50		
Distribution number of involute curve	vi		50		
Distribution number of tip rounding curve	vr		20		
Distribution number of tip curve	vt		20		
<u> </u>	<u>C</u> ancel		Clear		

Fig.47.5 Tooth Profile Set-up

47.6 Tooth profile modification

Generated flex spline tooth profile can be modified as shown in Figure 47.6. Tooth profile can be specified either by line of action or diameter, while the magnification of the tooth profile modification can be selected from 50, 100, 200, 300, 400, 500, 1000.



Tooth Profile Modification Fig.47.6

The tooth profile modification can be applied by track-bar (shown at the center of Figure 47.7) and table-entry on the right hand side of the screen. In Figure 47.7, tooth profile is shown with 9 divisions, but it can be specified up to 50 divisions. Also, connection of the tooth profile can be spline (as shown by this example) or straight line connection. Moreover, numerical value can be entered into the template figure as shown in Figure 47.8.



Fig.47.8 Profile modification setup (Template)

47.7 Tooth Profile Figure (2D)

Generated tooth profile can be displayed as shown in Figure 47.9. Enlarged sections [A] to [D] are shown in Figure 47.10. Also, distance can be measured as shown in Figure 47.11. Moreover, rotation-related tooth profile meshing can be checked by rotation I Rotation in right hand corner of Figure 47.9.



Tooth Profile & Supplemental Feature Fig.47.9



47.8 Rendering

Tooth profile can be displayed as shown in Figure 47.12. This rendering can be enlarged, reduced and rotated by using 📃 Rotation .



Fig.47.12 Rendering and supplemental form



Fig.47.13 Rendering enlargement[E]

47.9 FEM Analysis (2D)

When load is applied to teeth, root stress in the teeth can be calculated. FEM analysis setup display is shown in Figure 47.14, but in FEM analysis, material is symbols only, as it is based on longitudinal elastic modulus and Poisson's ratio. Vertical division number and horizontal division number can be specified arbitrarily. The position of the load (2 in the example: the second node from the tooth tip), less than 2 in the vertical division number can be specified. For the load applied in this case, please set the value per designer's intension.

Description	Symbol	Units	Flex spline	Circular spline		
Material symbol			AAA	AAA		
Young's modulus	E	MPa	206000.00 📃	206000.0		
Poison's ratio	ν		0.30	0.30		
Number of vertical distribution	mNo		21	21		
Number of horizontal distribution	wNo		20	20		
Load point position number	Nf		2	2		
Load	F	N	10.0000			

Fig.47.14 FEM analysis setup

FEM analysis results are shown in Figure 47.15 to 47.20. The analysis items are $\sigma_x \sigma_y \tau_{xy} \sigma_1 \sigma_2 \sigma_{\delta d}$, and flex spline max main stress is found to be σ_{1max} =24.0MPa as shown in Figure 47.15. Also, displacement figure is shown in Figure 47.17 while stress summary (selective results only) is shown in Figure 47.18.





Fig.47.17 Flex Spline displacement, $\delta max=0.08 \mu m$

Elene	ent stress(M	Pa) Node	displaceme	ent(μm)			
	Number	σ1	σ2	ơm	σx	σy	τxy
	468	14.38	1.22	13.81	8.18	7.42	6.57
	501	13.53	0.08	13.48	6.23	7.38	6.70
	953	12.47	1.40	11.84	8.52	5.35	5.30
	1050	12.39	1.21	11.83	4.47	9.14	5.08
	1117	11.61	0.32	11.45	8.66	3.27	4.96
	1082	10.27	1.03	9.80	4.31	6.99	4.42
	1087	10.15	0.72	9.81	2.72	8.16	3.86
	920	9.27	1.59	8.58	5.07	5.79	3.82
	430	9.23	-0 19	9 33	6 53	2 51	4 26
		-	-				- ·

Fig. 47.18 Stress Summary (selective results)

47.10 Tooth contact stress

The calculation of Hertzian stress acting on tooth surface is shown in Figure 47.19. The purpose of this feature is to compare the Hertzian stress due to tooth profile differences, so the load acting on one tooth should be designer's intended value.

Description	Symbol	Units	Flex spline	Circular splin	
Load(Normal force)	F	N	10.0000		
Young's modulus	E	MPa	206000.00 📃	206000.00	
Poisson's ratio	ν		0.30	0.30	
Contact diameter	dc	mm		30.7200	
Result	Symbol	Units	Flex spline	Circular splin	
Radius of tooth curvatures	ρ	mm	6.4899	6.6112	
Hertzian stress	σH	MPa	148.3314		

Fig.47.19 Hertzian Stress

47.11 Tooth profile output

The resulting F/S (perfect circle), F/S (ellipse) and C/S tooth profile output can be generated. F/S tooth profile output display is shown in Figure 47.20 while CAD drawing sample is shown in Figure 47.21.





47.12 Tooth profile made by hob

47.12.1 Hob dimensions

When hob blade profile is known, the hob profile can be defined by selecting cup Cup type(Specific tool) in reducer type property in Figure 47.32.

Reducer type Cup type	Specific too	0 🔻	Set default value for gear dimension settings				
Basic rack							
🔘 Standard 🛛 🔘 Sti			Specific				
Description	Symbol	Units	Value	्र भू			
Pressure angle	an	deg	14.50000	I/¥			
Addendum coefficient	hac		0.8000	Rc/ ⊥ ≌			
Dedendum coefficient	hfc		1.0500				
Root radius coefficient	rc		0.3750	Ickc			
Clearance coefficient	ckc		0.2500	Basic rack			

Fig.47.32 Property, Cup type (Special tool)

Hob dimension input sample is shown in Figure 47.33. In this sample, pitch=0.9425 is used to achieve module 0.3, but any value can be specified. After input entry, true hob profile can be displayed by clicking profile Tooth profile. The hob profile is based on gear front surface.


47.12.2 Gear Dimensions

In Figure 47.4, module was entered, but module, pressure angle and root diameter cannot be entered in Figure 47.35 because pitch is already entered in Figure 47.33 (background is grayed out).

O Gear dimensions				- • ×
Description	Symbol	Units	Flex spline	Circular spline
Module	mn	mm	0.	30000
Number of teeth	z		100	102
Pressure angle	an	deg	14.	00000
Helix angle	β	deg	0 * 0	' 0.00 ″
Reference diameter	d	mm	30.0001	30.6001
Profile shift coefficient	xn		0.0000	0.0000
Diffraction	ds	mm	0.	60000
Tip diameter	da	mm	30.4601	30.3001
Root diameter	df	mm	29.5601	31.2001
Clearance	с	mm	0.0700	0.0700
Thinning for backlash	fn	mm	0.0000	0.0000
Facewidth	Ь	mm	5.0000	5.0000
Pin diameter	dp	mm	0.5000	0.5000
	<u> </u>		ancel	Clear

Fig. 47.35 Gear dimensions

47.12.3 Tooth profile

After gear dimensions are specified, tooth profile calculation is performed based on rim thickness and outer diameter as shown in Figure 47.36.

O Calculate items			- • 💌
Description	Symbol	Units	Value
Flex spline rim thickness	tf	mm	0.4500
Reducer out diameter	oc	mm	42.0000
	<u>D</u> ancel		Clear

Fig.47.36 Rim thickness and outer diameter

After tooth profile calculation is completed, transverse tooth profile can be displayed as shown in Figure 47.37. However, tooth profile modification cannot be performed when it is based on hob. Since C/S tooth profile is generated to mesh with F/S tooth profile, both gears are contacting without any gaps as shown in the enlarged view of [E] in

Figure 47.37. Also, there is 22µm of gap between tooth tips in [F], and there is 2.6µm of gap between teeth in [G]. The clearance is 0.07mm as shown in Figure 47.40, and F/S tip area is found to be arc-shape of 0.359mm as calculated in Figure 47.41. When gear is specified as over-pin, tooth profile and pin are contacting as shown in Figure 47.42, and F/S contact diameter is found to be d_c =33.01mm.





Rotation





AMTEC www.amtecinc.co.jp

After tooth profile is generated, tooth profile rendering can be displayed as shown in Figure 47.43. This figure can be rotated just like 2D tooth profile, while changing observation angle in the supplemental form.



Fig.47.43 Rendering & supplemental form

47.12.4 FEM analysis & Hertzian stress

Analysis results are shown in Fig.47.44 to Fig. 47.47.

O FEM analysis				
Description	Symbol	Units	Flex spline	Circular spline
Material symbol			A	A
Young's modulus	E	MPa	206000.00 📃	206000.00 📃
Poison's ratio	ν		0.30	0.30
Number of vertical distribution	mNo		21	21
Number of horizontal distribution	wNo		20	20
Load point position number	Nf		2	2
Load	F	N	10	0.0000
(<u>0</u> K	<u>C</u> ance	1	Clear

Fig.47.44 FEM analysis setup



Fig.47.45 Flex spline, $\sigma_{1\text{max}}$ =11.5MPa



Fig.47.46 Circular spline, $\sigma_{1\text{max}}$ =472MPa

O Hertzian stress				- • ×
Description	Symbol	Units	Flex spline	Circular spline
Load(Normal force)	F	N	10	.0000
Young's modulus	E	MPa	206000.00 🔝	206000.00
Poisson's ratio	ν		0.30	0.30
Contact diameter	de	mm		30.7200
Result	Symbol	Units	Flex spline	Circular spline
Radius of tooth curvatures	ρ	mm	3.7647	1.3832
Hertzian stress	σH	MPa	266	.8955
	Calculate	<u>C</u> ano	cel	Clear

Fig.47.47 Hertzian stress

47.12.5 CAD drawing sample

Drawing samples are shown in Fig. 47.48 to Fig. 47.50.





Fig.47.48 CAD drawing sample,



Fig.47.50 CAD drawing sample, C/S

47.13 Design data management

Design data can be managed as shown in Figure 47.51, while it can be also imported and exported as shown in Figure 47.52.

🔿 Search design Design administr	data(Load) ation Gear item	×	
✓ Management ✓ ITitle	test		O Search design data(Load)
 ✓ Designer ✓ Drawing No. ✓ Article no. ✓ Article No. ✓ Date ✓ Date ✓ Memo 	11/04/2018 🛛 🗸 🗠 11/04/2018	•	Decima addinistration Dear Item Produce try Mode Photo try Photo try Photo try Photo try
	Search Gancel C	lear	Search Cancel Clea

Fig.47.51 Design data management

() s	train wave	e gearin	ıg desigi
	File	e Edit	View	Tools
ſ		New	Ctrl+	⊦N
	2	Open	Ctrl+	+O
Ì		Import		
		Save	Ctrl-	⊦S
		Delete	Ctrl+	۰D
		Export		
l		eXit		

Fig.47.52 File management



Fig.47.53 Ring type, m=0.15, z1=z3=200, z2=204

◆日本語版カタログは別途お申しつけください.

[48] ウォーム加工用成形砥石歯形設計システム



Fig. 48.1 ウォーム加工用成形砥石歯形設計システム

48.1 概要

本ソフトウェアは、ウォームを研削する場合の砥石形状を生成 するソフトウェアです.ウォームの型式であるA, N, K, Iの他に 歯面を凹面とするC形, L-Niemann歯形にも対応しています.

Niemann 歯形の研削は,砥石に凸面を与える加工方法ですが, これでは砥石形状に影響を受けるウォーム歯形となってしまいま す.しかし,本ソフトウェアでは設計者が決定したウォーム歯形 を得るために3次元干渉を考慮した砥石の形状を決定します.図 48.1 にソフトウェアの全体画面を示します.

48.2 諸元入力

基準ラックを図 48.2 で設定し、その後、図 48.3 でウォーム諸元 を入力します.ウォーム歯形は 5 種類ありますが、ここでは I 形 で説明しますが、*m、zw、d* を入力することで以後の値は[TAB]で標 準値が入力されます.なお、L-Niemann 歯形(オプション)につ いては 48.7 項をご覧ください.



(歯車諸元			
項目	記号	単位	數 値
歯形種類			I形(4形) ∨
入力基準			歯直角 ~
歯直角モジュール	mn	mm	2.00000
条数	ZW		2
ねじれ方向			右ねじれ ~
リード	pz	mm	12.82550
歯直角圧力角	αn	deg	20.00000
基準円直径	d	mm	20.00000
すすみ角	γ	deg	11 * 32 * 13.1 *
歯先円直径	da	mm	24.00000
歯底円直径	df	mm	15.50000
歯末のたけ	ha	mm	2.00000
歯元のたけ	hf	mm	2.25000
キャリパ歯たけ	hj	mm	2.00000
歯直角弦歯厚	sn	mm	3.14159
測定ピン径	dp	mm	3.50000
歯先R	ra	mm	0.20000
歯元R	rf	mm	0.75000
歯幅	Ь	mm	35.00000
E	確定	*	やンセル クリア



軸断面

48.3 菌形修整

ウォームに歯形修整を与える場合,図48.4~48.6のように設定 することができます.



48.4 歯形生成

ウォーム歯形計算時には図48.7 で砥石直径や砥石セット角など を設定します.砥石直径が変わると3次元干渉の影響で砥石形状 が変わりますので正しい直径を入力する必要があります.また, 砥石セット角の標準値は、ウォームすすみ角(y)としますが、セ ット角を変更した場合の砥石歯形を生成することも可能です.

🔍 歯形計算		- • ×		
計算条件項目	単位	數 値		
計算砥石外径	mm	100.0000		
砥石セット角度	deg	11.53696		
砥石刃元逃げ量	mm	0.0000		
砥石歯厚減少量	mm	0.0000		
分割精度項目	分割精度項目			
歯元R分割数	歯元B分割数			
歯面分割数		1000		
歯先R分割数		500		
歯先円分割数		100		
歯底円分割数		100		
演算精度項目		数 値		
砥石歯形演算精度	砥石歯形演算精度			
研削後歯形演算精度	研削後歯形演算精度			
確定	*1	シセル クリア		

図 48.7 歯形計算諸元

歯形修整を含めたウォームの軸方向断面歯形を図 48.8 に, 無修 整歯形と修整歯形を重ね合わせた歯形(歯先部)を図 48.9 に示し ます.また,ここでは距離計測も可能ですので図 48.10 では両者 歯形の違いを計測した例を示しています.砥石が摩耗して 90mm (100mm と同じ砥石歯形で)となったとき図 48.8 右下にある砥 石外径に砥石径を入力し再計算するとウォーム歯形は図 48.11 の ように歯先部の片歯面の歯厚は 0.0007mm 大きくなります.なお,

図 48.3 ウォーム諸元の設定

図 48.8~48.11 では、歯形修整を含めた歯形を赤色線、無修整歯形 を緑色線、研削後の歯形を青色線、そして、砥石径を任意に変更 したときの歯形をピンク色線で示します。



48.5 砥石歯形

ウォーム研削用砥石歯形を図 48.12 に、また、ウォームと砥石 を表示したレンダリングを図 48.13 に示します.図 48.13 では、砥 石の位置などを変更することができますのでウォームとの接触状 態を容易に把握することができます.



48.6 砥石座標

研削する砥石の座標系,座標および G-code を図 48.14~48.17 に示します.また,図 48.18 に CAD 作図例(砥石歯形左歯面)を 示します.右歯面は,図 48.15~48.17 で設定することができます.



48.7 L-Niemann 歯形 (オプション)

Niemann 歯形の研削は、砥石に凸面を与えることでウォーム歯 形を凹面としているため砥石直径や歯車諸元によってウォームの 凹形状が変わるため歯当たり調整が困難と推測できます.しかし、 本ソフトウェア(L-Niemann 歯形)では、設計者が定めたウォー ムの凹面を得ることができる砥石形状を生成しますので設計時の 歯当たりを正しく得ることができます.例として図 48.19の諸元 を持つL-Niemann 歯形ウォームの砥石歯形の生成例を以下に示し ます.

🖣 歯車諸元			
項目	記号	単位	数 値
歯形種類			L-Niemann 🗸
入力基準			歯直角 🗸 🗸
歯直角モジュール	mn	mm	2.00000
条 数	ZW		1
ねじれ方向			右ねじれ 〜
リード	ΡZ	mm	6.31484
歯直角圧力角	αn	deg	22.50000
基準円直径	d	mm	20.00000
すすみ角	-γ	deg	5 * 44 ' 21.0 "
歯先円直径	da	mm	24.00000
歯底円直径	df	mm	16.00000
歯末のたけ	ha	mm	2.00000
歯元のたけ	hf	mm	2.00000
キャリバ歯たけ	hj	mm	2.00000
歯直角弦歯厚	sn	mm	3.14159
測定ビン径	dp	mm	3.43700
歯先R	ra	mm	0.20000
歯元R	rf	mm	0.75000
歯幅	ь	mm	34.70000
歯面凹半径	Rm	mm	20.00000
	確定	+	ャンセル クリア

図 48.19 L-Niemann 歯形ウォーム



歯形修整や砥石座標の出力などはA, N, K, I 歯形と同様のため省略します.

48.8 L-Niemann ウォーム設計ソフトウェア

L-Niemann ウォーム設計ソフトウェアは、「ウォーム加工用成形 砥石歯形設計システム」には含みませんが、L-Niemann ウォーム の設計例として図 48.24~48.26 を示します.

詳しくは, L-Niemann ウォーム設計ソフトウェアのカタログを ご覧ください.

🐓 寸法設定 📃 🔤 💌							
項目	記号	単位	for	1		Theel	
歯形の種類			L-Niemann 🗸		₩o	rm Wheel-1	
基準平面			歯直角平	2000 V		歯直角平面	i
歯直角モジュール	IIID	mm	2.00	0000		2.0000	0
歯直角圧力角	αn	deg	22.50	0000		20.0000	0
条数/歯数	z		1			40	
基準円直径	dn	mm	20.00	000		80.4030	
交差角	Σ	des		0	.000)00	
進み角	γm1	deg	5 *	44	'	21.01	"
ねじれ角	β	deg	5 *	44	'	21.01	″
ねじれ方向			右ねじれ ~			右ねじれ	
歯直角転位係数	xn		0.00000		0.00000		
歯厚入力方式			法線歯周			厚減少量 ∼	
法線歯厚減少量	fn	mm	0.00	000	0.0000		
横転位係数	xh		0.0000			0.0000	
のど直径	dt		****			84.4030	
歯先円直径/外径	da	mm	24.0000		87.4030		
歯底円直径	df	mm	15.0000		75.4030		
中心距離	a	mm		50	.201	150	
クリアランス	ck	mm	14.53	06		14.5706	
歯幅	ь	mm	35.00	000		15.0000	
測定ピン径	dp	mm	3.42	200		3.4580	
歯先R	ra	mm	0.20	000			
基準ラック歯元R	rf	mm	0.40	000		0.4000	
۳R	Rm	mm	20.00	000			
	C	確定	キャンセル			2	ባፖ
図 48.24	L-	Nien	nann ウ	ォー	1	諸元	

▲形計算 条件設定 結度設	÷		
項目(Torn)	記号	単位	数 値
モジュール	mn	mm	2.00000
圧力角	αn	deg	22.50000
砥石外径	OD	mm	****
砥石凸R	Δr	mm	20.0000
工具(Theel)	記号	単位	数 値
モジュール	mnc	mm	1.99000
圧力角	anc	deg	21.79440
条 数	Zw		1
基準円直径	dmc	mm	20.0000
進み角	γc	deg	5 * 42 * 37.36 * 🛄
ねじれ方向			右ねじれ ~
取り付け角	Σc	deg	0.00000
取付中心距離	ас	mm	50.20464
刃末のたけ	hkc	mm	2.5031
刃元のたけ	hfc	mm	4.1962
刃厚	SC	mm	3.1259
刃先R	r	mm	0.3980
溝 数	N		12
のど丸み半径	rt		8.0000
	確定	++	シセル クリア

図 48.25 歯形計算(ホイールは転位ホブ)



[49] 遊星歯車機構の起振力解析システム



図 49.1 遊星歯車機構の起振力解析システム

49.1 概要

遊星歯車機構の起振力は、歯数の組み合わせや位相の影響を受 けるため、間違った歯数の組み合わせとした場合には、高精度な 歯車や高精度な組み立てとしても遊星歯車機構の起振力を抑える ことはできません.また、それらに加えて歯形偏差や歯すじ偏差、 そして負荷が作用したときの端部接触による影響も起振力に影響 を及ぼしますので起振力は増加することになります.また、位相 を最適とした組み合わせとした場合でも歯車精度や端部接触によ る影響を受けることになります.そして、コストなど種々考慮し て設計した歯車機構がどれほど安定した遊星歯車機構であるかを 知るためには起振力(値、変化)を知ることが重要となります.

汎用 CAE ソフトウェアで遊星歯車装置の振動解析をする場合 には、歯車やキャリアの起振力を基に解析する必要があります.

これらの問題を解決するために,遊星歯車機構の起振力解析シ ステムでは、位相や歯面偏差、そして歯の接触問題を考慮して 遊星歯車機構の起振力を解析することができますのでこの起振力 を使用することが有効な評価する手段と言えます.図49.1 に遊星 歯車機構の起振力解析システムの全体画面を示します.

49.2 適用

(1)型式 :プラネタリー,ソーラ,スター
(2)位相 :同位相,等分位相,カウンター位相,不等配置
(3)歯形 :インボリュート歯形

49.3 プロパティ(基準ラック)

プロパティで、歯先円直径の決定方式、基準ラック、モジュー ルまたは中心距離基準、歯車精度、平均摩擦係数の設定をします. 図 49.2 にプロパティの画面を示します.

基準ラック ● 並歯	() 低曲		○特殊		
項目	記号	Sun	Planet	Ring	
圧力角(deg)	αn		20.0000	0	1 /) 획
歯末のたけ係数	hac	1.0000	1.0000	1.0000	1 ++
歯元のたけ係数	hfc	1.2500	1.2500	1.2500	1 ₨/1빌
歯元 R係数	rc	0.3750	0.3750	0.3750	Teke
頂げき係数	ckc	0.2500	0.2500	0.2500	- 基準ラック
 歯先円決定方式 ● 標準方式 ○ 等クリアラ 	ンス方式	e	☑ 諸 ☑ 転	元入力時に 位係数自動	こデフォルト値をセっトする 助計算
平均周	酵素係数	(効率計算	[に適用)		μ 0.0800
JIS B 1702-1	(1998)	青度等級(fnの標準値	計算に適用	刊) 7 🚖
		確	Ê ++	ッセル	补刀其月(直

図 49.2 プロパティ

49.4 遊星歯車機構の選択

図49.3に示す遊星歯車タイプの選択をします(プラネタリー型, ソーラ型,スター型の増減速).次に,図49.4で遊星歯車諸元を 設定します.







🝘 歯数	組合わせ道	齞択					-			×
条	件項目			数 値			気位のとなる	組合わ	ŧ	
詩	計速比			5.00	000	☑ 位相指定				
Pla	net 個数			3] (◯ 同位相			
🗹 歯数	範囲 (Sun)		20	~	50	 等分位相 				
🗹 歯数	範囲 (Plan	et)	5	~	50	○ カウンター位相				
🔲 歯数	範囲 (Rine	0	50	\sim	200	0	○ 最適位	柞目(5P,6)		
速比誤	差上限値	(X)		10.00000 〇 不等配置						
表示	最大個数		100]			n	:100
No.	Sun	Pla	anet	Ring	速日	Ł	速比誤	差[%]		^
24	20		31	79	4	.9500	-	1.0000		
25	20		31	82	5	.1000		2.0000		
26	20		31	85	5	.2500		5.0000		
27	20		32	79	4	.9500	-	1.0000		
28	20		32	82	5	.1000	:	2.0000		
29	20		32	85	5	.2500		5.0000		
30	20		32	88	5	4000		8.0000		
81	20		33	82	5	.1000	:	2.0000		
32	20		33	85	5	.2500		5.0000		
L			••		-					Ý
				確定	キャン	211		đ	酸計	貿

- (1) 遊星歯車の個数は、1~6です.
- (2) 歯数は、直接入力する方式と、速比から計算した歯数一覧 (図 49.5) から選択する方式があります.図 49.5 では、等分 位相で速比誤差を 10% として計算した例を示しています.
- (3) 中心距離基準, モジュール基準, そして中心距離, モジュー ルを無関係に設定することができます.

- (4) 転位係数の計算は、モジュールと中心距離からバックラッシ が0になるように計算します.
- (5) 法線歯厚減少量の入力値は、デフォルト値として JIS バック ラッシ標準中間値の 1/2 を表示します.
- (6) 歯先円直径はプロパティで設定した基準ラックの歯たけと転 位係数から標準値を計算しますが変更は可能です.
- (7) 外歯車の歯元部の形状は、基準ラックによる創成運動によっ て生成する歯形です.内歯車の歯元は、入力R接続です.
- (8) 歯車の歯先は R で作成することができます.
- (9) 転位係数は、1種を変更すると残りの転位係数が連動して変化しますが、転位係数
 を転位係数 □のように
 を外すことで歯車それぞれ任意に転位係数を入力することができます。
- (10) 歯車諸元画面(図49.4) 右下にある 転位変化 では転位の 変化に伴う「かみ合い率」,「すべり率」,「歯形」,「TIF 径」, そして「効率」を図49.6のように表示します.例えば、効率 を基準として転位係数を決定する場合は、図49.6(e)の効率グ ラフを指針として転位係数を決定することができます.そし て、図49.6(e)の画面のスライドバーを移動し、適正値を確 定することにより転位係数を図49.4の歯車諸元に移行するこ とができます.



(e) 効率
 (f) 数値の適用
 図 49.6 転位変化に伴う各値

49.5 歯車寸法

歯車諸元 (図 49.4) 確定後,各種計算結果を図 49.7~49.10 に示 します. この画面で,寸法,歯厚,干渉の有無,効率,バックラ ッシなどの確認をすることができます.

🝘 歯車寸法結果					
寸法 歯厚 かみ合	い日親	步,劾萍	z		
項目	記号	単位	Sun	Planet	Ring
正面圧力角	αt	des		21.88023	
基礎円筒ねじれ角	βb	deg		23.39896	
正面法線ビッチ	Pbt	mm		4.0208	
歯直角法線ビッチ	Pbn	mm		3.6902	
リード	PZ	mm	185.8410	297.3457	761.9483
最小有効直径(TIF)	dt	mm	25.6932	41.6522	111.5254
最大有効直径	dh	mm	29.3820	45.6150	116.3505
歯末のたけ	ha	mm	1.0016	0.8526	0.9174
歯元のたけ	hf	mm	1.8109	1.9599	1.8951
全歯たけ	h	mm	2.8125	2.8125	2.8125
転位量	×m	mm	-0.2484	-0.3974	0.3326
歯切り転位係数	xnc		-0.2513	-0.3764	0.3421
pr					

図 49.7 寸法

				- • ×
い一干渉	6,効率	ž		
記号	単位	Sun	Planet	Ring
sn	mm	1.7348	1.6210	1.6522
st	mm	1.9141	1.7886	1.8230
ZM		3 📫	5 🌲	13 🌲
W	mm	9.5186	17.0749	48.2534
W'	mm	9.4736	17.0249	48.3184
dp	mm	2.0800	2.0710	2.0940
dm	mm	29.8507	46.0705	110.9395
dm'	mm	29.7226	45.9198	111.1292
hj	mm	1.0253	0.8656	0.9142
Sj	mm	1.7818	1.6739	1.7214
Sj'	mm	1.7341	1.6208	1.6451
	い 干渉 sn st zm W W dp dm dm 内 Sj	武	記事 日本 1	秋山 平渉, 均平 記 単位 Sun Planet sn mm 1.7348 1.6210 st mm 1.9141 1.7886 zm 3 2 5 W mm 9.1786 17.0743 W' mm 9.4736 17.0249 dp mm 2.08000 2.0710 dm mm 29.7226 45.9138 hj mm 1.0253 0.08656 sj mm 1.7818 1.6239 sj' mm 1.7818 1.6239

図 49.8 歯厚

寸法 歯厚 かみ合	い干シ	步,効率]			
項目	記号	単位	Sun	Pla	net	Ring
正面かみ合い圧力角	awt	deg	18.0	88674		24.52648
かみ合い円筒ねじれ角	βw	des	24.	57652		25.43734
かみ合いビッチ円直径	dw	mm	27.0540	43.2864	45.0178	115.3582
有効歯幅	Ьw	mm	15.0	0000		15.0000
かみ合い長さ	ga	mm	5.0	8696		5.7764
近寄りかみ合い率	εα1		0.3	7550		1.2630
遠のきかみ合い率	ε α2		0.7048		0.1736	
正面かみ合い率	εα		1.4598		1.4366	
重なりかみ合い率	εβ		1.0	6143		1.6143
全かみ合い率	εγ		3.0	0741		3.0509
すべり率(歯先側)	σa		0.6385	0.7860	0.0424	0.4206
すべり率(歯元側)	σf		-3.6739	-1.7659	-0.7260	-0.0443
正面法線方向バックラッシ	jnt	mm	0.	1035		0.1253
バックラッシ角度	jθ	deg	0.46338	0.28961	0.3505	9 0.13682
入力軸総パックラッシ角度	Σjθ	deg		1.024	132 (Sun)	
最大接触直径	dja	mm	29.3820	45.6150	45.6150	115.9446
最小接触直径	djf	mm	25.7379	41.7972	41.8348	111.5254
		項目 記号 正面かみ合い圧力角 αwt かみ合いビッチ円直径 dw 本の合いビッチ円直径 dw 本の合いビッチ円直径 dw かみ合いビッチ円直径 dw かみ合いビッチ円直径 dw かみ合いビッチ円直径 dw かみ合いしビッチ円直径 dw かみ合い長さ sa 近のきかみ合い車 ε α1 遠のきかみ合い車 ε α2 重なりかみ合い車 ε β 全かみるしい車 ε β 全かみるしい車 ε β オペリ車(協売用) σa オペリ車(協売用) σa オペリ車(協売用) σf 丁ーに間法線方向バックラック度 j β 人力軸線バックラック度 j j θ 最大接触直径 dja 最小接触直径 djf	項目 記号 単位 正面かみ合い圧力剤 αvt des かみ合い口肉丸口丸角 Avt des かみ合い口肉丸口丸角 Avt des かみ合いにつって四道径 dv mm 力み合い見る sa mm 方み合い見る sa mm 方み合い見る sa mm 近るりわみ合い車 ε α2 重なりかみ合い車 ε α2 重なりかみ合い車 ε α すべり車(協元側) σf すべり車(協元側) σf 正面お参方のかっう」 jnt mm パッカッカの度 j1 θ des 大力軸総パッカッカの度 j1 θ des 人力軸総パッカッカの度 j1 θ des 最小接触道径 dj4 mm	項目 記号 単位 Sun 正面かみ合い圧力角 αvt deg 18. かみ合い円約2000 タvt deg 18. かみ合いビッチ円道径 dw mm 27.0540 有力助価 bw mm 15. かみ合いビッチ円道径 dw mm 15. かみ合いビッチ円道径 am mm 15. かみ合いビッチ円道径 am mm 15. かみ合いビッチ円道径 am mm 5. 近のきりかみ合い車 ε α2 0. 遠のきりかみ合い車 ε α2 1. 重なりかみ合い車 ε α 1. 重なりかろい車 ε α 0. すべり車(歯无削) σf 3.835 すべり車(歯无削) j de 0.46385 正面お参方向かうかうの j de 0.46383 万軸総約10%かうの j de 0.46383 人力軸総約10%かうの j de 4.33820 最大損触道径 dja mm	項目 記号 単位 Sun Pla 正面かみ合い圧力角 ペwt deg 18.88874 かみ合いビッチ円直径 dw mag 24.57852 かみ合いビッチ円直径 dw mag 27.0540 43.2864 有効通常 bw mag 27.0540 43.2864 有効通常 bw mag 15.0000 43.2864 有効通常 bw mag 5.8696 1000 かみ合いビッチ円直径 ca mag 5.8696 1000 かみ合い長さ、 ca mag 5.8696 1000 かみ合い長くは厚 ca 0.7550 運動のきかみ合い厚本 ca 0.7048 正面かみ合い厚本 ca 1.6143 全のか会い理本 ca 1.6143 さハウション ca 1.6143 さハウション ca 1.6143 さハウション ca 1.624 すべり車に信先側) of -3.6738 1.7869 <td>項目 記号 単位 Sun Planet 正面かみ合い圧力角 αvt deg 18.88674 かみ合い圧力角 αvt deg 18.88674 かみ合い圧力角 βv deg 24.57652 かみ合いビッチ門道径 dw mm 27.0540 43.2864 45.0178 有力協力協協 bv mm 27.0540 43.2864 45.0178 有力協力協協 bv mm 27.0540 43.2864 45.0178 有力協力協協 bv mm 5.8686 方のさかみ合い厚さ ϵ α 0.7550 正面かみ合い厚 ϵ α 1.4558 重なりかみ合い厚 ϵ α 1.6143 すべり厚(協元側) σ 3.0741 すべり厚(協元側) σ 3.6785 -0.7280 0.0424 正面がみ合い「「 -3.6739 -1.7653 -0.72</td>	項目 記号 単位 Sun Planet 正面かみ合い圧力角 α vt deg 18.88674 かみ合い圧力角 α vt deg 18.88674 かみ合い圧力角 β v deg 24.57652 かみ合いビッチ門道径 dw mm 27.0540 43.2864 45.0178 有力協力協協 b v mm 27.0540 43.2864 45.0178 有力協力協協 b v mm 27.0540 43.2864 45.0178 有力協力協協 b v mm 5.8686 方のさかみ合い厚さ ϵ α 0.7550 正面かみ合い厚 ϵ α 1.4558 重なりかみ合い厚 ϵ α 1.6143 すべり厚(協元側) σ 3.0741 すべり厚(協元側) σ 3.6785 -0.7280 0.0424 正面がみ合い「「 -3.6739 -1.7653 -0.72

図 49.9 寸法 (かみ合い)

🝘 歯車寸法結果			
寸法 歯厚 かみ合	い 干渉, 効率	E .	
効率			
0.98552			
Ring gear 干渉			
項目	Ring		
インボリュート干渉	発生しない	1	
トロコイド干渉	発生しない	1	
トリミング	発生しない	1	
歯先干渉	発生しない	1	
回転比			
Sun	Planet	Ring	Carrier
1.0000	-0.3064	0.0000	0.1961
1			

図 49.10 効率, 干渉

49.6 かみ合い図

歯車のかみ合いを図49.11および図49.12のように2次元図で表示します.操作画面によって、補助円や共通法線を表示することができますので歯面の接触位置の確認が容易です.歯車の回転角度を変え、拡大表示することができます.



49.7 レンダリング

歯車3Dのかみ合いを図49.13のように表示することができX,Y, Z 方向に回転させることができます.



49.8 歯形データファイル出力

生成した3種類歯車の歯形はファイル出力することができます. 図 49.14 に CAD 作図例を示します.



図 49.14 歯形データ出力と CAD 作図例

49.9 歯面修整

歯面修整は、太陽歯車、遊星歯車、内歯車それぞれに施すこと ができます. 修整の種類は、歯形修整、歯すじ修整、歯面修整の 3 種類ですが、実測した歯面データ(図 49.18)を読み込む機能が あり、図 49.19 で図 49.15 にデータを移行します.

本例では、図 49.15~49.17 のように遊星歯車に歯すじ修整のみ 与えた例を示します.



図 49.15 歯すじ修整の例(遊星歯車)





図 49.17 歯すじ修整の設定2





図 49.19 歯面修整実測データの読み込み

49.10 歯面応力解析設定

歯面応力解析は、CT-FEM Operaiii(ソフトウェア[45]参照)の 歯面膜要素を用いた解析機能を採用していますので図 49.20 のよ うに、まず、端部解析の有効、無効を設定します.端部解析は、 トロコイド干渉などの端部を解析する場合に使用します.次に、 歯幅中央位置、トルク、ヤング率、ポアソン比、ピッチ偏差を設 定し、図 49.21 で、かみ合い範囲角度と、食い違い誤差および並 行度誤差を設定します.歯面応力解析結果を図 49.22~49.25 に示 します.



図 49.20 歯面応力解析設定

🝘 歯面応力解析条件	+設定								
開始,終了角度(θs,θe)設定									
15	シチ角	度	最大接触角度						
解析角度項目	記号	単位	Sun × Planet	Planet × Ring					
開始角度	θs	deg	-13.809	-11.206					
終了角度	θe	deg	13.071	8.909					
角度分割数	*割数 N		45	45					
誤差項目	記号	単位	Sun × Planet	Planet × Ring					
食い違い誤差	φ1	deg	0.000	0.000					
平行度誤差	φ2	deg	0.000	0.000					
		確定	キャンセル	クリア					

図 49.21 歯面応力解析条件設定



図 49.22 歯面応力(太陽歯車×遊星歯車)



図 49.23 歯面応力 (遊星歯車×内歯車)



図 49.25 遊星の歯面応力(遊星歯車×内歯車)

49.11 伝達誤差解析結果

伝達誤差解析結果を図 49.26 に示します.





(b) sun × planet, FFT





図 49.26 伝達誤差解析結果

49.12 遊星歯車機構のかみ合い解析

かみ合い解析条件を図 49.27 のように設定します. ここでは, 軸の偏心量,軸の倒れ量,位相,位置角度誤差,入力軸の回転方 向、そして、ここでは解析時の1ピッチ分割数を設定しています. また、遊星歯車構の座標系を図 49.31 に示します.







(z軸方向が歯車軸方向に対応) 図 49.28 遊星歯車機構の座標系(1)





※利益方向方 〇 YMI方向方 〇 ZMI方向方 動力向力時報告約6 熱方向刀式設計分析 動用りモーメント時期後形 動用りモーメント次絶

201 801 401 500 800 700

Mis = 2.22E-18, Mer = 1.70E-11, Mie = 1.70E-01

Dis = 1.17542, Dir = 4.005401, Dis = 8.66540

(b) 次数比分析

(b)次数比分析

1.2164

8.0004

문 같 1.11E412

े के 1.1(E+1) के 2.1(E+1)

0.11E+10

図 49.29 遊星歯車機構の伝達誤差



(a) X 軸方向の力の時間波形



(c) X 軸周りモーメント時間波形 (d) 次数比分析 図 49.30 各要素に作用する X 軸方向の力とモーメント

解析結果は、遊星歯車機構の伝達誤差および サンギヤs、キャ リア c, リングギヤ r に作用する X, Y, Z 軸方向の力と各軸回り のモーメントを図 49.29 ~49.31 のように時間波形と次数比分析 のスペクトルで表示します(Y軸方向力の表示は省略).



(c) Z 軸周りモーメントの時間波形 (d) 次数比分析 図 49.31 各要素に作用する Z 軸方向の力とモーメント

これらの解析値(時間波形および次数比分析)は、図 49.32 の ように csv ファイルとして出力することができます.

E	। ५ ∙∂	- v		t	H* SERCENC	sv - Exp	el 上田昭和	ŧ 🗆 S	-	E	×
	£05 ≉−∆	10X (<	1-1791 B	83C 7-9	総盟 表示		へよプ ACROB	AT 7-4			
ניש ניש	10 10 - 10 10 10 - 10 10 10 - 10 10 10 - 10 10	第3日oウ B I U 田 - 〇 フォ	→ 11 - A* A* - <u>A</u> - Z >h	· · · ·	= 89 = 11 • - 89 •	% 황주 고	局条件付き書 デーブルとし、 デセルのスタイン スタイン	式。 (雪式設定。 ル。 ル	tr Er	р жя	~
K1	2 -	1 ×	~ \$e								٣
4	A	в	с	D	E	F	G	н	1.1.1	1	
ι	0	-111.527	19.84296	91.68438	0						
2	0.216998	-103.451	17.90759	85.54331	0						
3	0.433996	-55.866	27.697	28.16904	0						
1	0.650995	-44.1253	26.91963	17.20565	0						
5	0.867993	-58.824	39.56172	19.26231	0						
5	1.084991	-45.6154	34.09501	11.52043	0						
7	1.301989	-56.6559	38,71243	17.95345	0						
3	1.518987	-36.7828	33.88867	2.89413	0						
)	1.735986	-43.9411	39.62298	4.31808	0						
0	1.952984	118.002	-113.351	-4.65133	0						
1	2.169982	114.2337	-86.2725	-27.9611	0						
2	2.38698	135.1199	-71.9934	-63.1266	0						
2	1 602029	194 9307	43.704	ON AATT	n		1.07			-	
		79-4118-385C	<u>5v</u> (
							# 0	린 -		+ 10	0%
	_	-		A							

図 49.32 解析結果のデータ出力例

49.13 HELP 機能

操作方法を知りたい場合は、図 49.33 の[HELP]機能を使用する ことができます.



49.14 遊星歯車機構の起振力解析例

遊星歯車機構の歯数の組み合わせの違いによる起振力解析例を 図 49.34~49.40 に示します. 解析例 1 のかみ合い位相は, 同位相 であり解析例2は、等分位相です.なお、かみ合い解析条件設定 は、図49.27と同じとしています.

(1) 解析例1





図 49.35 歯面応力解析設定(解析例 1,2 共通)



(a) X 軸周りモーメント時間波形 図 49.36 各要素に作用する X 軸方向の力とモーメント



(a) Z 軸周りモーメント時間波形 (b) 次数比分析 図 49.37 各要素に作用する Z 軸方向の力とモーメント

(2) 解析例 2

🝘 歯車諸元					- • •		
種類			プラネタリー	-型(減速)			
項目	記号	単位	Sun	Planet	Ring		
入出力			入力	出力	固定		
設計速比(減速)	io			5.0000			
歯車の個数	N		1	8	1		
歯 数	z		20	31	82		
位相タイプ				等分位相			
実速比(減速)	i			5.10000			
速比誤差	Δi	%		2.0000			
圧力角	αn	deg		20.00000	*		
ねじれ角	β	deg	0 *	0,	0.00 ″		
ねじれ方向			*8*8* ~	3063063	******		
入力基準			モジュール				
モジュール	mn	nm	1.25000				
中心距離	a	nm	31.87500				
転位係数 🗌	xn		0.00000	0.00000	0.00000		
法線歯厚減少量	fn	nm	0.0430	0.0480	0.0620		
基準円直径	d	nm	0.00000	0.00000	0.00000		
基礎円直径	db	nm	0.00000	0.00000	0.00000		
歯先円直径	da	nm	27.50000	41.25000	100.00000		
歯底円直径	df	nm	21.87500	35.62500	105.62500		
クリアランス	ck	nm	0.00000	0.00000 0.00	0.0000 0.00000		
齿先R	ra	nm	0.20000	0.20000	0.20000		
歯元R	rf	nm	0.46875	0.46875	0.46875		
齿幅	Ь	nm	15.00000	15.00000	15.00000		
測定ビン径	dp	nm	2.1560	2.1310	2.0750		
		曜	定 キャンセル	· 59	7 転位変化		

図 49.38 歯車諸元 (解析例 2)



(a) X 軸周りモーメント時間波形

1 . 1 . 1 No * 1.02 11, No * 1.20 11, No * 0.20 01

RIMARA O'MEREN O'MEREN MEUR-SCESSELSE

() and (

* 187.57

We king and

(b) 次数比分析

図 49.39 各要素に作用する X 軸方向の力とモーメント



(a) Z 軸周りモーメント時間波形 (b) 次数比分析 図 49.40 各要素に作用する Z 軸方向の力とモーメント

X 軸周りのモーメント(倒れ方向起振力)は、図 49.36 と図 49.39 の比較から等分位相の方が大きくなっています.一方,Z軸周り のモーメント(回転方向起振力)は、図 49.37 と図 49.40 の比較か ら同位相の方が大きくなっています.また、同位相の遊星歯車で は、図 49.36 と図 49.37 の比較から、どちらもかみ合い次数 z=81 次とその高調成分でピークとなります.等分位相の遊星歯車では, 図 49.39 と図 49.40 の比較から、Z 軸回りのモーメントはかみ合い 次数 z=82 とその高調成分でピークを示しますが、X 軸周りのモー メントでは、z=83 でピークを示しています. すなわち、この解析 ソフトウェアは、遊星歯車特有のサイドバンド現象も解析するこ とができます. ここでは、各軸回りのモーメントしか示していま せんが、各軸方向の力に付いても同様の結果は得られます.

参考文献

(1) 森川他, 遊星歯車のサイドバンド現象, 機論, Vol.80, No.815 (2014)

[101] その他ソフトウェアの作図例

図 101.1~101.13 のソフトウェアは本カタログでは詳しく説明 していませんので別途お問い合わせください.



図 101.1 スプロケット





図 101.2 サイクロイド歯車



図 101.3 三角セレーション







(a)レンダリング(b)歯当たり図 101.5 ダブルスパイラルベベル(Soft No.[2]に一部記載)







図 101.8 ウォーム砥石



図 101.10 切り上げ距離





図 101.11 成形研削砥石



発熱・熱伝導解析ソフト(定常・非定常解析) 図 101.12 プラスチック歯車の温度分布図



図 101.13 ピン歯車



(a) Cup type z₁=100, z₂=102
 (b) Ring type, z₁=z₃=200, z₂=204
 図 101.14 波動歯車の設計例

[102] 歯車精度規格ソフトウェア

1998年3月20日にJIS B 1702-1,2(1998)が制定されことにより, JIS B 1702(1976)は廃止となりました.

永年に渡って親しんできた規格を,急激に新しい規格基準に変 更することは色々な障害を伴うことになりますが,いつまでも旧 規格を使用し続けることはできません.設計者や製造担当者が困 ることは,旧規格と新規格の相関関係であると予想することがで きるため,「歯車精度規格ソフトウェア」(図 102.1)を作成し無償 配布することと致しました.旧規格から新規格に移行する際の手 助けになれば幸いです.このソフトウェアは,弊社のホームペー ジ(www.amtecinc.co.jp)からダウンロードすることができますので ご活用ください.



図 102.1 歯車精度規格

[103]動作環境

103.1 必要システム

	表 103.1 動作環境					
\sim	ソフトウェア番号 A	ソフトウェア番号 B				
	[1], [2], [3], [4], [7], [8], [9] ,[13],[14], [20],	[5], [6],[10]~[12], [15]~[19], [21]				
	[22],[31], [42]~[47]	[23]~[30], [32]~[41]				
①コンピュータ本体	1.6 GHz 以上	1 GHz 以上				
②オペレーティングシステム	Windows [®] 7, Windows [®] 8, Windows [®] 8.1, Windows [®] 10					
③CD-ROM ドライブ						
④ディスプレイ	Windows [®] 対応の解像度 1024×768 以上のディスプレイ					
⑤実装メモリ	2GB 以上	1GB 以上				
@	4GB 以上の空き領域	100以上の広ち伝体				
6//-F/1×/	5400rpm 以上のハードディスク	IGB以上の空き領域				
⑦マウスなど	Windows [®] 対応のマウスまたは他の適切なポインティングデバイスが必要					
⑧プリンタ	Windows [®] 対応のプリンタが必要					
	DirectX [®] 10 以上に対応した	Open GL Ver.1.5 以上に対応した				
	ビデオボードが必要	ビデオボードが必要				

* Windows[®]7, Windows[®]8, Windows[®]8.1, Windows[®]10は,米国 Microsoft 社の登録商標です.

* DXFファイルのバージョンは, Release 12J です.

103.2 ネットワークでの使用について

歯車ソフトウェアをネットワーク上で複数台使用する場合(フローティングライセンス),ソフトウェア番号 B(表 103.1)では 別途対応させていただきますのでお問い合わせ(info@amtecinc.co.jp)ください.なお,ソフトウェア番号 A は現在のところフロ ーティングライセンスには対応しておりません.

◆フローティングライセンスは、同一セグメント域での使用とさせていただきます.

さいごに

日々、歯車に関連したソフトウェアを開発し、種々取り揃えておりますが、更に充実したソフトウェアを開発する所存です.また、カタログに掲載していないソフトウェアもございます.お気づきの点やご意見、ご希望などがございましたら下記までご連絡 くださいますようお願い申し上げます.

> E-mail : info@amtecinc.co.jp URL : www.amtecinc.co.jp

[104] 機械の紹介 104.1 歯車成形研削盤



最大直径=300mm ⊠ 104.1 GT-30 ver II (YASDA)



最大直径=1300mm 図 104.2 GT-130 (YASDA, 外歯, 内歯)





図 104.4 レンダリング(研削)

研削線

	表 104.1	成形研削システム
--	---------	----------

インボリュート歯車成形研削システム	GT-30	GT-130
インボリュート歯車の歯面3次元修整	0	0
任意歯形歯車の成形研削システム	0	0
インボリュートねじ歯車成形研削	0	×
ウォームのねじ面の成形研削	0	×
内歯車の成形研削	×	0

安田工業㈱ www.yasda.co.jp 〒719-0303 岡山県浅口郡里庄町浜中 1160 TEL 0865-64-2511 FAX 0865-64-4535

104.2 歯車成形研削盤 (GT30) による研削例

図 104.1 に示す歯車成形研削盤で、はすば歯車(mn=3, z=20, a=20, β=30, xn=0.5, b=25) に歯面修整(図 104.5:最大修整量=100μm) を持つ歯車を研削した、この歯車の写真を図 104.6 に示す、この 歯車の歯面は1パスで研削されていて歯元はトロコイコイド形状 である. また, 歯面粗さは Ra0.15~0.20µm, Rz0.89~1.55µm で歯 車精度は JIS B 1702-1 N1 級(累積ピッチ誤差: 2.5um) である. 検査表を図 104.7~104.9 に示す. このように研削できるのは機械 の性能は元より成形研削するためのソフトウェア、そしてこの精 度に作り上げる歯車研削作業者の技量が必要であることは言うま でもない. なお,図 104.9 からも解るようにピッチ誤差を検査し て悪い歯面のみ再研削するようなことはしていない.

累積ピッチ誤差がこのような高精度(2.5μm)で研削でき、歯 元がトロコイド形状で、しかも大きな 3D 歯面修整が1パスで研 削できる研削盤は国内外の研削盤について調査したが、図 104.1 および図 104.2 の研削盤が唯一の機械であった.





図 104.5 歯面修整

図 104.6 研削歯車





図 104.9 検査結果 (ピッチ誤差, 左歯面)

AMTEC www.amtecinc.co.jp

[付録: A] CT-FEM System によるはすば歯車の歯元応力解析例

A1. はじめに

機論(C編)52巻479号¹⁾「はすば歯車の実用歯元曲げ応力計算 式」の1983頁,図8の各種曲げ強度計算式による歯元応力と実験 結果を比較したグラフに興味を持ちCT-FEM System²⁾で解析した. その結果,実験値と極めて近い解析結果を得たのでここに報告す る.

A2. 概要

図 A.1 に示すように ISO・DIN, BS, AGMA の強度計算と実験 結果は、ほぼ同等の値となっている.しかし注目すべき点は、強 度計算結果では、ねじれ角が増加するにつれ応力値が小さくなっ ているが実験結果では、ねじれ角が増加するとともに応力値が大 きくなり強度計算と逆の結果となっている.

理論歯形による「FEM-1」の解析結果は JSME とほぼ同等となったが,他の強度計算結果や実験値よりも4割程度小さい.しかし歯車の誤差を考慮した「FEM-2」の解析結果は,実験値とほぼ同じ応力値となり更にねじれ角による傾向も実験と同じ結果となった.



A3. 歯車諸元

原文³には、「歯元応力の測定に使用した歯車の諸元は表A.1 で あり、歯車材料は SNC415,浸炭焼入れ後研削したもので精度は (旧)JIS1 級であり、静的負荷かみ合い試験機を用いて円周力 P=9.8kN のもとで、はすば歯車の負荷かみ合い時の歯元応力をひ ずみゲージを用いて測定した.」とある.

「FEM-1」では理論歯形で解析を行い、「FEM-2」では図 A.2, 図 A.3 に示す試験歯車の歯形誤差および歯すじ誤差⁴⁾を 3 種類の 歯車に適応させた.また,ピッチ誤差の検査表が無いため(旧)JIS1 級の誤差許容値である 10µm として解析した.更に,かみ合い位 置は図 A.4 に示す通りである.

表 A.1 歯元応力測定に用いた歯車の諸元

Gear sign	Mark	Unit	G.A	G.B	G.C
Tooth profile			Standard	Standard	Standard
Normal module	mn	mm	6	6	6
Normal pressure angle	αn	deg	20	20	20
Helix angle	β	deg	10(R · L)	20(R · L)	30(R + L)
Number of teeth	z		36	36	36
Pitch circle diameter	d	mm	219.33	229.86	249.42
Face width	b	mm	40	40	40
Transverse contact ratio	εα		1.63	1.53	1.37
Overlap ratio	βß		0.37	0.73	1.06



A4. FEM-1 の解析結果

「FEM-1」は、理論歯形の解析である.図A.5~A.7は設定画面 であり、図A.8と図A.9に、ねじれ角10°の解析結果を、図A.10 と図A.11にねじれ角30°の解析結果を示す.ねじれ角20°は省略 する.



図 A.9 歯元最大引張応力(77.9MPa, β=10°)

●分布の最大と最小値の変更 最小値/最大値

AMTEC www.amtecinc.co.jp



図 A.10 歯面応力(449.8MPa, β=30°)



図 A.11 歯元最大引張応力(60.8MPa, β=30°)

A5. FEM-2の解析結果

「FEM-2」は、歯車の誤差を考慮した解析である. 歯形誤差と 歯すじ誤差は、図 A.2 および図 A.3 を読み取りピニオンとギヤの 誤差を図 A.12 および図 A.13 のように設定した.



図 A.12 ピニオン歯形(反作用面は理論歯形)



図 A.13 ギヤ歯形(反作用面は理論歯形)

A5.1 ねじれ角10°の解析結果

ねじれ角 10°の解析結果を図 A.14~A.18 に示す.

44 64 67 1 10 12		
🔒 諸元入力 (1/4)		
項目 記号 単	立 ピニオン ギヤ	A メッシュ作成 (2/4)
モジュール mn m	n 6.00000	
室 型	- 36 36	
aun de aun de	s 10 0 0 0 "	
ねじれ方向	右ねじれ 左ねじれ	項目 記号単位 ビエヤシ ギ ヤ (判函部の固定 リム直径 dn nn 174.3321 174.3321
■ 転位係数 ×n	- 0.00000 0.00000	歯元分割構度 ♂1 µn 45.00 45.00 ● 拘束なし
中心距離 a m	n 219.88215	面田分割桶度 82 μm 30.00 30.00 ○和果 面先円分割桶度 83 μm 60.00 60.00
法線歯厚減少量 fn m	n 0.2000 0.2000	リム径分割数 NB 8 5 底面部の固定
曲 'ha b mi 责先円直径 da mi	n 40.0000 40.0000 n 231.3321 231.3321	
歯底円直径 df m	n 204.3321 204.3321	ポアソン比 レ 0.3000 0.3000
曜元 元	IC戻す _ 勿7	(外,内面点) 20分割 30分割 (外,内面点) 20分割 30分割 確定 元に戻す 707
図 A.14	諸元設定	図 A.15 メッシュ
	回転角度・トルク設定(0/4)	
	項目 記号 単	単位 ビニオン 確定
	 C _4/ 回報の度 01 0 C _1/2 回報の度 01 0 	les 0.1128 グラフ
	ピロカートルク Trq N+m	▼ 1074.70 参考
	正面法線方向力 Ft	N 10447.6223
	H	
	図 A.16	かみ合い
🔐 膜要素荷重分布		
		X箱回販用 117 ▲ ▶ (単位:HPa)
		Yet⊡ezA 30 ► 803.691
		2韓移動量 5000 ▲ ▲
		食い込み方 0.000 ▲ → 397.853
		平行度誤差角 0.000 ・ ・
		点滅表示
		Wire Frame BackColori G Pinine G Origina
		we name lowercosti la Linion la dear
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		 ●分布の最大と最小値の変更
	図 A.17 歯面応	5力(803.7MPa)
🔐 ギヤ応力分布図(S1)		
	1 1000	
	15 March	×前回転用 -37 () (単位:HPs)
		乙輪移動量 7400 ◀ ▶
		Wire Frame [BackColor]
		点滅表示 「東先 C 節点 33.940
		東茶番号 点滅
		応刀分布国の応刀

図 A.18 歯元最大引張応力(96.2MPa)

A5.2 ねじれ角 20°の解析結果

ねじれ角 20°の解析結果を図 A.19~A.23 に示す.

🔒 諸元入力 (1	/4)										
項目	記号	単位	ピニオン	ギヤ	A 273	1作成 (2)	4)				
モジュール	mn	mm	6	.00000				-	A A		
歯 数	Z		36	36		I 🚍		2			
圧力角	an	deg	20	.0000				¥			1 🚟 -
ねじれ角	β	deg	20 0	0 "		18 8	127	10410	P*****	31.41	
ねじれ方向			右ねじれ	左ねじれ	- U	山直径	dn	m	184.8624	184.8624	側面部の固定
転位係数	xn		0.00000	0.00000	歯疗	分割猪度	81	μn	45.00	45.00	 預束なし
中心距離	a	mm	228	.86240	100 	の割積度	82	μn	30.00	30.00	〇拘束
法線歯厚減少量	fn	mm	0.2000	0.2000	01	泽分割融	NB		60.00	5	康泰部の国家
齿幅	Ь	mm	40.0000	40.0000	2)次	七起節点数			200	200	() 約束なし、
歯先円直径	da	mm	241.8624	241.8624	1	アング牢	E	MPa	205940	205940	 海東
歯底円直径	df	mm	214.8624	214.8624	*	アソン比	v		0.3000	0.3000	[
(曜定	元に	実す りリア	,	外,内部	点 <u>20分割</u>	30分響		 内部点 205 に戻す 例1 	305981 	J
义	A.1	9	諸元設定	É		义	Α.	20	メッ	バシュ	

AMTEC www.amtecinc.co.jp

□ 色分布の最大と最小値の変更 最小値/最大値





図 A.23 歯元最大引張応力(100.1MPa)

A5.3 ねじれ角 30°の解析結果

ねじれ角 30°の解析結果を図 A.24~A.28 に示す.





図 A.27 歯面応力(799.9MPa)



図 A.28 歯元最大引張応力(105.1MPa)

A6. まとめ

- (1) 誤差を考慮した「FEM-2」の解析結果と実験値は、ほぼ同 じ応力値であり、更に、ねじれ角と応力値の傾向も同じ結 果となった.
- (2) 理論歯形に歯形誤差とピッチ誤差を与えると、ねじれ角 30°の歯車では歯元応力は1.7倍にもなる.
- (3) 図 A.27 の β=30°では歯形・歯すじ誤差の影響により二段当り が顕著に現れていることが解る.

A7. その他

歯面修整を与え、更に軸角誤差を与えた場合の歯面応力も数% の誤差で解析することができた.(別報告)

参考文献など

- 小田,小出,機論(C編)52巻479号(昭61-7),はすば歯車の 実用歯元曲げ応力計算式
- 2) **CT-FEM System Ver.3.0**, アムテック, 歯車応力解析ソフトウ ェア
- 3) 小田, 島富, 機論(C編)621.833.2/.6, 827 ページ
- 4) 小田, 島富, 機論(C編)621.833.2/.6, 827 ページ, 図3

[付録:B]

Gear Navigation System によるホーニングシミュレー ション

B1. はじめに

ホーニング加工において被削歯車と異なる諸元のドレスギヤや, バイアス修整等の複雑な修整を施したドレスギヤを使用する場合 があるが,正確に歯形が加工されるか否かは実際に加工してから 検査をして判断しているのが現状である.

今回,被削歯車と諸元の異なるドレスギヤを用いたときの歯形 を Gear Navigation System でシミュレーションした結果を報告する.

B2. Gear navigation system の概要

Gear Navigation System は、ホブカッタ、ピニオンカッタ、シェ ービングカッタ、ホーニングの各工具による歯車加工形状解析と、 そのかみ合いのシミュレーションをすることができる.また、デ ータベースによる工具管理機能を有し、条件に見合う工具を共用 計算することにより検索することができる.

歯車加工シミュレーションは、歯面、歯元、歯先、面取り形状 と各数値の計算、特にホーニングでは、歯形修整、歯すじ修整、 歯面修整後の形状を解析しグラフ表示することができる.更に、 かみ合いシミュレーションでは、加工後の歯形をかみ合わせて歯 当たりを観察することができる.図 B.1 に Gear Navigation System の画面を示す.



B.1 Gear Navigation System

B3. 加工手順

被削歯車は、モジュール 2.5、歯数 15、圧力角 20°、ねじれ角 30°のはすば歯車であり、歯車をホブ切削後にホーニング加工を行 ものとした.ホーニング用砥石ドレス用のドレスギヤの歯数を、 被削歯車と同じ 15 枚(ドレスギヤ S)の場合と、歯数を 29 枚(ドレ スギヤ K)とした場合のシミュレーションを行う.

ドレスギヤには S, K ともに同じ歯面修整を与えホーニング砥 石をドレスした後にホーニング加工した.

B4. 歯車とドレスギヤ諸元

被削歯車の歯車諸元を図 B.2 に,ホブ諸元を図 B.3 に示す.加 工時の歯厚は,図 B.4 に示すようにホーニング仕上げ代は,また ぎ歯厚で 0.1mm とし,ドレスギヤ S および K には図 B.7 の歯面 修整を与えている.

🖁 歯車諸元						
歯車の種類		外歯車 💌				
項目	記号	単位	数 値			
モジュール	MIN	mm	2.50000			
歯数	Z		15			
圧力角	an	deg	20.00000 *			
ねじれ角	β	deg	30 * 0 * 0.0 "			
ねじれ方向	·	·	左ねじれ 💌			
転位係数	xn		0.60000			
歯先円直径	da	mm	51.3013			
歯底円直径	df	mm	40.0513			
歯幅	b	mm	10.0000			
基準ビッチ円直径	d	mm	43.3013			
基礎円直径	db	mm	39.9191			
基礎円筒ねじれ角	βb	deg	28 * 1 , 27.6 "			
	曜足	[‡ψ)	til ////			

囖 ホブカッタ語	🛛					
種類	標業	隼	_ □ 転位ホブ			
項目	記号	単位	数 値			
モジュール	MD	mm	2.50000			
圧力角	αn	deg	20.00000			
刃末のたけ	ha	mm	3.1250			
刃元のたけ	hf	mm	3.1250			
刃 厚	S	mm	3.9270			
刃先R	r	mm	0.9375			
すすみ角	γ	deg	5 0 0 0			
ねじれ方向			右ねじれ 💌			
溝数	N		12			
条数	Zw		1			
工具デー炉	管理番号	;				
工具データ備考	工具データ備考(対称品番)					
耀定 キャンセル	· 参考図 刃形図					
- Log -		1	×=+-			

図 B.2 被削歯車諸元

図 B.3 ホブ諸元

🗑 歯車仕上歯厚				X
項目	記号	単位	わごかり [1]	ホーニング カッタ [1]
歯厚入力方式			またぎ歯厚 👻	またぎ歯厚 👤
またぎ歯数	Zm		4	4
またぎ歯厚	W	mm	27.60000	27.50000
測定ビン径	dp	mm	5.0000	5.0000
オーバーセッフ寸法	dm	mm	53.32810	53.12968
歯直角円弧歯厚	Sn	mm	4.96885	4.86244
またぎ歯厚変化量	δ₩	mm		-0.1000
オーバーピン変化量	∂dm	mm		-0.1984

図 B.4 加工歯厚

。 ドレスギヤ諸元 [1] 📃 🗖 🔀					
計算方法	A: NU	·スキミヤー	→砥石→歯車 📃		
項目	記号	単位	数 値		
歯数	Z	·	15		
ねじれ角	β	deg	30 0 0 0.0 "		
ねじれ方向			左ねじれ 💌		
基準ビッチ円直径	d	mm	43.3013		
基礎円直径	db	mm	39.9191		
歯先円直径	da	mm	52.5513		
歯底円直径	df	mm	35.8013		
歯厚入力方式	[またぎ歯厚 💌		
またぎ歯数	Zm		4		
またぎ歯厚	W	mm	27.50000		
測定ビン径	dp	mm	5.0000		
オーバーピン寸法	dm	mm	53.12968		
歯幅	Ь	mm	10.0000		
ドレスリング外径	dD	mm	52.0000		
曜定	- teyte	•	クリア		

図 B.5 ドレスギヤ(S)諸元

ο ドレスギヤ諸元	[1]		
計算方法	A: NI	/スギヤー	→砥石→歯車 🗾 🔽
項目	記号	単位	数 値
歯数	Z		29
ねじれ角	β	deg	30 0 0 0.0 "
ねじれ方向			左ねじれ 💌
基準ビッチ円直径	d	mm	83.7158
基礎円直径	db	mm	77.1768
歯先円直径	da	mm	92.9658
歯底円直径	df	mm	76.2158
歯厚入力方式		[またぎ歯厚 💌
またぎ歯数	Zm		5
またぎ歯厚	W	mm	35.61749
測定ビン径	dp	mm	4.5200
オーバーピン寸法	dm	mm	92.52484
歯幅	Ь	mm	10.0000
ドレスリング外径	dD	mm	92.0000
曜定	物池	∥ [クリア 🔽 修整

図 B.6 ドレスギヤ(K)諸元



図 B.7 ドレスギヤの歯面修整とトポグラフ

B5. ホーニング砥石諸元

ホーニング砥石の諸元は 79 歯の1 種類のみであるがドレスギ ヤが2 種類あるためドレスギヤの軸間距離に違いがある. 砥石の 諸元とドレスギヤ(S, K)とホーニング砥石をかみ合わせた場合の 数値表を図 B.8 および図 B.9 に示す. なお, 図 B.8 および図 B.9 の軸間距離(ドレスギヤ)は, ねじ歯車のかみ合いを基準に計算し た値を採用している.



B6. ホーニング加工後の歯形(修整量)

ホーニング加工後の被削歯車の歯形グラフを図 B.10~B.17 に 示す.歯形グラフは、トポグラフの全階層の表示が可能であるが、 今回の評価では1,3,5 階層の歯形誤差を比較した.

ドレスギヤ(S)(K)に同じ修整量を与えてもドレスギヤの歯数に よりホーニング後の歯形修整量に差が発生することが解る.表 B.1 は被削歯車と同じ諸元を持つドレスギヤを使用してホーニン グ加工した結果であり、この場合は、ホーニング加工後の歯形と ドレスギヤ(S)の修整量はほぼ一致している.しかし、ドレスギヤ (K)では、表 B.2 に示すようにドレスギヤ修整量の 80%程度が被 削歯車の修整量となる.

表 B.1 歯形修整量の比較(µm)

	ドレス	ギヤ(S)	ホーニン	グ後の歯形
	左面	右面	左面	右面
端面 1	18	33	20.0	32.1
端面 3	16	16	16.6	16.6
端面 5	33	18	32.1	20.0

表 B.2 歯形修整量の比較(µm)

$\overline{}$	ドレス	ギヤ(K)	ホーニン	グ後の歯形
	左面	右面	左面	右面
端面1	18	33	15.4	26.0
端面 3	16	16	13.3	13.3
端面 5	33	18	26.0	15.4







B7. 歯形シミュレーション

ホブ加工~ホーニング加工までの歯形シミュレーションを図 B.18~B.27 に示す. 図 B.28 および図 B.29 は,ホーニング代を 1µm としたときの歯形レンダリングであり,接触線が顕著に現れてい る.







図 B.21 歯形軌跡 1

図 B.20 ホブ創成図 2 歯元付近の拡大



② 正面別成図 ホーニング 切々 [1] ■□×

図 B.23 砥石創成図 1

図 B.22 歯形軌跡 2 歯元付近の拡大



図 B.24 砥石創成図 2 歯元付近の拡大



図 B.25 歯形レンダリング



ホブ加工した歯車と砥石のかみ合い ホーニング:片面 0.05mm 図 B.26 歯形レンダリング1 図 B.27 歯形レンダリング2





ホーニング代 : 片面 1µm 図 B.28 歯形レンダリング3 図 B.29 歯形レンダリング4

B8. まとめ

被削歯車とドレスギヤを同じ諸元とした場合とドレスギヤの歯 数を約2倍とした場合についてシミュレーションした.

その結果,同一諸元の場合は、ドレスギヤの修整量がそのまま 被削歯車に転写されているが、歯数を約2倍にした場合にはドレ スギヤに与えた修整量の約80%が転写された結果となった.

本ソフトウェアでは,諸元を任意に変更してシミュレーション することが可能であるため高価なドレスギヤの諸元および修整量 の決定に有効であると考えている.

[付録: C] ゲート位置変形を考慮したプラスチック歯車の成形歯 形

C1. はじめに

射出成形プラスチック歯車は一般に 3~6 点ゲートで成形され るが,主に分子配向や繊維配向の影響を受けてゲート領域とウェ ルド領域で収縮差がでるため成形後の歯車は真円にならない.特 に繊維補強した材料を使用する場合はその傾向が強く出る.これ はゲート数を多くしてもその傾向は同じでありゲート配置(数と 位置)や肉盗み形状など度々金型を調整して精度を良くする方法 を採用しているのが現状である.

このような非効率的な方法を解決するため1回目成形時の歯形 を基本にして、その逆の変形歯形を与えれば収縮後の歯車が真円 となると考え、逆変形歯形を与える機能を持つソフトウェア (GearPro Master)を開発した.本ソフトウェアを使用して成形実験 した結果、非常に有効な結果が認められたのでここに報告する.

C2. 試験歯車

試験歯車の材質は, PPS/AF(アラミドファイバー)であり歯車諸 元は表 C.1 に示す平歯車である. ゲート位置は図 C.1 に示すよう にボス部に3点配置とした.

Gear Type			Spur / Standard					
Module	mn	mm	0.8					
Number of teeth	z		60					
Pressure angle	α	deg	20					
Addendum Mod.	x _n		0					
Pitch diameter	d	mm	48.00					
Tip diameter	d_{a}	mm	50.00					
Root diameter	$d_{ m f}$	mm	46.40					
Face width	b	mm	10.2					

表 C.1 試験歯車諸元



裏面

表面 図 C.1 射出成形歯車

C3. 成形1回目の結果

1回目の成形は、図C.2の両歯面かみ合い試験結果に示すよう に3ヶ所のピークが顕著に現れ全かみ合い誤差は73µm となって いる.



図 C.2 両歯面かみ合い試験結果(その1) 全かみ合い誤差=73µm,1 ピッチかみ合い誤差=25µm

C4. 成形2回目の準備

成形1回目の結果(図3.1)を基準として全かみ合い誤差が低減す るように金型の歯形を変更する.まず最初,図 C.2 のグラフを読 み取り図 C.3 の真円度修整フォームの「修整量」に数値を入力す る.このとき分割数は最大 360 まで設定可能であるが今回は 24 とした.また,真円度修整率は,逆に与えた修整量が全て戻るも のと想定して100%とし,逆歯すじ修整は設定しないものとした.

図 C.3 の真円度修整値を基準として図 C.4 の真円度修整[逆]と することにより成形後の歯車が真円となる歯形を生成すること ができ,真円度修整[正]とすると図 C.3 の非円形の歯形を出力す ることができる.図 C.5 は、歯形レンダリングであり、青色が「逆 歯形」、赤色が「理論歯形」を示している.次に図 C.3 の(A)部分 の歯形を拡大した図 C.6 の赤線が「逆歯形」であり黒線が「理論 歯形」である.図 C.6 の歯先部分(B)で逆歯形と理論歯形の差は 0.038mm であり歯底部分(C)の差は 0.041mm である.



図 C.3 真円度修整



図 C.4 歯形図選択



図 C.5 歯形レンダリング



C5. 成形2回目の結果

図 C.6 の「逆歯形」で金型を製作し、射出成形した歯車の両歯 面かみ合い試験結果を図 C.7 に示す. この結果、図 C.2 のゲート 位置の 3 ヶ所のピークは滑らかになり全かみ合い誤差は 73µm か ら 42µm に低減した.



全かみ合い誤差=42µm, 1 ピッチかみ合い誤差=15µm

C6. 成形前と成形後歯形の比較

図 C.7 は真円度修整前後の両歯面かみ合い試験グラフを重ね合わせたグラフであり,修整前のピーク(D~F)は修整後低減している.しかし,2回目成形グラフの(D)部のピークが下がりすぎているため図 C.4 の修整率は 80~90%程度で良いかもしれない.



図 C.8 修整前後の両歯面かみ合い試験の重ね合わせ

表 C.2 修整前後の歯車誤差						
誤 差	記号	修整前	修整後			
全かみ合い	$F_i^{"}$	73	42			
1 ピッチかみ合い	f_i "	25	15			
全歯形誤差(左)	F_{α}	38.6	32.9			
全歯形誤差(右)	F_{α}	45.2	32.9			
歯すじ誤差(左)	F_{β}	43.9	31.7			
歯すじ誤差(右)	F_{β}	43.4	37.3			
単一ピッチ誤差(左)	f_{pt}	15.1	7.7			
単一ピッチ誤差(右)	f_{pt}	14.0	12.9			
累積ピッチ誤差(左)	f_{tp}	48.4	36.2			
累積ピッチ誤差(左)	f_{tp}	55.34	35.7			
			Unit:µm			

.

C7. まとめ

- (1) 使用した金型の収縮率が PPS 材料(ファイバー入り)用ではないもの使用したため思ったほど効果は出ていないが、逆歯形法によって図 C.8 の D~F のピークがキャンセルされ成形による歯車精度が向上することが確認された.
- (2) 今回は,真円度修整において24分割して本法が有効である か否かを評価したが分割をもっと細かくすることで更に精 度が向上するものと思われる.
- (3) さらに、修整量を手入力するのではなく歯車試験機のデータ 自動取り込みとすれば更に簡便に高精度歯車を製造できる ものと考えている.

[付録:D] 歯元応力解析例(最弱断面歯厚が同じ場合)

D1. はじめに

歯形係数は、歯元のフィレットカーブと 30 度接線の交点を最弱 断面歯厚として決定するが、図 D.1 のようにフィレットカーブの 最弱断面位置の R と単一 R が同じである場合、歯形係数は同じと なるため強度式では強さに差はでない.しかし、発生応力は歯元 形状に違いがあるため同じとはならないはずである.ここでは、 並歯、歯数 20 の歯車について歯元応力解析をした結果を示す.



図 D.1 歯元形状(フィレット形状と単一 R)

D2. 検討歯車

検討歯車の諸元を図 D.2 に、歯形かみ合いを図 D.3 に示す.

Σ 寸法諸元					
項目	記号	単位	ピニオン	ギヤ	
モジュール	mn	mm	1	.00000	
歯 数	z		20	20	
圧力角	an	deg	20	.00000 *	
ねじれ角	β	deg	0 0	, 0.0 "	
ねじれ方向					第1成(P) 約1成(D) (70(2)(五)(2)(5)(2)(2)(2)(2)(2)(2)(2)(2)(2)(2)(2)(2)(2)
転位係数	×n	_ 	0.00000	0.00000	FIF=18, 812 mm
中心距離	a	mm	20.00000		
法線歯厚減少量	fn	mm	0.00000	0.00000	
歯幅	b	mm	5.00000	5.00000	
歯先円直径	da	mm	22.00000	22.00000	
歯底円直径	df	mm	17.50000	17.50000	
測定ビン径	dp	mm	1.800	1.800	
歯先R	ra	mm	0.00000	0.00000	
	曜	定	キャンセル 推調	斎1 推論2	
	図D	.2 楨	討歯車		図 D.3 歯形かみ合い

基準ラックの歯元 R を 0.375(ホブの刃先 R_c =0.375)として創成 運動させた歯形の最弱断面歯厚(30°接線法)は図 D.4 に示すように 1.9944 となり、P 点におけるフィレット R は 0.5319mm となる. 次に、P 点を通る単一 R=0.5815 を持つ歯形を重ね合わせると単一 R とフィレットカーブとの差はごく僅かであるが最大で 0.0169mm の違いがある.



D3. 応力解析

CT-FEM System で応力解析(*E*=205800MPa, *v*=0.3)をした. その結果を図 D.5 および図 D.6 に示す.



R=0.5815, S1=463.6MPa, トルク 10Nm 図 D.6 応力分布図(単一 R)

-153.2MPa

D4 まとめ

- (1) フィレットカーブのほうが単一 R に比べて 8%程度発生応力 が小さくなる.また、単一 R の応力は、リム部に伝播してい ることが解る(図 D.6 参照).
- (2) 歯元曲線は創成運動を元にして簡単に得ることができるため 単一Rで接続するメリットは無い.
- (3) 今回, 歯数を 20 としたが, 更に少ない歯数であればその差 はより大きくなると思われる.

[付録:E] 正弦歯形歯車の動力損失低減の可能性

E.1 緒 言

1980年代初め頃より AV 機器などに盛んに使われ始めたプラ スチック歯車は、鋼歯車の設計基準に倣ってインボリュート歯形 が採用されている.プラスチック歯車を低トルク領域での動力伝 達や回転伝達のみを目的とする場合はインボリュート歯形を採用 することに全く異論は無い.しかしながら、ある程度大きなトル ク領域での動力伝達に用いられた場合は、プラスチック材料の弾 性率が鋼材料の 1/70 ~ 1/100 と小さいことに起因するかみ合い 時の歯の大きな変形のため、幾何学的なインボリュート歯車のか み合いから、鋼歯車に比べて大きく外れているものと思われる. したがって、インボリュート歯車の最大の長所の一つ、中心距離 鈍感性の優位性はそれほど期待できず、インボリュート歯形に固 執する必要はないのではないだろうか.一方、地球環境問題は言

うに及ばず,機器の小型化や軽量化,多機能化に伴い,駆動系の 電力配分が制限されている現状を考慮すると,たとえ僅かであっ てもエネルギ損失の低減が期待できるならば,インボリュート以 外の歯形の採用も十分検討に値するものと思われる⁽¹⁾.

そこで、正弦曲線で構成される歯形を基準ラックとする歯車(以 下,正弦歯形歯車[sine-rack gear]と呼ぶ)が、インボリュート歯車 (直線ラック歯車)に比べ、すべり率が小さくなることに着目し、 正弦プラスチック歯車による動力損失低減の可能性について検討 する.さらに、動力損失が小さくなるとかみ合い時の発熱量が減 少し、歯の温度上昇も押さえられる.したがって、温度上昇に伴 うプラスチック材料の許容曲げ応力の低下も小さくなり、結果と して、プラスチック歯車の負荷容量の増加も期待できる.また、 同時に、正弦ラック歯車のかみ合いは、インボリュート歯車に比 べ、かみ合い点における相対曲率が小さく、また、歯の幾何形状 についても歯元のすみ肉部の歯厚が大きいことなどが歯面接触応 力、歯元曲げ応力の低下をもたらし、負荷容量増加に有利に働く ことも期待できる.本稿では、正弦歯形歯車の発熱や効率につい て検討し、運転試験を行い検証した結果について述べる.

E.2 正弦曲線で構成される基準ラック

本件では、正弦曲線で構成される基準ラック(正弦I曲線基準] ラックと呼ぶ)を図 1 のように定義する. データムは、歯形お よび歯底を構成する正弦曲線の対称軸に一致させ、ピッチを πm (m:正面モジュール)とする. 歯末のたけ $h_a & m$, 頂げきを cm(c:頂げき係数 0.25)として歯元のたけ $h_f & (1+c)m$ とする. また、 正弦歯形歯車は、インボリュート歯車と異なり、幾何学的には中 心距離を調整することによりバックラッシを与えることができ ない. したがって、基準ラックの左右両歯面をそれぞれデータム 線に沿って逆方向にシフトさせる(以後、横転位という)ことに よって与える必要がある. そこで、歯厚減少量(これが基準円上 のバックラッシとなる)を c_jm (c_j : 歯厚減少係数と呼び 0.1 を 標準とする)とする. このように定義し、図 1 のように座標系 をとると、歯先面および歯底面部分を除いて、 θ (左歯面は -1.5 πm $\leq \theta \leq 0$ 、右歯面は、 $0 < \theta \leq 1.5\pi m$)をパラメータ($-\pi/2 \leq \theta \leq 2\pi$) とすると基準ラック歯面の座標は、式(1)および式(2)で、また、デ ータム線上の正面圧力角は、式(3)で表すことができる.

$$x = m\left(\theta / 2 \pm c_{\rm i} / 2\right) \quad [\rm{mm}] \tag{1}$$

$$y = m(1+c) \cdot \sin(\theta + \pi/2) \quad [mm] \tag{2}$$

$$\alpha = \pi/2 - \tan^{-1}(2h_{\rm f}/m) \quad [\rm rad] \tag{3}$$

ただし,式(1)の復号の上は左歯面,下が右歯面を表す.このように,歯元フィレット部を含めてそれぞれ一つの正則関数で表すことができることも一つの特徴であり,かみ合い機構解析が容易に行えることを示唆している.一方,歯数 z の基準円 d,すなわち歯切りピッチ円直径を,これもインボリュート歯車に倣い正弦 基準ラックのピッチを πm としているので,

$$d = z m \tag{4}$$

と定まる.正弦ラックでも、当然、転位は可能である.しかしな がら、転位(rack shift)すると歯切りピッチ線がラックのデータ ムに一致しなくなる.従って、正弦曲線基準ラックはインボリュ ート歯車の基準ラックである直線歯形とは異なるため任意の歯切 りピッチ線に対して対称となる歯形とはならない.そのため、対 となる歯車の歯切りピッチ線の位置を一致させるためには対とな る歯車の転位係数の和は常に0でなければならない.



E.3 正弦歯形歯車とインボリュート歯車の歯形比較

表1に示すインボリュート歯車と正弦歯形歯車について歯形⁽²⁾ の比較を行う.両歯車の諸元 (m, z, d_a, d_f)を一致させるため正弦 歯形歯車の歯元のたけ係数を $h_f=1.250$ とした.そのため正弦歯形歯 車の圧力角は21.801°である.なお,正弦歯形はインボリュート歯 形と同様,正面を基準とする.インボリュート歯車と正弦歯形歯 車は図2 に示すように正弦歯形歯車のほうが歯元で0.0951mm大 きく,歯先では0.0686mm小さい.また,基準円直径付近の歯厚は, 直径 $d_x=48.250$ mmでは正弦歯形歯車のほうが0.0042mm小さく $d_x =$ 47.750mmでは0.0044mm大きい.しかし,正弦歯形歯車の歯元の たけ係数を $h_f=1.3737$ として正弦歯形歯車の圧力角を20°とした場 合は $d_x=48.250$ mmでその差は0.0002mmと微小である.

Table 1	Gear data	
Item	Pinion	Gear
Tooth profile	footh profile involute(Sine-	
Gear type	Standard / Spur	
Module [mm]	1	
Number of teeth	48 48	
Pressure angle [deg]	20(21.801)	
Reference diameter [mm]	48.00	
Tip diameter [mm]	50.00	
Root diameter [mm]	45.50	
Facewidth [mm]	8.0	
Center distance [mm]	48.00	
Backlash [mm] 0.2		0.2
Contact ratio 1.748 (1.258)		(1.258)



Fig.2 Tooth profiles (involute and sine-rack gear)

E.4 すべり率

かみ合う二つの歯車の歯面間に生じるすべり速度 v_s は, 接触 点の軌跡上の任意の点におけるそれら二つの仮想ラック(基準ラ ック)に対する相対速度 v_p 及び v_g の和で与えられる. したが って, すべり率 ξ_p 及び ξ_g は, それぞれ,

$$\xi_{\rm p} = \frac{\left|\mathbf{v}_{\rm p} + \mathbf{v}_{\rm g}\right|}{\left|\mathbf{v}_{\rm p}\right|} \tag{5}$$

および

$$\boldsymbol{\xi}_{g} = \frac{\left| \mathbf{v}_{p} + \mathbf{v}_{g} \right|}{\left| \mathbf{v}_{g} \right|} \tag{6}$$

で与えられる.

表1の正弦歯形歯車とインボリュート歯車のすべり率を図3に 示すが、インボリュート歯車の最大すべり率は、グラフの両端、 すなわち、かみ合い始めと、かみ合い終り(ピニオン回転角 φ= ±6.22°)で最大値となるが、正弦歯形歯車は、かみ合い始めと、 かみ合い終り(ピニオン回転角 φ=±4.72°)ではなく、それより 小さい φ=±4.38°で最大値を示す.また、インボリュート歯車と 正弦歯形歯車のすべり率を比較すると、インボリュート歯車の最 大すべり率は0.745 であり、正弦歯形歯車の最大すべり率は0.371 であるであるため正弦ラック歯車の最大すべり率はインボリュー ト歯車の 50%である.



E.5 かみ合い率

正弦ラック歯車のかみ合い率 εα は、図4に示すように

$$\mathcal{E}_{a} = \frac{B_{p}\widehat{O_{i}}B_{g}}{\theta_{zi}}$$
(7)

で求められる. ただし、 θ_{zi} は、歯数 z_i を用いて

$$\theta_{zi} = \frac{2\pi}{z_i} \tag{8}$$

であり, B_p , B_g は, それぞれピニオンおよびギヤの歯先と接触点 軌跡の交点である. また O_i は, ピニオンおよびギヤの回転中心 である.



Fig.4 Contact on tooth tip position

図 5 は、ピニオンの歯数を 18 と固定してギヤ歯数を変化させ たときのかみ合い率の変化の様子をインボリュート歯車のそれと 比較して示したものである. 値を見ると正弦ラック歯車のかみ合 い率は、歯数にかかわらず大きく変化せず、インボリュート歯車 のかみ合い率よりも小さくなることが分かる. 試みに、 $z_1=z_2=999$ として計算したところ、その正面かみ合い率は $\epsilon=1.258$ とほとん ど変化しない. なお、かみ合い率の計算に用いる中心距離は、a=(d_1+d_2)/2 としている.



Fig.5 Contact ratio of sine-rack gear and involute gear

E.6 発熱量

プラスチック歯車の発熱⁽³⁾は、負荷かみ合い時において歯面間 の摩擦による発熱と材料が粘弾性体故のヒステリシス発熱を熱源 とし、歯の温度は、負荷の大きさ、回転速度そして歯面間のすべ り速度の影響を受け、運転時の平衡温度は、モジュール、歯幅そ して回転速度による熱伝達係数により決まることになる. このこ とより、表1のインボリュート歯車および正弦歯形歯車の発熱量 について検討すると、インボリュート歯車の発熱量は表2の計算 条件下では図6に示すように摩擦発熱量は3.59×10⁴ J/mm であり, ヒステリシス発熱はピニオン, ギヤそれぞれ 1.59×10⁴ J/mm であ ることから総発熱量は 6.77×10⁴J/mm となる. また, 正弦歯形歯 車の摩擦発熱は 1.79×10⁴ J/mm であり、ヒステリシス発熱量は、 かみ合い率が小さいためインボリュート歯車より多くなり 1.73×10⁴ J/mm となる. このことより正弦歯形歯車の発熱量は 5.25×10⁴ J/mm と見積ることができるため,正弦歯形歯車はイン ボリュート歯車の 77.5%の発熱量であると推定することができる. そして、図6に示す発熱量と表2の計算条件から負荷運転時の歯 の平衡温度を3次元発熱・熱伝導解析ソフトウェア(4)で計算する と、図7に示すようにインボリュート歯車の歯面最大温度 304.5K に対し、正弦歯形歯車の歯面最大温度は302.9K となり1.6K 低下 することが分かる.

Table 2 Calculation conditions

Item	Unit	Value
Material		POM-C
Room temperature	°C	23
Young modulus	MPa	2550
Poisson ratio		0.35
Specific torque	Nm/mm	0.125
Rotational speed	min ⁻¹	300
Density	kg/cm ³	1410
Thermal conductivity	N/s•K	0.28
Specific heat	J/(kg·K)	1330
Heat transfer coeficient	$W/(m^2 \cdot K)$	30.0
Lubrication		No grease

E.7 実験による検証

E.7.1 試験歯車および実験装置

表1および図8のインボリュート歯車および正弦歯形歯車(共 に射出成形品,材料はポリアセタールコポリマ)を図9に示す動 力吸収式歯車試験機と試験歯車を用いて運転試験を行った.





実験は、いずれの歯車に対しても負荷トルク 1Nm、回転速度 300 min⁻¹、バックラッシ 0.2mm、無潤滑およびグリス潤滑の条件 下で行った.運転中の歯の表面温度は赤外線放射温度計(キーエ ンス社製:IT2-02型)を用いて、上方と水平方向からの2ヶ所で 測定した.また、効率計測のための駆動および被動軸のトルクは トルクメータ(小野測器社製:SS-200型)で測定した.



(a) involute

(b) sine-rack gear Fig.8 Test gears (Table 1)



Fig.9 Photographs of test rig and test gears

E.7.2 実験結果

無潤滑での歯面温度を図 10 に効率の測定結果を図 11 に示す. 図7の温度上昇の計算では 1.6K 低下すると見積もったが,図 10 の実験結果では正弦ラック歯車の温度上昇は、インボリュート歯 車より2.4K 低下し、効率は図11のように0.4%良くなっている. また、グリス潤滑の測定結果を図12および図13に示す.



Fig.10 Cange in tooth surface temperature (no-lubrication)



Fig.11 Cange in tooth surface efficiency (no-lubrication)



Fig.12 Cange in tooth surface temperature (Grease lubrication)



Fig.13 Cange in tooth surface efficiency(Grease lubrication)

E.8 片歯面かみ合い試験

表1の正弦歯形歯車を鋼製歯車で製作(成形研削)し、中心距離を理論よりも+0.1mm離した48.100mmとし、図14の伝達誤差 試験機(小笠原プレシジョン, MEATA-3型)で回転伝達誤差を評価した.その結果は図15に示すように、精度等級は、JIS N1級 (JIS B 1702-1:1998)であり非常に高精度であることが解る.



Fig.14 Transmission error measuring instrument



Fig.15 Test result (transmission error)

この歯車を正弦歯形歯車ソフトウェア(カタログ[32])で回転 伝達誤差を解析(*a=*48.100mm) すると図 16 および図 17 のように 評価することができる.





Fig.16 Transmission error analysis

E.9 歯車検査

インボリュート歯形 (m_n 1, z=48, α_n =21.801°) として計測した 結果を図 18 に示す.この歯形誤差グラフは、インボリュート歯形 を基準としているためS字のように表されるが、正弦歯形の座標 値が既知であるため、インボリュート歯形との差異から JIS B 1757-2 (球基準器又は円筒基準器を用いた歯形測定)のように考 えることにより評価が可能である (図 19 参照).



Fig.18 Gear inspection



E.10 正弦歯形はすば歯車の研削

正弦歯形はすば歯車(図 20 参照)の研削は、図 21 のように正 面歯形が既知であれば、成形研削盤(カタログ[44.1])により研削 が可能である.図 22 に 3 次元干渉を考慮した成形研削用砥石形状 を、図 23 に砥石と歯形の重ね合わせ図を示す.



Fig.20 Helical sine gear $(m1, z_1=15, z_2=40, \beta 30^\circ)$



Fig.21 Tooth profile (transverse)



Fig.22 Tooth profile of grinding stone (normal)



Fig.23 Tooth rendering

E.11 結 言

- (1) 実験結果より潤滑の有無に関わらず正弦歯形歯車はインボリ ュート歯車より発熱量が小さいため動力損失を低減できる可 能性を持つことが解った.
- (2)本稿で示した実験結果は、初期実験のみであるため、今後 は多くの実験数で検証する必要がある.また、中心距離変 動に対する回転伝達誤差や、負荷容量の実験検証を計画し ている.

E.12 参考文献など

- (1) 上田昭夫,吉原正義,中村守弘,森脇一郎,正弦曲線で構成 される歯形を基準ラックとするプラスチック歯車,日本機械 学会,第10回機素潤滑設計部門講演会講演論文集,pp.123 -126
- (2) Gear Design Software Manual, Sine-Gear Design Software, (2009), アムテック
- (3) 上田昭夫,吉原正義,高橋秀雄,森脇一郎,"プラスチック歯 車のかみ合い発熱コンピュータシミュレーション"日本機械 学会論文集 C 編,, Vol. 73, No. 732(2007), p. 2361
- (4) 上田昭夫,高橋秀雄,中村守弘,森脇一郎,"プラスチック歯 車のかみ合い発熱コンピュータシミュレーション",(歯の温 度上昇に及ぼすモジュールと回転速度の影響),日本機械学会 論文集 C 編, Vol. 75, No. 752(2009), p. 1074

[付録:F]

遊星歯車設計のポイント

F1. はじめに

遊星歯車は、サンギヤと複数個のピニオンおよびリングギヤか ら成る一種のギヤシステムであり、各ピニオン位置のかみ合いに 位相を持たせることで、振動あるいはノイズ特性をコントロール することができる.このかみ合い位相は、サンギヤ歯数、リング ギヤ歯数とピニオン個数によって決まる.

ここでは、かみ合い位相の種類とそれによる遊星歯車の振動騒 音の特徴を整理して説明する. 遊星歯車設計時の検討ポイントと して活用いただければ幸いである.

F2. 概要

遊星歯車機構は、シングルピニオン式遊星歯車(図 F.1)とダブル ピニオン式遊星歯車(図 F.2)が基本となっている.自動車用自動変 速機は、これらを組み合わせた複合遊星歯車として多段変速を実 現している.この基本となるシングルピニオン式遊星歯車とダブ ルピニオン式遊星歯車について、サンギヤ歯数、リングギヤ歯数 とピニオン個数とかみ合い位相の関係およびかみ合い位相と遊星 歯車の起振力の関係を以下に整理する.なお、遊星歯車の起振力 は、図 F.3 に示すように回転方向(Rotational)、半径方向(transverse)、 軸方向(Axial)と倒れ方向(Tilting)の4つの方向の成分を持つ.かみ 合い位相によりこれら4つの方向の成分がそれぞれ影響を受ける ことになる.





図 F.1 シングルピニオン式 遊星歯車

図 F.2 ダブルピニオン式 遊星歯車



図 F.3 遊星歯車の起振力成分

F3. 遊星歯車の基本運動式とギヤ比

本論に入る前に,遊星歯車の基本運動式とギヤ比について示す. 遊星歯車の3つの回転要素の回転(サンギヤ回転 N_s , キャリア 回転 N_c , リングギヤ回転 N_r)は,次式により関係づけられる. これが基本運動式である.

①シングルピニオン式遊星歯車

$(1+\lambda)N_c = N_r + \lambda N_s$	(F.1)
②ダブルピニオン式遊星歯車	
$(1-\lambda)N_c = N_r - \lambda N_s$	(F.2)
ここに、 λ はサンギヤ歯数 Z_s とリング	ギヤ歯数Zrの比で

 $\lambda = Z_s / Z_r < 1 \text{ cm}$

式(F.1), (F.2)から3つの回転要素のいずれかを固定,いずれか を入力,残りを出力とすることであるギヤ比が求まる.表F.1お よび表F.2は、シングルピニオン式遊星歯車とダブルピニオン式 遊星歯車のギヤ比を運転条件に合わせて整理したものである.

F4. 遊星歯車の配置角

ピニオンの配置角δは、サンギヤ歯数Zs,リングギヤ歯数Zrと

	Ring gear	条件			減速比
	Sun gear	駆動	従動	固定	$i = N_1/N_2$
A		Sun gear	Carrier	Ring gear	$i = 1 + \frac{1}{\lambda}$
В		Carrier	Sun gear	Ring gear	$i = \frac{\lambda}{1 + \lambda}$
С		Sun gear	Ring gear	Carrier	$i = -\frac{1}{\lambda}$
D		Ring gear	Sun gear	Carrier	$i = -\lambda$
Е		Carrier	Ring gear	Sun gear	$i = \frac{1}{1 + \lambda}$
F		Ring gear	Carrier	Sun gear	$i = 1 + \lambda$

表 F.1 シングルピニオン式遊星歯車のギヤ比一覧

表 F.2 ダブルピニオン式遊星歯車のギヤ比一覧

-					
	Ring gear	条件			減速比
	Sun gear Carrier	駆動	従動	固定	$i = N_1/N_2$
A		Sun gear	Carrier	Ring gear	$i = 1 - \frac{1}{\lambda}$
В		Carrier	Sun gear	Ring gear	$i = -\frac{\lambda}{1-\lambda}$
С		Sun gear	Ring gear	Carrier	$i = \frac{1}{\lambda}$
D		Ring gear	Sun gear	Carrier	$i = \lambda$
E		Carrier	Ring gear	Sun gear	$i = \frac{1}{1 - \lambda}$
F		Ring gear	Carrier	Sun gear	$i = 1 - \lambda$

ピニオン個数 k_p で決まる. その基本となるのが最小かみ合い角 θ_{min} で式(F.3)で表される.

$$\theta_{\min} = \frac{360}{Z_s \pm Z_r} \tag{F.3}$$

ここに、符号+;シングルピニオン、-;ダブルピニオンである. ピニオンの配置角 δ は、最小かみ合い角 θ_{min} の整数倍となる. したがって、

$$\delta = \mathbf{n} \cdot \boldsymbol{\theta}_{\min} = 360/k_p$$
 (*n* は整数), すなわち,

$$\frac{Z_s \pm Z_r}{k_p} = n \tag{F.4}$$

のとき、ピニオンは等配置となる.

$$\frac{Z_s \pm Z_r}{k_p} \neq n \tag{F.5}$$

のとき、ピニオンは不等配置となる.

F5. かみ合い位相の定義

かみ合い位相とは、各ピニオン位置でのかみ合いのタイミング のずれのことである.たとえば、図 F4 において、サンギヤの歯 元とピニオン#1の歯先がかみ合っているとき(点*a*)、*i*番目の ピニオン#*i*もサンギヤの歯元とピニオンの歯先がかみ合ってい れば(点*b*['])、かみ合いのタイミングのずれ、すなわち、かみ合い 位相はないということになる.しかし、実際にはサンギヤの歯は 等間隔に配置されているのでピニオン#*i*はサンギヤと点*b*でか み合うことになる.ピニオン#*i*の点*b*でのかみ合いは、ピニオ ン#1の点*a*のかみ合いに対して $\Delta\theta$ 進んでいることになる.

$$\Delta \theta = \delta_{i} - \theta_{i} = \delta_{i} - \frac{360}{Z_{s}} n_{i} \quad (n_{i} \wr \underline{x} \underbrace{\mathbb{X}})$$

$$n_{i} = \operatorname{int}\left(\delta_{i} / \frac{360}{Z_{s}}\right)$$
(F.6)

 $\Delta \theta$ をサンギヤのピッチ360/Zsで正規化して、

$$\Delta P_{i} = \delta_{i} / \frac{360}{Z_{s}} - int \left(\delta_{i} / \frac{360}{Z_{s}} \right) \quad (pitch) \tag{F.7}$$



図 F.4 かみ合い位相の定義

となり、ピニオン#1のかみ合いに対する各ピニオンのかみ合い の位相 ΔP_i (pitch)を求めることができる.

図 F4 とは逆方向にかみ合いが進行する場合は、ピニオン#iの 点b でのかみ合いは、ピニオン#1の点a でのかみ合いに対して $\Delta \theta$ 遅れていることになる、言い換えると、

$$1 - \Delta \theta / \frac{360}{Z_s}$$
 (pitch)

進んでいることになる.よって、この場合のかみ合い位相 dPiは、

$$\Delta \mathbf{P}_{i} = 1 - \delta_{i} \left/ \frac{360}{Z_{s}} + \operatorname{int} \left(\delta_{i} \left/ \frac{360}{Z_{s}} \right) \right) \quad (\text{pitch})$$
(F.8)

と表される.

なお、上記は、サンギヤとピニオンのかみ合いに置ける位相で あるが、ピニオンとリングギヤのかみ合いにける各ピニオン位置 での位相もこれと同一となる.

F6. かみ合い位相と起振力特性

各ピニオン位置でのかみ合いの位相は、サンギヤ歯数 Z_s 、リン グギヤ歯数 Z_r とピニオン個数 k_p の設定で決まり、以下の5つの パターンに分類される.位相のパターンにより、回転方向 (Rotational)、半径方向(Transverse)、軸方向(Axial)および倒れ 方向(Tilting)それぞれの起振力特性が影響を受ける.

① ピニオン位置のかみ合いに位相差がない場合 (In phase);位相 差がなく各ピニオン位置でのかみ合いは同一のタイミング となるので、回転方向および軸方向の起振力はピニオン個数 倍となり、その変動成分は大きくなる、一方、半径方向およ び倒れ方向の起振力は釣り合うので、変動成分は小さくなる、 この状態は以下のギヤ構成条件で作り出される。

$$(Z_s + Z_r)/k_p = integer (整数)$$
 ---- ピニオン等配置

 $Z_s/k_p = integer$ (整数)

例: $Z_s = 33$, $Z_r = 75$, $k_p = 4$ の遊星歯車(図 F.5) ②各ピニオン位置でのかみ合いの位相が $1/k_p$ ピッチずつ順番に



図 F.5 In phase(同位相) 遊星歯車

ずれる場合 (Sequentially phased); 各ピニオン位置でのかみ合いの 位相が等間隔に順番にずれていくので,回転方向および軸方向の 起振力は相殺され,その変動成分は小さくなる.一方,半径方向 および倒れ方向の起振力は釣り合わなくなるので,その変動成分 は大きくなる.この状態は以下のギヤ構成条件で作り出される.

 $(Z_s + Z_r)/k_p = integer (整数)$ --- ピニオン等配置

 $Z_s/k_p \neq integer$ で、小数点以下が $1/k_p \text{ or } 1-1/k_p$

例: $Z_s = 33$, $Z_r = 75$, $k_p = 4$ の遊星歯車(図 F.6)



図 F.6 Sequentially phased 遊星歯車

③対向するピニオン位置のかみ合いは同位相,隣り合うピニオン 位置のかみ合いの位相が1/2ピッチずれる場合

(Counter phased); 隣り合うピニオン位置のかみ合いの位相が1/2 ピッチずれているので,回転方向および軸方向の起振力は隣り合 うピニオン同士で相殺され,その変動成分は小さくなる.

また、半径方向および倒れ方向の起振力は対向するピニオン同士 で相殺され、その変動成分は小さくなる.すなわち、すべての方 向の起振力を小さくすることができる.ただし、対向するピニオ ン2個あるいは隣り合うピニオン2個での相殺のため、歯面誤差 や組付け誤差により起振力の相殺度合いが影響を受けやすい.こ の状態は以下のギヤ構成条件で作り出される.

 $(Z_s + Z_r)/k_p = integer$ (整数) ---- ピニオン等配置

 $Z_s/k_p \neq integer$ で,小数点以下が0.5

例: $Z_s = 30$, $Z_r = 74$, $k_p = 4$ の遊星歯車(図 F7) ④各ピニオン位置でのかみ合いの位相が $2/k_p \operatorname{orl} - 2/k_p$ ピッ チずつ順番にずれる場合(Optimum phase); ピニオン個数が5 or 6 の場合この条件も存在する.

 $k_p = 5$ の場合,回転方向,軸方向,半径方向および倒れ方向すべ ての起振力が、5つのピニオン位置すべてのかみ合いで相殺され るので、その変動成分を小さくすることができる.また、歯面誤 差や組付け誤差による起振力の相殺度合いは影響されにくくなる. $k_p = 6$ の場合、対向するピニオン位置のかみ合いは同位相となる ので、3つのピニオンのかみ合いで回転方向、軸方向、半径方向 および倒れ方向それぞれの起振力が相殺されることになる. これら状態は以下のギャ構成条件で作り出される.

 $(Z_s + Z_r)/k_p = integer$ (整数) ---- ピニオン等配置

 $Z_s/k_p \neq integer$ で、小数点以下が2/kp or $1-2/k_p$

例:
$$Z_s = 37$$
, $Z_r = 78$, $k_p = 5$ の遊星歯車(図 F.8)
例: $Z_s = 38$, $Z_r = 82$, $k_p = 6$ の遊星歯車(図 F.9)







⑤ピニオンが不等配置となる場合(Unequally spaced); ピニオンが 不等配置になることで,各ピニオン位置におけるかみ合いに位相 が生じる.各位相は,ギヤ構成条件によって異なるので,式(F.6), (F.7)によって求める.この位相差により,各方向の起振力はパタ ーン①と②の中間的な特性を示すことになる.この状態は以下の ギヤ構成条件で作り出される.

 $(Z_s + Z_r)/k_p \neq integer$ ---- ピニオン不等配置

例: $Z_s = 42$, $Z_r = 75$, $k_p = 4$ の遊星歯車(図 F.10) 最小かみ合い角 θ_{min} は,

$$\theta_{\min} = \frac{360}{Z_s + Z_r} = \frac{360}{117} = 3.077$$

$$\therefore \delta_1 = \delta_2 = \delta_3 = 89.23^\circ$$
, $\delta_4 = 92.31^\circ$



図 F.10 Unequally spaced 遊星歯車

F7. まとめ

以上,説明したかみ合い位相のパターンとそれによる起振力の コントロール状況をまとめると表 F3 のようになる. ギヤトレインの振動伝達特性に応じて,位相パターンを選択す れば,効果的なギヤノイズの低減が可能となる たとえば、回転方向の起振力に対して振動伝達特性が敏感なギ ヤトレインに対しては、②の Sequentially phased 遊星歯車が有効で あり、半径方向の起振力に対して敏感なギヤトレインに対しては ①の In phase 遊星歯車が有効となる.

歯数の決定段階では、ギヤトレインの伝達特性が不明な場合が 多い.このような場合には、各方向の起振力を相殺できる③の Counter phase 遊星歯車を選択するのも一つの方法である.

5 ピニオンあるいは 6 ピニオンが許されるのであれば, ④の条件を満たす遊星歯車を選択したい.

表 F.3 かみ合い位相の起振力コントロー	ール効果
-----------------------	------

	Rotational, Axial	Transverse, Tilting
①In Phase	×	Ø
②Sequentially phased	Ø	×
③Counter phased	0	0
(4)Optimum phase	Ø	Ø
⑤Unequally spaced	Δ	Δ

◎; すべてのピニオンのかみ合いで相殺

○;対向するピニオンと隣り合うピニオン

のかみ合いで相殺

△;不等ピッチの位相で相殺

×;相殺されずに増幅

(寄稿 森川 邦彦)

[付録 G] 歯車の歴史と和算

G.1 緒 言

歯車の歴史についてアリストテレス(Aristoteles)はその著書「機 械の問題」で、くさび、曲輪、ころ、車輪、滑車などとともに回 転運動を伝達する青銅製や鉄製の歯車をあげている.これが記録 に残っている歯車に関する最初の記事¹⁾と考えられる.また、ア ルキメデス(Archimedes)には歯車についてアリストテレスが言 及していないウォームギヤについての業績もある.そして、図 G.1 に示すように15世紀後半にはレオナルド・ダ・ヴィンチ(Leonardo da Vinci)による歯車に関するスケッチで歯車の地位が確立したと 言える.このように生まれた歯車が、技術的な変遷を経て現代に 至っているが、本稿では歯車の歴史とともに現在の日本ではどの 程度の歯車を作ることができるかについて述べる.



図 G.1 各種歯車装置のスケッチ²⁾

G.2 歯車の歴史

歯車歯形の第1世代は、原始的な歯車装置に見られる、いわゆる ひっかかり歯車の時代であり第2世代は理論的には正しい歯形では ないが、経験によってかなり正確に回転運動を伝える歯形とピッチを 持つ歯車が使用されていた世代であり18世紀頃まで続いた.第3世 代は歯形の理論的研究が始まりサイクロイド歯形が用いられた時代で ある.デンマークの天文学者オラフ・レーマー(Olaf Roemer)が1674 年に歯車が等速運動を行うには、エピサイクロイド歯形が適当である と提唱したのを最初に1694年にはフランスのフィリップ・ド・ライール (Philips de La Hire)がエピサイクロイドを論じた.またフランスのカミュ ー(M. Camus)は、時計歯車の歯形について研究し1733年にカミュ の定理を発表している.これは今日、歯形のかみ合いに関する基本 原理になっている.このことより19世紀中頃、イギリスのウイリス教 授(Robert Willis)は複合サイクロイド歯形を発表し交換性歯車が 得られることを明らかにし、交換性複合サイクロイド歯車が広く 世界に普及することになる.

インボリュート歯形はその普及が遅れるが1765年スイスの数 学・物理学者レオンハルト・オイラー(Leonhard Euler)らによっ て次第にその長所が明らかにされ,特にウイリスによって圧力角 14.5°の標準歯車が選定され,次第にその優位性が認められるよう になるが,本格的にサイクロイド歯形にとって代わって代表的歯 形として優位を占めるに至るのは20世紀に入って創成歯切り法が 開発され実用に及んでからのことである.これより第4世代に入る. 創成方式によるホブ盤は1835年のウイットウォース (J. Whitworth) によるホブ盤の特許が最初の記録とされているが,その後,1900 年のファウター(Herman Pfauter)の差動歯車装置を持つ,はすば 歯車の歯切りが容易な万能ホブ盤が発表され、ここにホブ盤による円筒歯車の歯切り方式が圧倒的優位を占めるに至りインボリュート歯形が広く世界に普及することになる.

G.3 歯車と和算

1549年(天文12)にフランシスコ・デ・ザビエル(Francisco de Xavier) が周防国大内義隆に機械式時計を献上したのが最初の歯車機構と 言われている。その後、1591年にはローマ法王へ派遣した使節が帰 朝した際、宣教師ワリヤニが秀吉に時計を献上し、1612年にはメキシ コ総督がスペイン製の置時計を献上した。この時計は、静岡県久能山 東照宮に保存され、これが日本に現存する最古の時計である。そして、 1600年初期、津田助左衛門が時計を製作したのが日本最古の歯車 製作記録である。このように歯車は、「時計」として伝来しているが、 1775年(安永4)には若井源大衛門が歯車を利用した盃運人形を製 作している。しかし上述したように欧州のような歯形に関しての研究は なされておらず、万年自鳴鐘を製作した「からくり義衛門」(田中久重) でさえ歯形はヤスリで製作していたようである。

一方,欧州の歯車の世界ではサイクロイド歯形が採用され、オイラ ーがインボリュート歯形を論じていることから歯車理論に関して は到底追いつくことができないほど遅れていたと言える.また, 我が国においてホブ盤が開発されるのは1936年,濱井次郎による H70 ホブ盤³まで待たなければならない.

次に、「スイス」、「時計」、「オイラー」というキーワードから我が 国で創成歯切りに思い至ったかもしれない可能性について述べた い.オイラーと言えば 1737 年に発見したとされている式(1)に示 す「円周率自乗の公式」があるが、これより 15年も早く和算家の 建部賢弘(たけべかたひろ)が発見し、1722年(享保7年)吉宗 に綴術算経⁴を献上している.この建部の考え方は西洋数学のロ ングバーグ法と同等の累遍増約術という加速法を編み出し成し得 たものであり小数点以下 41 桁まで正しい結果を求めている事実 は驚嘆に値する.

$$\pi^{2} = 9 \left(1 + \frac{1^{2}}{3 \cdot 4} + \frac{1^{2} \cdot 2^{2}}{3 \cdot 4 \cdot 5 \cdot 6} + \frac{1^{2} \cdot 2^{2} \cdot 3^{2}}{3 \cdot 4 \cdot 5 \cdot 6 \cdot 7 \cdot 8} + \cdots \right)$$
(1)

π =3.14159265358979323846264338327950288419746

時計歯車を製作するとき図 G.2 の「歯ざらえ機」(スイス製) と いう機械がある.これは,近江神宮の近江時計眼鏡宝飾専門学校 で実際に使っているものを撮影したものである.図 G.2 のハンド ルを回すことにより図 G.3 の歯車とカッタ(1巻きホブのような 形で歯車に応じた種類がある)が連動して回転するためヤスリな どで加工した歯溝にカッタの刃が入り込み歯の分割を正しくする 装置,すなわちピッチ誤差除去装置と言えるものである.この加 工を施すことにより時計歯車のピッチ精度は格段に向上する.こ の装置は,まさしくホブの創成加工原理そのものであり,スイス 人のオイラーが,図 G.2 の機械を使っている時計職人を見たとき 創成歯切り法を思いついたのではないだろうか.歴史に,もし, は禁句だが,我が国で時計を製作するとき,職人が図 G.2 のよう な機械を使っていてそれを建部賢弘が見ていたならば,もしかし て創成歯切り法を日本人が発明したのではないだろうかと思いを 巡らせている.





歯車

図 G.3 歯車と工具

欧州においてサイクロイドやインボリュート歯形論が盛んに 研究されたが、我が国においてはどうだったのだろうか. 江戸時 代、和算が隆盛を極めた頃、数多くの算額が神社に奉納されてい る. その中にインボリュートやサイクロイドに関するものが無い かを調査した. その結果、1796年、岡山県備中國吉備郡眞金村宮 内 官幣中社吉備津神社拝殿(寛政八年丙辰春三月)にサイクロ イド曲線に関する算額が図 G.4 のように奉納されていることが解 った. この記述は、大阪中之島図書館で所有している社寺奉納算 額集(巻の下)にあり、昭和17年、清水義雄が以下のように整理 している.「"サイクロイド"ノー端ト動円ガ"サイクロイド"ノ中点 ニ於テ基線ニ垂直ナ直線ト基線ニ接スル時、動円ガ"サイクロイド" トノ交点ノ内、一端ヨリ近イ点マデノ距離Sナルトキ、コノ円 ニ外切シ"サイクロイド"ニ内切、基線ニ切スル円ノ直径近似値(*d*) ヲ求ム」. そして答日如左術とあり、式(2)で*d*を求めることがで きる.



因 0.4 9 1 9 1 1 1 1 9 异母

$d = \frac{(67 - 2\sqrt{130})S}{98(\sqrt{38 - 4\pi} - 4)}$

(2)

このようにサイクロイドに関しては算額として残っているが、 インボリュートに関しては残念ながら見つけ出すことができなか った.また、和算が天文学や暦に利用されたように機械要素や機 構学にも利用されていたならば、また違った発展を遂げていたよ うに思えてならない.いずれにしても和算の世界では歯形論が発 展しなかったのは少し残念な気持ちが残る.なお、歯車に関する 歴史に関しては一覧表⁵ に整理しているので参照されたい.

G.4 和時計に使用されている歯車の一例

1688年に三代目津田助左衛門信貫が製作した図G.5の二挺天符 櫓時計(セイコーミュージアム所蔵)に使用されている歯車の一 例を表G.1および図G.6に示すが、手作りとは思えないほど上質 な歯車である.



三代目津田助左衛門信貫 製作(1688年) 図 G.5 二挺天符櫓時計(セイコーミュージアム所蔵)

表 G.I 图里諸元(I 段目图里)					
Item	unit	1 st gear pair			
Geartype		pinion	gear		
GearNo.		- P1	G1		
Module	mm	1.142			
Number of teeth		13	72		
Pressure angle	deg	18.5			
Reference diameter	mm	14.846	82.224		
Base diameter	mm	14.079	77.975		
Tip diameter	mm	16.00	84.8		
Root diameter	mm	10.00	78.0		
Tip ra dius	mm	0.50	0.30		
Bottomradius	mm	0.40	0.45		
Facewidth	mm	9.2	4.2		
Center distance	mm	48.65			
Contact ratio		0.307			
Backlash	mm	1.00			



詳しくは、日本機械学会論文集 Vol. 83(2017) No. 847 「和時計から日本の歯車の源流を探る」をご覧ください. https://www.jstage.jst.go.jp/article/transjsme/83/847/83_16-00295/_pdf 計算機や工作機械がない時代でもこのようなことができたという 技術への取り組みの本質を見直すきっかけになれば良いのではな いかと思っています.

参考文献

1)会田俊夫 他: 歯車の設計(1), 大河出版, (1971), 1

2) 会田俊夫 他: 歯車の設計(1), 大河出版, (1971), 4

- 3)(社)日本歯車工業会,歯車技術の半世紀,その発達と将来,大 日本印刷,1993,58
- 4)鳴海風,江戸の天才数学者-世界を驚かせた和算家たち-,新 潮選書,2012,87
- 5) 歯車ソフトウェアカタログ(vol.16), アムテック, (2014), 72-74

[付録 || 非対称歯形歯車の特性

H.1 はじめに

非対称歯形歯車は、ギヤの大きさや材料を変更しないで負荷容 量を増大させることができることから図 H.1 に示すロシア製 An-70 の contra propeller 駆動の 14000PS ターボプロップの遊 星歯車装置に使用されており AirBus A400M の 1.4 倍の能力を有 している.また、ヘリコプターのメインドライブギヤにも採用さ れている¹⁾. このように現在において用途は限定されているが、 一般産業機械にも徐々に採用される機運がある.非対称歯形歯車 は、創成歯切り加工も研削も可能なことから現在稼働中の歯車装 置にも容易に置き換えが可能である.

圧力角が 25°や 27°の歯車は、製鉄所の圧延機のような高負荷 歯車装置には曲げ強度の向上から採用されているが、非対称歯形 歯車は作用歯面に高圧力角(30°以上)を有する歯形である。両歯面 を高圧力角の対称歯形とすると歯先尖りとなるため歯形が成立 しない、そのため歯たけを保つためには必然的に非対称歯形にす る必要がある。その一例を図 H2 に示す。この例では、作用側圧 力角 ant=30°,反作用側圧力角 ant=17°,としている。高圧力角歯形 は、標準圧力角(20°)に比べ、ヘルツ応力は大きく低下し、摩擦係 数は小さく、すべり率は小さく、そしてフラッシュ温度を低く抑 えることができる。しかし、この効果の代償として正面かみ合い 率が低下したり軸受荷重が増加したりすることに留意する必要 がある。これらの特性を持つ非対称歯形歯車のヘルツ応力、フラ ッシュ温度、曲げ応力などについて解析した結果について述べる。



図H.1 An-70と遊星歯車機構¹⁾

H.2 高圧力角の効果

かみ合い圧力角を大きくすることでヘルツ応力などが、どのように変化するかを検討する。検討する歯車諸元は、モジュール m=1,歯数 $z_1=z_2=50$,ねじれ角 $\beta=0^\circ$ 転位係数 $x_{n1}=x_{n2}=0$,歯幅 b=10mm、トルクT=100N·m、回転速度n=1000min⁻¹とし、作用側 圧力角 a_{nR} だけを20~45°の範囲で変化させて計算した。反作用側 歯面の圧力角 a_{nL} は無視している。その結果、図H.3~H.6に示すように、かみ合い圧力角20°のとき $\sigma_{H}=1899$ MPaのヘルツ応力が圧力 角35°では、 $\sigma_{H}=1573$ MPa(1/1.21倍)と低下し、すべり率も1/3.3 倍小さくなっているが、正面かみ合い率は1/1.34低下するととも に軸受荷重Frは1.9倍に増すことに注意しなければならない。







H.3 フラッシュ温度

図H.2と同諸元で材料をSCM420 (熱伝達率60.0[W/mK]), 潤滑 油をISO VG100, 油温70°C, 歯面粗さRz2.5, Ra04, 回転速度1000 ~5000 min⁻¹として図H.7のように設定し, 摩擦係数(松本の式)²⁾ およびフラッシュ温度³⁾を計算すると図H.8, H.9のようにいずれ も圧力角 $a_n=20^\circ$ より $a_{nR}=30^\circ$ のほうが有利であることが解る.ま た,回転速度5000min⁻¹ においてフラッシュ温度は17.3°C低くなる. また,図H.10 に圧力角の違いによるフラッシュ温度分布⁴⁾を示す が, $a_{nR}=30^\circ$ のほうが9.7°C低いことが解る.



AMTEC www.amtecinc.co.jp

H.4 高圧力角による負荷容量の向上

H.4.1 対称歯形歯車

対称歯形歯車 (a20°)の歯車諸元とかみ合い歯形を図H.11およ び図H.12に示す、歯形修整については図H.13のようにピニオンに 歯先修整とクラウニングを与え、ギヤには歯先修整のみ与えてい る.以下に、歯面応力、フラッシュ温度そして歯元応力を計算を した結果を示す.

解析条件は、図H.14のようにトルク300Nmとし、ピニオンに 10µmのピッチ誤差を与え、図H.15のように食い違い誤差0.02°(平 行度誤差0°)を与えている. 歯面解析の結果を図H.16に、フラッ シュ温度の設定と解析結果を図H.17およびH.18に示す.また、歯 元曲げ応力(回転角のp=-23.52°)の解析結果を図H.19に、そして 歯の変位(100倍)を図H.20に示す.

- • 💌

数值

-33.506

40.812

0.0200

0.0000

● シューディング

1712 R

最大播表示(全論影片)通

1月2日 | 1月2日日日 1月2日日日 ズーム 2月1日(25)

(b)ギヤ

Gear

875.00 37.699

411.429

2.500

0.400

7 870

461.000

60.000

Cr鋼(1Cr)

1833.134 300.00

2.650

1200.000

2.500

7.870

Cr鋼(1Cr)

0.400

461.000 60.000 70.000 50

数値 70 00

鉱物油(その他) ISO VG 150 150.000

227,000 37.000

27 779

0.01940

60



図H.19 歯元曲げ応力, *θ*p=23.52°

. 91-7405

23.515(deg -

AMTEC www.amtecinc.co.jp

(b)ギヤ, σ_{1max}=491MPa

数字 点法 数分数単純 数目数 -144 株田純 35 ズーム 0,00 2034(55) 10,000 Y形体(56) 7,000

図H.14 歯面要素設定


(a)ピニオン、δ_{max}=19.7µm
 (b)ギヤ、δ_{max}=31.8µm
 図H.20 歯の変位 (100倍)、θp=23.52°

H.4.2 非対称歯形歯車

非対称歯形歯車の諸元を図H.21のように非対称圧力角(作用面 $a_{nL}=30^\circ$,反作用面 $a_{nR}=17^\circ$)として与えたときの歯のかみ合いを 図H.22に示す.図H.23は、歯面応力が最も小さくなる歯面修整を ソフトウェア機能の「歯面+修整量解析」から求めたものである. この歯形で歯面応力解析をした結果を図H.24に、フラッシュ温度 を図H.25に示す.なお、歯面要素設定およびフラッシュ温度計算 の設定は、図H.14、図H.17と同じである.また、歯元曲げ応力(ピニオン:回転角 θ_{P} =-15.35°、ギヤ: θ_{P} =19.63°)の解析結果を図H.26 に、そして歯の変位(100倍)を図H.27に示す.



図H.23 歯面修整



図H.24 歯面応力 (o_{Hmax}=1898MPa)



図H.25 フラッシュ温度 (Tfmax=40.9°C)





(a)ビニオン, *σ*_{1max}=463MPa 図H.26

=463MPa (b)ギヤ, σ_{lmax}=404MPa 図H.26 歯元曲げ応力



(a)ピニオン, δ_{max}=29.0µm (b)ギヤ, δ_{max}=19.1.0µm 図H.27 歯の変位 (100倍), θp=-15.35°

H.4.3 対称歯形歯車と非対称歯形歯車の比較

H4.1項およびH4.2項で計算した結果を図H.28に示す.これらを 比較すると歯面応力,フラッシュ温度,そして歯元曲げ応力にお いても対称歯形より非対称歯形のほうが優位であることが解る.



AMTEC www.amtecinc.co.jp

図H.29に、かみ合い角度範囲内(図H.15)での歯元曲げ応力(最 大主応力の最大値: σ_{Imax})を示す.なお、回転角-10°~+20°付近 で応力が小さくなっているのは、図H.14でピッチ誤差(10 μ m) を与えているためである.



次に,寿命計算を図H.30に示すが,対称歯形 (a20°)のピニオンの歯面寿命L(a20°)=1.36×10⁶に対し非対称歯形 (a30°)のピニオンの歯面寿命はL(a30°)=8.14×10⁸と大きく寿命が延びていることが解る.



H.5 まとめ

本例の非対称歯形(a30°)と、対称歯形(a20°)の歯面強さ、 フラッシュ温度そして曲げ強さを比較すると

(1)歯面応力	: \sigma_Hmax=1897/2348=1/1.24
(2)フラッシュ温度	: <i>Tf</i> _{max} =56.4-40.9=15.5℃低下
(3)ピニオン曲げ	: σ _{1max} =463/491=1/1.07
(4)ギヤ曲げ	: σ _{1max} =404/491=1/1.22
いたる)テート	エミング 「「「「「「「「」」、「「」」、「「」」、「「」

のように非対称歯形のほうが優位であることが解る.ただし、対 称歯形 (a20°)の歯面修整は、単純なクラウニングと歯先修整を 与えただけであり非対称歯形歯車の歯面修整とは大きく異る.そ のため、歯面応力やフラッシュ温度は歯面修整の効果も影響して いる.

H.6 補足1 (無修整歯形)

図H.11と図H.21の歯車で、歯面修整が無い歯車の歯面応力は、 図H.31および図H.32のように対称歯形(a20°)のほうが1.2倍大き な応力が発生し、ピニオン歯元に大きな歯面応力が表れている. また、フラッシュ温度も図H.33のように対称歯形(a20°)のほう が18℃高い温度が発生し、その分布を見ると図H.33(a)ではピニオ ン歯先に大きな発熱部があり、また、歯元では歯すじに沿って発 熱していることが解る.これは、ピニオン歯元でトロコイド干渉 が発生することを示唆している.



(a)a20°, *Tf*_{max}=73.℃ (b)a30°, *Tf*_{max}=55.℃ 図H.33 フラッシュ温度

H.7 補足2(非対称歯形歯車の例)

非対称歯形歯車の例を 図H.34に示す.この歯車対 は、ロシアのAsymmetrical gears - some of the TV7-117S turboprop engine gearbox components and assemblies であり実際に稼働している 歯車である.



図H.34 非対称歯形歯車の例⁵⁾

◆Webにも資料を掲載していますのでご覧ください.

参考資料

- 1) 久保愛三, 日本歯車工業会説明会資料(2012)
- 2) 松本將, 混合潤滑状態にある転がり-すべり接触面の摩擦係数 推定式, トライボロジスト (日本トライボロジー学会誌), 56 巻, 10号 (2011-10) pp.632-638
- AGMA2001-C95, Fundamental Rating Factors and Calculation Method for Involute Spur and Helical Gear Teeth, p.46
- 4) CT-FEM ASM, Gear design software, アムテック, (2014)
- 5) A.S. Novikov, V.V. Golovanov, D.V. Dorofeyev, "Desgn of Optimal Geometry, Stress, Stiffness, Vibaration and Terminology of Asymmetrical and HCR Gears for Aircraft", IFToMM), pp.139, (2014)

[付録:I] **歯面解析例(損傷歯車**)

11. はじめに

歯車の歯面応力を解析するとき,近年,歯面修整が複雑化していることから歯面メッシュは、より細密化が必要とされる.そのためFEM-3D詳細モデルで解析しようとするとモデル作成,解析時間の問題から設計段階で使うには非現実的な解析法と言える.

しかし, 3D-FEM モデルと歯面膜要素⁽¹⁾を融合した解析法を採用 することにより歯面修整を持つ歯車であっても短時間で容易に応 力解析をすることが可能となる.

そこで、本編では歯形と歯幅方向をそれぞれ 17 断面の測定デー タで定義し、歯面粗さや潤滑油を考慮して歯面全域に渡っての摩 擦係数や油膜厚さ、そしてフラッシュ温度などを計算した例を示 す.更に、端部に着目した解析を行うことにより歯先端部やトロ コイドかみ合い部のフラッシュ温度や端部を応力解析した例を示 し、JGMA プロジェクトの A 歯車の実験による損傷写真と比較検 証した.その結果、実際の歯面損傷状況に対応した結果が得られ たので報告する.

I.2 歯車解析ソフトウェアの概要

歯車解析ソフトウェアの構成は 図I.1 に示すように歯面応力, 摩擦係数,フラッシュ温度,発熱量そして歯元曲げ応力などを解 析することができる.歯のかみ合い時に作用する荷重は,図I.2 のように歯の交接量⁽²⁾から決定している.



図 I.1 解析ソフトウェア (CT-FEM Opera) の構成



歯面間の摩擦係数³³は,式(I.1)~(I.3)に従って細分化した 歯面位置で決定している.

$$f = f_{\rm L} (1 - \alpha) + f_{\rm S} \cdot \alpha \tag{I.1}$$

$$\alpha = 0.5 \log D \tag{I.2}$$

$$D = \left(R_{\rm Z1} + R_{\rm Z2}\right) / h_0 \tag{I.3}$$

- fs: :境界潤滑部分の摩擦係数(鉱油, fL=0.01, fs=0.11)
- f :摩擦係数 fL :流体潤滑負荷分担部分の摩擦係数
- a:接触域での境界潤滑部分の割合
- D:潤滑状態(1<D)

j

- R_{z1}, R_{z2}: 歯面粗さの最大高さ
- h₀:2面間の弾性流体潤滑最小油膜厚さ(油温)

フラッシュ温度⁽⁴⁾の AGMA の基本式を式(L.5)~(L.7)に示すが, 解析ソフトウェアで使用する際,摩擦係数は,式(L.7)を使うので はなく,式(L.1)で決定したfを細分化した歯面の位置に適用させ 用いる.また,材料の熱伝達係数(λ_{M})も使用する歯車材料で 決定しなければならない.

$$t_{fl} = K \cdot \mu_{\rm m} \frac{X_{\Gamma} \cdot w_{\rm Nr}}{B_{\rm M} (b_{\rm H})^{0.5}} |(v_{\rm r1})^{0.5} - (v_{\rm r2})^{0.5}|$$
(I.5)

$$B_{\rm M} = (\lambda_{\rm M} \cdot \rho_{\rm M} \cdot c_{\rm M})^{0.5} \tag{I.6}$$

$$\mu_{\rm m} = 0.06 \frac{1.13}{1.13 - Ra} \tag{I.7}$$

K: flash temperature constant , $\mu_{\rm m}$; mean coefficient of friction X_{Γ} = load sharing factor , $w_{\rm Nr}$; normal unit load, $v_{\rm rl}$; rolling velocity of the pinion, $v_{\rm r2}$; rolling velocity of the gear, $B_{\rm M}$; thermal contact coefficient, $b_{\rm H}$; semi-width of Hertzian contact band, $X_{\rm M}$; thermal-elastic factor, $\lambda_{\rm M}$; heat conductivity, $\rho_{\rm M}$; density, $c_{\rm M}$; specific heat per unit mass

I.3 検討歯車諸元と歯面データ

検討する歯車⁽⁵⁾を図 I.3~図 I.7 に示す. 歯面修整は,図 I.8 に示 すように単純な歯形・歯すじ修整を持つ歯車である.





研削した歯形は、図 I.9 のように歯車測定機(大阪精密機械: CLP-35)で歯形方向(かみ合い最小径から歯先まで),歯すじ方向そ れぞれ 17 本測定したデータである.ただし、ソフトウェア^{(の}では かみ合い最小径からインボリュート開始径まで延長しているため データ数は 23 となっている.この測定データをソフトウェアで読 み込むと図 4.2.8d-10 のように表示することができる.ただし、ピ ニオンには歯面修整を与えず図 I.11 のようにピッチ誤差(17.9µm) のみ与えている.そして、図 I.11 でトルク、弾性率、ポアソン比 を設定し、図 I.12 で軸の食い違い誤差(φ₁=0.02°)を与え歯面解析 を行う.



図 I.9 歯形・歯すじ修整(実測)



🦉 歯面解析-回転角(入力4) 🛛 🗖 💽					
回転角度(θs,θe)	自動計	算			
1ビッチ角度 最大接触角度 参照(回転					
項目	記号	単位	數値		
角度分割数	N		60		
開始回転角度	θs	deg	-29.409		
終了回転角度	θe	deg	34.698		
食い違い角誤差	φ1	deg	0.0200		
平行度誤差	φ2	deg	-0.0060		
確定 戻す 閉じる クリア 参照(誤差					
図 I.12 解析角度					

1.4 歯面応力の解析結果

図 I.12 に示すように最大接触角(θ=64.107°)を60分割した角度で解析した結果,最大歯面応力は図 I.14のように σ_{Hmax}=2355MPaである.



I.5 フラッシュ温度, 摩擦係数, 油膜厚さなど

図 I.17 でフラッシュ温度計算などに必要な項目を設定し, (a)フ ラッシュ温度, (b)摩擦係数, (c)油膜厚さ,そして(d)発熱量を計算 した結果を図 I.18~図 I.21 に示す.

図 I. 17(b)は、材料の熱伝導率を選択するための表であり、同じ く(c)は、潤滑油の一覧表である.フラッシュ温度は、歯面粗さは もちろんのこと、材料の熱伝導率や潤滑油に大きく影響を受ける ため正しく設定しなければならない.もし、検討している歯車(測 定データ歯形)にピッチ誤差が無く、軸角誤差も無いとすれば、 歯面応力は、図 I.20 のように最大へルツ応力は σ_{Hmax}=2113MPa に 低下し、最大フラッシュ温度も *Tf*_{max}=112℃となり 32℃も低下する ことが解る.



AMTEC www.amtecinc.co.jp



項目	記号	単位	Pinion	Gear	
スカッヒング発生確率	ηs	%	36.	11	
摩耗の発生確率	ηf	%	23.	58	
動力損失	ηe	%	1.	39	

図 I.24 損傷発生確率

$$K_{\alpha} = \frac{T_{f \max} - M_{TC}}{S_D} \tag{1.8}$$

 $T_{f \max}$: Flash temperature

 $M_{\rm TC}$: Mean scuffing temperature

 $S_{\rm D}$: Standard temperature deviation

I.8 歯面応力 (端部解析)

図 I.14 に示した歯面応力分布は、図 I.11 で設定したかみ合い 歯面の応力解析であるため、歯先や側端部の応力解析はしていない. そのため、ここでは端部接触部分の応力や発生するフラッシュ温度について解析する.

図 I.25 の端部解析の設定において歯先および側端部の接触半径 を 1mm と仮定して解析すると歯面応力(端部)の最大接触応力 は、図 I.26 のように σ_{Hmax} =7423MPaとなる.また、フラッシュ温 度は、図 I.27 のようにピニオンかみ合い終わり側の歯先部で Tf_{max} =984℃の高温となる.





1.9 解析と実験の比較

実験によるピニオン歯面の損傷写真(図 L28~L30)と図 L31 の解析結果を比較すると図 L29 ギヤの歯面応力分布は歯元付近で 大きく,また,損傷写真のかみ合い終わり側の歯先部の歯面の一 部が溶けたような損傷は,図 L27 のフラッシュ温度での歯先端部 の Tfmax=984℃の温度分布と良く一致しているといえる.

次に、図 L30 のギヤの損傷拡大写真と図 L31 の解析結果を比較 すると、かみ合い終わり側の歯元損傷位置とトロコイド損傷位置 の実験結果と解析結果は良く一致している.また、図 L30 の拡大 写真では、歯元の一部で溶融している跡が見られるが、この損傷 場所と図 L31 の応力分布とは良く一致している.



図 I.28 歯面損傷写真⁽¹⁰⁾ (N_p=1×10⁶, ピニオン歯面, 歯-14)



図 I.29 ギヤ歯面損傷⁽¹⁰⁾



図 I.30 ギヤ歯面損傷端部拡大写真,歯 14, Np=1.0×10⁶



図 I.31 解析結果 (ギヤ),端部解析, *σ*_{Hmax}=7423MPa

I.10 歯元応力解析

図 I.12 の解析角度(*θ*--29.41°~34.70°)の範囲で歯元応力(最大主応力最大値 *σ*_{lmax})と歯形変位を図 I.32 および図 I.33 に示す. また,最大値を示す *θ*_P--7.68°での歯元応力と変位を図 I.34 および図 I.35 に示す.



(a)ピニオン, σ_{1max}=959MPa
 (b)ギヤ, σ_{1max}=861MPa
 図 I.34 歯元応力 (θp=-7.68°)





(a)ピニオン, δ_{mmax}=84.4µm
 (b)ギヤ, δ_{mmax}=54.7µm
 図 I.35 歯形変位 (θ_P=-7.68°)

I.11 まとめ

- (1) 歯面応力分布と損傷写真そして寿命時間は良く一致したと言 える.また、測定データを使用することにより僅かな応力分 布の違いも把握できた.
- (2) 強度計算式では、歯形形状や軸誤差には対応できないため、 係数で処理しているのが実情である.従って、歯車の真の実 力を知るためには既に一般化した道具である解析ソフトウェ アが有効である.

本稿は、日本機械学会 RC261 に投稿した内容を編集したもので あり、検討した歯車は、日本歯車工業会が実施したプロジェクト で実験したものである(掲載承認済).

参考文献

 Moriwaki, Finite element analysis of gear tooth stress with tooth flank film elements, VDI-2005 International Conference on Gears, (2005) p.39-53

(2) 久保・梅沢, 誤差を持つ円筒歯車の荷重伝達特性に関する研究(機論 43 巻 371 号, (1977), pp.2771-2783

(3) 松本將, 混合潤滑状態にある転がり-すべり接触面の摩擦係数 推定式, トライボロジスト(日本トライボロジー学会誌), 56巻, 10号 (2011-10), pp.632-638

(4) AGMA2001-C95, Fundamental Rating Factors Calculation Methods for Involute Spur and Helical Gear Teeth, (1995), pp.46-47
(5) 上田, RC261, 第6回分科会, WG2 関連報告, 歯車測定デー タを用いた応力解析(測定技術の進歩が解析技術をこう変える)
(6) CT-FEM Opera, 歯車応力解析ソフトウェア, アムテック, (2014)

(7) AGMA2001-C95, Fundamental Rating Factors CalculationMethods for Involute Spur and Helical Gear Teeth, TableA-3, MineralOil Mean Scuffing Temperature, (1995), p.50

(8) AGMA2001-C95, Fundamental Rating Factors Calculation Methods for Involute Spur and Helical Gear Teeth, (1995), p.37
(9) AGMA2001-C95, Fundamental Rating Factors Calculation Methods for Involute Spur and Helical Gear Teeth, (1995), p.53
(10) 久保, JGMA -ProjectX 報告, (2012)

カタログ(vol.18), [45] CT-FEM Operaiii をご覧ください.

[付録:J] 伝達誤差解析例

J.1 実験装置

黒河,有浦の研究「歯車の負荷時高精度かみ合い誤差測定に関する研究」⁽¹⁾の成果と **CT-FEM Opera**の解析結果を比較した.

実験装置は、図 J.1 に示す動力循環式歯車運転試験機であり、 伝達誤差計測用のエンコーダは分解能1秒を有している.



J.2 実験結果と伝達誤差解析結果の比較

実験に供した歯車は図 J.2 の諸元を持つ歯車であり歯車精度は, JIS B 1702(1998) 0 級の歯研削歯車である. 伝達誤差は,単位歯幅 当たりの荷重を 8~784 (N/mm)として 7 種類の負荷を与え,その ときの伝達誤差を計測している. 図 J.3 は 147(N/mm)の例を示し ている.



CT-FEM Opera ソフトウェアで解析する際,図J.1の試料歯車を 支持する軸受間距離が240mm あることから負荷が作用する際, 軸変位が発生することを想定し解析した.トルクと軸変位,そし て伝達誤差の実験値と解析結果を表J.1 および図J.4 に示す.

図 J.4 の荷重 200(N/mm)より大きい領域では歯実験と解析は良 く一致している.しかし、これより小さい領域では実験と解析結

表 J.1	伝達誤差解析結果
-------	----------

No.	単位荷重(N/mm)	トルク <mark>(Nm)</mark>	実験值(sec)	軸変位(sec)	解析結果(sec)
<1>	8	18.7	4.0	7.42	0.76
<>>	98	229.5	4.7	8.06	5.94
<>>	147	344	5.6	12.1	6.62
<4>	196	459	7.9	16.1	7.13
<>>	392	918	8.8	32.1	9.11
<6>	637	1492	11.2	52.2	11.7
<7>	784	1836	13.0	64.1	13.2

果は一致していない. この理由は, 実験の負荷が 8(N/mm)において TE=4(sec) である理由は, 歯形誤差や歯面粗さが表れていると 考えられる.

図 J.5 に実験結果と解析結果の伝達誤差を重ね合わせた図を示 すが、両者は良く一致した結果となっている. 図中に示す赤色の 縦線は、実験の目盛 20sec に合わせている.



J.3 歯面形状と歯面粗さを考慮した伝達誤差 J.3.1 平歯車(無修整)

実験に供した歯車諸元を図 J.6 に歯面形状を図 J.7 に示す. 伝達 誤差は、単位歯幅当たりの荷重を 22~392 (N/mm)として 7 種類の 負荷を与えている. 伝達誤差解析をする際は、歯面形状を図 J.8 のように与えた. 実験と解析による伝達誤差結果を図 J.9 に示す が、両者は良く一致している.

項目	記号	単位	敌値(Pinion)	鼓値(Gear
モジュール	III	80	6.00	00
歯数	z		21	31
圧力角	an	des	20.00	00
ねじれ角	β	des	0 * 0	0.00
ねじれ方向			•]
基準円直径	d	88	126.0000	186.0000
歯厚入力方式			転位係数 ▼	転位係数
齿直角転位係数	xn		0.00000	0.00000
またぎ歯数	Zn		*****	****
またぎ歯厚		88	*****	****
オーバービン径	dp	88	100018	****
オーバービン寸法	dn	88	*****	****
転位量	XM		*****	*****
法線歯厚減少量	fn	88	0.0000	0.0000
中心距離	a	80	156.20	00
由先円直径	da	88	138.0000	198.0000
歯底円直径	df	m	111.0000	171.0000
歯元R(工具刃先R)	Rf	88	2.2500	2.2500
歯幅	ь	88	15.0000	15.0000



J.3.2 平歯車 (歯先修整)

歯車諸元は、図 J.6 と同じであり、伝達誤差は、単位歯幅当た りの荷重を 22~654 (N/mm)として 11 種類の負荷を与えている. 伝達誤差解析をする際は、歯面形状を図J.10のように与えた.実 験と解析による伝達誤差結果を図 J.12 に示すが、両者は良く一致 している.





J.3.3 はすば歯車(無修整)

歯車諸元は、図 J.2 と同じであり、伝達誤差は、単位歯幅当た りの荷重を 8~650 (N/mm)として 16 種類の負荷を与えている. 伝 達誤差解析時の歯面形状を図 J.14 のように与えた.実験と解析に よる伝達誤差結果を図 J.15 に示すが、両者は良く一致している. また、図J.16に拡大波形を示すが、実験と解析結果は良く一致し



駆動歯車





AMTEC www.amtecinc.co.jp







表 J.2 伝達誤差解析結果

	TE	食い違い	
N/mm	実験値 <mark>(s</mark>)	解析 <mark>(s</mark>)	$\phi_1(\text{deg})$
25	3.92	3.31	0.001
250	7.06	6.23	0.003
500	10.7	10.4	0.005

J.4 まとめ

- (1) 伝達誤差の実験と解析結果は、良く一致した.
- (2) ソフトウェア解析により、ほぼ確かな伝達誤差を予測することができた.

参考文献

- 黒河,有浦,歯車の負荷時高精度かみ合い誤差測定に関する 研究,機論C, 1998-7, pp.408-415
- (2) CT-FEM Opera, 歯車応力解析ソフトウェア, アムテック, (2014)

[付録:K] 動力損失解析例 K.1 概要

歯車の基礎と設計(成瀬著)⁽¹⁾に掲載されている平歯車のかみ 合い損失率と平均滑り速度との関係の実験を基に,CT-FEM Opera⁽²⁾で解析した.その結果を以下に示す.



K.2 まとめ

- (1) 図 K.6 のように実験結果と解析結果は良く一致している.
- (2) ソフトウェア解析により、ほぼ確かな動力損失を予測することができた.

参考文献

- (1) 成瀬、「歯車の基礎と設計」, 養賢堂, 2001. P.132-133
- (2) CT-FEM Opera, 歯車応力解析ソフトウェア, アムテック, (2014)

カタログ(vol.18), [45] CT-FEM Operaiii をご覧ください.

西暦		外国史実	和 暦	日本国内史実
384~322 BC	ギリシャ	アリストテレスが著書の中に歯車について記載		
[古代]		した(世界最古の歯車の記事)		
	中国	古代中国で動力用歯車が使用されていたらしい		
287~212 BC	ギリシャ	アルキメデスがウォームギヤと平歯車を組み合		
		わせて巻上機を製作した		
400~200 BC	中国	中国山西黄河の沿岸から青銅製の歯車出土, 測		
頃		量器や天体観測に使用		
100 BC 頃	エジプト	ヘロンが歯車について論文発表, 照準儀にウォ		
	アラブ	一厶歯車使用		
	ローマ	ヴィトルヴィウスが動力伝達用として使用する		
46 BC 頃		最初の歯車付水車を発表		
50~200	ローマ	ローマ時代の遺跡から鉄製歯車が出土,現存す		
[中世]		る最も古い動力伝達用歯車		
850頃	イタリア	法王シルベスタ2世が歯車時計を発明したとい	[大和時代]	
		われる	610	推古天皇時代に僧「曇徴」が水車を作っ
	イスラム	天体観測器に歯車を使用		た(日本書記)
1000~1100	中国	宋代の渾儀,指南車,記里鼓車に歯車が使用さ	670	天智天皇時代に水車を利用して製鉄を行
		れた		った(日本書記)
1100~1200	スウェーデン	古城から石製はすば歯車が出土した	[平安時代]	
1200年代	西 欧	ヨーロッパの各地で機械時計が製作され歯車が		
		使用された	[鎌倉室町]	
1370	フランス	パリの宮廷にビックが製作した機械時計が設置		
[15 世紀]		され現存している		
1430頃	西 欧	馬力利用の歯車装置付製粉機や箱形風車の歯車		
		増速装置等の記録が残っている		
1484	ドイツ	ワルテラスが天体観測に機械時計を利用(科学		
		上の研究に機械時計を用いた最初の記録)		
1452~1519	イタリア	レオナルド・ダ・ヴィンチが各種の歯車装置を考		
		案し機械要素としての歯車が確立した	「安土桃山」	
[16 世紀]			天文 12(1540)	フランシスコ・ザビエルが周防国大内義隆
1556	ドイツ	アグリコラが採鉱冶金に関する著書を出版. そ	天文 20(1551)	に機械時計を献上した(日本に伝来した
1550	1 12	の中で多数の歯車装置について詳細説明をした)< <u>></u> 20(1551)	最初の歯車機構)
			天正 9(1591)	ローマ法皇へ派遣した使節が帰朝し宣教
1500 年代	西 欧	西欧各地に塔時計が普及した	「徳川時代」	師ワリヤニが秀吉に時計を献上した
1300			慶長 11(1606)	
			慶長 17(1612)	メキシコ総督がスペイン製の置時計を献
1637	中国	明の学者宋応星が天工開物を出版、その中で歯	×	上、静岡県久能山東照宮に現存、日本に
1037	(崇禎10)	車装置について説明		現存する最古の歯車
	01(1)(10)			
			1600年代初期	津田助左衛門が時計を製作、日本最古の
1655	ドイツ	シュテファンファルフレルが手動歯車装置付		歯車製作記録
		3輪車,4輪車を製作		
1600 年代後半		B. パスカルと G.W.ライブニッツが歯車式計算機		
		械を考案した		
1674	デンマーク	レーマーが歯車の等角速度運動を論じエピサイ	[徳川時代]	
		クロイド歯形を推奨した(歯形の理論的研究に	元禄 3(1690)	人倫訓蒙図彙に時計の歯車を製作中の図
		関する最初の文献)		がある. 歯車製作を示す日本最初の文献

西暦		外国史実	和 暦	日本国内史実
1694	フランス	ライールがエピサイクロイド曲線を論じインボ		
[18世紀]		リュート曲線についても述べた		
1700 年代初期	スウェーデン	C.ポルハムが時計歯車歯切機械を製作(ストッ	正保 1(1704)	徳川家光に懐中時計が献上された
		クホルム博物館に現存)		
1724	ドイツ	J.レオポルドが著書に各種の歯形と歯の寸法に	±-/□	
		ついて記載	学休 11(1726)	古今図書集成にオフンダ風車(圏車装直付) の回ざたて
1732	フランス	J.ヴォサンソンが歯切用カッタを製作した. 現		() () () () () () () () () () () () () (
		存最古の歯切工具		
1733		M.カミューが歯車歯形について論文発表しエピ		
1740		サイクロイド歯形のかみ合いを詳しく述べた		
1740	イギリス	ヒンドレー(時計製造業者)が鼓形ウォームを 考案		
1765	スイス	L.オイラーが歯形の解析に関する論文を発表し		
		インボリュート歯形を論じた		
1769	イギリス	スメルトンが減速歯車付シリンダー中ぐり盤を		
		製作した.またグラスゴーのキャロン鉄工所で	安永 4(1775)	若井源大衛門が歯車を利用して盃運人形
		鋳出歯車を製作した		を製作した(現存)
1781		J.ワットが蒸気機関の遊星歯車機構について英特許を取得した		
1785頃	イギリス	J.ワットとJ.レニーが初めて歯車の曲げ強度計算	寛政 8(1796)	土佐・細川半蔵が機巧図彙を著し時計製
		を行なった		作法に関連し歯車について詳しく述べた
1800		H.マウズレーが換歯車付旋盤を製作した	寛政 12(1800)	伊能忠敬が地図作成に量程車を使用した,
1807	アメリカ	R.フルトンが最初の蒸気船にはずみ車駆動用		時計の歯車機構利用の一例(現存)
		歯車装置を採用		
1818		E.ホイットニィがフライス盤を製作した	, <u></u> , <u></u>	
1822	イギリス	J.ウーズラムがはすば歯車について特許を取得	乂坆 5(1822)	大蔵水沼が農具便利論を出放しての中で
		した		十万極動困中表直的水中を説明した
1829	アメリカ	クラベット・ソーン社が倣式歯切盤の特許を取		
		得した		
1833		ブラウンシャープ社創立		
1835	イギリス	J.ウィットウォースがウォームホィールホブ盤	天保 7(1836)	水戸斉昭が雲霓機纂を編纂しその中でス
		の特許を取得		プロケット式バケット水揚機を説明した
1837		R.ウィリスがインボリュート歯車の利点,中心		
		距離の変化, 交換性歯車等を強調し、オドント		
		クランを発明, 圧刀角 14.5 を採用しインボリ		
1920		ユート圏車の美田化に入るく貝爾した		
1037		小トマーパ, DF ンヘノムを創始した パフがウォームホノールの打測した知めてホブを		
			嘉永 3 (1850)	田中久重が万年自鳴鐘を完成した
1850		Fサケが歯車の交換性に関する論文を発表した	AL/1 (1050)	
1853		ホワイトヘッドが歯車の切削に初めてホブを使	嘉永 6(1853)	ペルリが来航した
			安政 3(1856)	オランダ人機械技術者が長崎製鉄所に技
1856	ドイツ	C.シーレがホブによる歯切法を発明し革国の特		術指導に来日, 歯車製造技術も指導した
	/	許を取得した	安政 3~5	薩摩藩が大型木製歯車増速装置で織機を
1859	ドイツ	ライネッカー社創立	(1856~1858)	運転した
1860	イギリス	ダビッドブラウン, P&H 社創立		

西暦		外国史実	和 暦	日本国内史実
1865	ア刈力	グリーソン社創立	文久 3(1863)	鹿児島集成館にオランダ製工作機械輸入
1866	ドイツ	シース社創立	慶応 3(1867)	横須賀造船所にフランス製工作機械を輸
1872		ハーゲントルンが初めて平歯車とかさ歯車の創		入した
		成歯切法を発表	[明治時代]	
1873		ホッペが初めて転位歯車方式を発表した	明治 8(1875)	田中久重が日本最初の民間機械工場を創
1874	アメリカ	グリーソンが倣式かさ歯車歯切盤を製作した		立した
1877		グールド・エバーハート社創立	明治14(1881)	大阪鉄工所が開業した
		自動歯切盤を製作した		
1882		ビルグラムがすぐばかさ歯車の創成歯切盤を製	明治22(1889)	池貝鉄工所創立. 民間工場として初の国
		作した		産旋盤を製作し, 換歯車も国産した
1885	ドイツ	ベンツがガソリン機関付3輪自動車製作	明治27(1894)	日清戦争勃発
1886	アメリカ	W.ハークネスが歯車強度計算式に速度係数の考	明治30(1897)	日本機械学会が創立され第1巻第1号の
		え方を入れた		学会誌に井口の歯車の強さに関する論文
1887		G.B.グラントが特許によりホブ盤を製作した	1	が発表された
1892		W.ルイスが歯車の曲げ強度計算式を発表	明治33(1900)	溝口歯車歯切工場が創立された
1894	ドイツ	ライネッカー社がホブ盤を製作した	明治37(1904)	日露戦争勃発
1896	アメリカ	フェロー社創立	明治42(1909)	唐津鉃山所創設
1897	ドイツ	H.ファウターが差動装置付万能ホブ盤を発明し	r_Ln±/ba	
		た.これによりホブ盤が著しく進歩した	[人止時]\]	国油制作起动力
1900		ファウター社創立	人止 3(1914) +⊤ 6(1017)	国他衆府別政立 周洲制作所が 40 小チュブ般を制作した
1908	オーストリア	ヴィデキーが歯面強さにヘルツの接触応力の考	大正 0(1917) 大正 7(1018)	油目鉄工所が24 かそれブ般を製作した
		え方を導入した	大正 9(1920)	樫藤鉄工所が40 化チホブ般を製作した
1908	スイス	M.マーグが転位歯車方式を発表した	大正)(1)20)	満口歯車丁場にシース社製6メートル大型ホ
1908	イギリス	S.サンダーランドがやまば歯車形削盤について) (111 10(1)21)	ブ盤設置
		特許を取得した	大正 12(1923)	唐津鉄工所が67ィートホブ盤を製作した
1909		C.A.パーソンが世界最初の減速歯車装置付ター	大正 14(1925)	成瀬政男が歯形に関する論文を発表
		ビン船を完成	[昭和時代]	
1910	アメリカ	ウェスチングハウス社で 6000HP船用タービン	昭和 4(1929)	岡本工作機が歯車検査機を製作した
1014		减速密电装置建造	昭和 5(1930)	岡本工作機が24 インチ歯車研削盤製作
1914	212	マーク 圏 単 研 削 盤 1 号 機 か 元 成 し た	昭和 6(1931)	和栗明らが歯車の精度に関する論文を発
				表した
1022	ドイツ	DIN37 圏車の衣小 が前たされた	昭和 7(1932)	小野鑑正が歯車軸の振動に関する論文を
1925		クリンクルン・シレク 仁政立 DIN/780"エジュールズ 利"が判定された		発表した
1928	アメリカ	DIN 760 - ビノエール示列 か 前足 4 いこ	昭和 12(1937)	JES B73 "インホリュート歯車歯形" が制定
1920	イギリス	E.ハリインガムが Spul Geal を山成した PSS"亚及びけまげ最重"相格が制定された	177千日 12 (1993)	これた
1935	アメリカ	BSS 千久しなりな困年 尻倍が何足とないこ IOアルかがスコーリング始なの計算法を発表した	哈什山 13(1938)	日本子術会議に困単に関する研究分科会
1042	イギリス	HE XIINANGC フレア Jaco Shi Jaco La Che		小光化した 日立特徴 岡木工作機 再津姓工 十阪制鉛
1942	アメリカ	F バッキンガムが"Analytical Mechanics of Gears"	н⊡/н 17(1942)	ロン111歳、岡平二1月歳、日手妖二、八阪表頭 笑でかさ歩車歩切般 かさ歩車研削般笑が
1747	/ / ///	を出版		
1954		D.W.ダッドレイが "Practical Gear Design"	昭和 24(1949)	中田孝が転位歯車を出版
1757				近畿歯車懇話会が創立された
1960	西ドイツ	G.ニーマンが"Maschinenelemente"を出版	昭和28(1953)	仙波正荘が"歯車"第1巻を出版した
		エッセンにて国際歯車会議開催	昭和 29(1954)	成瀬政男が"歯車の話"を出版した
1966		ミュンヘンにて歯車会議開催	昭和35(1960)	JIS B1702 平歯車及びハスバ歯車の精度
1969	ハンガリー	ブタペストにて歯車会議開催		規格制定